

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

校學 書 部 番 號	登錄 番 號	第	號
	分類		門
	種別		部
	記 號	款	項
	目	次	
全冊ノ内第			冊
分類 番 號	第	號	

明治十年一月

童女笈

文部省印行

新女経巻 二目次

編製用ノ諸物質  
「スウタツシエ」捲

羅綱工

縫紋術

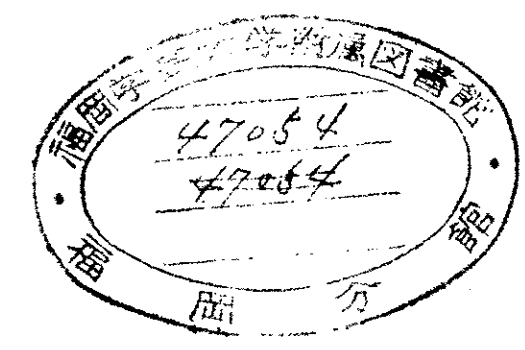
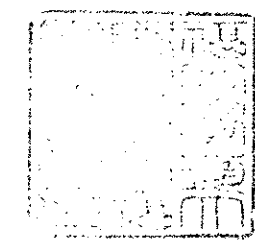
「タツナング」

「スタール、ペテルン、ユーヅエリート」即星形紋ノ被物

胡蝶紋ノ被物

玻璃工

「スウタツシエ」



「アツプリケー」

繡飾

圖書

音樂

玩具ノ手工

「シユニール」即蠶綿ヲ以テ繡飾スルコト

羽毛ヲ以テ繡飾スルコト

着色シタル絹帛ヲ以テ繡飾スルコト

飾金物及ヒ「カンチタイル」ノコト

天鵝絨并ニ金ニテ「ラメ」ヲ繡飾スルコト

几案布香案布等ニ用井ル金糸繡

天鵝絨上ニ圖書スルコト

「シアファニー」

「アカルコマニー」

「ビトレマニー」

煙畫山水

油繪ノ模倣

裝飾

兒童ノ柔軟ナル鞠

蠟花及ヒ蠟菓

紙製ノ花

胡桃ヲ消金スルコト



鳥巢  
 火爐ノ裝飾  
 鉛樹  
 銀樹  
 錫樹  
 海草合集  
 葉ヲ押印スルコト  
 胡蝶ヲ押印スルコト  
 席  
 毛線製ノ薔薇ノ席  
 小球及ヒ毛絲ノ席

乗車ノ席  
 粧臺ノ針氈  
 花架トナルベキ圓形ノ針氈  
 剪絨製ノ裝臺ノ針氈  
 金筆ノ拭具  
 羅哆呢ノ金筆拭具  
 華飾術  
 紋印學ニ關シテ示ス教告  
 少年ノ貴女ノ寫字臺  
 書簡ノ方法  
 啼鳥

福島鳥

金鵒

大鵒

金絲黃雀

鶯

知更雀

紅雀

鶉

「ミツセル、スラツシ」

「ブラクフード」

雲雀

「ウィードラーク」

言語ヲ擬スル鳥

「アパードザイン」

天竺鼠

蜜蜂

蠶

「アツクリヤム」

白頭翁ニ供用スベキ水

園圃ノ藝

一莖ヨリ異様ノ花ヲ生セシムルコト

客室ニ供スベキ花

切要ナル園藝ノ教告

骸骨葉

路傍ノ奇事

本草學

時晷ヲ受用スベキコトヲ論ス

小童女輩脩身ノ訓言

童女タルモノ、施濟

童女筌卷之二 日次終

童女筌卷之二

和蘭フアン、カステール 譯

○畧語

凡百ノ有用貨物ヲ編製スルニ關涉シテ許多ノ模形ト做ルベ  
キモノハ處女等ノ新聞紙定期ノ新報殊ニ此編製ノ事ヲ大趣  
意ト做シテ論辨シタル書冊等ノ世ニ出版發行セルモノナリ  
夫レ畧語ト稱スルモノハ即チ種々ノ針歩ヲ表スルニ至簡至  
要ナルモノニテ是等ノ針工ニ於テハ須ラク常ニ畧語ノ記號  
ヲ認識シテ模形ヲ造ルノ一助ト做スベシ小童女輩必ズ次條  
ニ記載スル所ノ畧語ヲ學ブチ最モ簡易便捷ノ法ト做ス即チ

畧語ノ表左ノ如シ

K1	平ヲ編ミ一ヲ爲セ
P2	「プル、」二ヲ爲セ
M1	一ヲ増セ一ヲ爲セ
D1	一ヲ減ゼヨ
SI1	一ヲ離セ
K2c	二ヲ編ミ着ケヨ
T	轉倒セヨ
THO	掛ケ越セ
TK	綯タル編ミ針歩
EP	綯タル「プル、」針歩

三

編製ノ旨趣ヲ說終ルニ先テ余輩次條ニ示ス所ノ緊要ナル報告ヲ附録スベシ即チ編製用ノ物質ヲ舉クルコト左ノ如シ

○編製用ノ諸物質

夫レ編製用ノ絲ノ如キハ極メテ細ク且ツ柔軟ナル者ヲ以テスベシ其絲ノ原質麻亞麻綿花毛及ヒ絹等ヨリ製造スル所ノモノト雖モ尙屢之ヲ經驗シテ查出スル件アリ即チ其用井ル所ノ物質ノ何タルヲ論ゼズ各之ヲ綯絡スルノ方法アリ某ノ事ヲ做スニハ某ノ綯法アルヲ以テ各適應シテ事物ヲ完成スベシ斯ノ如ク其件一ナラサルガ故ニ余輩彼ノ「ベツクスレツト」即チ捆繩ヨリ區別スルニ編絲ヲ以テシ又縫絲或ハ修補絲ヨリ區別スルニ毛編絲棉編絲及ヒ絹編絲等ヲ以テス而シテ

其各個ノ如キモ亦各他ノ區分ヲ做シテ其種類ヲ異ニセリ即  
 ナ織法或ハ其太サ或ハ其質各差異ナル所アリ三四年ノ間ニ  
 在テ世ノ注目セル瑣小ノ種類ニ至リテモ逐一之ヲ數ヘテ説  
 了スルコト甚々難シトス此編製ノ近來世ニ流行スル大ニ盛  
 ニシテ且ツ諸般ノ用ニ供スルニ此技ヲ以テスルモ亦甚々數  
 多ナルヲ以テナリ今ヤ未ダ此技ニ習熟ゼサル者ノ爲メニ平  
 常日用欠クベカラザルノ品物ヲ舉ゲテ簡易ニ説過セント欲  
 ス其平生能ク製物ヲ熟知セル處女ノ如キハ常用ノ物品ナラ  
 ザルモ能ク其精粗美惡ヲ判知スレバ自家ノ必要ニ供スベキ  
 者ヲ選用センコトハ固ヨリ言ヲ待タザルナリ  
 「ツツリイン」ハ繩絲細美ニ且ツ緻密ニ編ムコトニテ粗毛氈及

ヒ席等ノ基礎物ト做シ用非タル毛或ハ濶毛布ノ條ノ如キモ  
 ノヲ「ナツプ」毛布ノ面ニアル或ハ「シヤグ」ノ方法ニ由リテ插入  
 スルナリ其餘菓樹ノ被覆物ト做スニ適セリ  
 「リール」絲「リール」ハ本佛國ノ一都ノ名最初此地ヨリ産製スルヲ以テ云フ及ビ「メイドストン」  
 絲ノ如キ最モ有價物タリ而シテ一般ニ蔽膝手巾寢時ノ帽子  
 及ヒ襟等ヲ編ミ又組絲ニ適用スル物ト做セリ衆多ノ編手ノ  
 綿絲ヲ用非ズ專ラ之ヲ選用スル所以ハ其堅強ナルヲ好ミシ  
 且ツ久シク固有ノ白色ヲ失ハザルヲ愛シテナリ  
 綿絲ノ物タル亦許多ノ種類アリ其粗ナルモノハ被覆物窓帷  
 幕長椅子其他家具「フリンジ」即チ流蘇又ハ家具ノ緣端ヲ覆フ  
 モノ等ヲ製スルノ用ニ供ス其中等ノモノハ檯布針氈「ドイリ

「ス」即チ小手巾自餘是等ニ類似セル物具ヲ製造スルニ用井  
其最モ美麗ノ種類ニ至テハ襟帽子上蓋衣及ヒ「レース」即チ細  
縁等ヲ製スルノ用タリ又別種類ノ特ニ良好ナル物ハ服衣莫  
大小襪若クハ貴族等ノ寢被帽子等ヲ製スルニ要用ノ物タリ  
組惡ノ棉製絲ハ賣却スルニ一縮ヲ以テス大凡各一縮ト稱ス  
ルモノ一磅日本百錢五厘五毛強ニ當ルノ四分一ノ目方アリ其最モ良好細  
美ニ製シタルモノハ捲クニ絡車ヲ以テシ之ヲ數フルニ極細  
美ナルモノニ因リテ其額ヲ定ム  
近時着色ノ棉絲ヲ以テ編製ノ用ニ供スルコトヲ得タリ此彩  
色シタルモノハ最モ良好ト做ス又世ノ傳說ニ能ク之ヲ洗濯  
スルコトヲ得ルト云ヘリ是等ノ類許多ノ物ヲ製スルニ緊要

トス殊ニ囊針氈「ドイリース」即チ小手帕等ヲ製スルニ其様一  
ナラズシテ甚タ美麗ナルモノヲ完成スルコトヲ得ルナリ  
毛及ヒ毛絲ヲ以テ尋常ノ襪又ハ襪帶等ヲ製スルノ用トス其  
毛種類々アリ即チ襪毛線ト稱スルモノ「アングチ」「チベット」「ヴ  
イゴニヤ」以上三号皆毛ノ名ノ如キ是ナリ其價額及ヒ物質ノ如キニ至  
テハ各個少シク差異スル所アリ軟ニシテ均シク且ツ縮レ及  
ヒ絢リアル毛ノ其質強クシテ且ツ柔ナルモノハ其粗ニシテ  
首尾均一ナルモノヨリモ其價貴シトス其量ノ僅少ナルモノ  
ハ如キハ殊ニ良好トス加之ナラズ之ヲ用井ルニ至リテ外貌  
光潤ヲ現シ且ツ順序正シク堅強ニシテ久キニ堪ヘ得ルナリ  
是ニ由テ之ヲ觀レバ初時精良ノ物ヲ購求スルヲ經濟ノ至要

トス假令價稍貴キモ其用ヲ做ス最モ長久ニ堪フルヲ以テナ  
 リ極精製ノ毛ニ至テハ多クハ家具ノ端ニ施ス又粗毛氈或ハ  
 席ノ「ナツプ」即チ毛氈席面等ノ毛其他椅褥或ハ膝褥等ヲ被  
 フニ甚タ適良ノモノトス  
 仔羊毛ト稱スルモノモ亦分チテ三個ノ種類トス即チ尋常ノ  
 モノ精良ノモノ最上精良ノモノ是ナリ尋常ノ物ニ就テ其大  
 シ又三種アリ第一ノモノ最モ巨大漸次ニ第二第三ニ至ル通  
 常ノ製造物ニハ屢是等ノ毛ヲ使用ス肩巾婦人用ノ下衣及ヒ  
 覆氈等ヲ製スル皆是ナリ其始メ粗クシテ洗濯スルニ隨ヒ却  
 リテ厚キヲ増スニ至ル一般ノ用ニ供スルニ精良ナルモノ、  
 如キハ毛ノ原サニ比例スレバ輕量ナル故ヲ以テ價格ニ至リ

テハ初ニ記セシモノ、如ク甚ダ貴カラズ  
 精良品ニ至リテハ各般ノ製物ニ用井其功ヲ奏スル亦多シ極  
 上精良品ト稱スルモノハ其質殆ト「ダブルベルリン」毛ト同一  
 ニシテ屢々之ト誤認ス是等ノ精毛ハ自餘ノモノト區別スル  
 ニ其大サヲ以テス即チ二縷三縷乃至十縷以上ニモ及ブコト  
 アリ然レドモ凡ソ一般ノ要用ト做ス所ノモノハ三縷ヨリ六  
 縷マテトス二縷「ゼファイル、フリーシー」ト稱スルモノハ極メテ  
 細ク且ツ輕量ノモノニシテ殊ニ「アングデル、ストツキング」即チ  
 下襪袖等ヲ製スルノ用ニ供ス自餘ハ何ノ品タルヲ論ゼス唯  
 輕量且ツ温暖ナルモノヲ要ス  
 「レーシベツナ、ウール」即チ一種ノ毛絲ト稱スルモノハ既ニ上



條ニ記スル所ノ品ト異ナル所殆ト稀ナリ此毛タルヤ柔ニシテ輕ク其薄弱ニシテ堅牢ナラズ摩損シ易キニ由リテ最良ノ物品ヲ製スルニハ用井ザル所ナリ此種ノ毛ニ就テモ其太サ亦三種アリ即テ三縷四縷及ヒ六縷ト做ス此三種ノ中尤モ太キモノ、如キモ猶前條ニ記セシ三縷ノモノヨリ甚タ纖小トス

「エムプロイデイリー、ウール」ハ即テ編用ノ毛ナリ其太サ大抵「レーン、ベツケ」即テ毛ノ最モ細キモノト相同シ而シテ其經絡スルコト此毛ヨリハ甚タ緻密ナリトス其用ニ施スニ當テハ之ヲ洗滌スルコト容易ニシテ能ク其功ヲ奏シ且ツ堅牢ニシテ久シキヲ保ツベシ或ハ共用ニ供スルニ當テ之ヲ二重ニシ

テ編製スレバ極テ善ク適應ス就中幼兒ノ鞋ヲ製スルニ妙ナリ其故何トナレバ之ヲ洗滌スト雖モ自餘ノ「ベルリン」毛或ハ「フリーシー」ノ如ク更ニ厚キヲ増サバルヲ以テナリ夫レ連綿ト長ク續キタル針工ヲ做スニハ必ズ此毛ヲ用井ルヲ佳トス其「ベルリン」毛ヨリモ長キ縷絲ヲ用井テ完成ス長キ縷絲ヲ以テスレバ許多ノ接口ヲ做サバルヲ得ルナリ縷絲ハ通常其量半「オンス」日本七錢五厘強即チ一「オニシテ」「ハンク」即テ一縷ハ二「オンス」ナリ此毛タルヤ「ベルリン」毛ヨリ少シク低價ニシテ纖小ナリトス若シ此毛ヲ二重ト做シ用井ハ其太サ恰モ第三ト稱スル者即テ「フリーシー」中ノ最モ纖小ナルモノ及ヒ三縷精良製ノ「フリーシー」ト稱スルモノト相類似セリ

「ベルリン」毛「日耳曼」毛此種類ノ毛ハ其用ニ供スル殊ニ編製ノ美ヲ表ス其何色タルヲ問ハズ濃淡意ノ如ク做スヲ得ベシ而シテ其毛ノ太サ二種アリ之ヲ稱シテ單及ヒ二重トス其單ト呼フモノハ細小ノ総絲トシ其量一「オンス」ヲ以テ二十卷キノ縮ト做ル其二重ト呼フモノハ半「オンス」或ハ一「オンス」ノ四分一ニス若シ單ナル「ベルリン」毛或ハ「日耳曼」毛ト記セシトキハ常ニ單ナルモノト知ルベシ若シ自餘ノモノヲ做サントセバ必ズ之ヲ記スベシ譬ヘバ二重或ハ八縷ノ「ベルリン」等ノ記號ノ如シ若シ單毛ノ二縷ヲ一縷ト爲シ之ヲ編製セント欲セバ之ヲ表示スルニ二重ノ「ベルリン」毛ト稱スルナリ其長サヲ短クシテ「ベルリン」毛ヲ分離ナスコトハ製造物ノ巨大ニシテ連

續シタルモノニ用井テ甚ダ不便ナリ然レドモ種々ノ色數ヲシテ巨大ナラシメ各ノ量ヲシテ些少ナラシメント欲セバ総絲ノ細小ナルモノヲ用井ルモ亦便ナリトス何トナレバ事實ニ於テ其要スル量ヲ踰エテ自餘ノモノヲ買フコトヲ用井ザレハナリ余輩ノ近隣ニ住スル日耳曼人等一旦長サノ短キモノ、不便ニシテ障碍アルコトヲ悟リ肯テ自ラ之ヲ做サズシテ巧ニ買客ノ望ニ適センコトヲ始メ或人ニハ総絲ノ巨大ナルモノヲ供シ或人ニハ小サキ総絲ヲ與ヘリ「シートランド」毛「シートランド」ハ英國ノ一島ハ極メテ美麗ニ名即チ此島ヨリ出ツル毛シテ其絢リ方甚タ密ニシテ其質輕量ナリト雖モ堅硬ニシテ恰モ鐵線ノ如シ故ニ此毛ヲ以テ製スル所ノ織物ハ假令組絲

ト做スニ薄シト雖モ其實ハ堅ク且ツ強クシテ上蓋衣婦人ノ  
手套及ヒ肩巾等ニモ必用タリ

「シートランド」毛ハ其太サ太拍單ナル「ベルリン」毛ト均シ之ヲ  
捲クニ其量ニ「オンス」ノ緒ニナスト同一般ナリ此毛ヲ総絲ニ  
シ「オンス」ノ四分一ニ分ケルコトヲ做サズ斯ク區分サナス  
コトハ其小量ヲ買フ人ノ爲メニ便宜ナリシムルノミ多量ヲ  
買得ルモノ、如キハ一個ノ球ノ如クニ捲クニ全緒ヲ用非ル  
ヲ最良トス而シテ之ヲ編製スルニ當テ務メテ其接口ヲ做サ  
シメザルヲ要ス又此「シートランド」毛ハ其彩色數種ナラズ世  
人ノ此毛ヲ買求ル其色ヲ論ゼザルヲ以テナリ此類ノ毛ハ概  
テ白色ナルヲ用非若シ婦女子ノ肩巾ノ端或ハ上蓋衣ノ縁等

ニ施スニ着色ノ毛ヲ以テセント欲スルトキハ常ニ「ベルリン」  
毛ヲ使用スベシ此時ニ際シ若シ二種ノ毛ヲシテ其太サ一樣  
ナラシメントスルニハ「シートランド」毛ノ中等ナルヲ二重ト  
ナシ或ハ肩巾等ノ端ニ裝フ「ベルリン」毛ヲ二分スルヲ要ス  
「クルール」則チ雙縷絲此毛タルヤ密ニ綯リタルモノニテ彼ノ  
「シートランド」毛ト相類似ス往時暗黑色ノ肩巾ヲ製スル必ス  
此毛ヲ用非タリ爾後日耳曼毛ト稱スルモノ盛ニ流行スルニ  
隨ヒ世ノ此毛ニ着目スルモノ甚ダ希ナルニ至レリ茲ニ一説  
アリ彼ノ「シートランド」毛ト混合シテ其用ニ供セバ甚ダ適宜  
ヲ得ベシト夫レ斯ノ如キノ説ヲ聽カバ余ガ讀書者中ニ於テ  
往時ヨリ不用ノ贅物トセシ「クルール」毛ヲ貯畜スル女子等ハ

必ズ大ニ悦喜スル所アルベシ「クルール」毛ヲ総絲ニ做スコト  
大抵尋常ノ「ベルリン」毛ノ総絲ノ三倍ノ長サヲ以テスルナリ  
凡ソ編製ノ用ニ供スルモノハ絢リタル絹絲ヲ以テス而シテ  
其太サ數種アリ自餘ハ綱羅ヲ編ムニ用ヰル所或ハ便袋囊鏈  
條等ニ適當ナルモノトス暗黒ニ染メタル狹キ絹紐等ノ如キ  
ハ囊袋ヲ製スルニ適當セリ

附言狹キ絹紐トハ其業語ニ據レバ稱シテ「ヘブニー」即チ英國  
名ノ紐ト云フ是其價ノ半邊ニ相適スルニヨリテ斯ク  
名ケシニ非ス其紐ノ幅半邊尼錢ノ側面ト相均シキニ因  
ル所ナリ

「フロッシルク」ノ如キモ其太サ數種アリ其他「ケニルリー」ト

云フモノアリ此類ハ其太サ齊シキモノヲ製シタルモノノ縁  
縫ヲ做スニ供シ或ハ之ガ被覆ヲ做スニモ用ヰルナリ凡ソ繡  
工上ニ於テ此類ヲ用ヰテ其外貌ヲ好クスル實ニ多キニ居ル  
然レドモ洗濯ヲ要スル貨物ノ製造ニハ宜シカラズトス

「フインディング」捲

夫レ何等ノ物タルヲ論セズ編製スルノ用ニ供スベキ各般ノ  
絲ヲ捲カンニハ甚ダ弛キヲ要ス凡ソ拉伸スコト緊束スルコ  
ト壓着スルコト等ノ手法ハ務メテ之ヲ做サバムルベシ若シ毛  
ノ精良ナルモノヲ用ヰ之ヲ捲クコト甚ダ緊密或ハ編製ニ於  
テ甚タ緊收スルトキハ其毛ノ固有ノ彈力ヲ失ヒ且ツ剪絨ノ  
如キ外形ノ觀美ヲ損スルニ至ル此彈力アルト外形ノ美ナル

トハ其製物ノ貴重ト華麗トニ關涉スルコト多シ若シ毛ヲ捲  
キ置テ久シク之ヲ用井ザルトキハ則テ前條ノ如ク彈力ト觀  
美トヲ失フニ至ル球ノ如ク捲キタル物ハ之ヲ解ク毎ニ其毛  
漸々纖弱トナル是偏ヘニ外面ノ環ニ壓着セラルヽニ由ル所  
ナリ故ニ次條ニ記ス所ヲ注意スベシ

第一 總テ捲クコトヲ用井ザレ務メテ之ヲ避ケテ用井ザラ  
ントスルニハ短キ「ベルリン」絛絲ヲ用井ルニ如クハ無シ又特  
ニ能ク其術ヲ施スノ編製者ハ絛絲ノ一個ヲ用井盡ス甚タ速  
ニシテ之ヲ全了シ即チ之ヲ掛クルニ製作シナガラ解キ弛ム  
ルコトヲ得一回毎ニ一捲或ハ二捲或ハ總數一齊ニ解クコト  
ヲ得テ容易ニ一葉紙上或ハ平坦ナル籃中ニ置クコトヲ做ス

若シ其編者手ヲ針工ニ着ケ中途ニシテ之ヲ已メ他ニ去ル等  
ノ事ヲ爲サレバ其毛ヲシテ紛亂セシマルノ差謬ハ有ルマ  
ジキナリ

第二 若シ之ヲ捲カザルヲ得ザルトキハ唯小童ヲ以テ一回  
毎ニ捲クベシ假令之ヲ做スモ直ニ使用スルノ間ノミ己ニ捲  
キテ後ハ長ク等閑ニ做シ置クベカラズ

第三 若シ絡車ヲ用井ントナラバ之ヲ整置スルノ法宜シク  
絛絲ヲ拉緊セズシテ保護ニ注意スベシ又其絡車ヲ置クヤ一  
個ノ椅子或ハ二個ノ椅子ノ背後ニ捲掛クルカ或ハ編者ノ次  
列ニアル人ノ兩手上ニ於テスルモ亦猶前條ノ如ク捲キ得ベ  
シ若シ絛絲ヲ全數ヲシテ「ストレッツナル」即チ幘子等何ニテモ

捲キ掛クルモノヲ脱去セシメバ益々佳ナリトス其種類ナ間  
ハズ木盤或ハ籃等ノ中ニ垂墜セシムベシ其未ダ捲クコトニ  
着手セザル前ニ於テ做スヲ法トス

第四 其捲クニ當テ常ニモヲ指ト大指トニ捲キ掛クベシ然  
レドモ指頭ニ觸富スル無クシテ務メテ弛クシ球狀ニ捲クベ  
シ

以上説キ來ル所ノ數件注意スベキコト甚ダ細密ニ過グルカ  
如シト雖モ是等ノ事件ノ如キ精細ヲ厭フコト無カルベシ其  
故何トナレバ則チ數尺ノ毛ト雖モ其之ヲ捲クニ勞勤シテ緊  
密ヲ做ストキハ之ヲ編製スルトキニ當リテ更ニ煩厭ノ勞苦  
無シ女子ノ如キハ之ヲ做ス必ズ緊密ヲ以テスベシ普通ノ婦

人多クハ捲クトキニ之ヲ編製スルノ癖アリ其編ムニハ長サ  
ヲ齊一ニスベシ此間殊ニ注意シテ拉緊スルコト緊密ニ過グ  
ルコト等ヲ避クルヲ要ス其之ヲ拉緊シ緊密ニ過キテ製造セ  
シ物ト弛緩シテ壓着ヲ做サズ製造シタル物トヲ比較スルニ  
其曾テ使用スル所ノ毛針及ヒ模形等皆同一物ナリト雖モ其  
精粗美惡ノ差異ニ至リテハ實ニ信用スベカラザルガ如ク然  
リ是意ヲ用井ルト用井ザルトニ由テ美惡懸隔ヲ致スナリ

### ○羅網工

羅網形ノ物ヲ製スルニ必要ナル所ノ器具ハ即チ「メツス」羅眼  
ニ插入シテ編ム所ノ棒製用ノ針毛絹絲棉絲紐索及ヒ麻絲等  
是ナリ製用ノ針及ヒ棒等ハ木骨象牙及ヒ鋼鐵等ヲ以テ製作

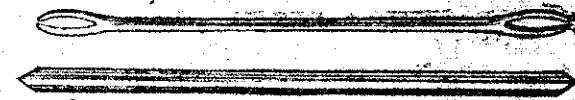
シタルモノナリ其鋼鐵製ノモノハ特ニ麻絲絹及ヒ  
美ナル棉絲等ヲ施スニ使用ス木製ノモノハ紐其外  
粗物ニ用非ルナリ

「スケルロツプ」即チ鐘ト稱スルモノハ紐ヲ環ノ如ク  
做シタルモノニシテ其中ニ足ヲ通ス所アリ恰モ騎  
用ノ鐘ノ如シ此鐘ヨリ五十乃至八十個ノ長キ綯絲  
ヲ作り之ヲ基礎トシ又其上ニ種々ノ製物ヲ編ミ結  
ブナリ若シ此工事ヲ完成セシトキハ其基礎タルベ

キモノヨリ截斷シテ其絲ノ端ノ針歩續キタルモノ  
ヲ抽キ去ルベシ此「スケルロツプ」ノ用ヲ做サバル處ニ在テハ

其基礎タルモノヲ鉛ノ重量ヲ附タル匣若クハ褥ニ緊束固着

第百六圖 針及ス



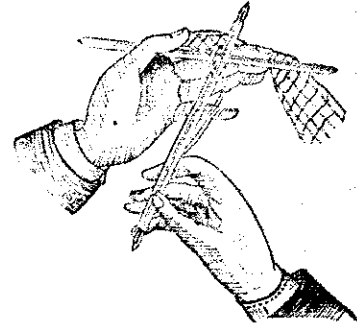
セシメ之ヲ檯上ニ安置スベシ

羅網ヲ編結スルニハ「メツス」ヲ以テ絲ノ下ニ至ラシムルヲ要  
ス編者ノ左手ノ大指ト中指トノ間ニ於テシ「メツス」ヲシテ大  
指ノ中央ニ當テ中指上ニ安シテ把持スルコト恰モ第百七圖  
ニ指スガ如クスベシ針ヲ取ルハ右手ヲ以テシ絲ヲ經過スル  
ハ中指無名指ノ上ニ於テス而シテ針ハ上方ニ通シテ巨大ナ  
ル環ノ上ナル「メツス」ノ後ヲ踰サシムベシ

此巨大ナル「ロープ」即チ環ノ如キハ數指ノ圍ニ絲ヲ以テ成ス  
所ナリ之ト同時ニ第一ノ針歩或ハ基礎ノ環ヲ通スベシ針ヲ  
抽キ出ストキ指上ニ環ヲ持チ一個毎ニ其環ヲ遺墜シ季指ニ  
掛クル所ノ絲ヲ最後ニ墜スベシ斯ノ如クセバ次第ニ緊收ス

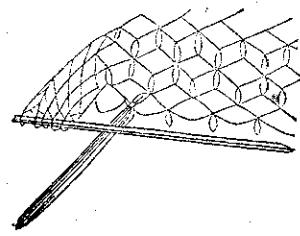


第百七圖



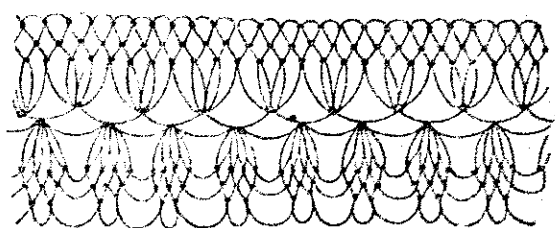
ル故結口モ隨テ堅キヲ致ス其季指上ナ  
ル環ノ如キハ手捷ク抽キ引クベシ此方  
法ヲ以テ各個ノ羅眼ヲ成シ方法同一ニ  
シテ列ニ列ヲ重疊ス此法タル尋常ノ製  
方ニシテ最モ細キ方形ヲ成シ得ルナリ  
方形羅製ト稱スルモノハ大抵尋常ノ法  
ニ相等シ其着手スルヤ唯一個ノ針歩ヨリス此最初ノ羅眼ニ  
二個ノモノヲ編ミ各列ノ如キハ皆最尾ニ在ル環ニ二個ノ羅  
眼ヲ成スヲ以テ増加スベシ斯ノ如クシテ其要スル所ノ數ニ  
至テハ則テ直ニ同等ノ方法ヲ以テ減損スベシ唯一羅眼ノミ  
ヲ遺留スルニ及ブマテ各列ノ極端ニ於テ二個ノ羅眼ヲシテ

第百八圖



一個ノ羅眼ヲ做サシムヘシ此方形ハ「ギヒエ  
ールダール」及ヒ修補等ニ要用トスル所ナリ  
環形羅様ヲ以テ製センニハ針ヲシテ第一羅  
孔ヲ通過セシムルヲ要ス而シテ結尾ニアル  
三個又四個ノ羅孔ヲ「メツス」上ニ遺シ置クベ  
シ其「メツス」ノ如キハ要用ノ時ニ當テ之ガ運動ヲ做サシム  
ベシ  
英吉利網羅工ノ製様ハ左ノ如シ先ツ尋常製ノ一列ヲ編ミ第  
二列ニ着手スルニ其第二ノ羅孔ニ掛ケテ其最首ノモノヲ編  
ムベシ斯ノ如ク一羅孔ヲ超過シテ後ニ着手スベシ第三列ヲ  
編ムモ尙尋常法ヲ以テシ第四列モ亦尋常針歩ヲ以テシ而シ

## 第九百圖



テ後其第二列ニ於ケルガ如ク做スベシ第五  
列ノ如キモ尋常法ナリ又縁側ヲ編ムニ用井  
ル「メツス」ノ如キ其太サ種々ナリ即チ第百八  
圖ノ模形ハ其法ヲ示スナリ  
第一ヨリ第三マテノ列ヲ編ムニハ細少ノ「メ  
ツス」ヲ以テシ第四列ノ如キハ大ナル「メツス」  
ヲ用井各個ノ羅眼ヲ一羅孔中ニ於テスベシ  
第五列ハ小サキ「メツス」ヲ以テシテ一個ノ環  
ヲ造ラン爲メニ三羅孔ヲ爲シ一齊ニ編ミ其列ノ端ニ及ボス  
ベシ第六列ハ太キ「メツス」ニテ各羅眼ニ五個ノ環ヲ編ミ以テ  
其列端ニ至ランムベシ

## ○縫紋術

縫紋術ハ古ニ謂ユル千ドリ掛ノ一種ニシテ麻絲ヲ組織シタ  
ル方形ノ編布ニ於テ縦横ニ縫合セシ花形ヲ以テ製造シタル  
モノナリ其物質ハ即チ木匡數種ノ「メツクレンボルグ」ノ絲短  
ク且ツ粗ニシテ麻絲ヲ運轉セシムルガ爲メニ大耳ナル鞍師  
ノ針及ヒ組織シタル方形ノ羅是ナリ其方形ナル羅網ハ少女  
ト雖モ容易ニ之ヲ做シ得ベシ先ツ二條ノ紐子ヲ以テ組ミ始  
メ而シテ後組織ニ要スル所ノ方形ヨリモ更ニ一個ノ羅眼ヲ  
製スルニ至ルマデ毎列ノ結尾ニ於テ一紐子ヲ増加スベシ譬  
ヘハ方形ノ孔縦横十二アルトキハ十三ノ紐子ヲ以テ編ムナ  
リ而シテ唯二個ノ紐端ノミ殘ルニ至ルマデ一紐子ヲ減損シ

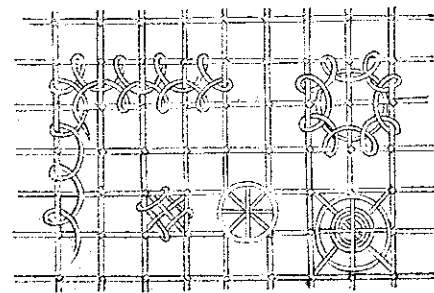
更ニ新羅眼ヲ製セスシテ止ムベシ是ニ於テ方形ナルモノハ  
増減ノ紐子ニ因テ造レル二重ノ縁ヲ悉クナドリ掛ケノ線ニ  
テ鏈合シ木匡上ニ置キ其方形ノ四隅ハナドリ掛ケヲ做スノ  
始メ木匡ノ角ニ結ヒ着クベシ是其ナドリ掛ケヲ保ツニ最モ  
有用トス又此組織ハ務メテ精密ニ掛ケ做スベシ其故如何ト  
ナレバ組織スル緩舒ナルトキハ其模形ヲ着クル爲メニ模寫  
スルコト甚タ難キヲ以テナリ今此縫紋術ニ於テ要スル所ノ  
紋形左ノ如シ

「ボア」デスプリーツ」「ボア」ンドトアール」「ボア」ンドフエストン」  
「ボア」ンドブリユセール」「ボア」ンドロブリス」圓形紋星輪「ボア」  
ドグサニーズ」等はナリ「ボア」デスプリーツ」ハ即チ細小ノ環

形花樣ノ聯合セシ總角ノ連續シタルモノナリ第百十圖ヲ觀  
テ大畧ヲ悟ルベシ

此模形ハ「ボア」デスプリーツ」ヲ組織ス  
ル適法ヲ著ハスモノナリ即チ總角ノ蔓  
列ヲ至當ノ長サニ鏈合シ其木匡ニ折反  
シテ每方形ノ裏面ニ總角ヲ鏈合シ始メ  
毎條ノ中央ニ掛ケタル總角ヲ一々縱橫  
ニ圍繞セシムベシ

第百十圖



「ボア」ンドトアール」ハ即チ麻ノ編布ナリ斯ク名ツクル所以ハ  
其美ナルコト恰モ麻布ニ類似スルヲ以テナリ是亦縫紋術ニ  
於テ最モ有用ノモノナリ又「ボア」ンドトアール」ハ齊整シタル

織絲物ヲ云フナリ之ヲ組織セシメハ縱横共ニ同數ノ紐子ヲ  
用井毎列四條ノ編紐ヲ用井ルヲ常トス然レトモ動モスレバ  
毎列六條ノ羅孔ヲ用井ルノ紋形アリ第百十一圖ノ左方ハ此  
趣ヲ示スナリ

第百十一圖ノ「ボアンドトアール」ノ下ニ縫繡シタル絲アリ譬  
ヘバ平均シタル二ノ部ニ至ルマデ方形ヲ剖析セシ如ク一條  
ノ絲ヲ以テ一層上絲ニ超過シ又精密ナル金縫繡ノ如ク兩方  
及ヒ中央ノ絲ヲ上下ニ縫合スベシ然スルトキハ第百十一圖  
ノ如ク方形及ヒ角面何レモ此絲ヲ以テ充塞シ得ルナリ尋常  
ノモノハ概テ中央線ヲ斜メニ掛クレトモ第百十一圖ニ於テ  
ハ之ヲ正直ニ掛ケタリ少シク高クナリタル「ボアンドフリース」

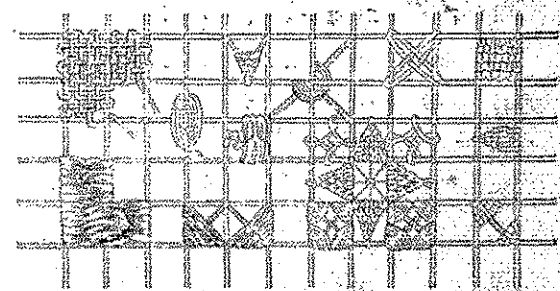
ハ即チ一ヨリ以上ノ方形ニ於テ二三ノ縫線ヲ強挽スルニ因  
テ組ミ立タリ其絲ハ縱横ニ縫合シ其針ハ次ノ紐列ヲ製セシ  
トキニ始メノ紐列ヲ整フベク又「ボアンドトアール」ノ基礎  
ノ上ニ縫ヒ得ベシ其故如何トナレバ其紐列ヲ組ミ立ル所ノ  
數條ノ線ハ始メ編紐シタル基礎ノ線トハ全ク殊異ナレバナ  
リ此紐列ハ基礎ノ線ヨリ稍々粗ナル線ヲ以テ組立ツルモノ  
タリ

「ボアンドブリユゼール」ハ即チ緩キ扣鈕孔ノ如キ羅眼ノ一種  
ニシテ數種ノ花形ヲ組立テ或ハ方形ヲ充塞スルコトニ用井  
其組織スルコトハ左ヨリシテ右ニ進ムベシ即チ第百十一圖  
ニ著シタル星形ノ縫紋ト其圖ノ右角ニ在ル所ノ方形角面ヲ

ルモノハ皆此羅眼ヲ以テ充塞セラレタル  
モノナリ輪形ナルモノハ即チ第百十圖ニ  
於テ著ハセシ如ク數種アリ

然レトモ皆組織スルコト甚ダ容易ナリト  
ス譬ヘバ輪形ニ於テ四條ノ線ヲ横ニ編ミ  
中央ニ至ルマデ其線ヲ引キ或ハ羅ノ縱横  
絲ノ上下ニ線ヲ交々編ミ掛ケ以テ輪形ヲ  
組織スベシ而シテ之ヲ完成セシトキ裏面

第百一十圖



ニ於テ線ヲキルベシ第百十圖ノ左方ニ示セシ如ク絲ヲ方形  
ニ編ミシ所ノ輪形ハ始メノ輪ニ由テ充塞シタル織物ノ四羅  
孔ニ於テ製作セシ所ノ「ボフンドスブリーツ」ノ總角ノ上下ニ

兩三度一線運轉スルニ因テ製造スベシ

「ロゼット、ウィール」即チ圓形紋ハ線絲ヲ編組スルトキ中央マ  
デ反メスルニ於テ四個ノ方孔上ニ四條ノ線ヲ横亘スベシ此  
時線ニ綯ヲ入レ而シテ各線ニ掛ケ交々上下ニ編ミ掛クベシ  
即チ第百十一圖ニ於テ半ニ成就シタル「ロゼット、ウィール」ヲ  
顯ハセリ此美麗ナル組物ニ於テ着目スベキ條欸ハ終始ノ注  
意ト組列ノ平等齊整ナルコト、ナリ或ハ此組物ニ於テ縫繡  
及ヒ金縷線等ノ紋形ヲ用井ルト雖モ他ノ紋形ニ於テ精巧ノ  
妙ヲ得タルモノニ非ズンバ敢テ企望スルコト勿レ

「ギプー、ルダール」ハ即チ金縷線等ヲ嵌入シ或ハ縁縫スルニ於  
テ用井タリ是等ノ木匡ハ長方形ニシテ縁縫ハ恰モ其模形ノ

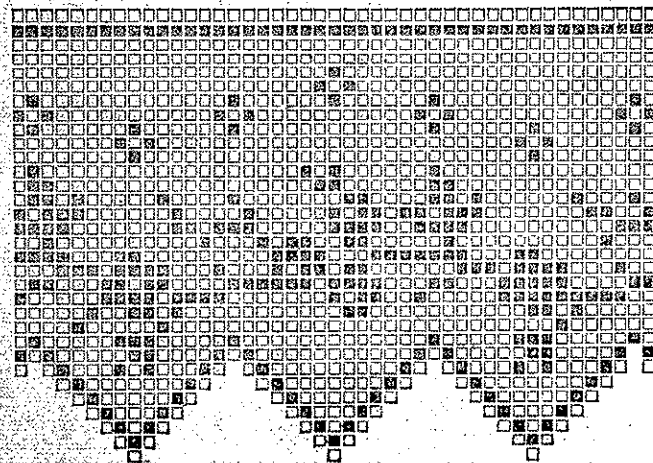
木匡外ニ現出スルカ如ク組織シタル扣鈕留ノ精密ナル一列  
ニ由テ充タサレ又花布縫編等ノ縁ヲ截去ルベク其織物モ亦  
此列ノ下ヨリ截去ルベシ

「ギアールダール」ハ數種ノ製方充分スルニ隨テ成出ス其最モ  
美麗ナルモノハ彩色細子ノ上ニ縫着セシモノナリ或ハ香囊  
避暑團扇等ノ粉飾坐席椅褥及ヒ長椅褥等ヲ製造ス其織物ニ  
結束シタル種々ノ方形ナルモノハ絶美ナル「アンナ、マカツサ  
ル」即チ家具ノ染油ニ汚レザラン爲メニ被覆スルモノヲ造リ  
其美麗ナル模様ニ一致シタル花形ノ嵌入ト模様中ニ編組シ  
タル「アンナ、マカツサル」ヲ周圍セシ縁縫トヲ増加スベシ

○「ダルチツト、ニツチング」修補編組工

此簡單ナル組物ハ少女ト雖モ美好ニ製造スルコトヲ得ルナ  
リ其工夫ハ目的ニ結ヒ付タル方  
形ノ編物ニ於テ縱横ニ掛縫セシ  
平面ヨリ組立ツル故ニ通常ノ莫  
大小線ヲ此組物ニ使用スルコト  
多シ其組絲ノ太サヲ均一ニシ而  
シテナドリ掛ケハ左ヨリ右ニ進  
ミヲ常トス是大ニ組列ヲ整備ス  
ルモノタリ然レトモ大抵ハ直線  
ニ組織ス是故ニ余輩百十二圖ニ  
於テ其簡單ナル模形ヲ示スナリ

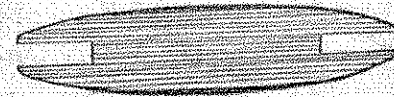
第百二十圖



## ○「タツケング」

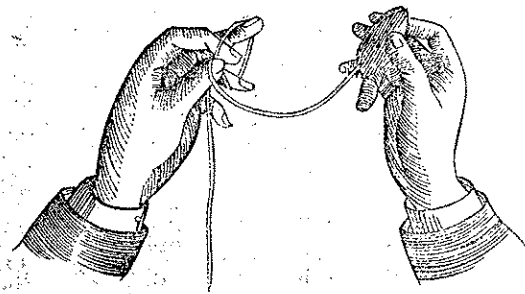
此製造法ハ少女子ト雖モ多少ノ心思ヲ勞セズシテ編組シ且  
 ツ速ニ成功スルヲ得毫モ線絲ノ條理ヲ誤ルコト無ク衆多ノ  
 美好品物ニ用ヰルベシ此組物ハ一個ノ投梭ト一個ノ針トヲ  
 以テ做スト雖モ時トシテハ二三ノ投梭ヲ用ヰルコトアリ其  
 投梭ハ通常外部ニ象牙及ヒ貝類ヲ以テ裝飾シ内部  
 ハ烏木ヲ以テ製セリ或ハ滑カナル骨ノ投梭亦用ニ  
 供ス其針ハ中大小アリ各其頭ニ繩ヲニ鈎ヲ以テシ  
 輪及ヒ鎖ヲ以テ一方ニ充備ス其輪ハ針ヲ保タン爲  
 メニ左手ノ大指ニ絶エズ持ツベシ  
 其投梭ニ絲ヲ通スコトハ第百十三圖ニ著ハセシ如

第百十三圖



キ小孔ニ線緒ヲ貫キ而シテ後梭ノ含蓄  
 スル所ノ線絲ヲ捲了ルマデ幾度モ其梭  
 ヲ運轉スベシ是ニ於テ長サ十六「インチ」  
 許ノ絲ヲ殘シ右手ニ其梭ヲ取り左手ノ  
 小指ヲ除ク外目餘ノ四指間ニ絲ヲ握リ  
 大指及ヒ食指ノ周圍ニ絲ヲ持運ヒ其絲  
 ヲ食指中指及ヒ無名指ノ背ニ傳送スベ  
 シ即チ第百十四圖ニ之ヲ示ス

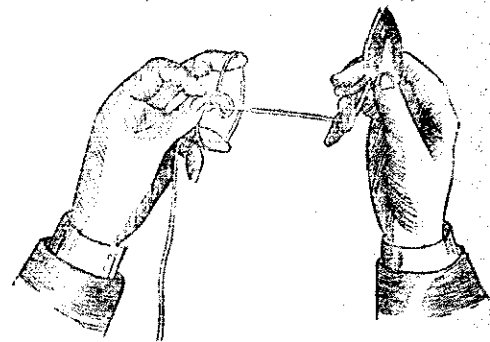
第百十四圖



其投梭ヲ右手ニ持テ絲ヲ左手ノ背ニ投掛ケ其絲ヲ再ヒ大指  
 マテ持運ヒ投梭ヲ線ノ下ヨリ輪ニクヰラセ復タ其輪ヨリ絲  
 上ニ投梭ヲクヰラスベシ務メテ直線ヲ做ス様ニ緊ク梭ノ絲



第百五十圖



ヲ張り左手ノ中指ヲ以テ輪ヲ做ス所ノ絲ヲ楕圓ニ引上クベシ爾スレバ第二輪ノ半成ニ至ルマデハ第一輪ハ完成ザセルモノナリ例ヘバ大指及ヒ自餘三指ノ間ニ最初ノ絲ヲ持テ梭絲ヲシテ輪下ニクマラシメ右手ニ投梭ヲ運ヒ輪形ヲ做セシ線ヲ踰エテ内部ニ其梭ヲ置キ又輪形ヲ做シタル下ト中間トニ於テ梭ヲ外部ニ運ブベシ爾スルトキハ下ノ梭絲ハ始メノ如ク強ク其絲ヲ引張ルベシ即チ第百十六圖ノ如クシ先ツ線ヲ以テ環形ヲ作ルベシ

「ニール」即チ「ニール」、スナツケト稱スルモノハ絲條ノ間ニ

絲ノ小サキ輪ヲ做セル二重ノ絲條ヨリ組織セリ例ヘバ一重ノ絲ヲ組立テ針ヲ輪形ヲ做セル絲ノ下ニ通シ次ニ重疊セ

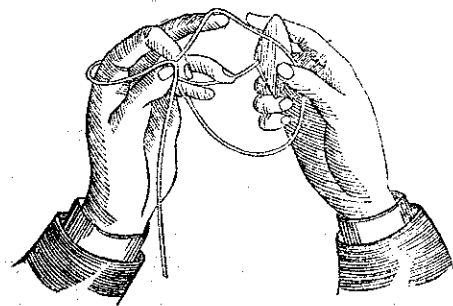
ル絲ヲシテ始メノ如ク平行線ヲナサシムルマデ大指ヲ以テ固ク其針ヲ保ツベシ是ニ於テ其針用ニ因テ決定シタル大

サノ輪形ヲ容ル、サ度トスベシ第二ノ

平ヲ組ミテ作り隨テ又第二ノ重ヲ組ミテ做スベシ

楕圓形或ハ菊花形ヲ做ストキニ於テ若シ紐列ノ十分ナル數ヲ以テ組ミ立ツルトキハ先ツ小指ヲ除クノ外大指及ヒ三指ノ間ニ組編シタル紐列ヲ固ク保テ其輪形ノ線ヲ左手ヨリ離

第百六十圖



## 第一百十七圖



シ務メテ強ク投梭ノ糸ヲ引クベシ

是ニ於テ之ヲ學フ者一個ノ記憶スベキコトアリ手首ノ周圍ノ輪ハ即チ其紐列ヲ穿テ投梭ノ絲ハ即チ紐組ノ編組シタルナリ又連續スル輪形ヲ組立ツルニ於テモ亦前ノ如ク務メテ精密ニ各個ノ輪形ヲ始ムルコト

ニ注意スベシ今新模形ヲ始メント欲セバ一種各別ノ眞珠形ヲ製作シ線絲ヲ以テ其眞珠形ヲ通シテ輪形ヲ穿テ又投梭ヲ

## 第一百十八圖

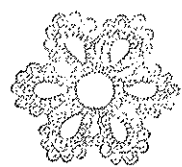


以テ其輪形ヲ通シ此模形ヲ成就セシトキニ當テ結ヒ着ケンカ爲メニ絲ヲ長サ三「インチ」許殘シ置キテ強ク引ベシ通例此組物ノ左方ニ於テ重ナリタル結口ヲ以テ美麗ニ編組スベシ其時ニ當テハ表面ヲ上

## ニ做スベシ

「ジョイニング、ステッチ」ハ一條ノ重予組ミヲ製作シ其絲ニ結ヒ着ケタル「ボール」ノ下ニ輪形ノ絲ヲ置キ鉤ノ如キ縫針ニテ「ボール」ヲ通シテ其絲ヲ輪形ニ做シ投梭ヲシテ輪形ヲ通貫セシテ始ノ如ク輪形ノ絲ヲ以テ手首ノ周圍ヲ引戻シ之ガ爲メニ生スル所ノ輪形ハ他紐子ト同シ太サノ紐子ヲ穿テ然シテ之ヲ完成スルニ至ルベシ或ハ多クノ紐子ヨリ組立タル輪形ヲ穿ツニ當テ其紐絲ノ解クルコトアリ輪形ハ能ク組立タルトキハ甚タ小ナルニ至ル故ニ大サヲ増加スルニハ組立タル羅眼ニ於テ大指ヲ強ク押テ其輪形ノ絲ヲ取り要スル所ノ大サマデハ其絲ヲ引出スベシ

第九十圖



二個ノ投梭ヲ以テ組立ルコトハ精密ナル縁縫等ニ於テス彼ノ手巾等ノ縁縫ノ如シ故ニ一個ノ投梭ハ上ノ如ク用井其絲ハ次ノ投梭ノ絲ヲ左手ノ指ノ間ニ直線ヲ做ス様ニ持テ若シ此組物ノ部分ヲ結合スルカ或ハ種々ノ部分ヲ做ストキハ手首ノ周圍ニ輪形ヲ做サシメ其上ニ組ミ立タルモノヲ用井又甚タ錯雜セル縫模様ニ於テハ一時ニ三箇ノ投梭ヲ用井ルコトアリ然レトモ直線ヲ以テ縫模様ヲ做スノ新工夫ハ其作者ナル「リエゴ」ト云ヘル人ニ其功績ヲ歸セザルベカラズ

薔薇ニ類似セル美麗ナル標示ノ飾ハ左ノ如クシテ組ミ立ルナリ

第一ノ 楕圓ハ三重ノ絲五個ノ「ボ

ル」復タ三重ノ絲ヲ使用ス

第二ノ楕圓ハ三重ノ絲ニ五個ノ「ボール」ヲ結ビ着ケ復タ三重ノ絲ヲ使用ス

是ノ如クニシテ第二ノ楕圓ヲ四度繰返シ第一ノ楕圓ニ結ビ着ケテ引上グベシ然シテ後密ナル扣鈕子ノ中央ニ於テ密ナル輪中ニ之ヲ組ミ立ツベシ

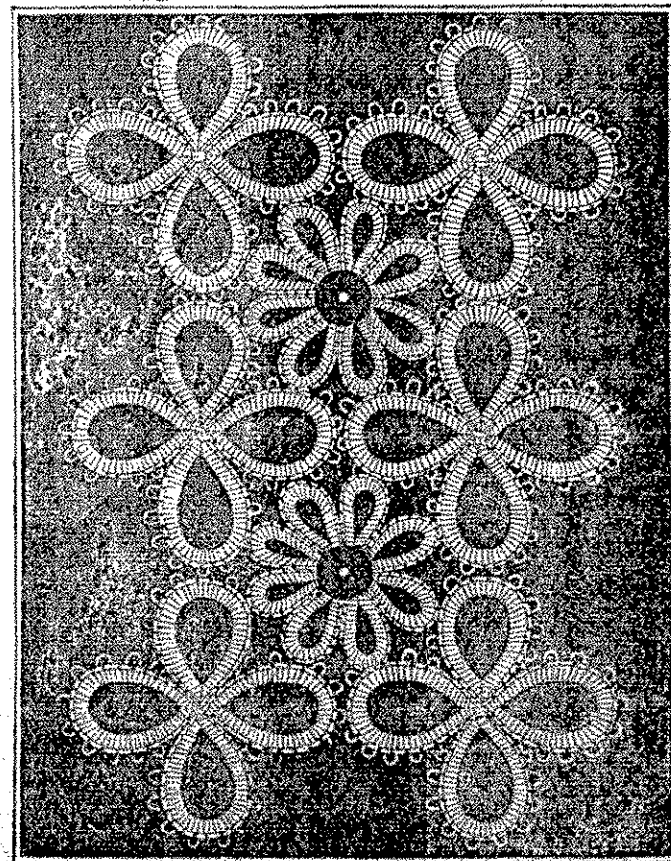
○「スタール、ペタルン、コーヴェレート」即チ星形紋ノ被物

星形第一列ノ一

第一列ノ星形 星形頂位ノコト 環形ヲ製セシニハ三個ノ重子組ミ十一個ノ「ボール」再ヒ三個ノ重子組ミヲ用井テ引着クベシ

右位ノ環  
其第一環ニ  
成ルベキ限  
ハ密通シテ  
做シ始ムベ  
シ即チ三個  
ノ重子組ミ  
前位ノ尾端  
ナル珠ニ聯  
合スルニ一  
個ノ重子組ミ十個ノ「ボール」復タ三個ノ重子組ミヲ用井テ

第百二十圖



引着クベシ

下位ノ環 其法恰モ右位ノ環ト相等シ

左位ノ環 三個ノ重子組ミ下位環ノ尾端ナル「ボール」ニ聯

合スルニ一個ノ組ミ着ケヲ爲シ九個ノ「ボール」上位ノ環ノ

底ナル「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ復タ三個ノ重子組

ミ等ヲ用井テ引着クベシ即チ是ニ於テ完了ス

星形第一列ノ二

上位環 三個ノ重子組ミ十一個ノ「ボール」復タ三個ノ重子

組ミヲ用井引着クベシ

右位環 三個ノ重子組ミ上位環ノ尾端ナル「ボール」ニ聯合

スルニ一個ノ重子組ミ四個ノ「ボール」星形第一列ヲ一ナル

左位環中央「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ重子組ミ復タ五個ノ「ボール」ニ三個ノ重子組ミヲ用井テ之ヲ製シ而シテ引着ク  
 下位環 三個ノ重子組ミ右位ニ在ル環ノ尾端ノ「ボール」ニ聯合スル三個ノ組ミ十個ノ「ボール」復タ三個ノ重子組ミヲ用井之ヲ製シテ而シテ引着クベシ  
 左位環 三個ノ重子組ミ下位環ノ尾端ノ「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ九個ノ「ボール」上位環ノ下位ナル「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ復タ三個ノ重子組ミヲ用井テ之ヲ製スベシ而シテ引着ケテ完成ス  
 斯ノ如クシテ第二星形ヨリ幾許ニテモ連續シ竟ニ被覆物ノ

一幅ヲ製シ了ルニ至ルベシ

### 星形第二列

第一星形 上位環ヲ製スルニ三個ノ重子組ミ五個ノ「ボール」第一列第一星形ノ下位環ノ中央「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ第一列復タ五個ノ「ボール」三個ノ重子組ミヲ用井テ引着クベシ  
 右位環 三個ノ重子組ミ上位環ノ尾端ナル「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ十個ノ「ボール」復タ三個ノ重子組ミヲ用井ル  
 下位環 之ヲ做ス様式恰モ右位ノ環ヲ製スルト同一ナリ  
 左位環 三個ノ重子組ミヲ作ルベシ而シテ下位環ノ尾端ニ

アル「ポール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ九個ノ「ポール」頂上位ノ環ノ尾端ナル「ポール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ復タ三個ノ重子組ミヲ用井テ而シテ之ヲ引着ケ完成スベシ

星形第二列ノ二

上位環 三個ノ重子組ミ五個ノ「ポール」第二星形ノ下位環ニ在ル「ポール」ノ中央ニ聯合スルコ一個ノ組ミ第一列ノ第二星ニ復タ五個ノ「ポール」三個ノ重子組ミヲ用井而シテ引着クベシ

右位環 三個ノ重子組ミ上位環ノ尾端ニアル「ポール」聯合スルニ一個ノ組ミ四個ノ「ポール」第二列第一星ノ左位環ニ聯合スルニ一個ノ組ミ又四個ノ「ポール」五個ノ「ポール」復

タ三個ノ重子組ミヲ用井而シテ之ヲ引着クベシ

下位環 三個ノ重子組ミ右位環ノ尾ナル「ポール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ十個ノ「ポール」復タ三個ノ重子組ミヲ用井而シテ引着クベシ

左位環 三個ノ重子組ミ下位環ノ尾ニアル「ポール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ九個ノ「ポール」上位環ノ尾ナル「ポール」ニ聯合スルニ一個ノ組ミ復タ三個ノ重子組ミヲ用井引着クベシ

斯ノ如ク此第二星形ヲ連續セシメ列ノ極端ニ至ラシメテ後止ムベシ相續テ做ス所ノ各列皆第二列ヲ做スカ如クヌベシ

中間星形八環

第一環 五個ノ重子組ミテ成シ而シテ第一列ノ第一星形ニ  
 アル左位環ノ中央二個ノ「ポール」ニ聯合スルニ二個ノ組ミ  
 復タ五個ノ重子組ミテ用井而シテ引着クベシ  
 第二環 第一ト方法相等シ然レトモ第一列ノ第一星形ニア  
 ル下位環ノ中央二個ノ「ポール」ニ聯合スベシ是等八個ノ環  
 シ製スル方法皆同一ニスベシ  
 第三環 第二列ノ第一星形ニアル上位環ノ中央二個ノ「ポ  
 ル」ニ聯合シテ以テ製スルナリ  
 第四環 即チ二列ノ第一星形ニアル左位環ノ中央二個ノ「ポ  
 ール」ニ聯合シテ以テ製スルナリ  
 第五環 第二列ノ第二星形ニアル右位環ノ中央二個ノ「ポ

ル」ニ聯合シテ以テ製スベシ  
 第六環 第二列ノ第二星形ニアル上位環ノ中央二個ノ「ポ  
 ル」ニ聯合シテ以テ製スベシ  
 第七環 第一列ノ第二星形ニアル下位環ノ中央二個ノ「ポ  
 ル」ニ聯合シテ以テ作ルベシ  
 第八環 第一列ノ第二星形ニアル右位環ノ中央二個ノ「ポ  
 ル」ニ聯合シテ以テ作ルベシ是等ノ中央星形ノ如キ其製作  
 ノ様式皆同一ナリ  
 ○胡蝶紋ノ被物  
 第一列ノ胡蝶  
 右下翼 四個ノ重子組ミテ造リ十個ノ「ポール」ト復タ三個



ノ重子組ミヲ用非テ以テ環ヲ作り而シテ之ヲ引着クベシ  
 左下翼 二個ノ重子組ヲ造リ右下翼ノ尾端ノ「ボール」ニ聯  
 合スルニ一個ノ重子組ヲ以テシ九個ノ「ボール」ト四個ノ重  
 子組ミヲ用非テ引着クベシ  
 左上翼 四個ノ重子組ミヲ造リ左下翼ノ尾端ニアル「ボール  
 」ニ聯合スルニ一個ノ組ヲ以テ十個ノ「ボール」ニ聯合スル  
 ニ二個ノ重子組ヲ用非テ引着クベシ  
 右上翼 二個ノ重子組ミヲ造リ十個ノ「ボール」ト右下翼ニ  
 テ「ボール」ノ尾端ニアルモノト相聯合スルニ一個ノ組ミヲ  
 以テシ四個ノ重子組ミヲ用非テ引着クベシ  
 頭 一個ノ重子組ミヲ造リ左ノ上翼ノ尾端ナル「ボール」ニ

聯合スルニ一個ノ重子組ヲ以テシ復タ一個ノ重子組ミ二個  
 ノ「ボール」一個ノ重子組ミ右ノ上翼ノ尾端ニアル「ボール」  
 ニ聯合スルニ一個ノ重子組ミヲ造リ以テ引着クベシ

### 第一列第二胡蝶

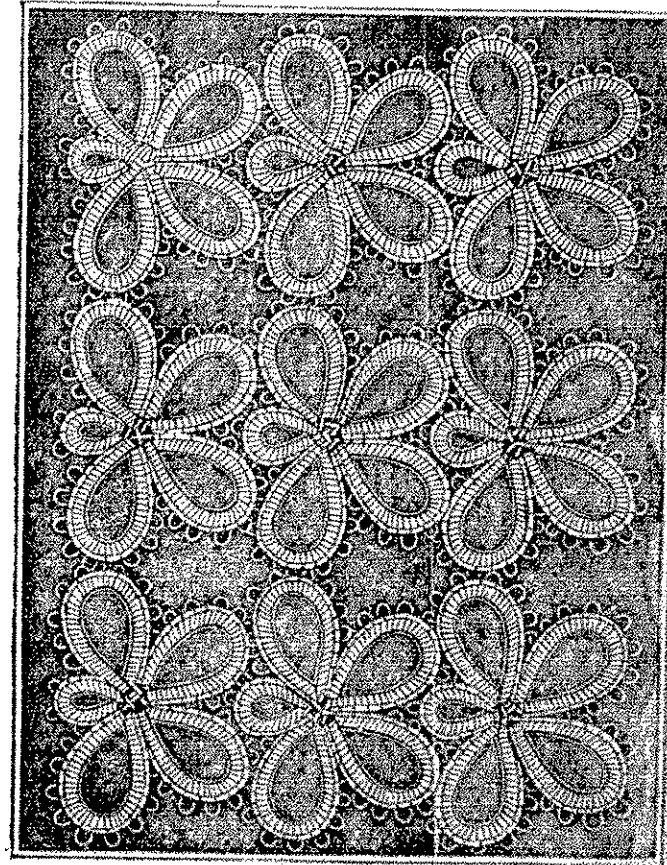
之ヲ做スノ方法彼ノ右ノ上翼ニ至ルマデハ第一胡蝶ヲ製ス  
 ルト相同シ其後右方頂上翼ヲ造ルノ法ハ左ノ如シ

### 第一列第二胡蝶ノ右ノ上翼

二個ノ重子組ミト九個ノ「ボール」ヲ做シ其第一胡蝶ノ左ノ  
 上翼ニアル「ボール」ニ一致スルモノニ聯合スルニ二個ノ組  
 ミヲ以テシ二個ノ「ボール」ト右ノ下翼ノ尾端ニアル「ボール  
 」ニ一個ノ組ミヲ聯合シ四個ノ重子組ミヲ做スベシ斯クシ

テ引着ケ第  
一胡蝶ノ頭  
ヲ製スルカ  
如クシテ做  
スベシ此胡  
蝶形ヲシテ  
列ノ末ニ至  
ルマデ連續  
セシメテ止  
ムベシ

第百二十圖



第三列胡蝶

第一胡蝶 其下翼ハ尙第一列ノ第一胡蝶ノ下翼ト同一ニ造  
ルベシ  
左上翼 四個ノ重子組ミヲ成シ而シテ左ノ下翼ノ尾端ニア  
ル「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ重子組ヲ以テシ六個ノ「ボ  
ール」第一列ノ第一胡蝶ノ右ノ下翼ニ聯合スルニ二個ノ組ミ  
第四「ボール」ニ於テ着手ヲ始メ二個ノ「ボール」ト二個ノ重  
子組ミヲ用井テ引着クベシ  
右上翼 二個ノ重子組ミ二個ノ「ボール」又上位胡蝶ノ右ノ  
下翼ニ聯合スルニ二個ノ組ヲ以テシ第四「ボール」ニ於テ着  
手ヲ始ム六個ノ「ボール」下翼ノ尾端ニアル「ボール」ニ聯合  
スルニ一個ノ組ミ四個ノ重子組ミ等ヲ用井テ引着ケ而シテ

左條ニ記スル所ノ如クニシテ其首頸ヲ造成スベシ

### 第二列胡蝶首頸

一個ノ重子組ヲ成シ左ノ上翼ノ尾端ニアル「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ重子組ヲ以テシ一個ノ重子組上位胡蝶ノ左ノ下翼ニアル第二「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ重子組ヲ以テシ又上位ノ胡蝶右ノ下翼ノ第二「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ重子組ヲ以テシ一個ノ重子組右ノ下翼尾ノ端ニアル「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ組一個ノ重子組等ヲ用井テ引着ケ而シテ聯合スベキナリ

### 第二列第二胡蝶

之ヲ製スル法ハ己ニ上條ニ説シモノト全ク同一ナリ然レド

モ其差異スル所ハ右ノ上翼ヲ右ノ胡蝶ニ聯合スルノミナリ即チ左ノ如シ

上位胡蝶ノ右ノ下翼ニ聯合スルニ二個ノ組ヲ以テシ之ヲ成スノ後二個ノ「ボール」ヲ造リ右方ニアル胡蝶ノ左ノ上翼尾端ノ「ボール」ニ聯合スルニ二個ノ組ヲ以テシ二個ノ「ボール」右ノ下翼ノ尾端ニアル「ボール」ニ聯合スルニ一個ノ組四個ノ重子組ミヲ以テ引着ケ而シテ第二列ノ第一胡蝶ヲ造ル爲メニ説示シタルカ如ク頭ヲ造成スベシ此第二胡蝶ヲシテ此第二列ノ末位ニ至ルマデ連續セシムベシ而シテ又被ヒモノハ如キハ其長サノ十分ニ至ルマデ此第二列ヲ反復スベシ

## ○玻璃工

凡ツ貨物ノ種類數多ナリト雖モ玻璃ヲ以テ製造スル所ノモ  
 ノ最モ多キニ居ル其色ニ至テハ或ハ白ナルアリ或ハ黒ナル  
 アリ又玻璃ハ縐紗或ハ羅網布ヲ以テ基礎トシタルモノニ附  
 着スルコトアリ例ヘバ東中ニ服スル頭飾リ襟或ハ數種物ノ  
 粧飾ニ使用スル剪絨等ニ附着スルカ如キ是ナリ然レドモ玻  
 璃ハ縁飾リ或ハ流蘇ノ飾リ等ニ用井ルトキハ基礎ト做スベ  
 キモノヲ要セズシテ之カ用ヲ做ス斯ノ如クセバ則チ自餘ノ  
 物ニ附着セシヨリモ其美麗ナルコト遙カニ優レリトス此透  
 明ナル手工ハ其模擬シ做サント欲スル所ノ型ヲ示シタル圖  
 書ヲ所有セバ容易ニ製造スルコトヲ得ベシ若シ少シク試驗

シ之ニ練熟スルニ至レバ自ラ其模型ヲ新製スルノ工夫ヲ得  
 ルニ至ル唯務メテ玻璃珠玉及ヒ小珠ノ數ヲ算ヘテ以テ其模  
 型ニ擬スルコトヲ做スノミ此玻璃小珠等ハ以テ之ヲ造成ス  
 ルノ物タリ務メテ之ヲ算フル所以ハ其大サ數多ナル小珠ヲ  
 以テ玻璃ト相混用スル同一般ナレバ之ガ數ヲ過マザルガ  
 爲ナリ猶「ベルリン」毛ヲ以テ針工ヲ做ストキニ其針歩ノ數ヲ  
 精算スルカ如シ夫レ此用ニ供スル所ノ針ハ銀製ノ針ニシテ  
 之ニ貫クニハ堅強ナル絹絲或ハ線等ヲ用井其通常着手スル  
 方法ハ二本一對ノ針ニ貫クニ各一碼曲尺三ノ絹絲ヲ以テシ  
 共ニ其端ヲ結ビ而シテ「レ」ドキユシオン即チ鉛磚ニ留ムベシ  
 二條ノ線ヲ以テ玻璃及ビ大小ノ珠類ニ貫クトキハ其益アル

唯製物ノ堅確ヲ増スノミナラズ亦其欲スル所ノ適宜ナル模  
型ニ之ヲ引上クルコト自在ナリ譬ヘハ假ニ斜方形ヲ造ルニ  
モ其便言フベカラザルモノアリ而シテ此斜方形ナルモノハ  
玻璃手工ニテ屢製造スル所多カラズトセズ又小外套ノ狹キ  
裝飾及ヒ流蘇ノ根脚ノ裝飾等ニ使用シ其幅ノ如キハ横ニ二  
個ノ玻璃珠ヲ置キタルモノナルヲ以テ製法甚タ容易ナリト  
ス而シテ其始メテ之ヲ試ミルモ斯ノ如キモノニ於テハ拙様  
ヲ示スニ至ラズ黑色ノ玻璃珠ヲ用井ルトキハ其絹絲線ノ如  
キモ固ヨリ黑色ナルベク白色ナル玻璃珠ヲ用井ルトキハ亦  
白色ナル絲ヲ用井ル等ナリ自餘皆之ニ倣フベシ若シ着色シ  
タル小珠ヲ白色ナル小珠ト相混シ用井ルトキハ即チ其絲ノ

一クリノ如キハ此ト相對スル所ノ色ヲ以テスベシ  
今夫レ縐紗ヲ以テ地ト倣シ其上ニ玻璃珠ヲ繡飾スルニハ須  
ク紕子ノ一方ヲ以テ銀針ニ穿チ又一方ノ細小ナル縫針ニ穿  
ツベシ是ニ於テ汝ハ銀線ノ針ヲ穿チタル紕子ニ數多ノ玻璃  
珠ヲ貫キ而シテ各個ノ小珠或ハ玻璃珠ヲ模武ニ隨ヒ駢列シ  
更ニ縫針ヲ以テ之ヲ縐紗ノ上ニ緊収スベシ且ツ許多ノ玻璃  
珠集合シ全圖ノ一部ヲ倣スコトアラバ即チ此部分ハ皆他ノ  
近傍ノ部分ニ關涉セズ各自特別ニ緊収セサルベカラズ此其  
摩耗セシトキニ至リ襟上ニ不慮ノ事故ヲ生ズルアルモ絲ノ  
斷破スル所唯其一部ニ止マリ廣ク損害ヲ倣サズランコトヲ  
欲シテナリ而シテ縐紗ハ其十分ニ堅強ナランコトヲ欲スル

故ニ必ズ二重ニ做サブル可カラズ或ハ羅網ヲ以テ其裏面ニ貼セザルコトヲ得ズ且ツ襟ノ形狀及ヒ圖ニ示セル所ノ紙製ノ模形ヲ附着スベシ然ラザレバ縐紗ハ容易ニ皺ミ又縐ムニ至ルモノナリ

又玻璃珠ヲ剪絨「カッシーヤ」ノ名物等ノ如キ厚キ物品ニ用井ルコトアルニ當リテハ則チ模式ノ圖ヲ以テ其物品ニ押印セザルコトヲ得ズ譬ヘバ「スウタツシエ」ニ見ユ下ニ於ケルカ如シ

又純黒ナル玻璃珠ヲ用井ルニ適當ナル事ハ黒キ線帶ノ絹麻等ノ飾リニ使用スルモノナリ婦人ヲ飾ルニ在リ今之ヲ爲スニハ線帶ノ模式ヲ用井以テ一個ノ引導者ト爲スコトヲ得ベシ而シテ大資慧巧ナル人ハ唯是等ノ物品ヲ點視セバ直ニ其様式

ニ隨ヒ玻璃珠ヲ用井テ其自己ノ頭ヲ飾ルヲ得ベシ且ツ此繡飾ヲ爲スコトヲ得バ宜シク過テ之ヲ厚クスルノ善カラザルヲ記臆スベシ然ルヲ若シ果シテ之ヲ厚クセバ線帶ハ堅強ナルニ至リ其柔軟ナル所ヲ失ヒ以テ其極美ナル品位ヲ損スベシ又線帶ノ縁ニ駢列スル所ノ大ナル珠ノ如キハ互ニ密接セザルトキニ甚タ美觀ヲ爲スモノナリ且ツ玻璃珠ヲ以テ線帶ニ縫綴スルニハ宜シク單一ナル紕子ヲ用井而シテ此絲ハ玻璃玉ノ一顆ノ裏ニ於テ甚ダ巧ミニ緊收セザルコトヲ得ズ又彼ノ白玻璃玉ハ縁飾リニ用井テ美麗ナルコト遠ク黒色ノモノニ及バズト雖モ尙喪服ニ施シ用井ルナリ而シテ髮毛ヲ飾ランガ爲メニ此白玻璃玉ヲ以テ嫩芽ニ代用シ之ヲ貫クニ

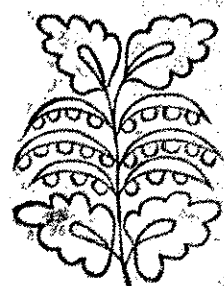
絹絲若クハ他ノ絲ヲ用井ズシテ金線ヲ以テスルヲ見ルコト  
ハ吾儕ノ甚タ嘉スル所ナリ  
今吾儕ハ玻璃玉ヲ用井ルベキ繡飾ノ許多ナル種類中唯二三  
ヲ舉示セルノミ是吾儕ノ玆ニ之ヲ詳説スルノ暇無ク且ツ此  
技ニ長ゼル所ノ人ヨリ二三ノ教訓ヲ受クルコトハ同一ナル  
時間ニ於テスルモ最モ秀逸ニ筆記セシ所ノ教誨ヲ受クルニ  
優レルコトアルヲ以テナリ

○「スウタツシエ」

「スウタツシエ」トハ余輩ノ外套及ヒ短表衣ニ於テ用井ル所ノ  
匾條或ハ線帶ノ繡飾物ヲ云フナリ今一例ヲ舉シニハ若汝短  
表衣ニ此繡飾ヲ施サンコトヲ欲セバ則チ汝ノ好ム所ノ模式

ヲ擇ヒ以テ其形ヲ汝ノ物ニ押印スベシ是ニ於テ汝ハ斯ノ如  
クニ寫セシ所ノ模式ニ隨テ此匾條ヲ置キ若シ其匾條ノ幅狹  
窄ナルガ如クナラハ則チ其中央ニ於テ緊取シ又若シ廣濶ナ  
ルトキハ其兩縁ニ於テ之ヲ縫フベシ夫レ此繡飾ハ多クノ勞  
苦ヲ用井ザルニ大ニ功ヲ奏スルモノニシテ之ヲ行フコト却  
テ愉快ヲ覺ユルモノナリ  
「スウタツシエ」即チ匾條ヲ縫綴スルニ於テ杜松子等ノ菓實葡  
萄若シクハ他ノ蔓草ノ種類ヲ繡飾スルニハ匾條ヲシテ平坦  
ナラシメズシテ其側面ニ於テ之ヲ起立セシメバ更ニ一層ノ  
美麗ヲ加フル所アルベシ  
今一例ヲ舉シニ次條ノ模式ニ於テ葉ハ宜シク匾條ヲ平坦ニ

第百二十二圖



シテ之ヲ繡彩スベシ然レトモ若シ屈曲セ  
シ枝條或ハ葉實ヲ繡飾スルニハ其匾條ヲ  
シテ縁ニ於テ起立セシメ且ツ二回之ヲ纏  
ヒ或ハ絹又ハ絹ヨリモ更ニ堅強ナル毛製  
ノ匾條ナラバ宜シク一回之ヲ纏フベシ而シテ果シテ此ノ如  
クスルトキハ堅固ニシテ起立セシメ所ノ葉實ヲ造成シテ其繡  
飾物ヲシテ大ニ華美ナル所アラシムベシ

## ○「アツブリケ」

此眞個ニ美麗ナル繡飾ハ網羅ヲ以テ地ト做シ其上ニ綿紗ノ  
繡飾ヲ施スト稍同一ナル道理ニ於テ做シ得ルモノニシテ唯  
其地タルベキ物質ニ於テ大ニ差異スル所アリ而シテ此繡飾

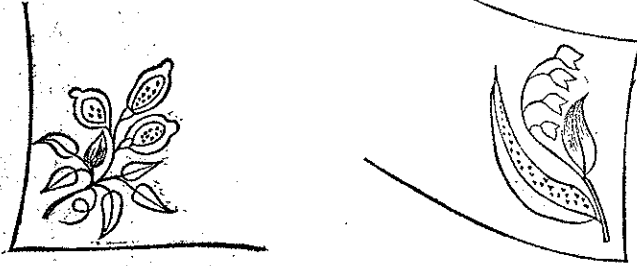
ハ大ニ小兒ノ上蓋衣ニ適當スルモノナリ故ニ余輩ハ赤黒色  
ナル「カツシメ」ヤ」ヲ以テ製セル上蓋衣ヲ見シコトアリシガ  
此上蓋衣ノ上ニ施セル「アツブリケ」ハ黒藍色ノ繡子黒色ノ  
剪絨及ヒ細小ナル球ニ由テ造成シ且ツ金色ノ匾條ヲ以テ其  
縁ヲ蓋ヒ精密ナル亞刺伯風ノ奇模様謂ユル唐草類ヲ做セル  
モノニシテ是等ノ朴實ナル色ハ金色ト相映帶シテ共ニ清潔  
壯麗ナル觀ヲ成セリ而シテ繡飾ノ諸工ハ之ヲ施スニ於テ大  
快心ナルモノニシテ且ツ之ヲ學習シ得ルニ困難ナル所無キ  
ヲ以テ余輩妙齡婦人ノ自ヲ作爲スル所ノ喜ブベキ物ヲ以テ  
其朋友ニ贈ラシコトヲ欲スルモノニ勸ムルニ此繡飾ヲ行ハ  
シコトヲ以テセリ



## ○繡飾

「ラゲロドリ」即チ繡飾ナリ彼ノ婦人ノ下衣兒童ノ上衣及ヒ袖口等ニ用サレル所ノ鮮明ナル縫繡ハ衆人ノ能ク知ル所ニシテ余輩ノ此事ニ關シテ多言スルヲ要セザルニシテ而シテ其模式ハ押印シ若クハ裁製セシモノヲ購ヒ得ベシ是ヲ以テ此縫繡ヲ行フ女子ハ唯其意ニ隨ヒ奇麗ニ且ツ緻密ニ縫綴シ（「エウシス、アント、コー」ト云フ商社ニ於テ此縫繡ニ要用ナル物質ヲ綴ケリ）若シクハ其線ヲ越エテ縫着スルコトヲ要スルノミナラズ夫レ襟及ヒ袖口ニ用ヰンガ爲メニ繡子ノ針歩ニ於テ全ク緻密且ツ甚ダ精細ニ此縫繡ヲ施スコトハ方今「パリス」府ニ於テ流行スル所ナリ而シテ是等ノ襟ハ厚クシテ精緻ナル白色ノ

## 第百二十三圖



餘ノ孔穴ハ宜シク縫繡スベカラズ

棉紗若クハ柔軟ナル綿紗ヨリ截取リ且ツ襯衣ノ襟ノ如ク其周圍ニ於テ縫綴スルモノナリ又精緻ナル繡子ノ針歩ニ隨ヒ其各個ノ隅ニ於テ細小ナル模式ヲ縫繡スルコトアリ而シテ袖口モ亦同一ナルモノニシテ同一ナル模形ニ於テ之ヲ縫繡シ且ツ節鉤ヲ着ケンガ爲メニ其孔穴ヲ穿ツコトアリ余輩今方ニ此縫繡ヲ行ハンガ爲メニ十分ナル大サノ一二ノ模式ヲ與ヘリ而シテ此圖上ノ小點モ亦縫繡スベキモノニシテ且ツ開キタル葉及ヒ自

○圖畫

圖畫ハ愉快ニシテ且ツ雅致アル技術ニ  
シテ他人ノ功成ニ由ルコトナク唯自己  
ノ意匠ニ隨ヒ勉力學習スルモ能ク至大  
ナル進歩ヲ爲シ得ルコト他ノ諸藝ヨリ  
モ優レルモノアリ而シテ若シ人ノ其性  
質此技術ヲ學ブニ適當セルモノアラバ之  
ヲシテ善長ナル教師ノ教諭及ヒ指導ヲ  
受ケシメンコトハ固ヨリ甚タ願フベキ  
所ナリ夫レ吾儕ノ正ニ尊重スル所ノ教  
師ナル「ジョージ・ハーレイ」ヨリ若シクハ

圖 四 十 百 第



「ハーディング」名ハノヨリ受ル二三ノ教訓ハ少年ナル女子ヲ之  
ヲ得ルニ及テ能ク其身ヲ改善スルコト其獨リ自ラ此技術ヲ  
多年間勉力スルニ勝レルモノナリ  
然レドモ今假令此少年女生ノ朋友等之ニ一ノ良教師ヲ與フ  
ル能ハズ若シクハ之ヲ與フルコトヲ欲セズト雖モ此少年女  
生ハ猶之ガ爲メニ其技術ヲ行フコトヲ廢スルニ至ラザルベ  
シ是其勉力ト其自然ニ此技ヲ行フニ適應スル所トニ由テ能  
ク自ラ大ニ此術ニ長熟スルコトヲ得ンバナリ此時ニ當リテ  
余輩ハ尙此女生ノ他人ヨリ二三ノ教告ヲ受ケンコトヲ企望  
セリ而シテ此教告ハ老練セル畫工ニ於テハ既ニ洞知シタル  
所ト雖モ斯ノ如キノ事情ニ於テハ決シテ全く無用タラザル

所ナリ

凡ソ圖畫ヲ學習スルニハ先ツ始メニ畫筆ヲ用井ルニ怯怖セズ大膽ニシテ白墨ヲ用井ルガ如キノ意ヲ存シ得ンコトヲ勉強シ又彼ノ有益ナラズシテ陋拙ナル趣向ニ出ル所ノ美麗解明ニシテ細小ナル圖畫ヲ造ルコトヲ避ケテ眞實且ツ端正ナル圖畫ヲ造リ出サシコトヲ力行スベシ而シテ善良ナル畫稿ハ往々貴重ニシテ且ツ快愉ナルコト完全ナル圖畫ニ勝レルアリ且ツ此畫稿ハ能ク之ヲ畫ケル人ノ意匠ヲ寫シ又能ク其筆力及ヒ其見ル所ノ端正ナルヲ證明スベシ故ニ「ソルジヨシエーア、レーノルツ」言ヘルコトアリ曰ク人ノ此技術ニ熟達セザルモノハ圖畫ノ粗漏ニシテ且ツ其体裁全ク成就セル所無

キカ如キ者ノ博識ナル人ノ爲ニ甚タ尊重セラル、ヲ見テ往々驚愕スルモノアリ然レトモ是等ノ圖畫ハ眞ニ貴重スベキモノニシテ其貴重スベキ所以ノモノハ既ニ全キ意向ヲ表出スルコトアレバナリ夫レ善良ナル畫稿ノ人ヲ悦ハシムルハ斯ノ如キモノナレバ此畫稿ヲ學習シ始メンニハ豈ニ善美ナル事業ト言ハザルベケンヤ

今斯ク圖畫スルニハ始メニ先ツ畫筆（ローニーノ畫筆ナリ）其鋒ヨリ一「インテ」有餘ノ處ニ於テ握ルベシ是把握スルコト甚タ紙表ニ接近スルトキハ其筆鋒ノ觸ル、所ニ於テ自在ナルコトヲ得ザレバナリ又畫稿ハ紙ノ左邊ニ置キ且ツ其當ニ畫クベキ所ノ物ノ最高ナル地位ヨリシテ畫キ起スベシ是右手

ノ上ニ在ルニ由テ其面キタル所ヲ磨滅スルコトヲ避ケ且ツ  
 眼目ノ能ク容易ニ全紙ヲ通觀シ得シコトヲ欲シテナリ而シ  
 テ外形ヲ描スルコトハ必ズ當ニ確實明白ニシテ且ツ截斷ス  
 ル所ノ少許ナランコトヲ注意スベシ然レトモ接續シ且ツ界  
 水ニ由テ畫ケルカ如ク見エル線ヨリ造成スル所ノ外貌ノ粗  
 惡ニシテ深黒ナルモノハ眞ニ觀ルニ堪ヘザルモノアリ又圖  
 畫スルニハ先ツ始メニ其畫ク所ノ位置ノ距離或ハ比例ヲ計  
 量スルコトヲ以テ汝ノ習慣ト爲スコト勿レ宜ク最初ニ畫稿  
 ヲ爲シ而シテ後ニ善ク注意シテ汝ノ圖畫ノ精細ナル所ニ至  
 ルベシ汝ノ畫線ハ必ズ眞直ニ汝ノ斜線ハ必ズ確實ニシテ且  
 ツ明白ナラサルメカラズ又汝ハ汝ノ畫稿ヲ造ルコト頗ル敏

捷ニシテ且ツ精細ナルコトヲ得ルニ至ルマデ必ズ陰ヲ塗ラ  
 ンコトヲ務ムベカラズ且ツ須ラク汝ノ左右ニ在ル所ノ物體  
 ニ據テ圖畫スベシ是徒ニ模倣スルモノハ眞ノ畫工ト稱スル  
 能ハザルカ故ニ汝ノ漸々自然ノ物體ヨリシテ容易ニ畫稿ヲ  
 造成シ得ンコトヲ要スレバナリ  
 今夫レ汝ノ圖畫スル所ヲ善ク陰影ヲ塗飾スル方法ヲ知ラン  
 ト欲セバ須ク「ハーデシグ」氏山水ノ圖畫(卷冊小ニシテ六「ベシ  
 ス」ノ價ノモノ)ニ據テ粉本ヲ造ルベシ或ハ若シ過度ニ高直ナ  
 ルニアラザレバ同氏ノ著作セル圖畫ノ大冊ニシテ印刷シ以  
 テ一個ノ教師ト爲スニ足ルモノヲ購求センコトヲ汝ニ勸ム  
 ベシ且ツ其石上ニ圖寫セルモノモ亦汝ノ模倣セシガ爲メニ

秀妙ナル模範ヲ與フベシ然レドモ今余輩ハ汝ノ爲メニ二三ノ普通ナル規則ヲ與フルコトヲ敢テセン即チ汝ノ筆鋒ヲシテ常ニ潤大ナラシメ唯兩三圖ニシテ能ク數多ノ用ヲ爲サンコトヲ務ムベシ且ツ若シ己ニ塗飾セル所ノ全ク深黒ナラザル如キアルモ決シテ再ヒ同一ナル畫筆ヲ以テ又同一ナル方向ニ於テ之ヲ塗ルコトヲ爲ス勿レ是却テ其圖畫ヲ汚穢センコトヲ恐レテナリ然ル後ニ更ニ輕小ナル畫筆ヲ把リ最初ニ作リシ所ノ畫ニ對シ少シク傾ク所ノ畫ヲ作爲スベシ又汝ノ富ニ塗抹スベキ所ニ於テハ宜ク汝ノ畫スル所ノモノヲシテ潤大平坦ニシテ互ニ相駢列シ一モ混雜スルコトナク且ツ各個ヲシテ皆秩序ヲラシムベシ又線尾ニ於テ時ニ深黒ナル點

ヲ作ラザランコトヲ注意セザルベカラズ而シテ諸樹木ヲ畫クニハ其筆鋒ノ觸ルゝ所互ニ相異ナルコト無キヲ要ス蓋シ其相異ナル所ハ固ヨリ習慣ノ法アリト雖モ尙各個ノ樹木ノ通常ナル形容ヲ模寫センコトヲ務ムベシ然レトモ是等ノ筆法ノ異ナル所ハ唯其樹木ノ外線即チ其樹木ノ天ト相接ズル所ノ部分ニ於テスルノミ而シテ諸樹ノ中心ニ潤大ニシテ十分ニ且ツ平滑ナル塗抹ヲ施スベキガ故ニ汝ハ富ニ畫クベキ所ノ山水ノ圖ニ於テ樹木ヲ畫キ起ス前ニ各個ノ別異ナル筆鋒ヲ試ムベシ而シテ水ヲ畫クニハ其線ノ精密ニシテ平坦ナランコトヲ要ス然ルヲ若シ之ヲシテ果シテ平坦ナラシメザレバ其水ハ將ニ圖外ニ流溢スルニ至ラントス故ニ汝ハ圖畫

スルニ當リテ水ヲ畫クニハ最モ注意セザルベカラズ而シテ  
暫時ノ間模倣スルコトヲ務メ且ツ善良ナル教師ノ圖畫ニ依  
テ塗飾スルコトノ端正ナル方法ヲ學習スルノ後自ラ天然ノ  
物体ヲ觀テ畫稿ヲ倣シ始ムベシ是蓋シ此技術ノ真正ナル用  
法ニシテ且ツ其愉快ナル所ノモノタリ而シテ之ヲ行フトキ  
ハ萬物ヲ觀ルニ於テ新タニ悅樂ノ意ヲ生ズベシ故ニ此技藝  
ニ練熟セル者ノ如キハ前時ヨリ既ニ眼前ニ露現セシ所ノ諸  
物ニ於テモ千般ノ秀美ナル所ヲ注目シ又各個ノ樹木雲葉及  
ヒ激流スル小川ヲ見ルニ於テ新タニ快樂ノ意ヲ發スルニ至  
ルモノナリ加之常ニ戶外ニ於テ圖畫ヲ爲ストキハ大ニ眼ノ  
血液及ヒ眼目ノ光澤ヲ増益スベシ然レドモ萬物ヲ觀テ直チ

ニ畫稿ヲ作ルコトハ始メニ於テ少ク困難ナル所ナキコト能  
ハズ故ニ今余輩ハ此畫稿ヲ容易ニ作爲シ得ベキ所ノ方法ヲ  
考察セザルコトヲ得ズ即チ畫ヲ習フニハ先ツ最初ニ少ク此  
技術ノ起原ヲ學習スベシ而シテ余輩ノ此起原ト云フハ遠景  
ノ寫法ヲ言ヘルナリ且ツ眺望スル所ニ於テノ一點若クハ視  
覺ヲ限ル所ノ點ニシテ諸般ノ斜線ノ一ニ會集スル所即チ此  
點下ニアル所ノ諸線ハ皆上昇シ又其上ニアルモノハ皆下降  
シテ一ニ會集スル所ヲ知ルトキハ頗ル裨益スル所アラント  
ス而シテ余等ノ意見ニ據ルトキハ「ピンノック」氏ノ「カタナス  
ム、オン、パースペクテヴ」書名遠景ノ寫法ニ關テ讀習スレバ此斜  
線ノ趣旨ヲ知ルニ十分ナリト云フベシ

然リ而シテ汝ノ畫稿ヲ做シ起スニ方リテハ先ツ須ク景色中  
 ノ汝ノ將ニ畫稿ニ寫サント欲スル所ノ部分ヲ微ニ且ツ粗ニ  
 圖シ斯ノ如クシテ畧其景色ノ部分ヲ汝ノ紙上ニ模寫スベシ  
 而シテ後ニ善ク注意シテ之ヲ畫稿ニ作り其中ノ諸物ハ互ニ  
 比例ニ隨テ圖畫スベシ若シ汝此物体ノ比例ヲ知ルニ困迷ス  
 ルトキニハ汝ノ眼目ヲ隔テル少許ノ所ニ於テ目ト其物体ト  
 ノ間ニ汝ノ畫筆ヲ保持セバ照準規ノ如キ用ヲ做シ能ク之ヲ  
 量知スルコトヲ得ルモノナリ故ニ譬ヘバ今汝一株ノ樹木ト  
 一個ノ家屋トノ比例ヲ知ランコトヲ欲セバ宜ク先ツ其樹ト  
 眼目トノ間ニ汝ノ畫筆ヲ保持スベシ乃チ汝或ハ其筆ノ長サ  
 全ク其樹ヲ遮ルニ足ラザルコトヲ看出セントス是ニ於テ其

樹ノ此畫筆ノ端ニ當ル所ニ點シ了テ更ニ此筆ヲ高クシテ再  
 ヒ此點ノ上部ヲ測ルベシ而シテ吾儕ハ此樹ノ高サハ斯ノ如  
 クニシテ此筆ノ長サニ倍スルコトヲ假定セシメ然ル後ニ毫  
 モ眼目トノ距離ヲ變スルコト無ク其筆ヲ遷シ更ニ之ヲ眼目  
 ト其家屋トノ間ニ保持スベシ或ハ其家ノ高サハ此樹ノ長サ  
 ニ半スルコトヲ看出セントス是ニ於テカ果シテ此樹ノ高サ  
 ハ殆ト此小舎即チ家屋ノ高サニ倍スルナリ而シテ此比例ヲ  
 測ルニハ常ニ斯ノ如クスルヲ得ベシ故ニ此方法ハ此比例ヲ  
 測ルニ於テ第二ノ說ノアラザラン際ハ能ク眼目ヲ指導スル  
 モノナリトス

又月光及セ暗陰ヲ畫クニ關シテ吾儕ハ汝ニ忠告スル所ハ其

本体ヲ見テ學習スベキヲ云フニアリ抑動搖スル日光及ヒ縁  
 靜ナル暗陰ハ千種ノ多キニ至ルヲ以テ汝ノ家室中ニ於テ之  
 カ畫稿ヲ塗飾スルニ方テハ一ノ規則ノ汝ヲ助成スベキモノ  
 アルコト能ハズ然レドモ通常ノ規則ハ固ヨリ緊要ナリト云  
 フベシ譬ヘバ若シ日光物体ノ一傍ニ注クトキハ則チ他ノ一  
 傍ハ暗陰タルベシ且ツ諸般ノ圓筒形ノ物体ハ若シ一方ニ於  
 テ日光ヲ受ルトキハ則チ他方ニ於テハ團圓ナル影ヲ生スベ  
 シ而シテ特ニ諸般ノ樹木ニ於テ斯ノ如クナラザルヲ得ズ然  
 レトモ敏捷ナル觀察ノ力ヲ有スル人ハ皆自ラ盡ク是等ノ事  
 ヲ認視スベシ而シテ本体ニ由テ學習スレハ之カ爲メニ得ル  
 所大ニ規則ニ由テ學習スルニ勝ルモノナリ

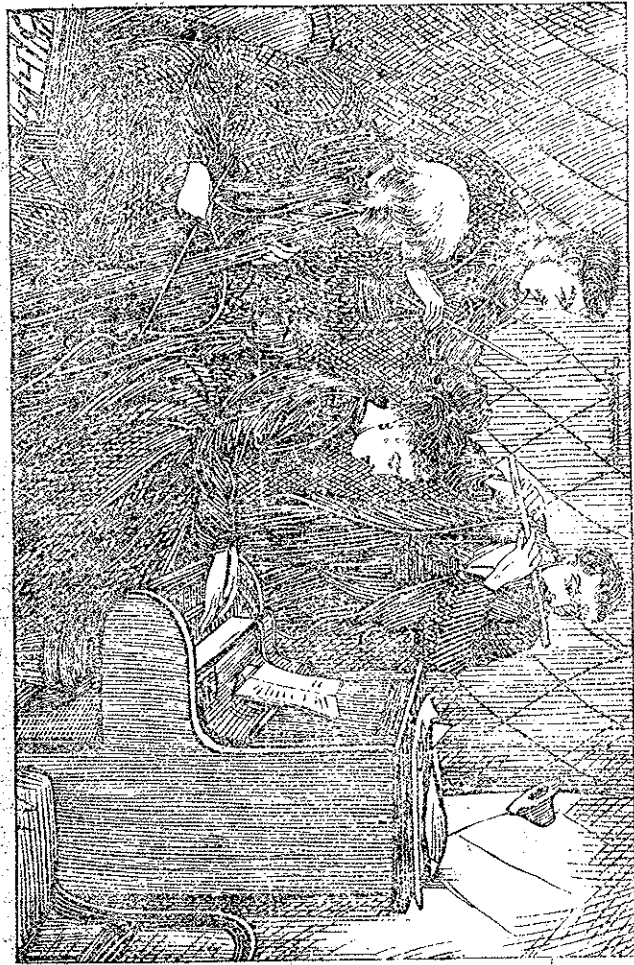
且ツ又時々己ニ記憶セル所ノモノヲ圖畫スルコトヲ務ムル  
 ハ善良ナル一計策ト云フベシ故ニ之ヲ爲スニハ先ツ「ハーデ  
 ング」氏ノ圖畫ノ一個ヲ模寫セシ後暫ク之ヲ收藏シテ唯胸裡  
 ヨリ想起スル所ニ由テリ再ヒ前時模寫セル所ヲ圖畫シ了テ  
 之ヲ其原畫ト比較スベシ乃チ汝ハ明カニ汝ノ錯誤セル所及  
 ヒ失敗セル所ヲ看出スルヲ得ヘキナリ  
 余輩ハ今爰ニ墨繪水色形狀圖畫等ニ關シテ一事ヲ演說スル  
 能ハズ而シテ吾儕ハ唯爰ニ圖畫ニ關シテ告示セル所ノ趣旨ノ  
 一個ノ緒言トナルヲ得テ人々ヲ勸勵シ之ヲシテ更ニ深く此  
 技術ヲ學習スルニ至ラシメシコトヲ希望スルノミ

# 音樂



凡百ノ技術中ニ於テ近時盛ニ英國ニ流行シ數年間ニシテ大ニ進歩セシハ此音樂ノ藝ヨリ勝レル者アルコトナシ夫レ我が諸府及ヒ卿里ニ歌謡ノ集會ヲ設ケ樂器ヲ使用スル同社ヲ結ビ且ツ「クリスタルパラス」即チ龍動ノ水晶宮ニ於テ奏スル所ノ音樂ヲ容易ニ聽聞シ得ルニ至レルモノハ豈新タニ此技術ノ進歩ヲシテ特ニ速カナラシムル所以ニアラズヤ而シテ現今ニ當リ少年女子ニシテ全ク此技ノ樂ミヲ解セザルハ是世ノ風俗ニ戾レル者ト云フベキナリ今時客廳ニ於テ最良ナル教師ノ製作セシ所ノ室中ノ音樂ヲ奏スルゴト專ラ流行セリ其樂トハ室内ニ於テ自ラ私ニ設ケ爲スモノヲ云フ寺院ノ奏樂又ハ衆人集會シテ做ス所ノ音樂ニ異ナルナリ殊ニ「ハイ

圖五十二百



中「古代ノ  
樂「モ」ザ  
「エ」モ「ザ  
「ルド」「ベ  
「ミ」ホ「ベ  
「シ」同「  
等ノ樂ノ  
如キハ實  
ニ家人ノ  
耳ヲ悅バ  
シム且ツ

其感覺智力ヲ增益スルヲ得ベシ而シテ親族中ノ年少ナル兒

女輩此樂ムベキ技術ヲ修行センガ爲メニ小集スルコト有ル  
ニ臨ミテハ其兒女ノ兄弟タルモノモ閑暇適意ニ乘シテ共ニ  
之ヲ行ヒ一家一族中互ニ相親愛シ相感動スルノ情益固ク益  
厚キニ至ルベシ

夫レ音樂ハ特ニ家室内ニ於テ做スベキ所ノ技藝ニシテ衆人  
ノ宜ク修行スベキモノナリ而シテ此技藝ニ於テ確乎タル能  
力ヲ有スルモノ、少キハ亦疑フベキニアラズ然レドモ耳ヲ  
シテ善ク聴聞セシムルト手ヲシテ善ク練熟セシムルトハ必  
ズ能ク學習スベキモノトス是故ニ此技藝ノ定理及ヒ實事ヲ  
了解スルコトハ各個ノ善美ナル音樂ヲ聽テ能ク之ヲ辨別ス  
ルモノ、做シ得ベキ所ニシテ即チ決然之ヲ完成セント思欲

スルヨリ果シテ能ク之ヲ領會スルモノナリ

故ニ此學問ヲ會得スルニ最良ニシテ確實ナル方法ハ固ヨリ  
其至善ナル教授ヲ受クルニ在リ然レトモ斯ノ如キ善教ノ恩  
惠ハ少年ナル讀者ノ其地理ニ由リ或ハ他ノ事情ニ由テ常ニ  
受得ルコト能ハザルモノナル故ニ吾輩ハ其敢テ自ラ進取セ  
ンガ爲メニ二三ノ教告ヲ做サントス

凡ソ音樂ヲ學習スルニハ進歩セル生徒ニアラズト雖モ各個  
ノ指ヲシテ器械ニ觸ル、ニ於テ格別ノ力ヲ有セシメ且ツ拇  
指ヲシテ音格即チ音ノ調度ニ隨ヒ温和ニ迅速ニ運動セシム  
ルコト最モ緊要タリ次條ニ示ス所ノ演習ヲ注意シテ習行セ  
バ必ズ日々ニ此力ヲ増長スルコトヲ得ベシ其演習ハ即チ

シテ音ヲ發スベキモノ、上ニ其兩手ヲ置キ以テ之ヲ按壓ス  
ヘシ然ル後ニ左手ノ第四指ト右手ノ拇指トヲ舉ケ即チ拇指ヲ除キ食指ヲ然レハ第四指即チ小指ニ當ル又同時ニ此兩指ヲ以テ壓板  
ニ打下シ甚々急疾ナラズ又甚々遲緩ナラザル様ニ注意シテ  
屢之ヲ打下シ斯ノ如ク舉按スルノ間他ノ衆指ハ暫ラク壓板  
上ニ安置スベキナリ而シテ此第四指ト拇指トヲ原位ニ復シ  
更ニ左手ノ第三指ト右手ノ第一指トヲ舉ケ前時ト同一ナル  
事ヲ行ヒ且ツ他ノ衆指ヲモ順序ヲ以テ亦皆此ノ如クナサン  
コトヲ要スルナリ蓋シ此演習ハ「カルクブレンチル」樂人ノ數  
多ノ稽古演習書中ニ在ル所ナリ而シテ拇指ヲ動カスノ間兩

手ノ位置ハ同一ニシテ變換スルコト無シ但シ兩手ノ第二指  
ヲ舉ケ且ツ拇指ヲシテ第一指ノ下ヨリシテ第三ノ間處トナ  
レル壓板ノ上ニ至ラシメ而シテ後ニ第二指ハ其壓板上ノ地  
位ニ復シ更ニ  
第三指ヲ舉ケ  
拇指ハ第四ノ  
間處ニ至ルベ  
シ斯ノ如クニ  
シテ終ニ第四  
ノ指ヲ壓板上  
ヨリ扛起シ拇

圖六十二 第 一 部

指ハ過キテ第五ノ間處ニ至ルヲ得ル其レ斯ノ如クシテ屢演  
習スルモノナリ是故ニ扛起セシ一指ト拇指トノ外他ノ諸指  
ハ皆常ニ壓板上ニ按着スルモノニシテ此演習ヲ完成スルニ  
至ルマデハ十分沈靜ニ其手腕ヲ保持セザルコトヲ得ズ而シ  
テ「ダイヤトニツク」音律名即チ半音ヲ以テ奏スルモノ「クロマチ  
ツク」同上即チ全音ヲ以テ奏スルモノ等ノ音格モ是ニ由テ注意  
シテ行フベシ且ツ新曲ノ書冊モ之ヲ認ムルトキハ直ニ讀テ  
其意ヲ解スベキナリ

彼ノ眞個ニ熟練セシ大洋琴ノ彈音ノ如キハ演習ト做シテ日  
々ニ唯二指ヲ以テ震聲ヲ爲シ即チ壓板上ニ固ク按着セシ所  
ノ使用セザル指ヲ以テ且ツ抑揚スル所ノ「クロマチツク」ノ音

格ヲ行フモ亦平々易々ニシテ毫モ難キコト無キニ至ルモノ  
アリ

今吾輩ハ少年ナル貴女ニシテ俗人タルモノ、最大ナル謬誤  
ハ直ニ彈スルコト能ハザルニアルヲ注目シ又少年ニシテ此  
業ヲ執レルモノ、微妙ニ彈スル法ヲ知り且ツ之ヲ行フノ精  
巧ナルコト實ニ驚クベキノ人ニシテ尙前時復習スルノ時間  
ヲキトキハ單一ナル歌曲ト雖モ直チニ齊整スルコト能ハズ  
且ツ亦他ノ人ト會シテ共ニ奏スルコト能ハザルモノアルヲ  
認識セリ是ニ由テ考フルニ此ノ如ク徒ラニ彈スルコトハ實  
ニ勞シテ功ナキノ至ニシテ其理ヲ知ラズ機械ノ如ク着做シ  
テ彈了スルニ過キザルノミ而シテ同一ナル音調ヲ相續ギテ

反復スルヲ聽カシムルハ家人ヲシテ困倦嫌惡セシムルニ至  
ラシム可シ且ツ此事ハ無益ニ惜ムベキ光陰ヲ消過スルモノ  
ナリ然ラバ則テ樂音ヲ奏スルノ技ヲ全成スルコト奇異ニシ  
テ其眞理ヲ通曉セザルノ理明カナリ今夫レ人ノ一國ノ語ヲ  
學ブモノアラシニ鸚鵡ノ如ク能ク其音響ヲ發出シ得ルモ譬  
ヘバ猶「ミルトン」氏ノ女ノ希臘語ニ於ケルカ如ク其國ノ文法  
書ヲ學ブコトナクシテ能ク其語ヲ理會シ或ハ之ヲ翻譯スル  
モノアリヤト問フコトアラバ吾輩ハ唯常ニ一人モ能クスベ  
カラザルヲ以テ答フベキノミ而シテ音樂ニ於テモ亦上條ニ  
掲クル所ノ少年ナル彈者ノ如キハ曾テ知ラザル所ノ文法書  
アルモノナリ且ツ是等ノ人ハ和音即チ音樂整齊ノ技術ヲ學

知センガ爲メニ勞苦スルコトヲ欲セズ是ヲ以テ俗人ト雖モ  
彼ノ遠景ノ寫法ヲ知テズシテ唯模倣スルモノ、妄リニ畫工  
ト稱セラル、ニ等シキモノタルニ至レリ故ニ少年ナル俗人  
ハ若シ能シ得ルナラバ「ロシール」氏ノ「システム、オフ、ハーモニ  
ー」書名和音ノ「ソロ」バツス」書名全キ「法則ノ義」等ヲ購求スベシ然レド  
モ若シ其價ノ不廉ナルヲ厭フトキハ則チ此書ハ其價一「ダイ  
チヤ」貨幣ノ名凡ソ日本ナルヲ以テ當ニ他ノ「ユツクス」氏ノ開  
板セシ所ノ「ハミルトン」氏ノ「カタケスム、オフ、ゼ、ラジメント、オフ、  
ハーモニー、エンド、ソロ」書名和音及ヒ全キ「沈ト題號セシ  
モノ、其價二「シルリング」貨幣ノ名日本ノ十五錢許ニ當ルニシテ其樂譜ハ一  
「シルリング」六「ペンス」十二分ノ一ニ値スルモノヲ買得ンコ

トヲ要ス是此書ノ音樂ノ原理ニ於テ通常ノ意義ヲ全ク含有  
 スルヲ以テナリ而シテ此女生徒ハ果シテ是等ノ書ヲ得ルコ  
 トアラバ乃テ合奏ヲ作シ音調ヲシテ齊整ナル所アラシメ又  
 何處ノ壓板ヲ按スルモ能ク之ヲ調スルコトヲ學知スベシ此  
 學問ハ全ク時ノ長短ト其時間ノ音律ノ數トヲ察知スルトキ  
 ハ此女生ヲシテ音曲ヲ讀ムニ於テ大ニ裨益スル所アラシム  
 ベシ即チ是第四百四十九葉ニ記載セシ所ノ音樂ノ遊戲ヨリシ  
 テ得ベキ所ナリ又音曲ヲ口授シ生徒ヲシテ聽テ其譜ヲ筆記  
 セシムルモ大ニ此技ヲ會得スルノ力ヲ增長スルノ一法ニシ  
 テ唯耳ニ由テ覺知シ筆記セザル所ノ音調モ善ク注意シテ聽  
 聞セバ亦最モ有益ナルモノナリ然レドモ此技ニ達スベキ要

件ハ目指心思ノ音曲上ノ語ニ慣習センガ爲メニ日々ニ未知  
 ノ曲ノ一葉ヲ必ズ彈スルニ在リ  
 夫レ人ノ和音ノ趣旨ヲ了解シ端正ニシテ聰敏ナル聽官ヲ有  
 セルモノハ若シ一度之ニ告クルニ樂譜ト其時トヲ以テセバ  
 未ダ曾テ聞カザル所ノ歌曲ト雖モ能ク齊聲シテ調スルコト  
 ナ得ルモノナリ此ノ如キノ人ハ樂譜ノ音格ハ三個ノ根元タ  
 ル所ノ沉音即チ左手ニテ調シ右手ノ調スル所ニ和シテ彈ス  
 ル沉着シタル音ヲ所有シ且ツ是ヨリ流出シ來リ又其感覺思  
 考ニ依テ變易スル所ノ合奏ヲ爲スハ唯單一ナル助音ニ由ル  
 トキニ既ニ十分能スヘキコトヲ覺知シ又音調ノ變化ヲ速カ  
 ニ了得センガ爲メニ必ズ熟讀スルコトアルベシ然レドモ斯

ノ如キ事ハ固ヨリ人ノ做シ得ベキ所ニシテ吾等ハ人ノ音樂  
ノ書ヲ妄却シ或ハ之ヲ攜帶セズ其他相齋聲スル能ハ等正時  
ニ於テ能ク之ヲ做シ得ルノ便利ヲ屢發見セシコトアリ  
夫レ音樂ノ真趣味ハ唯樂人ノ最も善ク其事ヲ做スモノニ聽  
聞シ且ツ最も良教師ノ作成セシ所ノ樂譜ヲ彈スルニヨリテ  
能ク了覺シ得ルモノナリ而シテ吾等ハ讀者ナシテ音樂ノ精  
神ハ音調ヲシテ感歎スベカラシムルニ在リテ誠實ニ音樂書  
ニ就テ作者ノ思量セシ所ヲ解明スルモノハ其技藝ニ由テ高  
尙ナル意味ニ通曉スルコト役ノ巧手ニ樂ヲ奏スルモノト習  
慣ニ由テ意和ヲ解セズシテ彈ズルコトノ精熟セルモノトニ  
勝レル情狀ヲ隨記セシムベシ又吾輩ハ音調ヲシテ巧妙ナラ

シメンガ爲ニ特ニ「ハイン」及ヒ「モーザルト」共ニノ樂ヲ學習ス  
ルコトヲ伶人ニ勸ムルナリ  
今吾等ハ悅フベキ歌唱ノ技藝ニ關シ數語ヲ陳述セザルコト  
ヲ得ズ夫レ聲音ヲ善クセン爲メニ習行修養スルコトハ亦尙  
其指ニ於ケルガ如ク必ス勉勵スベキ所ナリ而シテ習行ノ至  
善ナル方法ハ法蘭西人ノ「フィレミソン」ト稱スルモノニシテ  
聲音ヲ凋衰セシメザランコトヲ注心シ日々唯二十分時或ハ  
半時間演習スルナリ且ツ此事ハ音格ニ隨ヒ聲ヲ揚起シ又更  
ニ之ヲ抑収スルニ由リテ能ク行フベシ譬ヘバ之ヲ學ブ女子  
ノ第三ノ條ノ下ノ「イ」音ヨリ唱歌シ始メンニ最初ノ間甚  
穩靜ニ發音スベシ是「ビヤニシモ」即チ靜音ト稱スベキモノナ

リ前條樂譜ノ圖ニ於テ參看スベシ五箇ノ條有リテ其下ニ「シ」ノ名ヲ有セル音譜アリ然ル後ニ更ニ其聲ヲ揚起シテ高調ヲ爲スベシ是「フルー」即チ高音ト稱スルモノナリ後又漸次ニ同呼吸ヲ以テ抑収シ終ニ其音ノ消滅シテ聞ユル無キニ至ルコトヲ得而シテ再ヒ善ク呼吸シ更ニDノ音ニ於テ始ルモ亦同一ナルコトニシテ其音ノ至高ノ限界ニ至ルマデ音格ニ隨ヒ揚起スベシ然レトモ此間常ニ其音律ニ合セシ所ノ歌ノ澄朗眞正ナルヘキコト、其音ノ界限ヲ過スベカラザルコト、善ク注意セザルコトヲ得ズ而シテ其音ヲ抑収スルモ亦前時ト同一ナル方法ニ從フベシ

夫レ氣息ヲ正當ニ呼吸スルハ良善ナル歌唱ヲ做スノ一途ト

言フベキナリ今高尚ナル音律ヲ歌唱スルモ新タニ呼吸スルノ後直チニ之ヲ調スレバ能ク澄朗穩靜ニシテ且ツ眞正ニ調シ得ベシ然レドモ其氣息既ニ羸耗スルトキハ其音調必ズ粗拙ニシテ完全ナルコト能ハザルナリ且ツ接續セシ音律ヲ歌フニハ必ス正當ナルトキニ呼吸スベキコトヲ大ニ注意セザル可ラズ夫レ不當ナル時ニ呼吸スルモ恰モ正當ナル時ニ全ク呼吸セザルカ如ク甚タ不快且ツ錯誤セルモノナリ

吾等ハ我が少年ナル朋友ノ田樂ヲ以テ家内親族ヲ悅ハシムル者ニ勸ムルニ其歌曲ヲ選拔シテ謠ハシコトヲ欲セズ意大利ニ於テ街道ニ唱フル所ノ歌即チ單ナル「カヴァチン」ノ如キ容易ニシテ明亮ナル小歌ヲ擇ヒ常ニ注意シ曲調ヲ做シテ之



ヲ謠ヒ且ツ甚々明白ニ其樂詞ヲ陳ズベキコトヲ以テセリ果  
シテ能ク斯クノ如キヲ得ルトキハ則チ其人ハ大ニ其技ニ熟  
達セズ亦多量ノ材能ヲ有セザルモ大ニ快樂ノ情ヲ生スルニ  
足ルモノナリ彼ノ詩人「ムール」氏ハ其聲音甚々微小ナリト雖  
モ獨學ヲ以テ歌者ト成リシモノ、中ニ在テ最モ樂只タル人  
ナリシガ其誦スル所ノ明亮ナルト其曲調ノ巧妙ナルトニ由  
リ好音ヲ生スルニ於テ大ニ感應セシコトアリ且ツ今又吾等  
ハ是等ノ少年ナル人ニ對シ樂詞ハ歌フベクシテ唯之ヲ話ス  
可カラザルコトヲ勸ムベシ是其義ニ反對シテ謬誤ヲ做スモ  
ノ多キニ由テナリ

大凡樂ニ於テ趣味ヲ知り曲調ヲ正クシ且ツ十分ニ音聲ノ高

低ヲ齊クスルハ以テ歌者トナルヘキ者ナリ然レドモ聲音上  
ノ樂モ亦器械上ノ樂モ善良ナル教師ニ從ヒ親ク教育ヲ受ク  
ルトキハ其有益ナルコト從來筆記セシ音樂ノ書冊ヲ悉ク讀  
了スルニ勝レルナリ

### ○玩具ノ手工

吾輩ハ此標目ニ由テ許多ノ適意ナル工作ヲ學ヒ  
且ツ之ヲ行フ所以ノ方法ヲ教授センコトヲ言ヘ  
リ

### 荅籃

荅籃ヲ作ラント欲セバ先ヅ宜シク果實商ノ杏若クハ李實ヲ  
納ル所ノ圓形ニシテ粗糙ナル籃ヲ購求シ綠色ノ綿布ヲ以テ

全ク之ヲ覆蔽シ次ニ下條ノ方法ニ由リテ製作スル所ノ苔ヲ以テ之ヲ覆フベシ而シテ此苔ヲ製スルニハ宜ク綠色ノ綿毛及ヒ細小ナル編針ノ一對ヲ用井此絲毛ノ最モ淡色ナル「シェード」ヨリ編ミ起シテ平坦廣潤ナル編物一片ヲ作成スベキ針步ヲ以テ二十列ノ針步ヲ做スベシ而シテ之ヲ做シ了ルニ及テ更ニ次ノ「シェード」ヲ取り均シク二十列ヲ編ミ斯ノ如クニシテ綠色毛ノ種々ナル「シェード」ノ五六列ト淡濃二種ノ黑赤色ノ綿毛ノ二三列トヲ以テ編成セシ所ノ方形編物一片ヲ完成スルニ至リテ已ムベシ然シテ後汝ハ更ニ此編物一片ヲ以テ爐火ノ上ニ置キ之ヲ焙フル十分ナルニ及テ之ヲ取り若クハ熱湯中ニ之ヲ浸シ温熱ナル鐵片ヲ以テ乾カスニハ綿毛ヲ

シテ退色セシメザランガ爲メニ此編物及ヒ鐵片ノ間ニ手巾若クハ薄キ紙片ヲ挟ミ時ヲ經テ後ニ之ヲ取ルベシ是ニ於テ淡濃諸色ノ綠苔ニ擬似セル所ノ甚タ美麗ナル一物ノ成ルアリ乃テ汝ハ剛強ナル絲ヲ以テ籃ノ内外ニ甚タ厚ク之ヲ縫着スベシ斯ノ如クニシテ完成スル所ノ籃ノ一種ハ盛ルニ「プロヴァー」即チ夏雞ノ一種ノ卵ヲ以テシ之ヲ食案上ニ置クニ甚タ美觀ヲ做スモノナリ

## 珊瑚籃

此籃ヲ造ルニハ始メニ剛強ナルモノヲ以テ粗糙ナル一籃ヲ製作シ次ニ白色ニシテ清淨ナル蠟ヲ土製ノ小瓶中ニ溶解シ之ニ和スルニ細末ニシタル銀朱ヲ以テシ之ヲシテ淡紅色ヲ

發スルニ至ラシメ此土瓶ノ上ニ汝ノ前ニ製造セシ一籃ヲ保  
持シ食ヒテ以テ之ニ注クニ此溶解セル蠟ヲ以テシ全ク之ヲ  
蔽フニ至リテ己ムベシ即チ此籃ハ忽チ乾燥シテ恰モ珊瑚ト  
異ナラザルニ至ルナリ

#### 柔革籃

此柔革籃ハ小條ニテ編メル所ノ一籃ヲ基礎トシテ製造スル  
モノニシテ宜ク塗抹シテ濃色ト爲スベシ而シテ其縁及ヒ其  
柄ノ周圍ヲ彩飾スベキ革製ノ葉及ヒ花ハ商舖ニ於テ己ニ全  
ク作成セルモノヲ購ヒ得ベシ又革ヲ水中ニ浸シ之ヲシテ柔  
軟ナラシメ之ニ正眞ノ葉ノ形象ヲ押印シテ巧ミニ之ヲ截脫  
スルニ由テ目ヲ製作スルコトヲ得ベシ是ニ於テ汝ハ細小ナ

ル平頭釘若クト通常ノ針ヲ以テ此花葉ヲ其籃ニ附着スベシ  
且ツ針ヲ用井ルニハ釘拔ヲ以テ其針ノ尖頭ヲ屈折シテ豫メ  
其傷害ヲ防ガサルベカラズ而シテ又此籃ノ全体ハ宜ク漆ヲ  
以テ塗飾スベシ今人此革ヲシテ一層ノ濃色ヲ増サシメンガ  
爲メニ或ハ咖啡ヲ以テ之ヲ染ムルモノアリ凡ソ是等ノ潤色  
ヲ善ク巧ミニ爲ストキハ此籃ハ甚タ美麗ナル形狀ヲ現シ其  
革製ノ裝飾ハ樫木ノ彫刻セシモノニ類似スルニ至ルベシ且  
ツ斯ノ如キ花葉ヲ以テ額縁ヲ修飾スレハ殊ニ善美ヲ得ルモ  
ノナリ

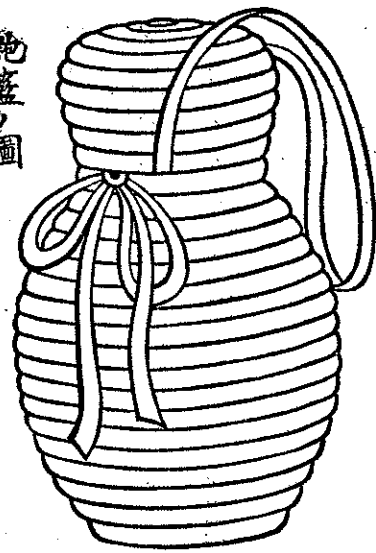
#### 匏籃

吾儕ハ今日人民開明慧巧ナル世ニ在テ猶且ツ廢棄セラレザ

ル所ノ諸籃中ニ往時用井シ所ノ匏籃ヲ加附セザルコトヲ得  
 ズ是其大ニ有用ノモノタルヲ以テナリ而シテ此籃ハ吾人ノ  
 朋友ヲ訪ヒ其家ニ於テ一日ヲ消セント欲スルニ當リ其身ニ  
 傍フベキ器什ヲ携フルコトヲ得ベク又旅行スルニ際シ輕小  
 ナル貨物ヲ納ル、用ニ供スルコトヲ得ベキナリ然リ而シテ  
 吾輩ノ茲ニ記載セル匏籃ノ圖ハ固ヨリ縮寫シタルモノナレ  
 バ吾輩ハ先ツ始メニ此籃ヲ適當ナル大サニ製造センガ爲メ  
 ニ要スル所ノ稿ノ組物ノ分量ヲ記載セザルコトヲ得ズ而シ  
 テ又吾輩ハ法蘭西國ニ於テ製作シタルモノヲ模式ト倣セル  
 ナ以テ「メートル」及ヒ「センチメートル」  
 其ニ法蘭西ヲ用井ザ  
 ルコト能ハズ故ニ「メートル」ハ即チ英國ノ三十九「インチ」

## 第百二十七號

匏籃ノ圖



即チ「インチ」ハ日有餘ニ均  
 本ノ八分三厘餘  
 シウシテ「センチメートル」ハ  
 一「メートル」ノ百分ノ一タル  
 コトヲ認記スベキナリ  
 凡ソ此匏籃ヲ造ルニハ必ス  
 「ドinstボル」稿ヲ以テ編製

シタル繩二十三「メートル」ヲ要ス而シテ今吾輩茲ニ「ドinst  
 ボル」ヲ以テ稿ノ最強ナルモノト倣ストイヘドモ更ニ拔萃シ  
 テ他ノ稿ヲ用井ルモ亦可ナリ  
 此稿繩ノ幅ハ一「センチメートル」ヲ以テ適宜トス汝ハ汝ノ繩  
 ナ三分シテ二十「メートル」ニ「メートル」及ヒ一「メートル」ノ三條

トナスベシ  
而シテ其二十「メートル」ハ此籃ノ體ヲ造ルニ使用スベシ  
又二「メートル」ハ以テ其蓋ヲ造ルベキモノト做スベシ  
又一「メートル」ハ其柄ヲ製スルニ必用ナル所ナリ  
且ツ濕氣アル海綿ヲ具備シ此稿繩ヲ沾サバル可ラズ是乃々  
之ヲシテ一層撓柔ニシテ善ク工作ニ適セシメンコトヲ欲シ  
テナリ  
斯ノ如クニシテ此籃ヲ造ルニハ汝先ツ其底ヨリ編製シ起ス  
ベシ而シテ汝ノ指ヲ以テ此稿繩ノ一端ヲ取り此繩ヲ螺旋狀  
ニ屈曲シ其一個ノ端ヲ以テ之ニ接スル所ノ他ノ一個ノ端ニ  
駢へ譬へバ稿製ノ帽子ノ頂ニ於ケルガ如クナランメ且ツ之

ヲ做スノ際傍ラ白色ノ綿絲ヲ以テ其外部ヨリ之ヲ縫綴シ宜  
ク其針歩ヲシテ外面ニ小ニシテ内面ニ長カラシムベシ且ツ  
之ヲ縫綴スルノ際其籃ノ底ヲシテ全ク平坦且ツ圓圓ナラシ  
メンガ爲メニ汝ノ指ヲ以テ此稿繩ノ組織物ノ縁ヲ緊收セザ  
ルベカラズ而シテ一タビ之ヲ做シ了ルニ及ヒテハ更ニ此稿  
繩ヲシテ緊密ナラシメザランコトヲ務ムベシ若シ然ラザレ  
バ其籃ハ適宜ニ膨脹スル所ノ團圓形ヲ失フニ至ルモノナリ  
然レトモ汝ハ匏籃ノ頸ノ編ムニ及ヒテ再ヒ其繩ノ縁ヲ緊着  
セシメ其頸ノ形ヲシテ確然其体ノ膨脹スル所ニ異ナラシメ  
ンコトヲ務ムベシ且ツ此頸ヲシテ長カラシムル所以ハ能ク  
精密ニ其蓋ニ適合センガ爲メニ甚ダ好ミスベキヲ以テナリ

而シテ其繩ノ末端ハ此籃ノ内部ニ於テ固ク結束スベシ  
又此籃ノ蓋ヲ編製スルハ始メニ於テハ一モ其底ト異ナル所  
無カルベシ然レドモ底ノ如ク一ニ平坦ナルコト無ク其繩ノ  
終ノ三回ヲシテ累層直立セシメ以テ此籃ノ頸ヲ容ル、ニ適  
セシムベシ而シテ其繩ノ末端ヲ結フ方法ハ此籃ノ体ニ於テ  
做ス所ト少シモ異ナルコトナシ  
斯ノ如クニシテ此蓋ノ成就セルトキニハ宜ク二三ノ針歩ヲ  
以テ之ヲ籃体ニ固ク縫綴スベシ且ツ細小ナル絹紐ノ一條ヲ  
以テ此蓋ニ縫着シ又他ノ絹紐ヲ以テ其籃体ニ縫着シ是等ノ  
紐ノ長サヲシテ結テ一環ヲ做スモ尙大ニ餘ル所アルニ十分  
ナラシムベシ是等ノ物ハ籃ヲ密閉スルニ足ルベキナリ

又此籃ノ柄ヲ造ランガ爲メニハ汝先ツ殘レル所ノ稿繩「ト  
ートル」ノ長サヲ屈折シ之ヲ疊テ二重ト做シ巧ミニ此繩ノ兩  
縁ヲ縫綴シ此縁ヲシテ互ニ緊縮セシメ且ツ之ヲシテ互ニ固  
着セシメンコトヲ注意スヘシ是ニ於テ柄ノ兩端ヲ籃ヲ造成  
セル所ノ稿繩ノ二行ノ間ニ開ケル孔ニ插入シ之ヲ此匏ノ内  
部ニ於テ縫着收結スベシ此孔ハ前ニ籃ヲ綴ルニ當リテ豫メ  
此柄ヲ容レンガ爲メニ籃ノ兩傍ニ具フルモノナリ

○「シュニール」即チ蠶綿ヲ以テ繡飾スルコト

此縫繡ハ白キ「タツフエタス」即チ絹類或ハ「グロウ、デウ、ナーブ  
ル」即チ白麻類等ノ物ヲ緊密ニ幘上ニ撐張シテ汝ノ繡飾セン  
ト欲スル所ノ花ノ模様ヲ薄ク其上ニ寫スベシ今假ニ薔薇ノ

花房ヲ以テ此繡法ヲ爲ストセバ乃チ汝ノ手工ヲ施ス方法ハ  
 常ニ次條ノ如ク工夫シ做スベシ  
 白色或ハ薔薇色ナル「チエナイル」ノ小環ヲ造リ之ヲ以テ細キ  
 針金ヲ捲キ置キ更ニ絹絲ヲ以テ兩端ニ於テ緊着スベシ然ル  
 後ニ之ヲ堅ク汝ノ左手ノ拇指ト他ノ指トノ間ニ保有シ再ヒ  
 其周圍ニ「シユニイル」ヲ置キ以テ第二回ノ排列ヲ成シ而シテ  
 又同一ナル方法ヲ以テ之ヲ緊着スヘシ斯ノ如クニシテ「シユ  
 ニール」ヲ次第ニ繞ラシテ排列シ且ツ之ヲ緊着シ外部ノ列ヲ  
 シテ薔薇ノ花片ノ如キ狀ヲ做サシメ遂ニ此花片ヲ完成スル  
 ニ至ルベシ而シテ十個ノ大ナル花片ヲ造リシ後更ニ「シユニ  
 ール」ノ色ニ次テ類似セル「シユード」即チ同色ニシテ濃淡ノ異

ナルモノヲ採リ若シ白色ノ薔薇ナラバ淡紅色ノ最モ薄キ「シ  
 エード」ヲ擇ヒ赤色ノモノナラバ其淡紅色ニ近クシテ光明ナ  
 ルモノヲ擇ヒテ再ヒ前ニ造リシモノヨリモ稍小形ナル十個  
 ノ花片ヲ造製スベシ其後又深濃ナル色即チ紅色若クハ白色  
 等ノ「シユード」ヲ取リテ更ニ小形ナル十個ノ花片ヲ造ルベシ  
 斯ノ如クニシテ常ニ其大サヲ減シテ其色ヲ濃厚ナラシムル  
 ナリ而シテ又數個ノ小ニシテ且ツ真濃ナル環ヲ造リテ赤色  
 ナル薔薇ノ中心ト做シ或ハ紅色ナル環ヲ作りテ白色ナル薔  
 薇ノ中心ト做シテ之ヲ絹帛ノ上ニ裝置スルコトヲ始ムベシ  
 其方法ハ先ツ汝ノ保有セル絹帛上ニ寫セシ所ノ畫稿ニ於テ  
 至大ナル花片ヲ排列シ且ツ之ヲ甚タ緻密ニ縫着スヘシ然ル

ニ次ニ排列スル所ノ花片ハ此縫綴セシ針歩ヲ蔽匿スベキナ  
 リ又其次ノ大ナル花片ヲ排置スルニ其四分ノ一ハ最初ニ縫  
 着セシ花片ニ重ナラシム可シ又第三列ハ更ニ球ノ中心ニ近  
 ツキ輪流ニ第二列ニ重ナラシメ斯ノ如クニシテ終ニ薔薇ノ  
 中心ヲシテ彼ノ濃色ナル環ヲ以テ充塞セザルヲ得ザルニ至  
 ラシム可シ而シテ更ニ汝ハ唯一列ノ「シェニール」ヲ以テ枝幹  
 ヲ作り同色ノ絹絲ヲ以テ之ヲ模式ニ隨ヒ縫着スベシ因テ其  
 「シェニール」ハ堅硬ナル針ト絲トヲ以テ絹帛ヲ透シテ自ラ緊  
 着セラルヽナリ又大葉ハ直ニ絹帛上ニ縫繡スヘキモノニシ  
 テ彼ノ花片ノ別ニ製造シテ更ニ之ヲ縫着スルガ如キニアラ  
 ズ先ツ葉ノ第一列ハ模式ノ畫稿ニ由リテ縫綴スベシ爾シテ

後其内部ニ又一列ヲ排シテ次ニ又内部ニ排列シ終ニ之ヲシ  
 テ全ク充塞スルニ至ラシムヘシ且ツ細小ナル葉ノ如キハ「チ  
 エナイール」ノ單ナル環ニシテ足レルナリ大凡此繡飾ノ大ニ觀  
 美ヲ做スベキモノハ葡萄樹ノ子實葉蔓ヲ具スルモノタリ此  
 子實ヲ模擬セシ紫色ノ「シェニール」ハ大ニ絹帛ノ地表ヨリ扛  
 起スルニ至ルマデ緻密ニ重テ繞絡スベシ然ル後ニ其附着  
 スル所ノ絹帛ヲ透シテ之ヲ緊収シ裡面ニ於テ堅ク縫綴スル  
 ニ由リ固ク附着スベキナリ

○羽毛ヲ以テ繡飾スルコト

此繡法モ亦絹ナリトモ布ナリトモ或ハ剪絨ナリトモ汝ノ所  
 有セル物質ヲ幘上ニ撐張シテ汝ノ畫カント欲スル所ノ圖ヲ



其上ニ模寫スヘシ而シテ汝ノ羽ヲ使用スルニ至テハ能ク注意シテ護謨ノ薄ク展ヘタルモノヲ以テ其裡面ヲ掩ヘ此ニ從事スルニ方テハ微少ナル羽毛トイヘトモ離散セザランコトヲ注意シ而シテ後ニ善ク之ヲ乾燥セシムベシ

又羽毛ハ固ヨリ其繡飾セント欲スル所ノ花ト同一色ナラザルベカラズ

爾セシ後銳利ナル一個ノ剪刀ヲ執リテ其羽毛ヲ將ニ繡飾セント欲スル所ノ花片ト精密ニ同一ナル形狀ニ裁斷シ模式ニ隨ヒ殊別ニ之ヲ置キ更ニ同色ノ緞細ナル絹絲ヲ以テ緊收スヘシ是ニ於テ若シ精巧ニ之ヲ爲ストキハ其針ノ羽ヲ透シテ經過スルニ從ヒ畫稿ハ隠レテ見ユサルニ至リ唯絹絲ノミ羽

莖ノ上ニ見ユルナリ而シテ枝幹及ヒ蔓ハ絹絲ヲ以テ細工スベシ又花片ノ上ニ斑若クハ理ヲ畫クコトハ駱駝ノ毛髮ヲ以テ製シタル畫筆ヲ執リ些少ノ顔料ヲ用井テ彩色シ得ルモノナリ

此繡縫ヲ爲スニ供用スベキ絹絲及ヒ針鋒ハ須ラク極メテ纖細ナルヲ要スベシ

又此手工ヲ爲スニ使用スル所ノ羽毛ハ鸚鵡或ハ其他光澤アル他國ノ鳥ノ羽毛等ナリ然ルニ又英國ノ鵝鳥ヨリ採ル所ノ純白羽毛ハ尋常ナル染匠ノ能ク何等ノ色タリトモ汝ノ希望スル所ニ隨テ染成スヘキモノナリ

大凡物質絹布ノ類其性護謨水ヲ塗ルモ傷損スルコトナクシ

其收縮スルコトヲ防遏センカ爲メニ汝ノ手工物ヲ頓上ヨ  
リ収餘スルニ先キ強キ護謨水ヲ以テ善ク其裡面ヲ洗淨スベ  
キナリ

○着色シタル絹帛ヲ以テ繡飾スルコト

此手工タル縫繡ノ種類衆多ナル中ニ於テ最モ貴重ナルモノ  
故ニ眞個ニ天然ノ花卉樹木ニ模倣セシメサルコトヲ得ズ即  
チ表出スベキ所ノ花葉若シクハ鳥ノ形及ヒ色ヲシテ精細ニ  
類似セシム可シ而シテ能ク之ヲ完成セシメンガ爲メニ常ニ  
彩色セシ模式ヲ縫繡スル婦女子ノ目前ニ置カサルベカラズ  
又吾輩ハ眞個ノ花ヲ常ニ目前ニ具スルヲ以テ更ニ善良ナリ  
ト思想セリ且此婦女子ハ絹ノ「シェード」(色變リノモノ)ナル種

類ヲ所有セザルベカラズ是レ色ハ次第ニ變化シテ遂ニ殆ト

原色ヲ辨シガタキニ至ルガ故ナリ

上部ニ在ル所ノ葉及ヒ花ノ染色ハ其下部ニ在ルモノヨリモ  
更ニ光澤アラシムベシ是其日光ヲ受クルト翳陰ニ在ルトノ  
效驗ヲ表出センコトヲ欲シテナリ又彼ノ一二ノ針歩ニ由リ  
テ縫着セシ葉或ハ花片ノ單ナル尖頭ニ於テモ屢三四ノ殊異  
ナル染色ヲ用井ザルヲ得ズ且ツ花片ノ地位ノ異ナル所ノ形  
狀ヲ模倣センカ爲メニ時ニ其針歩ノ方向ヲ變シ或ハ織物ニ  
於テ直線ノ道ヲ取り或ハ斜線ノ道ヲ取り以テ細カニ手工ヲ  
施サヽルヲ得ズ

此手工ヲ爲スニ適宜ナル針歩ハ通常ノ「プリキチス」即チ繡

子ノ針歩ナリ而シテ又花及ヒ他ノ物体ノ中心ヲ充實スベキ  
美麗ナル針歩アリ其方法ハ先ツ絹絲ヲ以テ兩三回針ヲ捲キ  
而シテ後ニ其欲スル所ノ地位ニ於テ此小キ捲網ヲ遺留シテ  
之ヲ單ナル針歩ニ由テ緊着スベシ且ツ汝是等ノ事ヲ成シ了  
リテ後モ猶此絹絲ヲ截斷スルコト勿レ最モ善ク注意シ細工  
場ノ一方ニ於テ此針ヲ刺シテ汝ノ再ヒ同一ナル「シェード」ヲ  
要スルトキヲ待ツベシ又各個ノ「シェード」ニ殊別ニ其針ヲ付  
シ以テ絹絲ノ屢其手ニ觸レテ汚穢スルヲ防キ且ツ其常ニ平  
滑ニシテ新鮮ナルコトヲ要スルガ故ニ宜シク注意シテ纏レ  
ザラシム可シ而シテ汝ノ手工ハ其造成スルニ隨ヒ銀紙ヲ以  
テ之ヲ掩フベシ何トナレバ其手工ノ能ク光澤アリ新鮮美好

ニシテ完成スルヲ期スレバナリ蓋シ法蘭西ニ於テ路易第十  
六ノ治世ニ當リ其人民殊ニ此精細ナル手工ニ秀逸セリ故ニ  
余此時代ノ綿紗ノ衣服ニシテ花蝶ノ恰モ眞物ノ如ク見ユル  
精巧ナル繡飾アリテ今日之ヲ飾リシ如キモノヲ觀覽セシコ  
トアリ今夫レ吾輩ノ始計スル所ハ何事ニ限ラズ可及的充全  
ナルヲ以テ善シト做スカ故ニ諸般ノ手工中此事ノ如キハ大  
ニ趣味有リテ且ツ美好ナルモノタル故ニ吾輩ハ多ク閑暇無  
事ナル讀者ノ爲メニ此ニ從事スベキ意ヲ深ク慫慂シ且ツ繡  
飾物ニ於テ斯ノ如キノ榮耀ヲ爲サントテ貨幣ヲ費スコトヲ  
允許スベシ蓋シ榮耀ヲ爲スト稱スルモノハ好絹ヲ以テ繡飾  
ヲ做スハ甚タ許多ノ浪費アルヲ以テナリ

○飾金物及ヒ「カンチタイル」即チ金銀ノ針金ヲ以テ繡飾  
スルコト

「カンチタイル」ハ「アリヤン」「フライジユール」及ヒ「クリンクワント」ヨリ生成スルモノナリ而シテ此最初ノ「アリヤン」トハ大ナル圓キ金ノ針金ヲ以テ作レル所ノ螺旋狀ノ管ヲ云フ汝ハ海軍士官ノ之ヲ肩裝ト做スヲ看得セヨ又第二ノ「フライジユール」ハ「バルリヤン」ト同種屬ニシテ唯其小形ナルモノヲ云ヒ第三ノ「クリンクワント」ハ金ノ紐條ノ平圓ナルモノナリ其他亦「ラノ」ト號セル手工ヲ做スニ使用スル葉形ノ飾金物アリ

此繡飾モ亦他ノ繡飾ト同一事ナリ汝ハ先ツ其物質ヲ木匠上ニ張り而シテ其圖即チ模式ヲ其上ニ寫スベシ

今假ニ汝等ノ繡飾ヲ施スベキ所ノ模式ヲ長春藤及ヒ「ホルリ」  
樹名狗骨ノ花環ト定ムベシ然リ而シテ其大ナル幹ノ如キ  
ハ「アリヤン」ヲ以テ製造セザルコトヲ得ザルナリ而シテ後其  
「ブリヤン」ハ管中ニ絲ヲ透シ且ツ所々ニ於テ強く縫綴シテ之  
ヲ固ク緊着シ以テ絹若クハ布ノ上ニ附貼スルモノナリ  
又「バルリヤン」ト同一ナル方法ニテ固着シタル「フライジユール」ヲ以テ葉ノ外形ト蔓トヲ造成シ且ツ大孔ノ針ヲ穿テタル  
纖細ナル金絲ヲ以テ葉ノ理ヲ作ルベシ  
菓實ハ飾金物ヲ以テ製スベシ而シテ此飾金物ハ悉皆珊瑚若  
クハ黑色ノ小球ヲ加ヘテ各其地位ニ固着スルモノナリ是ニ  
於テ此飾金物ヲ排置スル方法ノ如キハ必ス先ツ其織物ニ就

ヲ針ヲ貫キ更ニ飾金物ノ中心ヲ穿テ因テ深紅色ノ「ホルリー」  
若クハ長春藤ノ實ヲ造ルガ爲メニ要スル所ノ珊瑚若クハ黒  
紫色ノ小球ヲ以テ此針ヲ穿テタル絲ニ着ケテ爾シテ後ニ再  
ビ飾金物ト織物トヲ貫キテ汝ノ針ヲ返過ス可シ是ニ於テ此  
絹絲ヲ緊收シ終ニ固着スルニ至ルコトヲ得ベシ且ツ汝ハ須  
ラク此菓實ノ房子ノ完成スルニ至ルマデハ務メテ其絲ノ弛  
緩セザランコトヲ注意ス可シ  
夫レ斯ノ如ク精細ニ手工シタル檀布ハ其外貌甚ダ豔美端麗  
ナルモノナリ其縁ヲ修飾スルニハ最モ厚キ金ノ紐子ヲ用井  
テ之ヲ縫綴シ且ツ各個ノ角隅ニハ眞個ノ金ノ流蘇ヲ美麗ニ  
粧飾ス可キナリ

○天鵝絨并ニ金ニテ「ラメ」佛語即チ解キ明スヲ繡飾スル  
所ノ縫綴ノ名ナリ

コト

「ラメ」ハ最モ容易ナル繡飾ニテ且ツ供用ノ失費モ極メテ輕微  
ナリ其法タル絹帛若クハ毛布ニ剪絨ノ花葉ヲ附着スルコト  
、倣ス其花葉ノ莖及ヒ蔓ハ「フリシユール」別ニ剪絨ヲ用井ズシ  
テ其地ノ絹ヲ綴メテ  
之ヲ繡フニテ造リ葉ノ理ハ纖細ノ金絲ニテ造リ實子又ハ小  
花ノ如キハ飾金物ニテ造ルナリ或ハ押繪ノ剪絨花葉ノ既ニ  
成レル物ヲ購求スベシ其中ニ就テ花葉ノ最モ古キモノヲ用井  
ルヲ佳トス其古キモノヲ用井ルニハ先ツ其ヲ固結セシムル  
爲メニ通常用ノ護膜ヲ塗りタル棉紗ヲ除キ去リ絹帛又ハ毛  
布上ニ護膜ニテ葉ヲ粘着シ更ニ又金線縷ニテ固ク緊收シ或

ハ堅強ナル絹ノ針歩ニテ彼此結合スベシ花ハ剪絨ヲ裁テ之ヲ造リ花ト葉ト適宜ニ布置スベシ是眞ノ花片ヲ剪絨ノ裏面ニ置キ白堊若クハ鉛筆ニテ其形ヲ印シ而シテ之ヲ裁リ出スヲ以テ容易ク造リ得ベシトス我輩曾テ着色セル毛布ヲ以テ此編飾ヲ做シタルモノヲ見タリ剪絨ノ花ノ如ク光麗ナラスト雖モ亦頗ル美彩アリ凡ソ「ハーツアイズ」紫花池丁「フツクシ」ヤス」名花ノ「マウンターナアシ」上同「ジエラニコム」草等ハ此縫繡ニ最モ善ク適應シタル花ノ種類ナリ

○凡案布香案布等ニ用井ル金縫繡

此縫繡ハ之ニ供用スルモノ極上ノ品料ニシテ價額モ甚タ高貴ナレハ失費頗ル多シトス剪絨ノ繡ニ要スル所ノ品料左ノ

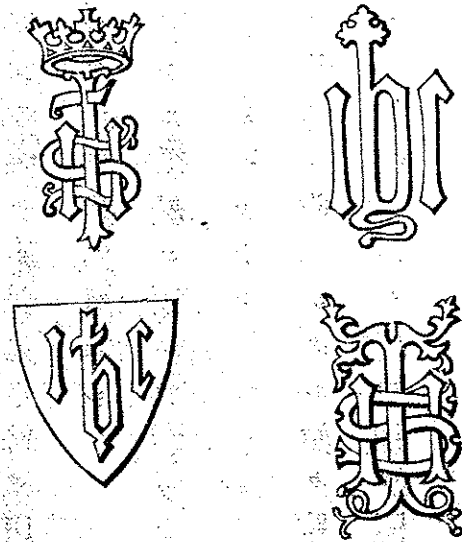
如シ

即テ剪絨粗キ白麻「フォール、クオータルフレックス」「バツシン」或ハ「ダムプール」ト稱スル美麗ナル金絲、蠶綿、「マイトルス」即テ絢リタル絹、寶玉小珠、及ヒ高ク上リタル飾金物、卷軸並ニ條ニ用井ル絹ノ紐子堅固ナル繡若クハ編製ノ絹又針ハ五號或ハ六號ノ圓孔針「シェニール」針、及ヒ毛氈針、極小ノ匾タキ針拔ハ金ヲ回旋スルニハ必ズ缺クベカラサルノ要具ナリ之ヲ縫繡スル方法ハ架上ニ白麻ヲ擴張シ金線紙ノ面ニ設思結構シタル縫繡ノ圖様ヲ畫シ之ヲ其上ニ貼シ着色ノ棉布ヲ以テ丁寧ニ注意シテ粉本ヲ模寫シ之ヲ做シ畢テ後金線紙ヲ裂キ棄ツベシ若シ汝之ヲ做スエトヲ得バ白キ「リチン」即テ麻

布ノ面ニ藍靛ニテ其圖ヲ滿ク可シ然スルトキハ頗ル汝ノ煩  
勞ヲ省減スルナリ  
爾シテ後ニ圖面ノ見エザル所ハ太キ柄絲ニテ充塞シ其上ヲ  
ハ金絲ヲ並ヘテ二重ニ列スベシ此金絲ヲ縫着スルハ葉ノ上  
ヨリ下マテ或ハ傍ヨリ傍ニ及ヒ之ヲ縫括シ且ツ同色ノ蠟絹  
ヲ以テ兩端ニテ麻布ニ縫綴スベシ而シテ深紅ノ絹ノ一針歩  
ヲ以テ金絲ヲ縫フトキハ圖ヲ其上ニ作ルコトヲ得ベシ此方  
法ヲ金ニ花紋ヲ着クルト云フナリ  
此縫綴ヲ太タ高クスルニハ紙牌ニテ圖ヲ裁斷シ麻布ノ上ニ  
緊貼シ其上ヲ「フ・ラ・チル」即チ小絨ニテ蓋フベシ之ヲ超過シテ  
二重ノ金絲ヲ通シ各端ニ於テ堅牢ニ縫フベシ凡ソ波濤狀ニ

縫ヒ或ハ花紋ヲ着クルコトハ此甚タ高凸ニスル繡飾ニ於テ  
施用スベカサザルハ勿論ナリ  
麻布ノ上ニ繡飾スルニハ其事畢テ後架ヨリ麻布ヲ取去テ之  
ヲ截ルベシ但シ其周邊ヲ細  
ク殘シ置クベシ是剪絨ニ縫  
ハンカ爲メナリ  
然シテ此麻布ヲ受ルカ爲メ  
ニ架上ニ剪絨ヲ擴張シテ美  
麗ニ附着スベシ麻布ノ邊ハ  
後ニ至テ金紐ヲ以テ覆フベ  
シ

第百二十八圖



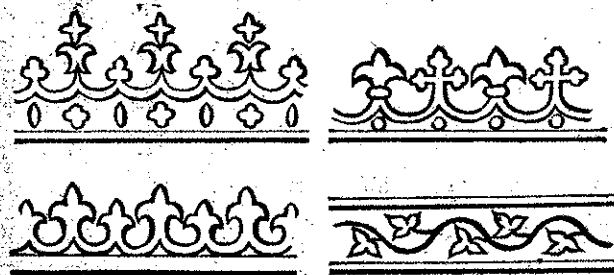
卷軸并ニ條ハ金若クハ銀ノ紐ニテ剪絨ノ上ニ繡節スベシ之ヲ始ムルトキト又終ルトキニハ必ス堅強ナル針并ニ絲ヲ以テ剪絨ヲ通シテ裏ニテ固ク緊收シテ之ヲ裁斷スベシ  
 最上秀絶ナル香案布ハ藍色ノ美麗ナル剪絨ニ銀ニテ「パツシヨシフヲツル」即チ玉藥花ヲ繡節シタルモノナリ  
 然ルニ或ル人ノ此過美ナル寺觀ノ裝飾ヲ非難シタル如ク畧名即チ各個ノ姓名ヲ畧稱シタルモノ并ニ縁縫ノミヲ繡節スルヲ以テ却テ優レリト做スベシ  
 右ニ掲ケタル秀美ノ畧名ハ此種類ノ繡節ニ適スル粉本ノ圖トシテ最モ女工ニ練達シタル貴女ノ斯書ノ記者ノ爲メニ畫キタルモノナリ

實用ニ適當セント欲スルニハ之ヲ巨大ニセンコト最モ容易ナルベシ

○天鵝絨上ニ圖畫スルコト

剪絨ノ上ニ圖形ヲ畫クコトハ古代流行ノ「プーナー」畫圖ト甚タ同一様ニ看做サルハナリ粉本ヲ針或ハ他ノ銳利ノ器具ニテ透明ナル粉本ト爲サンガ爲メニ造ル所ノ紙ニ模寫シテ之ヲ做スノ後花片又ハ葉等ノ如キ最要ノ部分ヲバ圖ノ骨格ヲ作ルガ爲メニ之ヲ數片ニ裁斷シテ片々ヲ剪絨ノ上ニ貼着シ「スクラツブ」即チ擦損シタル淨拂子ヲ用井テ顔料ヲ磨リ入ルベシ其顔

第百二十九圖





料ハ庶幾ハ純白且ツ透明ナル「亞刺伯護謨」或ハ「ゴムドレゴン」一種ノ溶解シタルモノト混和セシムベシ顏料ハツノ適用スヘキモノヲ購ヒ得ベク且ツ之ヲ要スルトキハ溶解シタルモノヲ購ヒ得ベキナリ「スクラツブ」ヲバ顏料中ニ漬スベシ然レドモ顏料ハ甚タ濕濡ナラズ又甚タ乾燥ナラザル様ニ注意シテ「スクラツブ」ヲ端直ニ把持シテ剪絨上ノ截リタル圖ノ周邊ヲ塗抹スベシ始メニハ淡薄色ヲ着ケ後ニ至テ黒キ「シェト」即チ濃淡衆種ノ彩色ヲ着クベシ然レドモ各色ヲ着ルニ先ナテ其前ニ塗りシモノハ必ス乾燥セザルベカラズ若シ汝ノ截除セシ模式ノ各部ヲ檢點シ了ルニ至リテハ宜ク法式即チ圖畫セシ所ノ紙之ヲ詳言スレハ其截除セシ模式ヲ除却シ而

シテ駱駝ノ毛髮ヲ以テ製シタル畫筆ヲ執リ雄葉蔓莖等ヲ排置シテ其畫ヲ完成スベシ  
圖畫ハ通常白綿ノ剪絨ニ作ルベシ然レドモ絹ノ剪絨ニ至テハ實ニ善ク彩色ヲ爲スニ適應シ且ツ甚タ美麗ヲ極ムルモノナリ而シテ此畫ヲ作ルニ緊要ナル器具ハ即チ顏料板細齣ニ用井ル多少ノ脂粉銳鋒ノ修筆刀、諸色ヲ混合スルニ用井ル平坦ナル小刀、多少ノ「ゴムドレゴン」多少ノ擦損セシ淨拂子或ハ堅硬ナル刷子及ヒ一二ノ駱毛ノ刷子ナリ  
透明ナル紙ハ左ノ方法ヲ以テ能ク製造スルヲ得ベシ先ツ松脂ノ精ヲ採リ書簡紙ノ一葉ヲ塗り自然ニ之ヲ乾カシ爾ル後ニ漆ヲ以テ一面ヲ塗抹スベシ而シテ全ク乾クニ至テ更ニ之

ヲ反シテ他ノ面ヲ塗ルナリ

○「シアフアニー」

尋常ノ窓硝モ多分ノ費用ヲ要セズシテ華麗ナル「ステインド」  
 グラス」（摩擦シテ透明ナラシメト做スベシ之ヲ爲スニハ必ス左  
 ノ物品ヲ要求スベシ即チ透明ナル色ヲ發生スベキ趣意ヲ以  
 テ特ニ印刷セシ所ノ「デザインス」即チ「グラウンディングス」（即チ  
 スベキ者）及ヒ「ボルディングス」（即チ縁ト做スベキ者）一個ノ壓塊器、「トラン  
 スフェール、バルニツシ」即チ遷移是ハ一葉ノ紙ニ附着シ之ヲ他  
 ノ紙ニ押セバ移シ得ベキモノナリ「ワツシエーブル、バルニツシ」  
（即チ辭洗スベキ漆是ハ然セシトキニ遷シ得ザルモノナリ又三個ノ駱  
 毛ヲ以テ造リタル刷子及ヒ平坦ナル漆刷子ナリ）

此手工ノ方法ハ先ツ注意シテ玻璃ヲ洗淨シ且ツ之ヲ乾燥セ  
 シメ而シテ水及ヒ海綿ヲ以テ圖ノ裏面ヲ全ク沾濕シ其印刷  
 セシ表面ハ多量ノ「トランスフェール、バルニツシ」ヲ以テ之ヲ  
 蔽ヒテ玻璃ノ上ニ置キ更ニ沾濡セシ紙片ヲ以テ之ヲ覆ヒ然  
 シテ後ニ壓塊器ヲ以テ固ク玻璃上ニ壓着スルユト中心ヨリ  
 始メテ終ニ各部ニ及ボスヘシ斯ノ如クニシテ其圖ノ玻璃上  
 ニ固着スルニ至テハ此紙片ハ獨リ「バルニツシ」ヲシテ壓塊器  
 ニ粘着セシメザランガ爲メニ用井シモノナレバ之ヲ除却セ  
 ザルユトナ得ザルナリ又縁ヲ置キテ後ニ地紙ヲ掛クベシ是  
 縁ト兩ナガラ同一ナル方法ヲ以テ做スベキモノニシテ若シ  
 地紙ノ其圖或ハ縁ヲ掩フニ至ルトキハ之ヲ截斷セザルユト

ヲ得ズ然レトモ雙方ノ端ヲシテ少シク重複セシムベシ是ニ  
於テ海綿ト水トヲ以テ其全體ヲ洗濯シ二十四時ノ間之ヲ措  
キテ動搖セシメズ以テ其乾燥シテ堅硬ナルニ至ルヲ待ツベ  
シ次ニ又手ト水トヲ以テ或ハ沾濡セシ海綿ヲ以テ圖形ノ方  
向ニ於テ此紙ヲ摩擦シテ之ヲ除去シ再ヒ其全体ヲ乾燥シ後  
更ニ其表面ニ殘レル所ノ紙屑塵埃等ヲ淨除センガ爲メニ手  
ヲ以テ之ヲ擦リ且ツ平坦ナル刷子ヲ置キ得ベキ「クリーリン  
グ、リキエイト」ヲ以テ之ヲ掩ヘ又其堅硬ナラシコトヲ欲スル  
故ニ凡ソ二十四時間之ヲ措テ最モ後ニ「ワッシエーブル、バル  
ニツシ」ヲ以テ塗ルベキナリ

○「デカルコマニー」

「デカルコマニー」ハ人ノ豫メ花木鳥獸風景等ノ圖ヲ準備シテ  
瓶又ハ壺類ヲ飾ルベキノ意匠ヲ有スルモノ、爲メニ大益ア  
ル新發明ノ技藝ニ適合シタル名號ナリ今能ク此業ヲ爲スニ  
ハ二個ノ方法アリ其一ハ磨光スルノ方法ニシテ又其一ハ水  
ヲ用井ルノ方法ナリ而シテ水ヲ用井ルノ方法ハ殊ニ清潔ニ  
シテ且ツ其功用ノ確實ナルガ故ニ我輩ハ常ニ之ヲ執行ヘリ  
此方法ハ先ツ圖形ヲ微温湯ヲ有セル皿器中ニ置キ五分時間  
ヲ過クルノ後再ヒ之ヲ取出シテ其畫ヲ汝ノ裝飾セント欲ス  
ル所ノ物體上ニ置クベシ  
又一手ノ指ヲ圖ノ表面ニ定置シ是ニ由テ他ノ手ヲ以テ容易  
ニ紙ヲ除キ去リ隨意ニ畫シテ此物體ノ表面ニ遺留セシムル

コトヲ得ルナリ  
爾セシ後ニ全ク其皺ム所無キニ至ルマデ精緻ナル布帛ヲ以  
テ按壓鎮定スベシ

○「ビトレマニ」

此方法ハ蓋シ「シアフアニ」ト稱スルモノヲ大ニ改正シタル  
者ナリ何トナレバ其功驗ハ「シアフアニ」ニ等シクシテ之ヲ  
做スノ簡易ナルト其成就スベキ確乎タル效ハ頗ル之ニ勝レ  
バナリ今其使用スベキ所ノ物品ヲ舉グベシ即チ印刷セシ圖  
騾毛ノ刷子二個、象牙毛ノ刷子一個「グルシン」（礦物漆及ヒ「エナメ  
ル」即チ光澤アル漆共ニ一瓶一ノ壓塊器、一ノ海綿、多少ノ吸墨  
紙、剪刀及ヒ必要ナル時ノ用ニ供ズル鉛箔數片ナリ而シテ之

ヲ做スノ方法ハ先ツ騾毛ノ刷子ヲ把テ「グルシン」ヲ圖ノ着色  
シタル表面ニ塗り且ツ此「グルシン」ノ圖ノ素地ノ裡面ニ觸冒  
セザランコトヲ注意スベシ是ニ於テ兩三日ノ間斯ク塗りタ  
ル圖ヲ平坦ニ安置シテ「グルシン」ヲシテ全ク乾燥セシムベシ  
爾スルトキハ此「グルシン」ハ兩三月ノ間決シテ消失スルコト  
無カルベシ

玻璃ニ此圖ヲ適用スルニハ先ツ水ヲ以テ其素地ナル面ヲ濕  
シ漸次ニ兩面共ニ全ク沾濕セシムベシ彼ノ玻璃モ亦最初十  
分ニ清潔ナラシメ爾ル後ニ之ヲ沾濕シ更ニ彼ノ既ニ濕セシ  
所ノ圖ヲ取テ之ニ掛ケ其氣泡ヲ悉ク消滅センガ爲メニ緊ク  
之ヲ壓着シテ數分時間素地ノ面ヲ乾カザラシメ而シテ

後小刀ノ鋒ヲ以テ丁寧ニ紙ノ一隅ヲ舉ケ靜ニ之ヲ引脱クベシ是ニ於テ駱毛ノ刷子ト木トヲ以テ此製造物ヲ滑澤シ後更ニ吸墨紙ヲ其上ニ置キ又之ヲ按壓シテ乾燥セシメ而シテ再ヒ着手セズシテ數時間ヲ經、其後更ニ「エナメル」漆ヲ以テ塗り製造物ヲシテ完全ナラシムベシ或ハ亦大ナル圖ヲ遺留シテ其紙ヲ除クニハ巧ミニ其中心ニ於テ一孔ヲ搔成シ是ヨリシテ紙ヲ寸裂スルモ恰好トスベキ所アリ且ツ「ゴム」ヲ以テスル所ノ銀箔ハ縁又ハ地紙等ノ相接スル所ノ端ヲ蓋フガ爲メニ之ヲ用井其圖ヲ修整シテ何等ノ窓ニモ適セシムベキヲ要ス

○烟畫山水

此圖畫法ハ徒然寂寥タル暮夜ヲ消遣スルニ愉快ニシテ最モ

嘉ミスベキ技藝ト云フ可シ且ツ汝ノ朋友ト競テ其技ヲ比較スルニ適スル者ニシテ大ニ其嗜好スル所ノ嬉戯ヲ做シ又手工ニ練熟スベキ良善ナル演習トナルヲ以テ決シテ賤ム可キノ事業ニ非サルコトヲ領會ス可シ之ヲ爲スノ方法ハ先ツ牌子ヲ取テ蠟燭ノ烟中ニ入レ其焦燒セザラン爲メニ善ク注意シテ屢之ヲ前後ニ動搖シ而シテ後更ニ刷子ヲ以テ最初ニ燻ベシ所ヲ擦去スベシ彼ノ牌子ハ唯微々黑色ヲ帶フベキノミ是ニ於テ更ニ再ヒ之ヲ烟中ニ入レテ汝ノ適宜ナリト爲スニ至ルマデ之ヲ黒クシ而シテ後ニ銳利ナル修筆刀ヲ執リテ其上ニ汝ノ畫カント欲スル所ヲ彫刻シ或ハ搔損シテ之ヲ摸スベシ斯ノ如ク彫刻スルニ由テ其白

處ヲ造生シ又其烟煤ニ由テ其黑處ヲ現出スルニ至ルナリ  
遠望ノ丘山若クハ月光ハ此圖畫ニ適當セシモノニシテ眞ニ  
驚クベキノ奇觀ヲ摸出シ來ル者ナリ

### ○油繪ノ模倣

此方法ハ先ツ銅版畫ヲ採用ス即チ彫刻セシ所ノ圖ナリ密飾圖  
ハ彩色スト雖モ其線尙依然トシ  
所アルベシ十分時ノ間柔軟ナル海綿ヲ以テ善ク沾濕セル後  
幀上ニ擴張シテ全面ヲ乾燥セシメ其後更ニ透明ナル漆ヲ以  
テ此圖ノ裏面ヲ塗抹スルコト五回若クハ六回ニシテ每次善  
ク注意シ從前塗りタル所ノ者己ニ乾燥スルヲ候ヒ再ヒ之ヲ  
塗ルヘシ且ツ初回ニ塗ルニハ極メテ薄キヲ要ス而シテ此漆  
ノ最善ナルモノハ「カナダ」地名ノ拔爾撒謨漆ナリ次ニ又汝ハ表

面ニ漆ヲ施シ其乾燥セル後更ニ白キ顏料ヲ以テ兩回之ヲ塗  
着スヘシ若シ其畫クベキモノ一般ニ赤色若クハ黃色ナラン  
コトヲ欲セハ則チ其塗ルベキ顏料モ唯白色ノミヲ用井ズシ  
テ赤色顏料ノ白色ナルモノト混合セシ所ノ光明赭石ヲ用井  
ルヲ最良ナリトス是ニ於テ汝ハ始メテ表面ノ圖ニ着色スル  
コトヲ得ベシ且ツ汝ノ顏料ヲ薄クスル爲メニ供用スヘキモ  
ノハ乾燥セシ油ト乳香トヲ等分ニ混合シテ造成セシモノナ  
リ而シテ此彩色ヲ終ルノ後ハ更ニ乳香ヲ塗着シ駱毛ノ刷子  
ヲ以テスベシ又汝ハ肉身ヲ畫クニ其色ニ關係シ畫工ニ質問  
スルヲ得バ實ニ賀ス可キコトナレドモ汝ノ近ク依頼スベキ  
人無キニ際會セバ我輩ハ汝ニ洋紅ノ最モ微淡ナル「シェード」

ヲ用井テ面部手臂ヲ塗ルコトヲ勸メントス或ハ又洋紅色ト  
 黑紅色トヲ以テ鼻下眼周等ノ翳陰ヲ作ランガ爲メニ點染ス  
 ルコト有リト雖モ其色ニ至テハ必ズ微薄ニシテ最モ淡泊ナ  
 ルヲ要スベシ

我輩ハ版行ノ畫ト雖モ精巧ニ彩色スルトキハ尙美麗ナル古  
 畫ノ如キ觀ヲ成ス者アルヲ知レリ故ニ此技藝ニ熟達セル貴  
 女ノ昔日何故ニ暗陰ナル屋隅ニ美麗ナル畫ヲ隱秘センヤト  
 問ハレシトキニ榮然ト笑ヒテ之ニ答フルニ美麗ナルモノハ  
 必ズ唯銅板畫ニ在ルヲ以テセシコトノ委曲ヲ吾等ニ告ケタ  
 ルモノアリキ

且ツ廉價ナルガ爲メニ採用スル所ノ古版畫ト雖モ此旨趣ニ

就テ云フトキハ尙新版畫ノ如ク鴻益ナルモノナリ而シテ少  
 シク物色術ト寫眞術トヲ交ヒ用井ルトキハ多ク其畫ヲ造成  
 スルコトヲ得ベシ況ヤ寫眞ハ注意シテ學習實行スルトキハ  
 版畫ノ如ク容易ニ彩色スルコトヲ得ベキナリ是故ニ山水ノ  
 畫圖動物ノ形狀地所ノ景色名譽アル人物私ノ朋友等ノ如キ  
 各般皆畫工ノ庫ニ於テ容易ニ廉價ヲ以テ購求スベシ

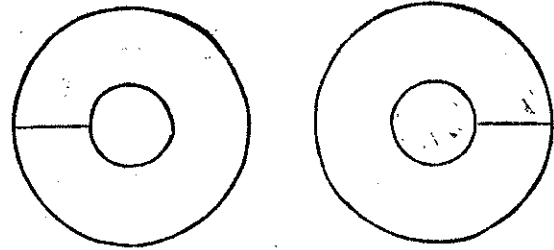
### ○裝飾

#### ○兒童ノ柔軟ナル鞫

夫レ少小ナル兒女子ト雖モ必ズ彼ノ一介ノ兵士ヲ觀テ其服  
 飾中最モ高キ軍帽子ヲ大ニ注目スルコトアル可シ是時ニ當  
 テ此兒女子ノ意彼ノ軍帽ノ前面ヲ裝飾シタル紅白ノ絨毛ヲ

以テ製造セシ小球ヲ想像シテ豈忘却スルコトヲ得ンヤ斯ノ如キノ總ヲ大ニシテ鞠ヲ作ルトキハ小童兒ノ爲メニ甚タ適宜ナル玩具ニシテ其事最モ易ク且ツ速ニ製造スベキナリ即チ其製造ノ方法ヲ舉ケン先ツ牌子ヲ採リテ二個ノ環ヲ截除シ直徑ヲシテ各二「インチ」半ヲラシムベシ而シテ此二環ノ中心ニ於テ直徑一「インチ」ノ孔ヲ作り更ニ又之ニ一條ノ長截口ヲ設成シテ二環ヲ合併シ其截口ヲシテ互ニ反對セシムベシ是ニ於テ汝ノ有セル所ノ彩色シタル絨毛ヲ集合シ中心ノ孔ヲ通シテ之ヲ捲キ漸次ニ縈回シテ其孔ニ充塞スルニ至ラシメ手工ノ己ニ畢ルニ及ヒテハ孔口ノ細小ナル針ヲ用井ルニ非レバ復タ絨色ヲ通シ得ザルニ至ラシムベシ斯ノ如クニ

第百三十一圖



シテ既ニ之ヲ捲キ終ルニ及ヒテハ牌子ノ中心ニ汝ノ拇指ト他ノ指トヲ置キ而シテ周縁ニ於テ悉ク絨毛ヲ截斷シテ牌子ノ露白スルニ至ルマデ固ク之ヲ保持シ而シテ後ニ二個ノ牌子ノ間ニ緻密ニ一條ノ絲ヲ插入シ因テ之ヲ保持セシ所ノ指ヲ去リ一齊ニ此絲ヲ抽出シ結合シテ固ク之ヲ緊收スベシ而シテ此絲端ヲ截斷セシ後更ニ牌子ヲ除去ルベシ是豫メ此目的ニ由テ作りシ所ノ截口ナルヲ以テ直ニ出シ去ルコトヲ得ルナリ是ニ於テ此鞠ハ稍橢圓形ヲ做スヲ以テ之ヲ眞圓ニ做サン爲メニ剪



刀ヲ以テ之ヲ裝飾セザルコトヲ得ザルナリ若シ其絨毛齊然  
トシテ排置スルニ當テハ上好ノ物品ヲ製造スト謂フベシ凡  
ソ黑色ハ最モ有用ナルモノニシテ諸種ノ色ト共ニ施用スル  
ニ大ニ觀美ヲ爲サントス然レトモ同色ニシテ濃淡ヲ異ニシ  
タル絨毛ヲ以テ製スル所ノ鞠ハ殊ニ美麗ヲ表ハスモノナリ

○蠟花及ヒ蠟菓

蠟花ヲ作ルニ十分ニ天然物ニ擬似センコトヲ欲スルトキハ  
管手工ノ機巧ヲ有スベキノミナラズ大ニ良工ノ真趣味ヲ了  
悟センコトヲ要シ且ツ本草物産學ヲ研究シ假令其奧妙ヲ極  
メザルモ諸花ノ有スル所ノ花片雄蕊等ノ數ヲ注目スルニ於  
テ大ニ精細ナランコトヲ要スルノ意思ナカルベカラズ何ト

ナレバ天然ノ法則ニ一モ關涉スルコト無ク漠然造出セル花  
ノ如キハ人作ニシテ實ニ笑フベキノ伎倆ナレバナリ然レド  
モ小兒女ノ製花ノ技ヲ以テ一個ノ精微ナル術ト爲シ又其當  
ニ學業ヲ勉勵スベキノ時ニ當リテ此一小技藝ヲ習ハンガ爲  
メニ更ニ時間ヲ費ヤシテ其利益ヲ希フコトノ如キハ固ヨリ  
期望スベキ所ニ非ルナリ故ニ吾輩ハ此趣意ニ於テハ細カニ  
論辯スルコト無ク唯方法ノ粗ナル外形ヲノミ表出ス可シ而  
シテ我第一ニ少年ノ朋友等ニ勸ムルニ蠟花ヲ造ルニ先ナテ  
蠟菓ヲ作り試ムベキコトヲ以テセリ是粗大ニシテ精細ナラ  
ズ且ツ模型ニ投シテ自由ニ製シ得ルヲ以テ花ヲ造ルガ如キ  
ノ錯雜ナルコト無ク能ク手製スベク且ツ蠟ヲ着色スルコト

ヲ習練スベキモノナリ彼ノ林檎梨子及ヒ檸檬ノ如キ堅硬ナル菓實ハ此技ヲ試驗スルニ最モ善ク適當セリ或ハ杏子若クハ桃實ノ如キ稍柔軟ナル菓種ハ其模型ノ粘土ニ膠着セシコトヲ防グカ爲メニ油ヲ以テ掩フベシ又或ル人ハ豕脂ヲ以テ塗ルノ妙ナルヲ云ヘリ然ルニ此粘着スルコトハ斯ノ如キ豫防ヲ做サズト雖モ未熟ナル人モ務メテ避クレバ避ケ易キ者ナリ

「パリス」ノ粘土模型ハ極大ナルカ若クハ造リ難キノ菓實ニ非ルヨリハ唯其二塊ヲ以テ製作スベシ之ヲ作ルニハ先ツ沾濡沙ヲ以テ充滿セシ小盃ノ中ニ林檎ヲ置キ之ヲシテ大半ハ砂中ニ埋マラシメ而シテ後汝ハ「パリス」ノ粘土ノ別器ニ於テ已

ニ水ヲ以テ混和セシモノヲ注入シ乃チ箸若クハ簞ヲ以テ漿狀ノモノヲ造成シ其周圍ニ縁ヲ付シ之ヲシテ上方ニ曲ラシメ更ニ筆端或ハ皮簞ヲ以テ之ニ四個ノ小孔ヲ穿テ以テ漿ノ他ノ一半ニ固着適用ス可キトキノ目標ト做シ又油ヲ以テ之ヲ沾スベシ若シ再回他ノ一半ヲ作ルニ當リテハ林檎ヲシテ砂ニ在ラズシテ已ニ完半セシ一半ノ漿中ニ在ラシメ前時ノ如ク「パリス」ノ粘土ヲ之ニ盛ルベシ

而シテ完成ノ後丁寧ニ此模型ヲ取り一二時間之ヲ措クノ後更ニ十分時間バカリ熱湯中ニ浸シ其後ニ熱蠟ヲ以テ其一半ヲ填塞シ他ノ一半ヲシテ之ニ適用スルコト恰モ簞ニ蓋スルガ如クナラシメ且ツ蠟ヲシテ模型ノ凹處ニ普ク一樣ニ散敷

セシメン爲メ暫時之ヲ振蕩セザル可ラズ此菓實ノ枝ハ通常  
 絹ヲ纏ヒタル針金ヲ以テ製作スレトモ林檎或ハ梨子ノ類ハ  
 吾輩其眞個ノ枝ヲ用非ンコトヲ欲スルナリ蓋シ此枝ハ未タ  
 熟蠟ヲ填塞セザル前ニ先ツ之ヲ模型中ノ凹處ニ置キテ其適  
 宜ナル地位ニ固着スルコトヲ得セシム可シ是ニ於テ模型ヲ  
 脱去スルトキニ汝ハ必ス十分ニ象リシ所ノ林檎ヲ見ルコト  
 アラントス此林檎ハ内部ノ空虚ナルヲ以テ甚タ輕便ナルノ  
 利益アリ

次ニ汝ハ此蠟ニ着色シ最モ精巧ニ本來ノ菓物ト同色ナラシ  
 ムベシ而シテ之ヲ做スニハ先ツ松脂ノ精ヲ以テ此菓物ヲ沾  
 濡シテ彩色スル所アルベシ

今汝此方法ニ於テ頗ル熟達シ得ルニ至ラバ更ニ他ノ困難ナ  
 ル作業ヲ會得センコトヲ要ス可シ彼ノ外國ヨリ到來シ歐羅  
 巴人ノ曾テ食ハザル所ノ「コロシンス」名ノ同一部類中ノ賞玩  
 スヘキ形象ナル菓實ヲ蠟ヲ以テ擬造スルトキニハ甚タ美麗  
 ナルモノナリ又楯棒及ヒ瓜モ斯ノ如クニ擬造センニハ驚愕  
 スベキノ奇觀ヲ呈スベシ又覆盆子及ヒ蠻莓等ノ細小ナル菓  
 實ニ至テハ其模型常ニ大ナル菓實ノ如ク空洞ナルニ非ズ此  
 模型ヲ作ルニ當テ粘土中ニ小孔ヲ穿テ以テ枝ヲ作ルノ模型  
 ト做シ是ヨリシテ蠟ヲ注入スルナリ葡萄及ヒ小葡萄ノ如キ  
 ハ通常ノ玻璃ヲ以テ之ヲ造リ其中ニ唯適宜ナル色ノ蠟ヲ注  
 入スルノミナルガ故ニ深ク蠟菓ノ事件ニ關スルコトナシ

斯ノ如クニシテ汝ハ深ク此枝ヲ琢磨演習スルノ後其最初ニ  
困難ナリト做セシ所ヲ能ク成熟スルコトヲ得バ更ニ其花ヲ  
作ランコトヲ企望スベシ然レトモ我輩ハ汝ニ始メニハ目ヲ  
枝葉ヲ造ラズシテ唯其既ニ作爲セシモノヲ買得テ之ヲ其花  
ト結合シ以テ此玩物ヲ完成センコトヲ勸ムルナリ而シテ花  
片ハ秩序ヲ以テ一絡ニ集合シ花ノ中心ヲ模造セル蠟ノ一片  
中ニ安置スベシ又綠色ノ絹ヲ以テ蓋ヒタル針金ハ其枝ヲ模  
擬スルナリ且ツ此ニ從事スルニ當テハ汝固ヨリ正眞ノ花ヲ  
採リテ模式ト做サバル可ヲズ爾セザレバ花片ノ數及ヒ其他  
ノ事ニ關シテ大ニ差謬ヲ爲スニ至ルベシ夫レ諸花ノ中甚ダ  
蠟ヲ以テ製造スルニ適當シタルモノアリ即チ「カメリヤ」及ビ

「ダーリヤ」共名ノ如キモノ是ナリ中ニ就テ「カメリヤ」ハ吾輩人  
ヲシテ眞物ナリト驚疑セシムベク巧ミニ模擬セシモノヲ觀  
シコトアリ而シテ此花ヲ造ルニハ諸種ノ彩色蠟ヲ施用スト  
雖モ工人ハ處々ヲ護謨ニ浸セル刷子ヲ以テ潤色ヲ加ヘ其色  
ヲシテ鮮明ナラシメ或ハ諸花ノ花托中ニ在ル所ノ纖細ナル  
一二ノ線ヲ加附スベシ  
若シ汝美麗ニ花ヲ製スルコトヲ學知セバ宜シク更ニ枝葉等  
ヲ造成センコトヲ勉力スベシ何等ノ花タルヲ論ゼス唯一片  
ノ蠟ヲ以テ製造セント欲セハ葉ニ關シテ深ク思索スル所ア  
ルベシ此事ハ精細ナル工技タレバ汝ハ適應セル良工ニ遭テ  
口授ノ教法ヲ受ケ得ルニアラズンバ必ズ特別ニ此趣意ヲ辨

解シタル書冊ヲ熟讀セザルベカラズ吾輩汝ニ勸説スルニ其  
 勞力ヲ省カン爲メニ傍ヲ本草學ノ旨趣ヲ詳審ニ解明シタル  
 圖釋ヲ有セルモノヲ讀テ花ノ組織ニ關セルコトヲ知ルコト  
 ヲ以テスベシ若シ果シテ斯ノ如クスルトキハ花ヲ製造スル  
 コトハ唯觀美雅致アル技術ノミナラズ最良ノ教誨トスルニ  
 足ルモノナリ而シテ汝夏時ニ方リテ遊歩セシ時歎賞シタル  
 花ヲ模造シ因テ以テ此花ヲ忘却スルコトヲ防キ得ルトキハ  
 則テ此技ニ由テ自ラ得ル所ノ快樂モ亦甚タ鴻大ナラン

○紙製ノ花

夫レ蹈歌ヲ行フベキ房室ヲ裝飾センガ爲メ若クハ花架及ヒ  
 皿架即チ食案ノ中央ニ置ク大皿ヲ載スベキ裝飾ノ架ニ插マ

ンガ爲メニ錦紙即チ此事ニ使用スヘク着色シタル紙ヲ以テ  
 花ヲ製スルコトハ當今普ク婦女子ノ行フ所ニシテ其製造ス  
 ル所ノ花ハ徒ニ習俗ノ法ニ由リ粗糙ニ作爲セシモノニ非ズ  
 能ク端麗ニ製造セシモノナリ客冬吾輩一個ノ別莊ニ赴キ其  
 客室ノ蹈歌ヲ行ハンガ爲メニ此錦紙製ノ花ヲ以テ愉快ニ裝  
 飾セルモノヲ見タリ此室ハ許多ノ弓形窓及ヒ圓柱ヲ設ケタ  
 ルカ故ニ此花ヲ以テ裝飾スルノ趣味及ヒ技巧ヲ表スルニ於  
 テ甚タ便利ナル者タリ而シテ此室中ニ飾レル快活ナル長春  
 藤及ヒ「オルレ」樹名狗骨木ヲ以テ編製セル長形ノ環ハ插ム  
 ニ錦綿ヲ以テ作りタル光澤アル白色及ヒ紅色ノ薔薇、「ダーリ  
 ヤ」花植物ノ名元來南蜀葵、「カーチーシヨン」草花ノ名石竹及ヒ

亞米利加ノ產

他ノ諸般ノ黃色ナル花類ヲ以テシ又長春藤ノ長ク懸レル技  
ニハ纏結スルニ光澤アル玉蘂花ヲ以テセリ而シテ彼此ニ懸  
タル消金飾ノ胡桃ハ常盤木ニ結ベル金色ノ葉實ノ如ク且ツ  
晩食ノ案上ニ置ケル皿架ヲ飾リタル花中ニ細小ナル鳥巢ニ  
擬造セルモノ有リ其中ニ盛レル糖菓ハ恰モ鳥卵ニ似タリ是  
ニ於テ吾輩ハ曾テ斯ノ如キ花飾ヲ造成セシコトアルヲ以テ  
必ズ我少年ナル讀者ヲ教導シ之ヲシテ同一ナル快樂ノ作業  
ヲ做サシメ且ツ此讀者ニ對シ自ラ好テ紙花ヲ製作スル人ノ  
群集スル室ハ耶穌生日ノ祭ニ於テ做ス所ノ歡樂及ヒ快活ヲ  
シテ一層増加セシムベキコトヲ保證シ得ルモノナリ凡ソ此  
等ノ花ヲ製センガ爲メニハ第一ニ「ミストル、ハツヂソン」氏ノ

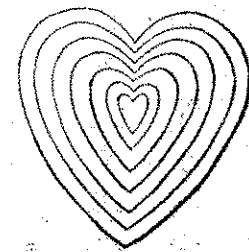
此花ノ造法ニ關シテ著述セシ書籍アリ其造法ハ甚タ簡易ニ  
シテ獨リ種々ナル「シェード」ノ着色セル錦紙及ヒ強キ護謨一  
瓶ヲ要スルノミ更ニ此等ノ物品ニ加フルニ粗大ナル線金一  
條ト其細小ニシテ綠色ナルモノ一條ト絹絲一絡車及ヒ或ル  
羽筆ヲ以テシ且ツ團圓ニシテ凹形ナル葉ヲ製セン爲メニ使  
用スベキ縫針ト封蠟一塊トヲ以テスルヲ佳ナリトス今吾輩  
花ヲ製造スル一例ヲ記載センガ爲メニ薔薇ヲ造成スル方法  
ヲ舉グベシ是薔薇ハ花ノ最モ錯雜ナルモノ、一タルヲ以テ  
ナリ此花ヲ作爲スルニハ始メニ先ツ板紙ヲ裁シテ大小各個  
ノ花片ノ形象ヲ製造シ次ニ汝カ要スル花片ノ數ニ隨テ幾重  
ニモ錦紙ヲ摺疊シ之ヲ做シ畢テ乃チ此錦紙上ニ板製紙ノ模

形ヲ置キ此形象ニ隨ヒテ一齊ニ數重ノ錦紙ヲ裁截セシム

例 下ノ圖畫ハ大小數種ナル薔薇ノ花片

ニシテ互ニ層累セルモノヲ著ハセリ

圖一十三百第



凡ソ薔薇ヲ造成センガ爲メニハ必ス此圖上ノ花片中最も大ナルモノ六葉ト其他ノ大ナルモノ各十葉トヲ要シ且ツ別ニ中心ノ花片二三葉ヲ要スルモノナリ而シテ此花ヲ作り起スニハ先ツ始メニ細キ錦紙ヲ取りテ之ヲ折摺シ其一節ノ長サヲシテ薔薇ノ雄藥ノ長サノ二倍ニ均シカラシムベシ蓋シ此雄藥ハ其長ケ固ヨリ短キモノナリ是ニ於テ細キ綿金一條ヲ取り之ヲ以テ此錦紙ヲ中分シタル地處ニ編綴シ此絲ノ端ヲ

シテ一個ノ小束ヲラシメ此小束ヲ糊中ニ浸シ又更ニ之ヲ乾カン小束ヲ做セル所ノ綿絲ノ長サヲシテ悉皆同一様ヲラシメンコトヲ注意シテ之ヲ截斷シ且之ヲ分テ其端ヲ解散シ一個ノ小總タラシメ此端ニ着クルニ護謨ヲ以テシ微ニ之ヲ黄色ノ顔料中ニ浸シ之ヲシテ雄藥ノ必ズ帶フル所ノ金色ノ物質ニ擬似セシムベシ是ニ至テ又更ニ線金一條ヲ取り綿毛若クハ綿絲ヲ以テ薄ク之ヲ覆ヒ前ニ造成セル雄藥ヲ支柱スル所ノ線金ノ小片ト此莖ヲ成セル線金ノ尖端トヲ接合スベシ之ヲ接合スルコトハ綠色ノ綿絲若クハ絹ノ縫絲ヲ用井テ必ズ確實ニ做サバルベカラズ是ニ於テ始メテ最小ナル花片ヲ取りテ手工ヲ起スベシ即チ之ヲ縮メ凹クシテ雄藥ノ周

圖ニ附着シ而シテ又次列ノ花片ヲ取り其端ニ塗ルニ護謨ヲ以テシ前次ノ花片ニ續キテ附着スベシ凡ソ薔薇ノ色ハ其中心ヲシテ最モ濃ナラシメ其外部ニ至ルニ隨ヒ逐次ニ淡ナラシムベシ且ツ内部ノ花片ハ必ス縮凹ナルベク外部ニ在ルモノハ必ズ團圓ナルヘシ其花托及ヒ葉ハ「ソーバサ」大商舖ニ於テ其完成セルモノ且ツ之ヲ造ル可キ紙及ヒ其製造法ヲ陳述セシ所ノ書冊等モ全備シタレバ汝之ヲ購ヒ求ムベシ

大凡少ク思慮ヲ勞スレバ他ノ何等ノ花ト雖モ汝之ヲ作爲スルコトヲ得ベキナリ而シテ石竹ハ着色セル長キ紙一片ヲ用井之ヲ摺テ之ヲ刻ミ下ノ圖ノ如ク鋸齒形ヲ做サシメテ製作スルコトヲ得ベシ而シテ扨レタル羽

圖二十三百第

數片ヲ取リテ其雄蕊ヲ製シ之ヲ線金ニ附縛シ其周圍ニ鋸齒形ノ紙片ヲ繞絡シ適宜ナル大サヲ做スニ至ルベシ是ニ於テ此花ヲ成ス所ノ鋸齒形紙ノ下端ニ護謨ヲ以テ綠色ノ花托ヲ貼付シテ此花ノ全体ヲ結合ズベシ

○胡桃ヲ滑金スルコト

斯事ヲ做サンニハ先ツ長キ扁頭釘若シクハ釘ヲ胡桃ノ端ニ槌打シ而シテ後ニ蛋白ヲ以テ胡桃ヲ覆ヒ扁頭釘ヲ以テ把持シテ之ヲ金箔ノ中ニ轉回スヘシ且ツ之ヲ做スノ際ハ呼吸スルニ方リ金箔ヲ吹散セサランコトヲ注意スヘシ釘ノ周圍ニ結ヘル紐ニ由テ之ヲ懸クルヲ可ナリトス

○鳥巢



烹タル卵殻半分ヲ取り之ヲ蛋白ノ中ニ浸シ更ニ又汝ノ手掌ニ苔ヲ敷キ其中ニ此卵殻ヲ置クトキハ則テ苔ハ卵殻ノ外面ニ附着セントス而シテ此苔ハ極メテ稠密ニシテ蛋白ヲシテ毫モ顯ル、所無カラシメンコトヲ要スルナリ之ヲ做シ了テ少許ナル羽毛ヲ以テ全ク此卵殻ノ内面ヲ覆フヘシ而シテ其乾クニ及テ其中ニ數個ノ白色ナル糖菓ヲ置キ又之ヲシテ「ブラックアート」ノ鳥名鵲ノ卵ニ擬似セシメンカ爲メニハ綠藍色ニ塗抹シ又其宜ニ隨テ之ニ斑點ヲ畫クヘシ又糖菓ハ精微ヲ極メ鳥巢ニ擬シテ製造シタルモノナリ

○火爐ノ裝飾

「ブック、マスリン」棉紗ノ一種ニシテ書一片ヲ取り之ヲ截テ其潤

サ殆ト一「インキ」ノ長條トナシ此條ノ中央ニ於テ唯六縷若クハ八縷ノ絲ヲ存シ全ク其兩縁ヲ解キ之ヲ粗鈍ナル修筆刀若シクハ縫針ノ上ニ捲キ以テ爐底ノ鐵網ノ間ニ置キ之ヲシテ此網ヨリ懸リテ爐ノ外圍ニ達セシメ且ツ之ニ附着スルニ金若シクハ銀ノ削片ヲ以テスベシ乃テ汝ハ汝ノ爐ニ於テ甚タ美麗ナル裝飾ヲ有セントス又此條ヲ截ルニハ其宜キニ隨ヒ之ヲシテ更ニ狹小ナラシムルモ亦可ナリ

○鉛樹

鉛樹ヲ造ルニ先ツ「シュガー」、オブ、レッド」即チ鉛ト醋酸ト結合シテ成レル所ノ鹽半「オンス」日本ノ八許チ一個ノ大ナル「ビン」ト日本ノ五壺ノ中ニ入レ且ツ此壺中ニ雨水ヲ注入シ之ヲシ

テ其頸ニ達スルニ至ラシツ次ニ絹絲一條ヲ塞子ニ結着シ此絹絲ニ由リテ長サ二三「インチ」ナル亞鉛一片ヲ此壘中ニ垂下スベシ此亞鉛ハ成ルタケ壘ノ中心ニ在ランコトヲ要スルナリ斯ノ如クスルノ後此壘ヲ穩靜ナル處ニ置クベシ乃チ此亞鉛ノ周圍ニ盡ク鉛ノ美麗ナル枝條ノ結晶物ヲ生成スルコト有ラントス

○銀樹

一個ノ壘ヲ取り雨水ヲ以テ之ニ充テ「ナイトレイトオフ、シルヴァー」即チ硝酸ヲ以テ銀ヲ溶解シタル物四「ドラナムス」一「ドラナムス」ハ日本ノ九分五厘餘ヲ其中ニ注ギ次ニ又水銀一「オンス」ヲ其中ニ滴入シ此壘ヲシテ甚タ穩靜ニ在ランムベシ斯ノ如クニシ

テ成ル所ノモノハ時ニ或ハ呼テ「ダイフナ」女神樹ト倣スモノナリ夫レ上條ノ二樹ヲ製スルニ供用スル所ノ鑛物ト此溶液ノ中ニ懸クル所ノ亞鉛トノ間ニハ一ノ近密ナル親和力即チ率引カアル者ニシテ是即チ鑛物ノ水ヲ離レテ更ニ亞鉛ノ周圍ニ附着スル所以ナリ

○錫樹

此樹ハ鉛樹ト同一方法ヲ以テ作成スルコトヲ得ルモノナリ然トレモ「シユガー、オフ、レッド」ヲ用井ズシテ「マリエイド、オフ、チン」鑛物名三「ドラナムス」及ヒ硝酸十滴ヲ用井是等ノ物品ヲシテ汝ノ其中ニ亞鉛ヲ浸スニ先チ能ク溶解セシムベシ凡ソ錫樹ト稱スルモノハ鉛樹ニ比較スレバ更ニ一層ノ光澤ヲ發ス

ルモノナリ

### ○海草合集

我カ妙齡ナル讀者ノ曾テ海邊ノ市街ニ遊ベルモノ多クハ此市中ノ店舗ノ牕ニ於テ海草ヲ集合シテ美麗ニ板紙ノ上ニ整列シ花環若クハ花團等ノ玩具ノ種々ナル形象ヲ倣セルモノヲ注目シ歎美セルコト無カラズヤ今此讀者ハ自ラ之ヲ作爲スルノ技術ヲ容易ニ學知スルヲ得ルモノナリ而シテ海草ヲ整合セシガ爲メニ要スル所ノ物質ハ唯護謨及ヒ板紙ニ過キザルノミ吾輩ハ曾テ此手工ヲ爲スノ方法ヲ精妙ニ解明シタル書籍ヲ看シコトアリ而シテ其說ニ隨フトキハ汝ハ通常ノ護謨ヲ用井ズシテ「トラガレンツ」「ゴーツブルン」共ニ植物ノ名及ヒ「ト

ルコ」「シリヤ」等ノ東方諸國ニ生スルモノヨリ得ル所ノ護謨ノ一種ヲ用井之ヲ白色ナル醋中ニ溶解シテ此混合物ニ加フルニ水ヲ以テシ之ヲシテ更ニ淡ナラシムルヲ佳ナリトス次ニ汝ハ汝ノ意ニ隨テ海草ヲ集收ンテ終日之ヲ日光ニ曝スベシ是海草ヲシテ多少ノ美色ヲ發セシムルニ緊要ナル方法ナリ其次日ニ至リ之ヲ濯洗スルニ清淡ナル水ヲ以テシ此水ヲ能ク拭フノ後絲線ヲ以テ其莖ヲ結ヒ若クハ髮毛ヲ修理スル針ヲ以テ其莖ヲ堅硬ナル紙片ニ附着シ之ヲ高く掛ケテ善ク乾カスベシ但シ務メテ此針ヲシテ直ニ海草ヲ刺サシメザランコトヲ要ス是等ノ物品既ニ全備シ之ヲ板紙上ニ附着セント欲スルトキ汝ハ一ノ刷子ヲ取り此板紙中汝ノ海草ノ集合ヲ

シテ充ダシメント欲スル處ニ前次ノ護謨ヲ塗ラザル可カラ  
 ザルナリ凡ソ海草ヲ整列シタル形狀ノ最モ好愛スベキモノ  
 ハ小ナル籃ヲ基礎ト做シ之ニ其莖ヲ着クルニ在ルナリ然レ  
 トモ是固ヨリ切要ナルモノニハ非ザルナリ  
 且ツ吾輩ハ「フオンダンブロー」地名ノ樹林中ヨリ得ル所ノ秀美  
 ナル苔ヲ以テ造レル纖小凸形ノ物ヲ看シユトアリ然レトモ  
 是斯ノ如キ僻遠ノ地ニ至ラザルモ「ニュー、ハンプシル」地名「ニユ  
 「フオルスト」地名ノ近傍ニ住スル所ノ我少年友伴ハ偶然ト驚  
 ク可キ所ニ於テ各種ノ美麗ナル苔ヲ得テ毫モ海濱ニ得ル所  
 ノ海草ノ集合ニ讓ラザルモノヲ製造スルヲ得ルナリ

○葉ヲ押印スルコト

此事ヲ做サンニハ先ツ始メニ藍靛藤黃若クハ汝ノ選拔スル  
 所ノ他ノ顔料ト亞麻仁油トヲ混合シ次ニ洗皮ヲ縫綴シテ粗  
 針縫ニ類似セル形体ノ品物ヲ摩擦スル器具二個ヲ作爲スベ  
 シ而シテ此摩擦物ヲ充實センガ爲メニ綿毛ノ如キ柔軟ナル  
 諸般ノ物品ヲ用井ルヲ可ナリトス是ニ於テ稍大サヲ均一ニ  
 スル所ノ二三葉ヲ取り且此摩擦物ヲ以テ顔料中ニ浸シ顔料  
 ノ此葉ヲ濕サバランコトヲ注意シテ之ヲ互ニ摩擦シ次ニ此  
 摩擦物ノ一個ノ上ニ一葉ヲ置キ又此葉上ニ他ノ一個ヲ壓着  
 スベシ之ヲ爲シ終テ而シテ汝ハ此葉ヲ紙片ノ上ニ置キ且ツ  
 葉ノ上面ニ他ノ紙片ヲ置キテ輕ク柔カニ此紙上ヲ摩擦スベ  
 シ爾スルトキハ葉ノ文理ハ鮮美ニ押印セラレテ此紙片上ニ

殘ラントス而シテ汝ノ押印セシユトヲ欲スルモノヲ成完スルニ至ルマデ他ノ葉ヲ以テ此方法ヲ反復スベシ

○胡蝶ヲ押印スルコト

此事ヲ做サシ爲メニ汝ハ死セル胡蝶ヲ得ルニ當テ乃チ其翼ヲ截リ清潔ナル紙片ノ上ニ此翼ヲ置キ其形體ヲシテ此胡蝶ノ飛動セル時ト毫モ異ナルコト無カラシメ次ニ他ノ紙片ヲ取テ之ニ塗ルニ清淨ニシテ濃キ護謨水ヲ以テシ此紙上ニ前ノ翼ヲ壓着スベシ乃チ少許ノ毳毛ノ如クニシテ色アル物質ノ此紙ニ附着スルモノアラントス是ニ於テ此護謨ヲ塗レル紙片ノ上面ニ他ノ白紙一片ヲ置キ汝ノ指若クハ小刀ノ平滑ナル柄ヲ以テ柔和ニ此紙片上ヲ摩擦スベシ斯ノ如クスルト

キハ果シテ能ク十分ニ羽翼ヲ押印スルヲ得ルモノナリ而シテ其休ハ兩翼ノ間ニ圖畫シ以テ之ヲ彩色スベシ

○席

火燈針工箱ニ用井ル所ノ小ナル席布ハ甚ダ容易ニ且ツ極メテ華麗ニ製造スルコトヲ得ルモノナリ夫レ斯ノ如クニ坐席ニ敷キ列テル所ノモノハ帆布ト光澤アル色ノ毛線トヲ以テ作爲スル所ニシテ此毛線ヲ縫着スルニ種々ノ方法アリ其一ハ精密ニ通常ノ標號ヲ縫フガ如キ形狀ニ於テ繡飾スルニ在リ其二ハ此席ノ中央ニ花若クハ菓實ヲ繡飾シ其他ノ間隙ハ盡ク同一ナル色澤ナラシメ之ヲ以テ其地ト做スニアリ而シテ又他ノ方法ハ斜條方形條若クハ雁行形ノ柳條ニ於テ繡飾

スルニ在リテ此方法ヲ用井ルニハ其線色ヲシテ唯二種ダラ  
シムルヲ以テ却テ一段ノ美觀ヲナスコトヲ得ルモノナリ是  
等ノ毛線色ハ互ニ相反對セルモノヲ選取スベシ譬ヘバ紫色  
ニ黃色、黑赤色ニ橙色、黃赤色ニ藍色、深紅色ニ黑色等ノ如キ是  
ナリ又其縁ハ圓形ナリ棒ノ周圍ニ甚タ厚ク毛線ヲ縫綴シ且  
ツ之ヲ截開スルコトニ由テ造成セラル、モノナリ而シテ人  
ノ或ハ其毛線ヲシテ「チヤイナ、アスター」ノ翠菊ノ一種ニシテ花  
及ヒ雛菊等ニ類似セル色澤及ヒ形象ヲ倣サシメ之ヲ以テ甚  
タ美麗ナル花縁ヲ製スルモノアリ

○毛線製ノ薔薇ノ席

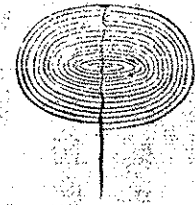
此席ヲ作ラン爲メニハ板紙若クハ名刺紙名刺紙等ヲ造ルニ  
供用スル板紙

類ヲ截リテ圓形ノ一片ヲ作爲シ羅紗若クハ剪絨ヲ以テ之ヲ  
覆ヒ絹布ヲ其裏面ニ附着シ次ニ左ノ方法ニ由テ造ル所ノ毛  
線製ノ薔薇花並ニ其葉ヲ以テ製シタル縁ヲ其周圍ニ縫綴ス  
ベシ此葉ヲ製造セン爲メニハ先ツ毛線ノ一綫ヲ取り之ヲ二  
分ニ裁スベシ是其二分ニ裁スルモ葉ヲ製造センニハ十分ナ  
ルヲ以テナリ是ニ於テ此線ノ一端ヲ毛線針ノ孔ニ通シ又更  
ニ他ノ一端ヲ取り全ク平夷ニ汝ノ指上ニ捲キ薔薇ノ葉タル  
ニハ十分ナル大サノ一環ヲ完成スルニ至ルベシ而シテ後此  
環ノ中心ニ眞直ニ毛線針ヲ透シ其平坦ナル形体ヲ變スルコ  
ト無クシテ偏ニ之ヲ緊縮スベキナリ

例 汝ハ先ツ始メニ一個ノ薔薇ヲ造成センガ爲メニ緊要ナ

ル所ノ濃淡各種色ノ數ニ隨テ其花片ヲ作爲スベシ而シテ此  
花片ノ數ハ大凡其色ノ最モ濃キモノ四片之  
ニ次グモノ六片第三次ノモノ四片及ヒ第四次  
即チ花片ノ最モ淡色ナルモノ二十四片ヲ以  
テ足レリトス因テ悉ク是等ノ花片ヲ作爲シ  
畢ラバ宜シク之ヲ書冊ノ紙間ニ插ミ能ク平坦ニ壓着スベシ  
是ニ於テ又更ニ甚ダ濃色ナル毛絲ヲ取リテ之ヲ汝ノ指ノ周  
圍ニ捲キ之ヲ以テ薔薇ノ小球即チ其中心ヲ作爲スベシ而シ  
テ剛強ナル針及ヒ絲ヲ以テ此中心ノ周圍ニ汝ノ最濃色ナル  
花片ヲ縫綴シ之ヲ做シ了リテ又稍淡ナルモノヲ縫綴シ之ヲ  
モ做シ了ラバ又更ニ一層淡薄ナルモノヲ縫着シ斯ノ如クニ

第三百十三圖



シテ終ニ完全ナル薔薇ヲ造成スルニ至ルベシ若シ果シテ斯  
ノ如クニシ且ツ薔薇ノ花片ハ其色常ニ中心ニ至ルニ隨ヒ外  
部ニ比スレバ稍濃キニ至ルコトヲ注意セバ作爲スル所ノ花  
ハ其大サ天造ノ花ニ異ナラズ其色モ亦淡紅色、赤色、黃色若ク  
ハ白色ナル自然ノ色ニ毫モ違フコト無キヲ得ルナリ而シテ  
是等ノ花ハ編製セル毛苔ニ縫綴シ以テ席ノ周縁ニ附着スベ  
シ且ツ其葉ハ次條ノ方法ニ由テ編製スルコトヲ得ルモノナ  
リ  
第一列ハ唯八環ヲ製スベシ  
第二列ハ此八環ノ中ニ三個ノ尋常ノ網ト二個ノ之ニ二倍セ  
ル網トヲ造リテ互ニ之ヲ定メ置クベシ

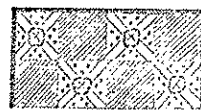
第三列是モ亦前次ノモノト同一ナル方法ニテ其後面ニ作爲スベシ之ヲ做シ了ラバ即チ此業ヲ完成セルナリ而シテ之ニ刺スニ綠色ナル線金一條ヲ以テスベシ是製造スル人ノ其意ニ隨テ之ヲ屈曲スルヲ得ベキコトヲ欲シテナリ

○小球及ヒ毛絲ノ席

凡ソ此席ヲ製作スルニ供用スベキ物品ハ一片ノ穿孔シタル板紙ノ其大サハ汝ノ欲スル所ニ隨フベキモノト赤黑色ナル「ペルリン」ト名ケタル毛絲五「シェード」ト透明ナル小球ノ長ク連接セルモノ六綑ト編網ニ供用スベキ強キ綿絲一絡車ト毛絲針ノ此板紙ノ孔ヲ過グルニ適スルモノ一條トナリ之ヲ製スルニハ先ツ汝ノ毛絲ノ最モ淡色ナルモノヲ取リ以

テ此紙片ノ周縁ニ穿テタル孔ノ二個ニ就テ小ナル方形物ヲ縫繡スベシ而シテ其針歩ハ下條ノ圖ノ如ク六個ノ孔ヲ隔テ斜メニ此孔ヲ横過スルコトヲ要スルナリ之ヲ爲シ了レバ五個ノ孔ノ殘レルアルナリ因テ前次ト同一ナル針歩ヲ反復シテ淡色ナル方形ノ一列ヲ完成スルニ至ルベシ而シテ後更ニ汝ノ綿絲ヲ以テ四個ノ小球ヲ縫綴シ各個ノ方形ノ間ニシテ此板紙ノ方形ナル空處ノ中央ニ於テ第百三十四圖ノ如ク是等ノ球ヲ結合スベシ

第百三十四圖



是等ノ毛絲ノ方形ノ第二列ハ其第一列ノモノト位置ヲ交互シテ小球ノ方形ノ下ニ列シ且ツ各列毎ニ其色ノ濃厚ヲ増サ



シメ以テ毛線ノ方形ト小球ノ方形トヲ交互シ毛線ノ方形ハ  
各列漸次ニ其絲間ノ濶サヲシテ狹カラシムベシ乃チ其最濃  
色ナルモノヲシテ此席ノ中心ニ聚合セシムルコトヲ得ベキ  
ナリ而シテ此席ノ裏面ハ絹布ヲ以テ被覆セル板紙ニ由テ蔽  
フベク且ツ其環縁ハ小球ノ環ヲ以テ造ルベキ所ニシテ宜ク  
二十個ノ小球ヲ以テ其一環トシ此環ヲ以テ此席ノ周邊ニ穿  
テタル二列ノ孔ニ縫着スベシ

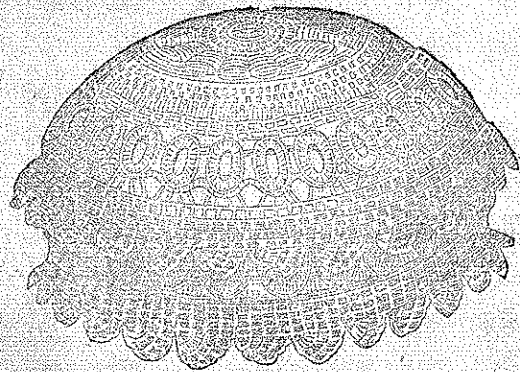
○乗車ノ席

乗駕ニ供用スヘキ美麗ナル席ハ布邊即チ小絨ノ灰色ナル邊

縹ヲ取り之ヲ裁斷シテ長サ殆ト二「インチ」半ノ小片ト爲シ此  
小片ヲ編接シテ縹形ト做スコトニ由テ作成シ得ルモノニシ  
テ其縁ハ前次ノ小片ト同一ナル大サノ淡色ナル「マシエンタ」  
則チ極美ナル小絨ノ細片ヲ以テ製作  
スベキナリ

然リ而シテ之ヲ作ルニハ先ツ長キ木百  
製ノ針ヲ以テ二百個ノ針歩ヲ爲シ次ニ  
ニ此絢絲ノ上ニ小絨一片ヲ横タヘ環十  
縁ヲ製スルカ如キ方法ヲ以テ此小絨  
ヲ編綴スベシ  
又次ノ二列ハ全ク平坦ニ編マザルベ

圖五



カラス若シ斯ノ如クニセザルトキハ其席ハ過度ニ緻密ニシテ厚キニ過ルナリ而シテ後小絨即チ布邊一片ヲ取テ第三ノ各個ノ針歩ヲ編綴スベシ此席ノ縁ヲ成サシガ爲メニ第一及ヒ最後ノ列ハ悉ク紅色ナル小絨ヲ用井又各列ノ第一及ヒ最後ノ針歩モ亦紅色ナル小絨ヲ用井ザルコトヲ得ズ

### ○粧臺ノ針氈

此斜氈ヲ作ルニハ先ツ薄キ板ヲ以テ作レル小方形ノ一箱ヲ取リ唯其蓋ヲ除キ淡紅色ノ絹ヲ以テ全ク箱ノ内外面ヲ被覆シ次ニ綿布ヲ以テ一個ノ小ナル坐褥ニ類似セルモノヲ造成シ之ニ充實スルニ糖ヲ以テシ細小ナル扁頭針ニ由テ之ヲ此箱蓋ノ周縁及ヒ四隅ニ固着シ且ツ前次汝ノ箱ノ内外ヲ蔽フ

ガ爲メニ用井シモノト同一ノ絹ヲ以テ此蓋ヲ覆フベシ併シテ後ニ綿紗ヲ以テ此箱ノ頂上及ヒ周傍ヲ蔽フベキ被覆ヲ製ス其頂上ノ被覆ト周傍ノ被覆トハ固ヨリ各別ニ製造セザルベカラズ然カセザレバ此箱ハ開クコト能ハザル矣且ツ紐絲ノ邊飾ヲ以テ此針氈ノ周縁ニ縫着シ其爲ル所ノ長サヲシテ全ク此箱ノ周傍ヲ覆フニ足ラシムベシ此邊飾ハ箱ヲ開クニ方リ其蓋ヨリシテ前時ト反對セシ方向ニ於テ下垂セントス或ハ此箱ノ縁ニシテ蓋ノ開キ且ツ閉ル所ニ狹キ區條ヲ縫着シ區條若クハ八絲ノ紐子ノ「ルウツシユ」類ノヲ以テ此針氈ヲ完成スルモ亦可ナリトス畢竟是等ノ箱ハ裝極ニ置クニ甚タ緊要ナルモノニシテ且ツ甚タ美觀ヲ做スモノナリ

## ○花架トナルベキ圓形ノ針氈

圓形ナル針氈ノ其中心ニ凹處アリテ一束ノ花ヲ插ムベキ小ナル玻璃筒ヲ保持スルニ適スルモノハ甚々美麗ナル装櫈ノ針氈ノ一ト稱スルニ足ルナリ而シテ此針氈ヲ造ルニハ糖ヲ以テ小襖ヲ造リ此襖ノ中央ニ置クニ玻璃ヲ筒ヲ保ツベキ硬強ナル板紙製ノ凹形物ヲ以テ且ツ淡紅色若クハ白色ノ絹ヲ以テ此襖ヲ覆ヒ其後若シ濕汚スルトキハ互ニ之ヲ交換セン爲メニ二個ノ蓋ヲ作爲シ且ツ之ヲ結着スベシ而シテ此蓋ヲ製センニハ先ツ綿紗一片即チ此針氈ノ大サ及ヒ其形象ニ隨テ裁斷セシモノヲ取り通常ノ編法ヲ以テ其周圍ニ微小ノ縁ヲ編飾シ且ツ其周邊ニ組絲一片ヲ縫着スベシ斯クノ如クニ

シテ此小ナル玻璃筒ニ插ムニ光澤ト薰香トヲ有スル花ヲ以テセバ則チ汝ノ装櫈ハ華麗ニシテ且ツ文雅ナル狀ヲ表スベシ而シテ其畫飾セル綿紗若クハ斑點アル網羅モ亦彼ノ箱ノ周傍ヲ覆フニ適スヘシ然レトモ組絲ノ垂下スル邊飾ヲ造ルコトハ決シテ忘失スヘカラザルナリ

## ○剪絨製ノ装櫈ノ針氈

他ノ装櫈ノ針氈ハ小絨ノ方形片ヲ互ニ累疊シ之ヲシテ殆トニ「インケ」ノ厚サヲ做スニ至ラシメ之ヲ以テ造成スルヲ得ルモノナリ而シテ是等ノ小絨ノ如キハ臥褥若クハ坐席ヲ緊收スルニ用井ル方法ニ隨ヒ此小絨ヲ眞直ニ穿テル針歩ニ由テ甚ダ平坦ニ收束スベシ而シテ後ニ秀美ナル剪絨ヲ以テ小絨

ヲ覆ヒ之ヲ緊收スルコト前次ニ爲セルガ如クニ或ル大サノ  
鋼鐵製ノ小球ヲ以テシ且ツ同一ナル鋼鐵製ノ小球三十個ヲ  
有セル環ヲ以テ之ガ環縁ヲ造リ加之ナラズ各自一個ノ小球  
ヲ以テ此各個ノ環ニ縫綴シ是等ノ球ヲシテ此環縁ノ外圍ニ  
於テ一個ノ縁ヲ做サシムベシ又此方法ニ隨ヒテ深紅色ノ剪  
絨及ヒ眞珠ヲ以テ製スルトキハ亦極メテ絶美華麗ナルモノ  
ヲ作成スルコトヲ得ベシ

### ○金筆ノ拭具

此拭具ヲ造ルニハ先ツ深紅色ノ絨毛ヲ以テ小ナル希臘國ノ  
帽子ニ類似スルモノヲ編製シ黄金色ノ流蘇ヲ其頂上ニ置キ  
次ニ粗糙ニシテ黑色ナル絹絲二三「オンス」ヲ取り此帽子ノ深

サニ二倍シタル長サノ紙牌ノ周圍ニ此絲ヲ捲キ之ヲ其中心  
ニ於テ甚タ緊密ニ結ヒ然ル後ニ全ク之ヲ裁斷スルニ臨ミ其  
絲端ヲシテ盡ク整齊ナラシムルコトヲ注意シ斯克シテ造レ  
ル總テ此帽子ノ内面ニ固着スベシ是帽子ノ内面ハ固ヨリ全  
ク絹絲ノ總テ以テ究實スベキモノナルカ故ニ此總ハ則テ頭  
髮ニ擬シテ製作シタルモノナリ斯克ノ如クスルトキハ果シ  
テ柔軟ニシテ且ツ爽快ナル金筆拭具ヲ作成シ得ルナリ

### ○羅哆呢ノ金筆拭具

此拭器ヲ作ルニハ先ツ黑色及ヒ深紅色ノ羅紗ヲ截テ二色二個  
即テ四個ノ大ナル圓形物ヲ製シ之ヲ四層ニ疊ミ其疊ミシモ  
ノヲ共ニ集メテ更ニ圓形ヲ做サシメ之ヲ其中心ニ於テ甚タ

固ク緊收シ且ツ緊收シタル上ニ一個ノ美麗ナル扣鈕ヲ着ク  
ベシ而シテ是等ノ四葉ノ圓形物ノ上部ハ白色及ヒ黃金色ノ  
小球ヲ以テ繡飾シ若クハ細工ヲ施スベシ斯クシテ作成セル  
金筆拭具ハ甚タ切要ノモノタルヲ得ベキナリ

### ○華飾術

華飾ノ技ハ即今甚タ流行スル所ニシテ此童女笠ノ如キモ其  
容易ニ行フベキ方法ニ關涉シテ二三ノ教告ヲ做サザレバ完全  
ナリト云フコトヲ得ズ是華飾術ハ少シク器械上ニ涉ルト雖モ  
文雅ノ藝ニテ之ヲ爲スハ常ニ學室或ハ寢室ニ着色センガ爲  
メニ題號ヲ書スルコトニ在リ是等ノ題號ハ古昔ノ「ゴシック」  
國ノ文字ヲ以テ造成シ丁寧ニ之ヲ書シ其美麗ナラシコトヲ

要スルナリ夫レ大形ナル「ゴシック」文字ノ象圖ハ大抵書肆ニ  
於テ購ヒ得ベキモノニシテ且ツ薄紙ヲ此字上ニ置キテ其形  
象ヲ模寫スベキモノモ亦能ク購ヒ得ベシ然レトモ華飾師タ  
ルモノ少シク勉力費心セバ當ニ日ナラズシテ自ラ其形象ヲ  
描成シ得ルニ至ルベシ

凡ソ此技ニ熟達スベキ至善ナル方法ハ先ツ粗薄紙ニ於テ各  
個ノ文字ヲ模寫シ務メテ其大サト形トヲシテ精細ニ原字ニ  
同シカラシメ後更ニ之ヲ原字ノ上ニ置キテ其錯謬スル所ヲ  
認識シテ之ヲ改正スベシ斯クノ如クニシテ少シク習慣スル  
ノ後ハ其目手頗ル練熟スル所アルニ隨ヒ乃チ其原字ト模寫  
セルモノト外形ニ於テ一様ナルニ至ルベシ

頭字ハ常ニ巧ミニ意匠ヲ用非テ書スベキモノニシテ良善ナル模式アルニ非レバ能ク模寫スルコトヲ得ズ然ルニ若シ頭字ニシテ唯單一ナル飾ヲ附着シ尋常ノ文字ノ如キアラバ則チ必ズ其地ハ金色ナルベク其字ノ體ハ肉色或ハ紅色ナルベク若クハ青色ニシテ白絲ノ線ヲ以テ其縁ヲ修飾セシモノナルベシ

彌撒書即チ經典ヲ彩色スルハ殊ニ困難ニシテ良工ノ做スベキ手技タリ是實ニ諸色ノ用法ヲ能ク了解シ明敏ナル眼目ヲ具シ且ツ精緻ナル工夫ヲ有スルニアラザレバ完成シ能ハザル所ナリ然レドモ方今ハ畫工ノ庫ニ於テ又水晶宮ノ常務局ニ於テ又「ウインソル」及ヒ「ニュートン」共ニ「ラスボン、フレ」

ス地名三十八番ノ書肆ニ於テ經典ノ部分ノ唯外線ヲ印刷シ之ヲ華飾スベキモノヲ購ヒ得ベシ且ツ唯外線ヲ印セシ書ハ其價モ甚タ廉ナルモノナリ又彩色スルヲ以テ自ラ樂マンコトヲ欲セバ斯ノ如キ手工ヲ做スヨリ快心ナルモノ無シ然ルニ何故ニヤ我が少年ノ讀者ハ此中古ノ技藝ヲ做スニ唯粉本ノミヲ用非却テ眞個ノ方法ニ據ルコトヲ嫌ヘリ又何故ニ自己ノ意匠ヲ用非テ此彩色ヲ作スコトヲ勉メザルヤ蓋シ此技ハ古昔ノ僧既ニ能ク之ヲ造成シ且ツ一千八百年代ノ練磨シタル工人ノ如キハ實ニ容易ニ之ヲ做シ得シナリ今吾輩ハ模寫スベキ花葉ノ夥多ナル種類ヲ有シ得ルコト遠ク古人ニ過キタル所アリ然ルニ吾輩ハ何故ニ此粉本ヲ模寫スルコトノ鄙

劣ナル業ヲ棄テ、是等ノ花葉ヲ採用スルコトヲ做サベルヤ  
 此花ヲ畫クコト、唯文字ヲ以テ華飾スルコトハ同一様ニ非  
 ズ蓋シ文字ヲ以テ華飾スルコトハ若干ノ規則アリテ之ニ隨  
 ヒ做ス所ノ習慣ニ由テ能クスベキ書法ナリ今吾輩其規則中  
 ヨリ數條ヲ舉ケテ茲ニ記載セント欲スルナリ  
 此華飾ハ其書スル所ノ題號ト相關係スルモノニシテ華飾中  
 必ズ當ニ其題號ノ意味ヲ解明シ或ハ暗ニ其意味ヲ指示スル  
 所アルベシ且ツ華飾スル所ハ其一面ノ末段ニ及ボシ以テ其  
 書スル所ノ題號ト區別スト雖モ尙相連續セシ緣ヲ作成スベ  
 シ

珍畫即チ奇異ナル圖ノ如キモ必ズ之ヲ試行シテ敢テ度外ニ

置クベカラズ而シテ此類ノ爲メニ世間普通ノ定則アル故ニ  
 之ヲ法子トシテ畫ヲ作ルベシ然ルニ花鳥等ニ於テ深ク實物  
 ヲ觀察スルハ却テ其畫ヲ模スルニ至テ妨害ヲ生スルコトアル  
 ベシ

各種ノ木葉ハ皆之ヲ緣ニ畫クニ甚タ美麗ニシテ且ツ喜フベ  
 キ所アリ而シテ更ニ單一ナル花ヲ之ニ交ヘバ最善ナリト云  
 フベシ又外線ノ形象ハ必ズ正シキヲ要ス其色ハ隨意ニ好ム  
 所ヲ採用スベシ

今吾輩ハ物品ノ簡畧ナル目錄ヲ作り以テ華飾ヲ做スノ方法  
 ニ關シテ二三ノ教告ヲ做サントス

凡ソ華飾師ハ先ツ最初ニ「サインソル」及ヒ「ニョートン」諸君ノ

書肆ニ於テ顔料ノ充全ナル一箱ヲ購フベシ印チ九色ノ顔料  
ヲ保有セシ所ノ五圓金ノ一箱、金及ヒ礬素ノ數般、金紙、瑪瑙石  
ノ磨光具、黑貂皮ノ刷子等ノ如シ或ハ又華飾師ノ是等ノ顔料  
ヲ格別ニ買得ンコトヲ欲スル者アラバ則チ吾輩ハ次條ノ汁  
液ナル顔料ヲ購ハンコトヲ勸ムルナリ

黃色 「カンボツジエ」即チ黃藤 「マースエロー」 「カツドミヨム」  
紫色 「バイヨレツトカルマーン」即チ青蓮色 「パール、ポルレツグ」  
橙色 「ニユートレル、オレンジ」即チ濃淡中  
等ノ橙色 「マース、オレンジ」  
「バウントシーエンナ」  
青色 「ウルトラマリイン」即チ群青 「プロシエンプリュー」即チ普魯西青  
鳶色 「バツソイキープラウン」 「セヒヤ」

綠色 「エメロルド、グリーン」之ヲ以テ他  
色ヲ作ルベシノ  
白色 「チヤイニーズ、ホワイト」即チ支那白  
赤色 「クリムソンレツグ」即チ「カルマイン」  
深紅即チ洋紅 「ヴァルメリオン」  
即チ朱 「ライトレツド」即チ淡紅  
黑色 「ランブラツク」即チ烟煤黑  
或ハ唯下條ノ如キ諸色ヲ以テ書籍ヲ華飾スルモ亦能クスベ  
キ所ナリ

今其色ヲ論ゼバ即チ藤黃白黃深紅朱「エメロルド」綠、普魯西青、  
烟煤黑及ヒ支那白ナリ他ノ綠色ハ普魯西青ト藤黃トヲ混シ  
或ハ「エメラルド」綠ニ少ク灰色金ノ酸化物ヲ混シ或ハ普魯西  
青ト印度黃トヲ混シ且ツ此等ノ三種共ニ皆些少ノ箇拔爾點



母ノ金屬ノ和スルニ由リ能ク製造スルコトヲ得ベシ又甚々淡  
 黒ナル綠色ハ藍靛ト印度黃トヲ正シク混交シテ製造スベキ  
 ナリ而シテ墨汁ノ裝本ニ使用スベキモノハ烟煤黒及ヒ「アラ  
 ヴト」<sup>ラ</sup>鷲色ノ液物ヲ善シトス金銀燐即チ其凝結セシモノ或ハ  
 金銀粉モ亦必要ナルモノニシテ護謨水及ヒ牛膽汁一瓶モ無  
 カルベカラズ且ツ顔料ハ凡テ清淨ナラシメ塵埃ノ入ラザラ  
 シコトヲ注意セザルベカラズ又此事ニ使用スル水ハ必ズ柔  
 軟ナル者若クハ其蒸溜セシ者ヲ用非之ヲシテ眞ニ清淨ナラ  
 シムベシ而シテ顔料ヲシテ濃厚ナラシメ且ツ之ニ光澤ヲ付  
 與センガ爲メニ些少ノ護謨水ヲ混合セザルコトヲ得ズ又彼  
 ノ支那白ノ如キハ水ヲ和シテ之ヲ薄クシ暫時ノ間着手セズ

シテ其水ノ蒸發シテ再ヒ濃厚ナルニ至ルヲ待テ供用スベシ  
 爾セザルトキハ必ズ粘着凝固シテ施ス可カラザルヲ以テナ  
 リ  
 今若シ混和セシ顔料ヲ製センコトヲ欲スルトキハ其當ニ使  
 用スベキ分量ハ宜ク悉ク一時ニ混合スベシ其故何トナレバ  
 諸色ヲ混和スルニ其比例差謬スル所アレバ之ヲ同一ナル花  
 若クハ文字ニ適用スルトキニ其色必ズ殊異ニシテ大ニ厭フ  
 スキ所アレバナリ  
 「ミストル、ブラドレイ」氏嘗テ驚クベキ「マニユアル、オフ、イル、  
 ミチーシヨン」<sup>ミ</sup>書ト題セル書ヲ著ハセリ其中ニ言ヘルコトア  
 リ曰ク華飾ノ手工ヲ學ビテ能ク絶群ニ至ラント欲スル者ニ

ハ吾輩之ニ宜シク更ニ良善ニシテ十全シタル教育ヲ受クベ  
キコトヲ勸メタリ順序ヲ以テ學習スルニ非ザレハ蓋シ之ヲ  
做スコト能ハザルナリ例ヘバ今深紅色ノ上方ニ卷曲セシ葉  
ヲ畫成セシコトヲ假定セシニ先ツ純粹ナル橙色ヲ以テ其葉  
ノ全体ヲ塗り更ニ其卷曲セシ地所ノ下ノ一隅ニ於テ靜徐ニ  
朱ヲ澱グベシ斯ノ如クニシテ洗淨スルコト無ク之ヲ乾燥セ  
シムルトキハ唯其葉ノ中翳陰ト成リシ一側ニ流入シタル洋  
紅ノ明亮ナル一線ハ能ク全面ヲシテ光輝アル深紅色ヲ表出  
セシメ淡潤ナル顔料ノ有シ能ハザル所ノ奇彩ヲ呈シ絶美ニ  
シテ人目ヲ驚カスコト殆ト筆舌ニ書シ得ザルノ妙趣味アラ  
ントス

深紅色ノ葉實ヲ畫クニハ其始メニ着色スルニ必ズ前條ノ如  
ク橙色ヲ以テ之ヲ塗抹スベシ  
其未ダ全ク乾燥セザルニ方リ葉實ノ最モ日光ヲ受ケ難キ所  
ノ一端ヲ見テ其端ニ近シト雖モ之ニ接セザル地處ニ於テ朱  
ノ些少ナル一滴ヲ澱クベシ斯ノ如クニシテ其全ク乾燥スル  
ニ及ビテハ更ニ日光ノ照スベキ所ト假定セシ地位ニ於テ白  
キ細小ナル點ヲ加ヘテ其畫ヲ完或スベシ是ニ於テカ其葉實  
ノ色ハ必ズ光鮮ナル所アラントス  
學室或ハ寢室ノ壁上ニ題號ヲ畫成セシコトヲ欲セバ則チ其  
彩色ヲ爲スニ大ニ費用ヲ減省スベキ方法アリ先ツ一ノ製練  
家ニ至リ各色中粉末ニシタル無雙ニ美麗ナル洋紅ト朱ト群

青ト深紅ト青銅粉ノ斯ノ如キ粗澀ナル手工ニ於テ甚タ能ク  
 金ト代用スベキモノトヲ購求スベシ而シテ汝ノ購求スル所  
 ノ量ハ唯數「ペンス」ノ錢貨ニ値スルニ過ギザルモ必ズ將ニ光澤  
 アリテ賞玩スベキ色ヲ生ゼントス然レドモ汝ハ又蛋白或ハ  
 薄キ護謄水ヲ以テ是等ノ顔料中ニ混合セザルコトヲ得ズ爾  
 セザレバ顔料ノ紙上ニ消去シテ敢テ着色セザルヲ以テナリ  
 初學ノ人ニ在テハ唯是等ノ顔料ノミヲ用非テ已ニ十分具備  
 セリト云フベシ凡ソ此大形ナル題號ヲ書スルニ用井ル所ノ  
 文字ハ二種ノ色ヲ以テ彩色スルヲ善シト爲ス之ヲ詳言スレ  
 バ文字ノ紙上ニ凸出スル模様ヲ表センガ爲メニ本來ノ字色  
 ノ外ニ更ニ濃色ノ線ヲ以テ字畫ノ左邊ニ於テ縁ヲ作スベシ

故ニ黑色ノ文字モ其一邊ニ於テ朱色ノ縁ヲ作ルトキハ亦甚  
 ダ美麗ナリ又濶大平坦ナル表面ヲ消金ニセント欲セバ則チ  
 金紙ヲ貼シテ消金ニ代フベシ且ツ金紙ハ是等ノ事ニ適用セ  
 ンガ爲メニ既ニ準備シタルモノヲ購求シテ唯其護謄及ヒ砂  
 糖ノ強キ溶液ヲ以テ蓋ヒタル裡面ヲ沾濡スルニ由テ他ノ紙  
 上ニ貼スルコトヲ得ベキナリ又汝若シ古代ノ書籍ニ在セル  
 所ノ裝飾ヲ模倣セント欲スルトキハ則チ先ヅ「グエレーム」  
 即チ薄キ皮ノ各紙ノ代ヲ得ルコトヲ要ス而シテ汝ノ寫サント  
 リニ用非シモノナリ  
 欲スル模範ト同形ナル一片即チ其模形ヲ裁成シ且ツ止淋粉  
 ヲ以テ之ヲ塗抹シ其後ニ繪圖板ノ上ニ擴張シ更ニ薄キ明礬  
 水ヲ以テ之ヲ洗濯スベシ是ニ於テ汝ハ鉛筆ヲ把リテ薄ク其

模式ヲ寫シ謬誤スル所アレバ則チ拭消スルコト無ク汝ノ膏  
ケル粉本果シテ端正ナルヲ知ルニ至リテ始メテ彩色スベキ  
ナリ若シ其「ヴェールム」甚ダ膩ルトキニハ汝ハ宜ク些ナル  
牛膽汁ヲ其顔料ニ混和スベシ且ツ其彩色スルニ臨テハ都テ  
金色ヲ最初ニ施スヲ要ス世人多ク此事ヲ最後ニ爲スト雖モ  
決シテ倣フコト無カレ何トナレバ汝ノ瑪瑙石ノ磨光具ヲ把  
テ之ヲ磨光スルトキニ不慮ニ他ノ顔料ヲ擦リ其色ヲ損害セ  
ンコトヲ恐レテナリ

鍍金ハ之ヲ用井ルノ容易ナルハ大ニ箔金ニ勝レルアリ但兩  
品共ニ之ヲ排置スル具ヲ以テ巧ニ排置スルトキハ共ニ觀美  
ヲ爲サントス且ツ鍍金ハ其用法ニ關シテ印刷セシ教法書ヲ

附シ之ヲ用井ルモノ、爲メニ準備シタルモノヲ購求スベシ  
鍍金ヲ貼置スルニハ先ツ汝ノ塗ラント欲スル所ノ部分ニ於  
テ適宜ナル大サヲ量リ蛋白ノ能ク泡起シ且ツ少ク水ヲ混合  
シテ薄クセシモノヲ取テ塗抹スベシ斯クノ如クニシテ其乾  
燥スルニ及テ始メテ鍍金ヲ以テ之ヲ塗抹シ而シテ復タ其乾  
クニ及ビテハ除々ニ磨光スベキナリ

若シ又銀色ヲ以テ裝飾センコトヲ要スルトキハ鍍白金ヲ用  
井ルヲ以テ至善ト爲ス是其容易ニ光瑩ヲ失ハザルニ由テナ  
リ

凡ソ汝ハ是等ノ金銀ヲ磨光セント欲スルトキ其未ダ着手セ  
ザルニ當リテ先ツ金銀ヲシテ全ク乾燥セシムベキコトヲ注

意セザル可ラズ

方形ノ繪ハ容易ニ模寫シ或ハ畫クベキモノニシテ通常唯金筆ト界木トナ有スルトキハ其製造ハ全ク習慣ニ由テ成スベキナリ而シテ此方形畫ト呼フモノハ赤及ヒ金若クハ青及ヒ金等ノ如ク輪流相異リテ彩色シタル斜方形或ハ十字形ノ模式ニ由テ造成セシ所ナリ且ツ此方形若クハ斜方形ハ各個美麗ナル白點或ハ金箔等ヲ附着スルナリ

夫レ斯クノ如キ快心喜ブベキノ遊技ヲ舉ケ示スニ當テ「ミストル、アラドレイ」氏ノ小冊子中此旨趣ニ關涉シテ感服スベキ教誨ヲ垂レタルヲ以テ吾儕ハ讀者ノ之ニ據ランコトヲ欲スルナリ是故ニ吾儕ノ自ラ茲ニ記載セル所ノ如キハ唯讀者ヲ

シテ此技藝ヲ學習スルノ意志ヲ奮起セシメ且ツ之ヲ爲スニ勉勵セシム可キノ教告ト做サシコトヲ希望スルノミ

○紋印學ニ關シテ示ス教告

夫紋印學ハ華飾術ト大ニ相關涉結合スルモノニシテ方今特ニ此學ノ趣意ニ關シ唯僅々ノ教告ヲ記載スベキヲ要スルモノナリ而シテ此紋印學ハ能ク注意シテ之ヲ行フトキハ以テ歴史及ヒ言行錄ノ旨趣ヲ知ルニ足ルベキモノニシテ許多ノ奇珍ナル傳說又歴史上ノ趣向ヨリシテ我祖宗ノ習慣ト風俗トニ及ブマデ徽號ノ形狀ヲ知ルニ由リテ之ヲ洞觀スルコトヲ得ベキナリ

夫レ此「ヘラルドリ」即チ紋印學ノ語ハ軍勢兵隊ノ意及ヒ勇

士ノ義ヲ含有セル日耳曼國ノ二語ヨリシテ造成セシモノナ  
リ而シテ法蘭西英吉利意大利及ヒ日耳曼人ノ此學ヲ稱スル  
「プラーゾン」即チ紋印學ノ語ハ蓋シ「プラーズン」即チ喇叭ヲ吹  
クノ意ヲ含有セル日耳曼語ヨリ化生シタルモノニシテ是勲  
爵士ノ名及ヒ態度ヲ知ラレザルモノ、深ク假面ヲ被リ武勇  
ヲ角センガ爲メニ現ハル、者アルニ當リテ「ヘラルド」即チ傳  
令官ハ人々ヲシテ此士ヲ注目セシメンガ爲メニ先ツ喇叭ヲ  
鳴シ次ニ此士ノ旂若クハ表鑑ノ徽章ヲ演說セルヲ以テナリ  
是故ニ勲爵士ノ種々ノ標識ヲ知ル學問ハ即チ「ヘラルドリ」  
ノ名ヲ負ヘリ而シテ此徽章ヲ說クコトハ喇叭ノ響ニ從フガ  
故ニ此學ハ時ニ或ハ「フレーゾ子ン、ゼー、アールムス」即チ徽章

ヲ公布スルコト、稱セラル

此區別アル徽號即チ旂飾及ヒ鑑ノ徽章ヲ負フコトノ根源ハ  
吾輩ノ經典「ナンブルズ」部分第二章ノ兩節ニ載セタル如ク遠  
ク古昔ノ世ニ在リシモノトス

即チ其古語ニ云ク「イスレール」太古ノ人ノ子孫タル人ニハ各家

其父家ノ記號ヲ負ヘル自己ノ軍旗ノ下ニ布營スベシト

是等ノ記號ハ「ジェチサイス」即チ舊約全書ノ第一卷ノ第四十

九章ニ記載セシ所ノ如ク「ジュコブ」「イスレール」一名ノ諸子ヲ獅子ノ

仔蛇牡鹿等ニ譬喩シテ爲メニ幸福ヲ祈リシトキニ演說セシ  
所ノ諸子ノ性質ニ模擬シ製造シタルモノニシテ是ヨリシテ

後世十二族ヲ分ツニ至レリ而シテ此紋印ノ一科學ト稱セラ

ル、ニ至リシコトハ其原始十字軍ノ頃ニ在ルヲ信證スベシ  
爾時勳爵士ハ銀鐵製ノ甲ヲ以テ其面貌ヲ隱蔽シ其從者ハ唯  
主人ノ楯ニ負ヘル所ノ紋印若クハ徽章ヲ認規シテ之ニ陪從  
セシモノナリ

然ルニ甲冑ノ廢スル隨テ紋印學モ亦漸次ニ其要用ナル所ヲ  
失ヘリ然レトモ印章皿器乘車等ニハ尙貴族ノ子孫タルコト  
ヲ認識セシメンガ爲メニ是等ノ紋印ヲ記セルアリ而シテ此  
兵器ノ紋印ハ時ニ或ハ極大ナル緊要ノ物タルコトアリ嘗テ  
一貴族ノ死亡セシトキ其子孫斷絶セシ故遺物ヲ受クベキ者  
ヲ求メシニ一人ノ古キ同徽號ノ楯ヲ所有セル者アリテ一個  
ノ證據トナリ其遺物ヲ受ケタルヲ以テ始メテ此紋印ノ嚆矢

要用タルコトヲ表顯シ又他ノ三族ハ其家系ヲ證スル所ノ徽  
號及ヒ紋印ヲ貯藏セシガ故ニ領地ヲ得シコトアリ而シテ今  
吾輩ノ務メテ紋印ノ語ヲ會得セシコトハ印刷若クハ筆記ス  
ル所ノ解説ニ因リテ兵器ノ紋印ヲ了解シ得ンガ爲メニ必要  
ナリト云フベシ

「シールド」ハ徽號ヲ以テ飾ルベキ地位ニシテ即チ人體ノ左手  
ニ在ル所ノ側面ハ之ニ對スル人ヨリシテ右方即チ右側ト稱  
シ勳爵士ノ其手臂ヲ以テ楯ヲ持シ之ヲ其前面ニ擔ヘルトキ  
ニ於テ稱スル如ク右手ニ在ル所ノ側面ハ左方即チ左側ト稱  
シ又「シールド」ノ精密ナル中心ハ「フツス」ノ點ト稱スル所ニシ  
テ此點ノ上部ヲ「サノル」ノ點ト稱シ其下ヲ「フンダリール」ノ點

ト做シ又此右側ノ頂上ヲ「デックストル、チーフ」左側ノ頂上ヲ「セ子ストル、チーフ」ノ點ト稱ス且ツ此「シールド」ノ下部ノ中心ヲ「ベース」ト稱シ此下面ノ兩側ヲ「デキツストベース」及ヒ「セ子ストルベース」ト稱ス而シテ是等ノ諸點ハ皆徽章ヲ附着スベキ所ナリ故ニ若シ今予ガ畫カンコトヲ欲スル所ノ紋印ノ解説ヲ讀ムトキハ此紋印ハ二枚殼ノ具ヲ以テ製作シ此點ニ附着セラルベキコトヲ讀ムトキハ余ハ此紋印ノ楯ノ精密ナル中心ニ置カルベキコトヲ識リ得ベシ其他皆斯ノ如クナラザルハナシ是ヲ以テ是等ノ名詞ハ紋印ヲ置クベキ所ノ正シキ點ヲ指示スト云フベシ

且ツ紋印ヲ附着スルニハ五種ノ色及ヒ二種ノ金屬ヲ適用ス

ベシ而シテ是等ノ五色ニ金屬トハ即チ「オール」即チ金、「アージエント」即チ銀「アジュワ」即チ藍色、「ギウィルス」即チ紅色、「ヴァー」即チ綠色、「パー」即チ紫色及ヒ「セイブル」即チ黑色ニシテ又時々甚稀ニハ「タウニー」即チ橙色ト「サングイン」即チ血色トヲ用ヰルコトアリ是等ノ色ハ線及ヒ點ニ由テ區別セラル、ナリ故ニ今余ガ線ヲ以テ彫刻セル楯ヲ彩色センコトヲ欲スルモ若シ能ク紋印ノ徽章ヲ認知スルトキハ容易ニ之ヲ做シ得ベシ而シテ平常金ハ點ヲ以テ表シ銀ハ全ク純粹ナル地ヲ以テシ紅色即チ「キュールス」ハ地ノ上ニアル鉛直ナル線ヲ以テシ藍色即チ「アジュワ」ハ水平線ヲ以テシ「ヴァー」即チ綠色ハ左側ノ首長點ヨリ右方ノ下面ニ傾ク所ノ斜線ヲ以テシ



紫色即チ「バーバ」ハ右側ノ首長點ヨリ左方ノ下面ニ至ルマ  
 デ斜ニ下垂スル所ノ線ヲ以テシ「セイブル」ハ互ニ横過スル所  
 ノ鉛直線及ヒ水平線ノ密接スル方眼格ニ類似セルモノヲ以  
 テ表ハセリ故ニ今余櫛若クハ兵器ノ紋印ヲ印刷セルモノヲ  
 看ルニ頂上ヨリ下面ニ下垂スル所ノ線ヲ認ルトキハ則チ此  
 線ノ紅色若クハ紫色ノ地ヲ表ハセルコトヲ知り得ベク又水  
 平線ヲ見ルトキハ塗テ藍色ノ地ト做サヘルベカラズ而シテ  
 他ノモノモ皆斯ノ如クナラザルハ無シ  
 又「コールトリングアシルド」トハ楯ノ正キ中心ニ於テ互ニ  
 横過スル所ノ鉛直線及ヒ水平線ヲ以テ之ヲ四個ノ平等ナル  
 部分ニ區別スルコトヲ云フモノニシテ唯鉛直線ノミヲ以テ

之ヲ二個ノ平等ナル部分ニ分ツコトハ之ヲ「インペールド」ト  
 稱スルナリ而シテ男子ノ徽號ハ其右側ニ着ケ其妻ノ徽號ハ  
 左方即チ左側ニ着クベキナリ  
 又「シールド」ノ面ニ畫ケル圖ノ「チアーシエス」ト稱シ此徽標ヲ  
 分テ普通徽標特別徽標ノ二類トス而シテ普通徽標ト呼フモ  
 ノハ自己ノ名ヲ以テ稱セラレ衆人ノ能ク知ル所ニシテ特別  
 徽標ト呼フモノハ徒ニ紋印學ニ干渉スル所ノ自己ノ特別ナ  
 ル模様ヲ云フナリ因テ此模様ヲ稱スルニ「チーフ」即チ頂上、  
 「ペール」即チ尖板、「ペント」即チ曲形、「フェツス、クラツス」即チ十字  
 形、「サントアイア」及ヒ「ケエプロン」即チ椗形ノ名ヲ以テセリ而シ  
 テ斯ノ如キ模様ハ種々ノ方向ニ擴ガル所ノ線ニ由リテ造成

セシ所ニシテ「チーフ」トハ一條ノ水平線ニ由リテ區分セラ  
レシ所ノ楯ノ上部ヲ云ヒ「ペール」ハ楯ノ中心ヲ截斷スル所ノ  
二條ノ鉛直線ニ由リテ製成セラレ「バンド」ハ楯ノ三分一ヲ斜  
ニ加割スル所ノ二條ノ斜線ヨリ生出シ「クラツス」ハ其名ニ由  
リテ了解スベク「サルタイア」ハ「シント、アンドリユー」即チ古聖  
ノ名ニシテ其礎セララルトキニ「X」字ノ柱ニ於テセル故ニ斯  
ク云ヘリ亦彼ノ十字形ノ謂ヒニシテ唯僅々ナル特別徽標ノ  
ミ大ニ要用ナルモノニハ非ルナリ

又凡ソ子タル者嫡男次男等ニ隨テ記號アリ而シテ長子ハ其  
父ノ生存セル間ハ帖牌ヲ負ヒ次子ハ新月形ヲ負フ是後來其  
弟ノ生産シテ二倍ノ天福ヲ受ケンコトヲ期望スレバナリ第

三子ハ「マルレット」即チ刺馬輪ノ小圓環ニ類似セルモノヲ用  
井第四子ハ「マートレット」ヲ着ク是即チ脚無クシテ地上ニ歩  
行スル能ハザル鳥ニシテ以テ領地ヲ有セザル弱少ナル子ノ  
記號トスルナリ第五子ハ護符若クハ環ヲ用井第六子ハ「フラ  
ーデル」即チ百合花ニ擬シテ造レルモノヲ用井第七子ハ薔薇  
ヲ着ケ第八子ハ「モリンクラツス」ト云ヘル十字形ヲ着ケ又第  
九子ハ四葉ノ「フオイル」粧飾名ノ二個ヲ着ク可シ

兜飾ハ兜上ニ負ヘル所ノ標識ナリ而シテ此標識ハ今猶紋ノ  
上ニ貼附セラルモノニシテ楯無キノ時ニ方リテ屢徽號タ  
ルニ足ルベキモノトス

又「バシエス」ハ國王及ヒ諸侯ノ從者ノ負ヘルモノニシテ其大

沛若クハ小旗ニ附着スルモノタリ  
 今余古代帝王ノ用井ヲレシ徽章ノ二三ヲ記載スルコトハ我  
 妙齡ナル讀者ノ意ヲ樂マシムルニ足ルベキナリ而シテ第二  
 世「ヘンリー」ハ其名ノ「ブランタジチット」ト云フヨリ常草ノ小  
 枝ヲ負ヘリ法蘭西ニ於テハ常草ヲ「ブラント、ドウジュユスト」  
 ト稱スルヲ以テナリ  
 第一世「リチャルド」ハ獅子ヲ用井タリ是「ジュールサレム」ノ「ホー  
 レイ、セナー」即チ「バルスケン」ノ首府ニシテ亞細亞土耳其ニ在  
 リ即チ其徽章ナリ  
 第一世「エドワルド」ハ薔薇ヲ用井其莖ハ綠色ニシテ其花片ハ  
 金製ナリ

第二世「エドワルド」ハ其「カスタイル」地名ノ母ノ榮譽ニ由リテ金  
 製ノ塔ヲ負ヘリ  
 第三世「エドワルド」ハ銀造ノ雲ト是ヨリ降下スル光線ヲ有ス  
 ル者ヲ用井タリ  
 第二世「リチャルド」ハ「ケント」地名ノ美女ナル其母ノ徽章タル白  
 色ノ牡鹿ヲ用井又白色ノ鷹ヲモ用井タリ  
 第四世「ヘンリー」ハ「デボウンス」族ノ銀造ノ鴻ヲ用井且其頸飾  
 ニ着クルニ珊瑚草ヲ以テセリ  
 第五世「ヘンリー」ハ「アジンカード」地名ノ役ヲ記センカ爲メニ娘  
 火ヲ附ケ又其上ニ冕ヲ戴キテ「ブレードルス」即チ杜若ヲ用井  
 タリ此「ブレードルス」ハ唯通常ノ紫色ノ杜若ニシテ法蘭西ノ

第七世路易ノ「ホーレーランド」即チ「パレスチン」ニ起程スルニ  
當リテ此花ヲ以テ其表號ト做セシヨリ此名ヲ得タリ而シテ  
「ヘンリー」ハ法蘭西ノ王位ヲ要望セシガ故ニ此表號ヲ用井タ  
リ  
第六世「ヘンリー」ハ「ランカストル」地名ノ薔薇ヲ用井タリ  
第四世「エドワルド」ハ白色ノ薔薇ヲ用井タリ  
第三世「リチャルド」ハ白色ノ牡猪ヲ用井タリ  
第七世「ヘンリー」ハ「ウエールス」地名ノ紅色ノ龍ト吊門ト一輪ニ  
シテ白色及ヒ紅色ナル薔薇トヲ用井而シテ此兩分ニ着色セ  
ル花ハ「ヨーク」地名族及ヒ「ランカストル」族ヲ聯合セシコトノ名  
譽ヲ表センガ爲メニ用井タルモノナリ

第八世「ヘンリー」及ヒ第六世「エドワルド」ノ用井シ所共ニ第七  
世「ヘンリー」ニ同シ  
女王「メリー」ハ其公主タル時ニハ石榴ヲ着ケ又其即位スルニ  
及テ羽アル「タイム」ノ「トルース」ヲ井中ヨリ引曳スルノ圖ヲ用  
井タリ  
「イリサベス」女王ノ徽章ハ紅白ノ薔薇「フラードリー」及ヒ愛倫  
ノ堅琴ナリ  
第一世「ジェームス」ハ薔ヲ用井タリ  
吾儕嘗テ紋印學ノ趣旨ヲ陳述セル昔時ノ著書ヲ讀ミテ楯ノ  
形象ノ蹙ニ類似セルヲ以テ其形ハ亞瑞ニ像レルコトヲ假定  
セルモノヲ見シコトアリ又王及ヒ諸侯ノ楯ハ其支柱物即チ

現ニ此楯ヲ支柱スルモノニシテ正眞ノ形象若クハ怪異ノ形  
象ニ作爲セル物ヲ所有セリ而シテ數代ノ中ニ於テ我諸王ノ  
用井シ所ノ是等ノ支柱物ノ目錄ハ王ノ徽章ニ隨テ記載スル  
ヲ佳トス故ニ吾儕ハ茲ニ支柱物ヲ附録セントス  
第二世「リナヤルド」ハ二個ノ白色ナル鷲ノ跪ケルモノヲ用井  
タリ  
第四世「ヘンリー」ハ右側ニ金製ノ頸飾及ヒ鏈ヲ用井テ白色ノ  
鴻ヲ着ケ又左側ニ亦頸飾ト鏈トヲ以テ羚羊ヲ着ケタリ  
第五世「ヘンリー」ハ右側ニ冠ヲ被ムレル獅子ヲ着ケ左側ニ頸  
飾及ヒ鏈ヲ以テ白色ノ羚羊ヲ着ケタリ  
第六世「ヘンリー」ハ頸飾ト鏈トヲ以テ二個ノ白色ナル羚羊ヲ

用井タリ  
第四世「エドワルド」ハ右側ニ獅子左側ニ白色ノ牡牛ヲ用井タ  
リ  
第五世「エドワルド」ハ右側ニ獅子左側ニ白色ノ牡鹿ヲ用井タ  
リ  
第三世「リナヤルド」二個ノ白色ナル牡猪ヲ用井タリ  
第七世「ヘンリー」ハ右側ニ紅色ノ龍（「イウソル」及ヒ「オーペンク  
レンドウウエル」族ノ號）左側ニ白色ノ獵犬ヲ用井タリ  
第八世「ヘンリー」ハ右側ニ冠ヲ戴ケル獅子左側ニ紅色ノ龍ヲ  
用井タリ  
「ヘンリー」ハ右側ニハ白色ノ鷲ヲ用井左側ニハ獅子ヲ用井タリ

「イリサベス」ハ獅子及ヒ粗糲ナル龍ヲ用井タリ  
 第一世「ジェームス」ハ獅子及ヒ犀ヲ用井前次ニ蘇格蘭即チ「ジ  
 エームス」ノ本國ノ楯ノ支柱物ニハ二個ノ犀ヲ用井タリ  
 今吾輩ハ前條ニ記載セル所ノ簡畧ナル教告ニ於テ紋印學中  
 ノ殊ニ美觀ナル部分ニシテ少年ナル裝飾者ノ爲メニ最モ有  
 用タルベキモノヲ舉ケルコトヲ勉力シ了レリ而シテ我が讀  
 者ヲシテ更ニ一層ノ益有リテ且ツ全ク此妙ナル學課ヲ了解  
 セシメンガ爲メニハ吾輩之ニ告クルニ必ス紋印學ノ趣意ヲ  
 論述セル善長ナル書冊ヲ讀ムベキコトヲ以テセザルコトヲ  
 得ズ

凡ソ詩多ノ兵具ノ紋印兜飾等ノ因由ヲ窺フコトハ甚ダ快樂

ナルモノトス而シテ歴史ノ趣意及ヒ古人ノ教誨ノ義モ亦紋  
 印學ノ街區ニ於テ自ラ拾收スルコトヲ得ベシ

○少年ノ貴女ノ寫字檯

元來此童女筌ノ作者ニシテ秀才ナル「ミツシス、ケヤイル  
 ド」ハ既ニ前ニ於テ書簡ノ方式ニ關シ幼稚ノ兒女子ニ教  
 誨セシコトアリ然レドモ我が年長ナル讀者ハ此趣旨ニ於  
 テ更ニ教告セラレンコトヲ希望スル尙其長スルニ及ヒテ其  
 手ニ適當セシ鐵筆ノ殊異ナル用法ヲ教誨セラレンコトヲ庶  
 幾スルト同一様ナリ夫レ書簡ノ良善ナルハ書家ノ能ク教導  
 シテ熟達セシメタル確證ト謂フベシ夫レ「マードム、ドソビニ  
 アー」女子「マードム、トウ、デフマン」上同及ヒ其他法蘭西ノ書家ノ

寫字樓上ノ事ニ關シ解説セシモノ、世上ニ廣布シテ名譽不汚ナルモノ、如キハ蓋シ少齡貴女タル讀者ノ能ク知ル所ニシテ亦吾等ノ辨説ヲ待タザルナリ是等ノ貴女ハ必ス當ニ簡牘ノ書法ニ於テ特別ニ上天ヨリ賦與セララル、所有リテ尋常ノ童女ニ在リテハ之ヲ獎勵スト雖モ達スルコトアタハザル所ノ才能ヲ保有シタルモノト謂フベキナリ然レトモ人皆其始メニ於テ苦心勞力スル所アルニ由テ甚タ爽快ニシテ正當ナル書簡ヲ裁シ得ベシ而シテ其精熟ニ至ルモノハ唯習慣ノ然ラシムル所ニ由レリ

汝ノ朋友ニ書籍ヲ贈ルニハ其書辭ヲシテ可成的其人ト直ニ面話スルガ如クナラシメンコトヲ務メ決シテ嚴格ニシテ艱

澁ナル文章ヲ作ルコト勿カルヘシ都テ親情懇切ナル書簡ハ唯宜ク俗語ヲ活用スベキナリ且ツ汝ハ伶俐慧巧ナルモノニハ其書ニ於テ要旨ヲ含有スベシ若シ汝能ク讀書シ且ツ注心シテ汝ノ了解シタル所ノ智識ヲ活用スルトキハ從前修養セシ滿腔子ノ庫藏ヨリ感發スベク且ツ快樂ナル新舊ノ事物ヲ生成シ來ルコトヲ得ヘシ凡ソ嚴格艱澁ナル書翰ノ其含有セラル趣旨ニ於テ人ノ注意シテ領會シ得ル所甚タ少ク又其心ヲ感動スベキ所乏キモノハ假令巧ミニシテ且ツ正シク筆記シタリト雖モ之ヲ得ル人ナシテ快心ナラシムルコト能ハズ又其懇篤ナル意思ニ通セシムルコト能ハザル者ト知ルベシ就中交情親切ノ書ノ如キハ温和ニシテ談話スル如ク記セザル

へカラズ且ツ汝ノ書信ヲシテ受クベキ人ノ嗜好及ヒ性質ニ  
 適合セシメンコトヲ勉勵スヘシ果シテ能ク此意ヲ親認スル  
 トキハ互ニ好愛及ヒ懇切ノ情實ヲ表スルコトヲ得ベシ若シ  
 汝學藝才力遙ニ汝ヨリ超絶セル人ヲ得テ之ト書信ヲ通スル  
 コトアラバ汝ノ文辭ハ次第ニ進ミ善良ナル風致及ヒ慧巧ナ  
 ル品格ヲ増長スルニ至ルベシ且ツ汝ハ書詞ヲ記スルニ汝ノ  
 面談スル時ノ如ク喋々多言スルコトヲ謹ミ戒ムベシ若シ汝  
 ノ鄰人ノ過失若クハ不幸ノ事ノミニテ外ニ記スベキノ美談  
 好話アラザルトキハ筆ヲ止ムルヲ可ナリトス且ツ平素ニ書  
 記セル語ハ長ク消亡セザルモノニシテ其存スルノ久シキコ  
 ト往々筆者思想ノ外ニ出テ或ハ他人ノ手ニ傳播シテ遂ニ大

ナル不慮ノ災害ヲ醸成スルニ至ルコトヲ認記ス可キナリ  
 又自負矜誇スルコトヲ戒ムベシ夫レ自負矜誇ハ甚タ卑劣ナ  
 ル過失ニシテ其書記中ニ在ルハ言語上ニ在ルニ比スレハ一  
 層ノ大害ヲ生シ且ツ醜惡ノ至リナリ然レトモ是等ノ過失ハ  
 皆是一個ノ源泉アリテ是ヨリ流出スルモノナレハ先ツ此源  
 泉ヲ掃淨セザル可カラズ若シ能ク此意ヲ覺悟スルトキハ言  
 語上ニ在ルト書記中ニ在ルトニ關セズ其枝流ニ有ルモノハ  
 亦將ニ掃除シ去ラントス而シテ吾輩ノ謂ユル此源泉トハ即  
 テ記者ノ心意ヲ云ヘルナリ  
 今吾輩ハ汝ノ朋友ニ與フル書信ノ温和ニシテ且ツ言談ノ如  
 クナルベキコトヲ云ヘリ然レトモ更ニ汝ノ必ス大ニ文体ニ



注意セシコトヲ從憑セザルコトヲ得サルナリ  
而シテ汝ハ汝ノ語ヲ端正且ツ誠實ニシ汝ノ文法及モ正字學  
ヲ用非ルニ慎ミ又汝ノ文章ヲ過度ニ短ク過度ニ長クスベカ  
ラス

凡ソ少年生ノ書簡ヲ作ルニ通常ノ過失ト云フベキハ其粗暴  
ナルニ在リ是等ノ人ノ文章ハ甚ダ簡畧ニシテ結合セサルモ  
ノナリ又冗長ニシテ節度無ク贅字多キ文章ハ一層年長ナル  
者ノ作り出ス所ナリ抑簡畧ナル文章ハ一般ニ文休ノ勢力ヲ  
増シ且ツ之ヲシテ奇雅ナラシムルモノナルニ少年生ノ書牘  
ニ在テハ却テ其文ノ體裁ヲシテ斯ノ如クニ拙惡ナラシムル  
ハ果シテ何故ゾヤ吾輩謂ヘラク此過失ハ文ノ簡ナル處ニア

ルモノ少クシテ次條ノ文及ヒ書簡ノ他ノ部分ニ結合セザル  
カ爲メニ生スルモノ甚タ多キニ居ルナリ夫レ意思ノ陸續發  
出スルモノハ常ニ次序アリテ相結合スルコト能ハザルヲ患  
フ簡畧ナル文ハ殊ニ此意思ノ混雜シテ接續セザルヲ致スモ  
ノナリ故ニ始メニ汝ノ書記セント欲スルコトヲ悉ク想起セ  
シコトヲ工夫シ次ニ何等ノ趣意ナリト雖モ汝ノ想起シタル  
所ヲ記載シ盡シ文章ニ由テ此趣意ヲ分離セザランコトヲ務  
ムベシ是文章ハ固ヨリ此趣意ト謬合シテ相離ルベカラサル  
ヲ以テナリ且ツ汝ノ書記セント欲スル趣意ヲ結合シ又之ヲ  
シテ一段明亮ナラシムベキ所ノ接續詞即チ文章言語等ヲ接  
續スベキ詞ニテ「且」「又」等ノ類、及ヒ副詞即チ働辭ヲ助成スベ

キ詞ニシテ「巧ニ」「密ニ」等ノ類是等ヲ用井ルニ於テハ毫モ忌  
 憚スル所アル可カラズ又「雖然」「加之」「是故」等ノ語ハ少年ノ  
 手簡ヲ作ルモノ能ク活用スルコト能ハズト雖モ必ス之ヲ常  
 用セズンバ有ル可ラズ是等ノ語ハ文章ヲシテ明亮ニシテ温  
 雅秀美ナラシメンガ爲メニ大ニ有用ノモノタリ  
 又汝ノ書簡ノ發端及ヒ結局ヲ作ルニハ宜ク汝ノ常ニ通信ス  
 ル人ノ善文ニ則ル可シ乃チ汝ハ概テ錯謬少ナキヲ得ベキナ  
 リ而シテ時ニ汝ノ懇切ナル汝ノ信實ナル等ノ語ヲ記スルニ  
 臨ミテ其何ノ語ヲ用井テ正當ナルヤヲ知ラント欲シテ迷惑  
 スル所アルベシ是時ニ當テハ汝宜ク汝ノ通信者ノ此處ニ用  
 井タル詞ヲ一查スベシ是ニ由テ最善ナル教導ヲ受ケ得ルモ

ノナリ然レトモ其年齡ノ大ニ汝ニ長セル者若クハ其位階ノ  
 汝ニ勝レルモノニ對スルニ至リテハ此例ニ隨フコト能ハザ  
 ルナリ  
 嚴格ナル題言短章及ヒ長文ノ書簡等ハ皆其時ノ風習ト流行  
 トニ隨テ書記スベキモノニシテ決シテ狎テ鄙言俗語ヲ用井  
 ルコト勿ルベシ又斯ノ如キ短章書簡ハ通常第三人稱文法家  
テ我ヲ第一人稱トナシ汝ヲ第二人稱トナシニ於テ陳述スルヲ以テ其法ノ  
 温和ナランコトヲ務メテ煩辭多辯ニ流失スルノ弊害ヲ生ス  
 ルコト勿ルベシ而シテ吾輩ハ我が讀者ヲシテ嚴格ナル短章  
 或ハ長文ヲ正當ニ書記スベキノ文休ヲ知ラシメンガ爲メニ  
 之ニ勸ムルニ其良善ナル模範ヲ讀習シ且ツ是等ノ事ヲ書記

スベキ流行ノ法式ヲ適實ニ熟知セル人ノ例ヲ注目スベキコトヲ以テス是何事ヲ記スルニモ他ノ事件ニ於ルガ如ク時々流行スル式様ノ在ルヲ以テナリ

朋友ニ贈ル書簡ヲ作ル爲メニハ一ノ模範ノ適用スベキモノ有ルコト無シ是其書簡ハ事實悉ク其人ノ心胸中ヨリ發スル所ニアラザルヲ得ザレバナリ

斯ノ如ク少年貴女ノ寫字檯ニ關シテ論說スルノ際吾輩ハ此貴女ヲシテ其讀習スル書籍ヨリ其要畧ヲ抄録シ是ニ由テ大利益ヲ生ズベキコトヲ注目セシメント欲ス夫レ要畧ヲ作ルノ習慣ハ大ニ記憶ノ力ヲ増進シ善記スルモノ、文體及ヒ書風ヲ改善シ終ニ其要畧ニ據テ必用ナル書籍ヲ作成スルコト

ヲ得ルモノナリ而シテ是等ノ要畧ヲシテ前條ノ目途ニ應セシメンガ爲メニハ書目ヲ造リ母字ノ順序ヲ以テ之ニ文字ヲ記載スルヲ可ナリトス且ツ歴史ヲ讀ムニ方リテ是等ノ掌記冊一部ヲ常ニ座右ニ置キ一治世或ハ一時代ヲ歴觀シ了ル毎ニ其時代ニ存在セル卓越シタル記者ノ文ヨリ其要畧ヲ此冊中ニ抄記スルコトハ甚タ歎ズベキノ學則ト稱スベキモノニシテ例ヘバ「イリサベス」英國ノ女王ノ治世ヲ閱シ了ルニ方リテハ宜ク「シヤクスビー」ヤ人ノ文中ヨリシテ此王ノ代ニ存在セル人情時様若クハ形狀ヲ特別ニ記錄シタル章句ヲ拔萃シ「スペンセル」名ノ文中ヨリ詩句ヲ採リ且ツ「ラレイ」及ヒ「ベイコン」名ノ文中ヨリ此時ニ英國ニ存セル所ノ學術ノ情形ヲ表

示スル文ヲ拔萃スベシ且ツ此女王ノ時代ハ殊ニ卓越ナル記者ニ富メリ而シテ他ノ時代ノ事ヲ讀ムトキモ同シ方法ニ從テ許多ノ著述家ノ文ヲ拔萃セバ已レニ多分ノ知覺ヲ得ベシ而シテ同時代ノ文章家ノ中ニ就テ最稱譽スベキニ足ルモノヲ選ブハ豈快キコトナラズヤ且ツ法蘭西語若クハ日耳曼語ヲ以テ著シタル歴史他ノ何等ノ國ノ歴史ヲ讀ムニ於テモ亦此業則ヲ用井ルコトヲ得ベシ斯ノ如クニスルトキハ能ク法蘭西語及ヒ日耳曼語ニモ習熟スルニ至ルコト徒ニ尋常ノ方法ヲ以テ之ヲ學ビ得タル者ニ勝レルコト遠シトス

且ツ我掌記冊中ノ一部ヲ以テ自然萬物ノ著明ナル日記ト做サンモ亦可ナリ然レドモ此自然萬物モ日記トハ常ニ吾人ヲ

圍繞スル所ノ事物ノ中吾人ヲ感セシメシ所ノモノ若クハ英國中ニ季候ノ致ス所ノ間斷無キ變化ニ於テ吾等ノ注目セルモノヲ日々ニ記載スベキ所ノ書冊ヲ云ヘルコトニテ譬ヘバ吾輩カ此日記中ニ最モ初時ニ開キタル水仙若クハ蓮馨花ヲ目撃シ或ハ燕ノ始メニ來着セルト其歸去セルトヲ熟覽シタル月日ヲ記載スベク又本草學或ハ昆蟲學ニ於テ吾輩ノ發明シタル事ヲ記シ得ベク且ツ是等ノ觀察ヲ以テ他人ノ本草學上若クハ博物學上ニ吾輩ノ觀察セル事ト比對參考スルニ就テ是等ノ觀察ヲシテ一層有益ナラシムルコトヲ得ベキナリ故ニ斯ノ如キ日記ハ「セルボレン」街ノ「ギルベルト、ワイト」人ノ少年ナリシ時能ク記載シ置キシ所ナリ而シテ適宜ニ此日記

ヲ録スルコトヲ務メ吾輩ノ觀察シタル所ヲ以テ他ノ自然萬物ニ干涉シ經驗シ又熟練セル學者ノ觀察セル事跡ト參考スルコトハ唯ニ僅々ノ勞力ヲ以テ倣シ得ベキコトナリト雖モ是ニ由テ得ル所ノ快樂及ヒ改善ノ益ニ至リテハ決シテ淺少ナルモノニ非ザルナリ

且ツ親族タルモノ、中ニハ大抵海邊ニ住居スル人アリテ之ヲ訪フコトアルベシ此訊問ヲ爲スノ時ニ於テモ亦必ス此日記中ニ錄載スベキ事物ヲ看出シ得ルモノナリ而シテ海中ノ異形物浩漠タル景色ヲ歷觀スルニ就テ白頭翁、海草、貝、殼等ハ特別ニ記錄スルニ足レリ

又此貝殼ノ種類ハ之ヲ齎シテ海濱ヲ去リ内地ニ至リシ時之

ヲ取り耳竅ニ當テ靜ニ之ヲ聽クニ或ハ颯颯波濤ノ聲ノ如キ隱微ナル響音ヲ起シ是ニ於テ再ヒ大洋ヲ追望想像スルノ感情ヲ發シ得ベシキモノナリ

此寫字檯ノ趣意ヲ行フニ由テ得ル所ノ一個ノ他ノ自己ノ身ヲ修整改善スルニ干涉セル教告及ヒ聖智アル人ノ指示セル訓戒等ハ必ス信シテ之ヲ行フヘキナリ而シテ汝若シ能セハ先ツ日々ニ英語ノ名詞一ヲ筆記シ之ニ附錄スルニ其意味其同義ノ語及ヒ之ト相反スル所ノ法蘭西語、意大利語若クハ日耳曼語ヲ以テシ且ツ汝ノ保有スル方法及ヒ才能ニ隨テ此三國ノ語ニ於テ若クハ其一國ノ語ニ就テ此名詞ヲ用井タル數名ノ著作家ノ文中ヨリ其章句ヲ抄寫スベシ

譬へバ其語ナシテ次條ノ如クナラシムベキナリ

「フラウール」即チ花ハ法蘭西ニ「フレール」意大利語ニ「フィナレー」

ニシテ同義ノ字ナシ又「シャツクスビーヤ」ノ文ニ

汝ノ爲メニ此處ニ花アリ而シテ其花ハ香烈ナル「フヴェ

ンダ」即チ香草ノ一種又「ミンツ」即チ香草ノ一種ニシテ辛

味アル油液ヲ生スル者ナリ「サボレイ」即チ香草ノ一種割

烹シテ食フベキ者ナリ「マーシヨラム」即チ草名數種アリ

是等及ヒ露ノ沾濡流涕シテ太陽ト與ニ寢所ニ至リ且ツ

之ト共ニ起ル所ノ金盞アリ

何人カ此亞非利加ノ極熱ノ荒漠地ニ於テ此花ニ就テ「バイヤ

ン」人ノ名ノ歡喜セル事ヲ想起セザル者アラシヤ又「モンゴバーク」人ノ名

ノ感歎スヘキ語ヲ以テ記錄セルモノアリ曰ク此野蠻ナル國

ノ中心ニ在テ艱難勞力シ且ツ憂心鬱陶タルニ當リテハ此花

ノ人意ヲ感動セシムルコト實ニ鴻大ナルモノナリト彼ノ「バ

イヤン」及ヒ「モンゴバーク」ハ皆亞非利加ノ荒野ヲ蹈テ經驗セ

シニ數日ノ間沙漠ノミニシテ一草ヲダモ見ザリシニ偶然一

花ヲ見テ大ニ感喜シタリシ人ナリ

法蘭西語ニ於テハ云々「ホウイツト」「マダムローラン」

其譯 夫レ花ヲ見ルコトハ余ガ意思ヲ欣慰スルコト互ニ相

慈愛スルノ時ノ如ク又余ガ感覺ヲ樂マシムルハ實ニ名狀シ

難キニ至ルモノナリ而シテ余ハ予ノ幼時ヨリ父ノ屋中ノ寧

靜ナル保護ノ下ニ花及ヒ書籍ヲ以テ養育セラレシガ故ニ牢

獄ノ監室ニ在テ鏈ヲ以テ繋ガル、時ト雖モ此花ト書籍トアルガ爲メニ他人ノ不正ト其罪業ト余カ自己ノ愁歎トヲ一齊ニ忘却スルヲ得タリ

意大利語ノ例アリ云々「ピートロ、メタズタシオ」

其譯 人ハ花ヲ採摘シテ之ヲ拔クコトアリ夫レ花木ノ寒氣ト風雨トニ遇テ之ガ爲メニ挫屈セズ又時候ノ屢變易スルニ關係セズ暴風ノ爲メニ壓抑セラレズ斯ノ如クニ上天ニ愛護セラル、モノヲ人トシテ暴ニ之ヲ折り之ヲ拔キ遂ニ以テ枯稿セシムルニ至ルハ抑何ノ心ゾヤ

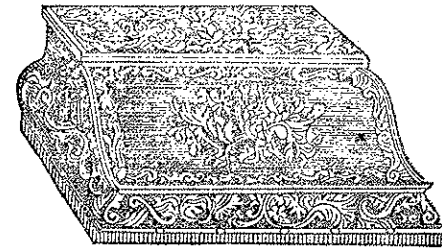
今茲ニ掲クル所ノ例ハ言語ヲ學フニ於テ斯ノ如キ方法ニ從フトキハ必ス大利益ノ生ズベキヲ表示スルコト既ニ十分ナ

リト云フベキモノニシテ即チ斯ク必要ナル考究ニ由リテ積畜シ得ル所ノ知識ト之ニ由リテ逐次ニ學ビ得ベキ所ノ語法ヲ善クスルノ才能トヲ云フモノナリ

吾儕ハ又少年貴女ノ寫字權ニ於テモ必ス帳簿ヲ有センコトヲ期望セリ何トナレバ多種ノ事業ヲ勉メ且ツ心性ヲ養成スルニ方リテハ所得金ヲ適宜ニ整正シ寛洪ニ經濟ヲ施スコトハ決シテ怠ルベキニアラザレバナリ

然リ而シテ此貴女ハ其受納セル貨幣即チ其管理シ得ル所ノ貨幣ハ假令其額數甚タ些少ナリトモ皆之ヲ此一小冊子ノ半葉ニ記載シ又此半葉ニ反對セル半葉ニハ其費セシ所ノ貨幣ハ「ペンニー」ニ至ルマデ悉ク之ヲ記載スベシ而シテ半葉毎

第三百三十六圖



ヲ省察セシムベシ

書簡ノ方法

ニ此二額ヲ總計シ以テ其費用ヲ其受納即チ所持金ヨリ減シ其殘額當時ノ所持金ハ更ニ次條ニ記載スベシ

果シテ斯クノ如クニスルトキハ能ク輕忽ニ貨幣ヲ浪費スルコトヲ停メ且ツ己ニ簿中ニ記セシ實事ノ確乎タルモノナレバ自然此少年貴女ノ掌簿者ナシテ自ラ其微小ナル家産ヲ有スルノ身ヲ以テ自負傲慢ニシテ且ツ輕忽ナル行跡アリヤ若クハ能ク克己精儉ニシテ用ヲ節シ且ツ仁善ナリヤ

衆多ノ少齡童女ハ其學校ノ朋友ノ相親ミ相愛スルモノト離群索居スルニ當リテ能ク書簡ヲ作ルノ方法ヲ知り得ルトキハ必ズ之ト音信消息センコトヲ願フベシ而シテ吾儕ハ我少年ナル朋友ニ對シ其書簡ヲ作ルニ文體ノ巧妙ナランコトヲ庶幾スベシ唯談話スル所ノ意思ノミヲ記寫スルトキハ之ヲ倣スノ容易ナルコト大ニ其想像スル所ニ超ユメキヲ保證シ得ルモノナリ然レトモ其意思ヲ十分ニ紙上ニ陳列スル能ハザル者アラバ吾輩ハ之ニ忠告スルニ其「グアイ、ス、ジャウエナイル、レツター、ライター」書名、「グアイ」ハ此書ノ著者ノ名「ジャウエナイル、レツター、ライター」ハ少年ニシテ書簡ヲ記ス若クハ「コツクス、レツター、ライター」書名、「コツクス」ハ人ト云フ義若クハ「コツクス、レツター、ライター」記者ノ名「レツター、ライター」ハ書簡ヲ閱讀シテ此書ヲ著ハセル人ノ意ヲ會記寫スル人ト云フ義



得スベキヲ以テスベシ而シテ此書ハ種々ノ趣意ヲ表スル書  
簡ノ例ヲ揭示セシモノナリ然レトモ汝ハ唯此例ニ於テ得ル  
所ノ文ヲ模寫シ之ヲ以テ自己ノ書簡トナシテ汝ノ父母ニ贈  
ルコト勿レ是父母ノ後日書冊中ニ於テ此文ヲ看ルニ方リ大  
ニ悦ハザルノ意アル可キヲ以テナリ是故ニ獨汝ノ記スベキ  
事件ヲ整列スルノ方法ヲ學習センガ爲メニハ上條ノ書籍ヲ  
閱覽シ汝ノ書簡中ノ趣意ヲシテ實ニ汝ニ生スル所ノ事件ヨ  
リ外ナラシム可ガラズ

例

「ジャン」人ヨリ其母ニ寄スル文

千八百何年第一月三日

余ガ貴愛スル母

「ジャン」人ハ汝ノ其手簡ニ報酬セル書ヲ閱シテ大ニ喜樂セ  
シガ此夕吾儕ノ後段即チ食後ニ映スル所ノ葉實ヲ云フヲ喫センガ爲メニ退  
クニ當リテ彼ハ汝及ヒ父君ニ呈センガ爲メニ甚々謹テ其習  
字本ヨリ一ノ抄本ヲ寫記センコトヲ勉メ且ツ「アンヌ」人モ亦  
力ヲ盡シテ石板上ニ文字ヲ作り言語ヲ綴ルコトヲ勉メ「ジャン」  
人モ如ク汝ニ贈ルベキ手簡ヲ作り得ルニ至ランコトヲ欲  
望セリ

且ツ吾輩ハ昨日朋友等ト水晶宮ニ至リシガ該宮ハ實ニ歎美  
スルニ堪エタル地所ナリキ

貴愛スル母君請フ汝ヲ熱愛スル女兒ヨリノ此書簡ノ短

キヲ恕センコトヲ

「ジャン」

「ウィルシム」名ヨリ其姊或ハ妹ニ寄スル文

一千八百何年第四月四日

余ガ貴愛スル姊或ハ妹

余阿母ノ耶蘇更生ノ祭日ニ余ヲシテ家ニ歸ラシメンコトヲ  
期望セリ然スルトキハ汝ト余ト共ニ快樂ニ逍遙スルコトヲ  
得ベシ且ツ余深ク汝ニ相見シテ余カ學校ニ在リテ做ス所ノ  
事ヲ悉ク汝ニ告ケ而シテ家内ノ新異ナル事ヲ悉ク汝ヨリ聞  
カンコトヲ樂メリ

余カ貴愛スル姊或ハ妹余ハ汝ヲ熱愛スル所ノ兄或ハ弟

ナリ

「ウイレム」

「アンス」名ヨリ其阿母ニ寄スル文

一千八百何年第一月十四日

余カ貴愛スル阿母

余ハ汝ノ余カ拙筆ヲ笑ハザランコトヲ欲望セリ而シテ余ハ  
正ニ筆記シテ余ノ在留スルコトヲ報告ス

汝ヲ熱愛スル女兒

「アンス」

○啼鳥

鳥ヨ鳥ヨ汝ハ汝ノ地ニ歩ムベキ足及ヒ汝ノ雲ニ翔

ルベキ翼アリテ美麗ナル活物ナリ且ツ人ノ何ノ處  
ニ周遊シ何ノ處ニ居住スルモ汝ハ能ク來訪スルコ  
トヲ得ベシ美麗ナル鳥ヨ

此語ハ人ニ蓄養セラル、ニ於テ無量ノ幸福ヲ受ケ得ル所ノ  
動物即チ猫兒羊仔若クハ狗子ノ如キモノヲ飼ハン爲メニハ  
善良ナル規則ト云フベシ然レトモ知更雀ノ如キ野外ニ翱翔  
スル者ヲ籠中ニ幽囚スルカ如キ不仁ナルコトハ假令五十頭  
ノ鳥ノ價直ヲ出スレ余ハ肯テ做ササル所ナリ何トナレバ汝  
ハ此鳥ヲシテ其曠野ニ在テ日影及ヒ花中ニ縱遊セル時ニ享  
ケ得タル所ノ幸福ノ半ニモ至ラシムルコト能ハザルヲ以テ  
ナリ然レトモ吾輩ハ猶能ク衆人ノ鳥ヲ畜養スルコトヲ止メ

ザルベキ習慣ノ甚ダ然ルベキ所以ヲ判知スルヲ以テ務メテ  
其意ヲ解明スルナリ夫レ天地間ニ飛行スル活物ヲ捕縛シテ  
其自由ノ權ヲ奪ヒ徒ニ自己ノ私情ヲ樂マシメンガ爲メニ之  
ヲ籠中ニ養ヒ僅々ノ快樂ヲ受ケシムルニ至リテハ則チ可及  
的ノ力ヲ竭シテ之ニ與ヘ得セシムベキ安慰ハ皆必ス之ニ給  
スルコト是即チ神ノ命スル所ノ義務タルコトヲ我が少年ナ  
ル讀者ニ感得セシメザルコトヲ得ズ

○福島鳥

此活潑ニシテ且ツ好愛スベキ福島フクシマノ小啼鳥ハ一家族ノ住居  
毎ニ必ズ畜養セザルベカラザルモノナリ  
斯ノ如ク雅美ニシテ愛スベキ小啼鳥ハ詩人ノ他ノ諸般ノ羽

翼アル啼鳥ヲ評スルニ於テ必ス潛心シテ查究シ又輕忽ニセシモノニシテ從來溫熱ナル國土ヨリ舶齎セル者ナレトモ今ハ全ク英國ノ風土ニ慣レテ此ニ生産スルニ至レリ然レトモ唯家室中ニ畜養セラルヽノミニテ決シテ野外ニ生スルモノ有ルコト無シ而シテ此鳥ハ今世上ニ一般流布シ吾輩諸方ノ鳥籠ヲ見ルニ此啼鳥ヲ看ルコト最モ多ク他ノ衆鳥ノ種々ナル美毛ヲ有スルモノヲ見ルノ多キニモ勝ルニ至レリ凡ソ福島鳥ノ啼聲ハ甚タ可憐ナルモノニシテ且ツ大概人ノ聲音ヲ爲シ或ハ囀リ或ハ嘯クニ由リテ自在ニ之ヲ恣憑シ囀嘯セシムルコトヲ得ルモノナリ且ツ此鳥ハ久シク默止シ人ノ談話ヲ聞クニ及ヒテ忽然興起シテ囀唱ノ聲ヲ發スルニ至ルモノ

往々之アリ此時ニハ倦怠セズシテ能ク久シク發聲スルモノニシテ其籠上ニ手巾ヲ掩ヒ之ヲ沈默セシムベキ策ヲ施スヲ緊要トスルニ至レリ  
一個ノ福島鳥ヲ選拔スルニハ宜ク此鳥ノ最モ淡色ニシテ勇悍ナル容貌ヲ表シ眼目炯炯ニシテ善ク端直ニ起立スルモノヲ取ルベシ且ツ須ク汝ノ買驢スベキモノヲ決定スルニ先チ汝ノ要需セント欲スル所ノ一個ヲ別ニ一個ノ籠ニ入レ其囀唱スル聲ヲ聽カザルベカラズ是此鳥ハ其聲音ニ於テ甚タ重要ナル所アレバナリ若シ汝福島鳥ヲシテ雛ヲ生ゼシメンコトヲ欲セバ先ツ孵卵籠及ヒ巢ヲ作ルベキ物質ヲ備フルヲ以テ緊要ト做ス而シテ此孵卵籠ト呼フモノハ鷗鳥ヲシテ其巢

ヲ作ラシメンガ爲メニ二個ノ箱ヲ具フルモノニシテ又此物質トハ苔羽毛及ヒ細微ナル乾草ヲ云フナリ此籠中ニ懸クベキ小綱ハ鳥僻人ヨリ容易ニ之ヲ購ヒ得ベシ而シテ後ニ雛ヲ生マシメンガ爲メニ最モ強壯ナル福島鳥ヲ選ビ第三月ノ中旬ニ雌雄ヲシテ共ニ一個ノ小籠中ニ在ラシメ其葦尾スルヲ認テ更ニ之ヲ孵卵籠ニ移スベシ即チ四五日ヲ過ルニ及テ巢ヲ作ルコトアラントス此鷓鴣鳥ハ凡ソ三個乃至五個ノ卵ヲ生ミ十四日ニシテ此卵ヲ孵スモノナリ而シテ此鳥交尾スル時及ヒ其雛ヲ保有スル時ニ當リテハ宜ク之ニ與フルニ烹熟シタル卵惣包ノ小片及ヒ「モーシード」草實ノ名ナリヲ以テシ且之ニ混合スルニ皮ヲ剥キタル菜種少許ヲ以テスベク又時々「カツペー」

デ、レツチユース」一種ノ葉二三片及ヒ種子アル鵝鳥菜ヲ與フベシ而シテ第六月及ヒ第八月ニ至リテハ芭蕉ノ實ヲ與フベシ斯ノ如クニシテ此雛ノ漸ク長シテ自ラ能ク巳ノ食物ヲ取リ得ルニ及テハ宜ク之ヲ各別ノ籠ニ入レ且ツ之ニ與フルニ烹熟シタル蛋黃ト皮ヲ剥キタル菜種ト些少ノ白麵包ト「モーシード」ノ少許トヲ混合セル者ヲ以テシ各日々之ヲ新ニス可シ而シテ其羽毛ノ全ク脱換シ了ルニ及テハ宜ク其老鳥ノ如ク之ニ食マシムルニ菜亞麻及ヒ「カナリ」栗ノ屬ノ實ヲ以テシ就中此實ヲ多ク與フベシ且ツ此孵卵籠ノ位置ヲシテ能ク朝日ノ光線ヲ受ケ得ヘカラシメ又天氣ノ温暖ナル時ニハ宜ク窓戸ヲ開テ之ニ新鮮ナル空氣ヲ與フベシ又此籠ヲ全ク清淨

ニナシ且ツ之ニ充タスニ清淨ニシテ乾燥シタル細小ノ石若クハ砂ヲ以テシ能ク務メテ倦怠ナカラシムコトヲ要スルナリ凡ソ福鳥鳥ハ其羽毛ノ脱換スル時ニハ皆之ガ爲メニ鬱憂シ温暖ニ蓄養セラレシコトヲ要スル者ナリ故ニ太陽ノ暖熱ナル光線ヲ射入スルトキニハ必ス之ヲシテ此光線ヲ受クルコトヲ得セシメ養生ニ適スル食物ヲ與ヘ其飲ム所ノ水ノ中ニ洎夫籃若クハ甘草ヲ置カザルベカラズ

且ツ此福鳥鳥ニ疾病アリ即チ其一ヲ「ビツブ」鳥ノ病ト云フ肚門ノ邊ニ發スル小瘡ナリ之ヲ療治センガ爲メニハ宜ク針ヲ以テ此瘡口ヲ截割シ其毒膿ヲ出シテ後ニ細末ニシタル濕氣多キ棒砂糖少許ヲ適用スベシ又其二ハ「イーロロー」スカダト

稱シ頭部及ヒ眼中ニ生スル病ニシテ少許ノ新鮮ナル牛酪若ハ豕脂ヲ貼スルヲ以テ佳ナリトス又其三ヲ「サーフアイト」即チ食傷ト爲ス而シテ此病ハ寒氣ヨリ發シ若クハ綠色ノ物ヲ過度ニ食ヒシヨリ生スルモノニシテ能ク神速ニ注意スルニ非レバ遂ニ其鳥ヲシテ斃レシムルニ至ラントス且ツ此病ニ於テハ其腹部膨脹シ小ナル紅色ノ條文ノ之ニ充實スルモノアルベシ而シテ此病ヲ救療センガ爲メニハ宜ク此鳥ノ食物ノ中ニ燕麥ノ粉末少許ヲ加入シ且ツ二三日ノ間之ヲ温暖ニ畜養スベシ

### ○金鰐

「ユーベル」氏ノ金鰐鳥ニ擬スル詩ニ曰ク余が曾テ空

氣ノ如ク自由ニ翱翔スルニ方リテハ割ノ毳毛ノ如キ種類ニ於テ余ガ食ヲ得又結朝ノ露ヲ以テ飲料ト做シ處々ノ小枝ニ棲息セリ而シテ余カ容ハ美ニ余カ羽ハ華ニシテ又余カ歌ハ發音毎ニ新奇ナリ

金鸛鳥ハ英國ニ生スル諸鳥ノ中ニ於テ最モ美麗ニシテ數色ヲ具ヘタル羽毛ト喜ブベキノ好音トナ併有シ其聲色共ニ福島鳥ニ劣ラザルモノニシテ其種多ク生産セザルナリ

此鳥ハ甚タ伶俐ナルニ由リテ却テ其身ニ禍ヲ生シ傍觀者ノ之ヲシテ強テ戲耍ノ態ヲ做サシメ以テ衆人ノ既ニ遊ニ倦テ欠伸シ此鳥ノ戲耍ヲ做ス所以ヲ能ク了解セザルモノヲ慰メテ無情ナル惡事ヲ做シ且ツ樂ム者アルニ至レリ此時ニ當リ

テ衆人ノ此鳥ヲシテ強テ戲耍ノ技ヲ遂ケシムルコトハ實ニ其性ニ戾レル者ニシテ固ヨリ嚴刻ニ之ヲ苦痛セシムルニ因リ漸次ニ能ク做シ得ベキコトナルヲ注心察知スルモノ極メテ少キナリ

凡ソ人ノ彼ノ鳥ノ技藝ヲ做スヲ看ント欲シテ其觀場ニ往クモノハ小鳥ノ做シ得ル所ノ興味アル戲耍ヲ樂ミ其掌ヲ拍ナテ笑玩スルガ如キハ豈福島鳥ノ梯ノ一欄ヨリ他ノ欄ニ跳飛スルハ其羽ヲ綁束シ且ツ其脛ト腿トニ銳利ナル釘ヲ着ルニ由テ已ムコトヲ得スシテ上リ飛ヒテ其技ヲ做スコトナルヲ察知シ得ルモノナランヤ又斯ノ如キノ人ハ金鸛鳥ノ針金ヲ以テ作レル圓壘ヲ縈回シテ跳躍シ又風磨ヲ回轉スルハ其圓

罽ノ上ニ在ルトキニ針金ヲシテ熱カラシムルカ故ニ其足跡  
 ナ焦爛スルコトヲ苦ミ巳ムコトヲ得ズシテ跳躍スルノ原由  
 ナ辨解セズ又彼ノ爆火箭及ヒ「カゼリン、ウヰール」即チ眉間尺  
 ノ如キ環烟火ノ技ヲ倣スノ際動カズシテ居ル所ノ小動物ハ  
 元來其明ヲ失ヒシモノニ非ズト雖モ熱鉄ヲ其目ニ近ツケテ  
 之ヲ燒キ遂ニ徒ニ生育シテ此烟火ノ閃光ヲ見ルコト能ハザ  
 ラシメ且ツ屢其耳邊ニ小銃ヲ放チ之ヲシテ暴ニ襲ナラシメ  
 シガ故ニ遂ニ火藥爆裂ノ響ヲ聞テ畏縮スルコト無キニ至リ  
 能ク此技ノ終ルマデ動カザルコトヲ得ルモノナルコトヲモ  
 悟ラザルナリ

此金鵒鳥ヲ飼養スルニ其老タルモノニハ福鳥實及ヒ菜種ヲ

以テ食物トシ又其少キモノニハ麵包ト乳汁トニ搗碎セシ菜  
 種ヲ混シテ之ニ給スベシ而シテ苣鵒鳥草「エンダイブ」一種或  
 ハ水胡椒ノ如キ瑣小ナル青草モ時トシテ用井テ可ナリ  
 金鵒ハ健康ナル鳥ニシテ少シク注意シテ其ヲシテ清潔ナラ  
 シメ且ツ適宜ナル食物ヲ給シテ養フトキハ他ノ籠鳥ノ如ク  
 容易ニ疾病苦痛アルニ至ルコト無シ若シ汝ノ愛養スル家禽  
 ノ麻實ヲ過度ニ食フヲ以テ痙攣病ニ罹ルコトアラバ宜ク遽  
 ニ其麻實ヲ去リ更ニ之ニ換フルニ苣若クハ薊ノ種ヲ以テシ  
 又之ニ給スル所ノ水中ニ洎夫籃ヲ入ルベキナリ又其疾ノ益  
 劇キニ至リテハ其食中ニ白堊ノ小塊ヲ混和セザルコトヲ得  
 バ若シ其目ノ疲勞シテ腫脹スルモノハ屢之ヲ洗淨シ猪油及



ヒ新鮮ナル牛酪ヲ塗り傳クルヲ佳ナリトス

### ○大鷲

大鷲ハ鷦ノ如ク其鳴聲ヲシテ音調曲度アリテ以テ快活ニ歌フコトヲ得セシムベシ而シテ之ヲ教フルノ方法ハ其胃腑ニ關スルモノニシテ第一ニハ其飢ル時ニ之ヲ教ヘ第二ニハ其技ヲ奏スルノ後ニ即チ食ヲ與フルノ二個ニ過ギズ此外ニ他ノ殘忍ナルコトヲ做スヲ要セズ蓋シ其胃腑ノ空虚ナル時ヲ以テ之ニ音調ヲ教授スルノ最モ好機會ト做ストキハ則チ其胃ヲシテ充滿セシムルハ至善ナル褒賞ト爲スベキナリ而シテ斯ノ如ク胃腑ニ關シテ之ヲ誘ヒ試ミルモ能ク之ヲ勵マシテ其技ヲ做サシムルコトヲ得ズ且ツ直チニ其心ニ感通セシ

ムル能ハザルカ如キ鳥獸ハ蓋シ稀ナリト云フベキナリ

大鷲ノ羽毛ハ其同種ノ金色ナル者ノ羽毛ニ及バズト雖モ亦甚タ華麗ナルモノナリ且ツ其頂上ノ黒キハ之ヲシテ金鷲ノ有セザル所ノ威風容色アラシムト云フベキナリ又其体格ノ壯麗ナルハ實ニ賤ムベキニアラズ

大鷲ノ適應ナル食料ハ菓實穀物及ヒ種々ノ菓實ナリ又常ニ八時間水中ニ浸セシ菜根ヲ食ハシムルヲ佳トス而シテ鵝鳥草、水胡椒、萱、若クハ小ナル菓實ノ如キモ時ニ或ハ給與スヘシ又其籠ノ底ハ常ニ清潔ナル洲砂ヲ布撒セザル可ラズ而シテ此鳥ノ羽毛脱シテ更ニ新毛ノ生スル時ニ當リテハ其飲ム所ノ水中ニ丁子ヲ置クヲ可ナリトス

## ○金絲黃雀

金絲黃雀ハ一ノ啼鳥タリト雖モ人甚タ之ヲ貴重セズ然レドモ其聲調ハ甚タ爽快ニシテ愛賞スベシ而シテ其体小ニシテ快活ナル一種ノ飛禽ナリ又此鳥ハ善良ナル建築者タルノ名譽ヲ得タリ何トナレバ其巢ヲ蔽フ所ノ苔ハ實ニ精美ナル技倆ニシテ唯詩人ノ虛稱スル所ノ如キニ非ス且ツ眞ニ大ナル練熟ニ由リテ構造スルコトヲ表スル所アレバナリ而シテ善ク其巢ノ裡面ヲ覆フヲ以テ其寧居スベキハ一目シテ知ルベキナリ又内外兩面ヲ構造スルハ則チ鷓鴣鳥ノ熟練ニ因テ雄鳥ノ如キ力ヲ有セズト雖モ能ク之ヲ成就センコト亦疑ヲ容レサルトコロナリ

又金絲黃雀ハ自由ニ翱翔スルノ時ニ當リテ季候ニ隨ヒ其食料ヲ變易セリ即チ春夏ニ在リテハ昆蟲ヲ捕リテ之ヲ食ヒ秋冬ニ至リテハ草實ト穀穗トヲ常食トス又其籠中ニ幽セララルニ及ヒテハ一般ニ水ニ浸セシ菜種ヲ食フテ活存セリ然レトモ春ニ方リテハ宜ク些少ノ麻子ヲ給スベシ是ハ籠中ノ菜ヲ給スル所ノ抽斗ニ反對シタル一側ニ更ニ一個ノ抽斗ヲ設ケ之ニ入レテ給スルヲ可ナリトス而シテ過度ニ之ヲ給スルハ往々此鳥ヲシテ盲ナラシムルノ恐れアリ又冬ニ方リテ其羽毛ノ脱換スル時ニハ「ミール、ウオルム」名蟲或ハ蟻ノ卵ヲ時々給セザル可ラズ且ツ籠ニハ常ニ新鮮ナル水ヲ有スル所ノ浴盤ヲ附着スベシ然セザルハ其鳥ノ疾病ヲ生ズ可キナリ又其

飲ム所ノ水ニハ時々其遲鈍ナルニ至リシ時ニ些少ノ洎夫籃  
若クハ鏽釘ヲ入レザル可カラズ

## ○鶯

「ミルトン」氏ノ詩ニ曰ク嗚呼黃鳥日暮林樹ノ沈靜ナ  
ルニ至リシ時ニ彼ノ開花爛熳タル枝上ニ於テ汝ノ  
宛轉タル聲ヲ發セバ其春光ノ來ルヲ表スル故ニ春  
心ヲ懷ケル人ヲシテ歡喜快樂ノ情ヲ起サシムベシ」

鳴鳥中ノ女王ト稱スベキ此鳥ノ綿蠻タル聲ハ通常大都會ノ  
近傍ニ在リテハ聽クコトヲ得ズ一千八百六十四年ノ夏ニ「バ  
ーシングハム」府名ノ近傍一二里ヲ出デザル地ニ於テ此鳥唯一  
個其愛スベキ單音ヲ發セシコトアリ爾時衆人之ヲ聞得ント

欲シ此鏡ヲ製造スル所ノ一都會ヨリ黃鳥ノ在ル處ニ向テ群  
集シケルニ其地ノ本主衆人ノ已ガ田地ヲ通行シ其刈禾ヲ蹈  
着シ又灌木茂林ヲ焚スルガ爲メニ之ヲ防ガンコトヲ欲シ  
己ムコトヲ得ズシテ遂ニ喜ブベキ啼鳥ヲ彈殺スルニ至レリ  
夫レ無情殺風景ナル人モ鶯ノ啼聲ヲ聽カンガ爲メニ數里ノ  
外ニ往クモノアリ然レトモ是等ノ人ノ徒ニ可憐ニ啼聲ヲ聞  
キ曾テ其心ニ感動シ其行ヲ改善スルモノ、無キハ亦悲ムヘ  
ク憫ムヘキノ至リナラズヤ今爰ニ鶯ノ聲調ニ關シ其狀ヲ記  
載スルハ緊要ナラザルガ如シト雖モ衆人モ皆其音調ノ高尚  
ナルヲ知ラザルモノ無シ是故ニ「ジェシニ」、リンド名ヲ稱シ  
テ瑞典ノ鶯ト號スルハ其音曲ニ秀逸シ實ニ斯名稱ヲ受クル

ニ適當スルヲ以テナリ

蟻卵或ハ熱湯ヲ以テ殺セル蟻ハ以テ驚ヲ養フベシ然レトモ  
此鳥ヲ籠中ニ保持セント欲スルハ眞ニ難事ト云フベシ若シ  
一度之ヲ捕テ籠中ニ有スル時ハ其固有ノ好音ヲ失ヒ且ツ人  
ヲシテ失望スル所アラシメ直ニ其體ニ感觸シ遂ニ死亡スル  
ニ至ルヲ以テ日暮寂寥ノ時ニ當リテ其棲止スル所ノ茂林中  
ニ就テ其音調ヲ聞クノ善キニハ如カザルナリ

○知更雀

「サツクリング」氏ノ詩ニ曰ク茲ニ小樹林アリ第四月  
ニ方リ雨滴リ濕氣透ルガ故ニ第五月ニ至テ綠葉蔭  
鬱タリ而シテ此茂林ノ上ニ美麗ナル知更雀及ヒ鶯

鶯ノ震聲ヲ以テ其音調ヲ發揚スルモノアリト

「ボープ」詩人氏時世ノ變革衰替ヲ悲歎シテ詩ヲ賦セリ

昔時ノ知更雀ハ之ヲ捕フル者無キヲ以テ寧靜ナリシ又  
兒童ノ「マルラン」一種ノ巢ヲ搜索シテ之ヲ捉ル者無カリ  
キ

方今ノ時ハ一千七百年紀即「ボープ」ノ時代ニ比較スレバ一般  
ノ禽屬ニ關シ特ニ此知更雀ニ係リテモ轉變ノ情態多カラズ  
トセズ蓋シ人間ノ意思ニ於テ改良スル所アリヤ否ハ吾輩敢  
テ說破スル能ハズト雖モ余ガ觀ル所ニ由テ考ナルニ方今ノ  
知更雀ハ唯妄リニ捕ヘラレタルノミナラズ夫三人ニ愛育セ  
ラル他鳥ヲ品格知更雀ニ勝レル者却テ不幸ニ悲歎シテ之ヲ

夫ハコト多ク是等ノ鳥ハ必ズ其運數ヲ短更雀ト變換センヨ  
トヲ希望スベシ而シテ今此鳥ノ寒氣ニ苦ミ饑餓ニ迫リ善ク  
人ニ親狎スルニ至レル時ニ非サルヨリハ吾等能ク十分ニ縱  
覽スルコトヲ得ザルナリ  
凡ソ知更雀ノ啼聲ハ固ヨリ微弱ナリト雖モ其全ク口ヲ開テ  
發音スルニ方リテハ亦貴ブベキ所アリ其悲歎スル音調ノ如  
キハ沈靜ナル聽者ノ爲メニ却テ其意ヲ慰ムルニ足ルモノナ  
リ然レトモ亦時々激發シテ人ヲ惱殺スベク驚動スベキ銳利  
單一ノ聲音ヲ揚ルコトアリ斯ノ如キ時ニ當テハ其鳥ノ胸膈  
中ニ傷害スル所有リテ然ルモ亦知ル可ラズ大ニ聽者ノ心意  
ヲシテ慣々然タラシメ從來愛好セルモノモ遽ニ嫌ヒ憎ミテ

之ヲ放棄セント欲スルノ情ヲ起スニ至ルコトアリ此知更雀  
ハ世人ノ居常ニ畜養セザル者ナレバ其食物ニ於テモ精細ナ  
ル方法ノ指教ヲ要求セザルベシ是故ニ唯習俗ノ法ニ隨ヒテ  
日々其隱ヨリ廻包屑ヲ與フルヲ佳ナリトス此鳥モ亦此少許  
ノ恩賜物ヲ悅ヒ愛ケテ饜足ノ想ヲ做スベシ

○紅雀

「ドライテン」氏ノ詩ニ曰ク彼ノ雲雀及ヒ紅雀ノ相競  
フ聲ヲ以テ共ニ吟嘯スルコトヲ注意スベシ是等ノ  
鳥ハ春光ヲ迎ヘンガ爲メニ巧ニ其音ヲ發スベキ喉  
嚨ヲ勞動セリ

紅雀ハ一般ニ人ノ愛スル所ニシテ殊ニ日耳曼國ニ於テ最モ

寵遇セラル、ガ如シ英國人ト雖モ之ヲ貴重セザルニ非ズ是  
其羽毛ハ絶美ナラザレドモ其囀聲ハ甚タ愛スベキヲ以テナ  
リ且ツ此鳥ハ他禽ノ體質薄弱ナルガ爲メ或ハ年齡ノ老衰ス  
ルニ由テ其聲ノ發セザルニ至ル比ヒニ却テ能ク音聲ヲ振揚  
スルヲ以テノ故ナリ又此鳥ノ吟聲ハ突然トシテ發出スル短  
音ノ混和セルモノニシテ甚タ珍奇他ニ異ナル所アリ  
而シテ此禽鳥ニ於テ青綠色黑赤色黃色灰色等其色ニ由テ區  
別スル所ノ種類數多アリ然レドモ是等ノ色ノ殊異ナルハ決  
シテ種属ノ異ナルガ爲メニ然ルニ非ス唯其生産ノ時節ノ違  
ヘルニ由ルモノナリ

此鳥ハ常ニ菜亞麻及ヒ罌粟等ノ種子ヲ以テ食ト爲ス是等ノ

種子ハ時々乾カザル麴包ト混和シテ之ニ給スルコトアリ然  
レドモ菜種ハ冬ニ方リテ數十日ノ間其食料ト爲スコトヲ得  
ズ故ニ此時ニ於テハ少許ノ鹽ヲ罌粟ニ和シテ菜子ニ代用ス  
ベシ而シテ此鳥ハ食料ヲ過度ニ給スベカラズ若シ其食ヲ過  
度ニスルトキハ其體肥滿シテ直チニ死ニ至ルヲ以テナリ  
紅雀ハ亦時ニ尻臀ニ瘡腫ヲ生シ大ニ苦痛スルコトアリ若シ  
斯ノ如キコトアラバ其腫物ノ將ニ破裂セントスルニ先チ細  
小針ヲ以テ之ヲ刺シ其既ニ潰テ出スノ後更ニ新鮮ナル牛酪  
ヲ取リテ之ニ塗り且ツ數日ノ間其食料ニ萬莖子ト其葉トヲ  
給シ其飲ム所ノ水ニハ些少ノ洎夫藍ヲ入ルベキナリ又此鳥  
ノ下痢ノ病ニ罹ルコトアリ而シテ其病劇シキニ至ルトキハ

其糞白クシテ且ツ粘着スルモノナリ此時ニ當テハ亞麻仁ト  
 綠色ナル車前子若クハ細小ニ切斷シタル其葉ト些少ノ白堊  
 ナ混合セシ細末ノ麻子少許トヲ以テ食ト做シ且ツ其飲ム所  
 ノ水ニハ消夫鹽ト甘草トヲ調合シテ之ヲ飼養スベシ

## ○鵲

「クラール」氏ノ詩ニ曰ク余彼ノ大ニシテ圓形ナル丘  
 陟ヲ覆フ所ノ繁茂連接シタル「ハウゾルン」ノ山嶺ノ林  
 中ニ在リシ時朝ニ愛ス可キ鵲ノ旭日ヲ迎ヘテ頌歌  
 ナ發スルヲ聽聞シ能ク其韻響ヲ熟知セリ  
 此華麗ナル鳥ノ強盛ナル好音ハ遙カニ隔リタル地ヨリモ聽  
 キ得ベキモノニシテ其吟歌ハ常ニ人意ヲ喜バシムルニ足レ

リ而シテ此鳥ノ胸部ニ斑點アリ其背ハ赤黑色ニシテ好テ菓  
 樹園ニ赴キ時々掠奪ヲ行フノ惡名ヲ得タリ然レトモ若シ此  
 鳥ノ在ルニ非スンバ樹身ニ螟蛉及ヒ蝸牛ノ多ク生シ粘着ス  
 ルアリテ菓實ノ成熟スルニ及ヒ大ニ之ヲ傷害スルコト有ル  
 ベシ是故ニ鵲ハ菓實ヲ盜ムノ醜行アリト雖モ亦其惡蟲ヲ啄  
 ハミ食フノ美嘴アルヲ以テ功罪利害正ニ平均スルコトヲ得  
 ベシ

此鳥ヲ籠中ニ幽囚スルニハ必ス先ツ籠ヲ造クルニ於テ能ク  
 其大サヲ默計シ又籠ヲ安置スルニ於テ其聲ノ勢力ニ注意ス  
 ベシ此鳥ノ聲音ハ戶外ニ發揚ズレバ甚ダ愉快ナルモノニシ  
 テ且ツ其韻ノ能力ヲ震起スベシ然レトモ室内ニ發音スルト

キハ實ニ聽クニ堪ヘザルモノアリ而シテ其食料ハ昆蟲菓實  
及ヒ蝸牛ノ属ナリ蝸牛ハ之ヲ石ニ擊碎シテ其殼ヲ除キ而シ  
テ後ニ啄ムナリ其籠中ニ在ルニ方リテハ細小ニ截斷セシ所  
ノ脂少キ肉ニ麵包ヲ混和セシモノヲ給シ或ハ牛乳ヲ以テ沾  
濡シタル燕麥ノ粉ヲ食ハシムベシ此鳥ハ且ツ浴シ且ツ飲ム  
ガ爲メニ多量ノ新鮮ナル水ヲ給セザルベカラズ

○「ミツセル、スラツシ」鳥名鵪  
ノ屬

「ミツセル、スラツシ」ハ憫ムベキ粗野ナル形狀且ツ其音聲ノ剛  
強ナルコトハ世ニ著明ナル者ニシテ又風雨鵪ノ名ヲモ負ヘ  
リ其暴風甚雨ノ時ニ當リテ殊ニ快樂歡喜スルヲ以テナリ此  
鳥ハ他ノ諸禽ノ如ク冬時ニ方リテ隱蔽シタル僻隅所ニ栖止

センガ爲メ自己ノ居地ヲ去ル事無ク第十二月及ヒ第一月ノ  
不快活ナルトキニ於テ其音聲ヲ發泄スルモノナリ且ツ此鳥  
ニ給スベキ食料及ヒ之ヲ攝待スベキ方法ハ鳴轉スル鵪ト異  
ナラザルナリ

○「ブラックフード」鵪ノ  
一種

「ジムソン」氏ノ詩ニ曰ク「ブラック、ブード」針刺ノ多キ  
林叢中ヨリ囀唱スレバ快活ナル大鵪ハ小林中ヨリ  
之ニ應和スト

此鳥ノ音聲ハ本來柔艶ニシテ且ツ快樂ナリト雖モ其調曲ハ  
鵪ト甚タ相同シカラズ然レドモ此鳥ハ快活ナルモノニシテ  
且ツ其既ニ全ク成長セシモノヲ捕フルコトハ甚タ容易ナラ



ザル者ナリ而シテ此鳥ニシテ吾等ノ獲テ籠中ニ飼フタルモ  
ノハ大概兒童輩ノ常ニ親シク注目スル所ノ纖小ナル雛兒ニ  
過ギザルノミ又此鳥ノ小弱ナル時ニ於テ其雌雄ヲ識別スル  
コト甚タ難シトス然レトモ雄タルモノハ雌タルモノト比較  
スレバ消淡色ナルヲ以テ分ツベキナリ  
「ブラツク、ブード」ノ其雛兒ヲ防護スルノ術ニ於テ極メテ勇敢  
ナルコトハ世人ノ善ク知ル所ナリ而シテ詳細ニ此鳥ノ習慣  
ヲ觀察シ得タル人即チ「ジエツス」氏ノ話スル所ハ此一例ニ引  
證スルニ足レリ「ジエツス」氏言ヘルコトアリ曰ク尖板牆ノ頂  
上ニ一猫アリ其傍ナル「ブラツク、ブード」ノ巢ヲ伺ヒ之ヲ獲ン  
コトヲ着目セリ然ルニ其鷗鳥ハ此猫ノ接近スルヲ視テ其巢

ヲ去リ大ニ驚愕セル狀ヲ爲シ直チニ飛テ此猫ヲ撞撃シ其身  
ノ殆ト猫兒ノ爪下ニ墮落シ周章宛轉シテ大ニ憐ムベキノ叫  
聲ヲ發セリ鷗鳥ハ此ノ如キ危難ヲ覺悟シテ無量ノ悲哀ノ情  
狀ヲ表シ時々激烈ナル聲音ヲ發シ猫ニ迫リ其居ル所ノ地位  
ヲシテ狹隘ニシテ跳出スルノ勢ヲ倣スコト能ハザランガ爲  
メニ正ニ其眼前ヲ遮リテ此牆上ニ止マレリスノ如クスルコ  
ト須臾ノ後雄鳥ハ忽チ此猫ヲ衝突シテ適ニ其背上ニ屹立シ  
テ甚タ酷劇ニ其頭ヲ傷啄シ猫ヲシテ疼痛ニ堪ヘズ地ニ墜ツ  
ルニ至ラシメ又之ニ隨ヒテ地上ニ降り百方抗敵シテ遂ニ之  
ヲ逐除セリ此衝擊攻圍二三回ニ及ヒシニ雄鳥ハ始終其銳利  
ナル氣焰ヲ失ハザリシト

又「ブラツク、ブード」ヲ善ク教導スルトキハ往々之ヲシテ笛ヲ以テ奏スル所ノ曲調ニ擬シテ其音聲ヲ發セシムルコトヲ得ルニ至レリ

「ブラツク、ブード」ハ其生來ノ食料ハ鶉ノ食フ所ノ物ニ同クシテ專ラ櫻子梅實等ヲ嗜好セリ而シテ之ヲ幽囚スルニ方リテハ亦宜ク鶉ニ給スベキモノト同一ナル食料ヲ用井且ツ時々燕麥ノ粉ト乳汁トヲ與ヘ又其季候ニ隨テ熟シタル菓實ヲ嗜好スルモノタルヲ記憶スベシ

### ○雲雀

「カウリー」氏ノ詩ニ曰ク雲雀ノ善ク歌フノ例ハ汝雲雀ヲノ同輩タル詩人「カウリー」之ヲ着目スベシト

市街中炊烟簇々聽クベキ啼鳥モ無キ地ニ於テ何人カ彼ノ空際ニ飛揚スル雲雀ノ吟嘯シテ高ク舞ヒ且ツ舞フニ隨テ蒼天ニ告叫スルモノヲ觀テ快樂セザルモノアランヤ而シテ此鳥ノ飛揚スルコト最モ高クシテ唯單一ナル點子ヲ現シ終ニ全ク遠望ノ眸端ヨリ消亡スルニ至ルト雖モ猶尙其愉快ナル音聲ノ耳底ニ聞ユルコト恰モ上天ニ告ケテ大歡喜ノ事アルヲ深ク謝スル者ノ如シ

此鳥ノ卵ニ文字ノ點畫ニ類似セル紋アルニ由テ文字雲雀ノ名ヲ負ヘリ而シテ今吾輩ハ此鳥ノ美味ナル食物ト看做サバ  
ルコトヲ解説スルニ於テ殆ト羞愧ノ念アリ夫此鳥一頭ヲ殺スノ惡ハ二十四頭ノ「ブラツク、ブード」ヲ焙テ一個ノ龜羹ヲ製

スルニ比ス此罪尙勝レリト謂フメシ然ルニ求食スル惡漢ニ  
シテ紐子ヲ以テ長形ナル籃ヲ其背ニ負ヘル者アリ此籃ヲ地  
上ニ置キ其媒鳥ヲ出シテ翔行セル雲雀ノ其朋友即チ鳥媒ニ  
誘導セラレテ高天ヨリ降下スルニ臨ミテ直チニ之ヲ捕ヘン  
ガ爲メ地上ニ埋伏シテ巨大ナル猫ノ如ク看守スルモノヲ見  
タリ且ツ二十個ノ隣ムベキ雲雀ノ一細籠ノ廣サハ一頭ノ甘  
口鼠ヲ入ルヘニ足ラザルモノニ取囚セラレ又幽閉且ツ繫繼  
セラレテ互ニ堆累シ之ガ爲メニ大ニ苦惱シテ其身ヲ買贖ス  
ル人ヲ待ツ者ヲ見タリ是實ニ痛心スルニ堪ヘタルコトニシ  
テ比スベキモノ無シ然レトモ此鳥ヲシテ更ニ端正ナル一室  
ニ遷移セシムルトキハ再ヒ大幸福ヲ得ルナラン

雲雀ハ牧地及ヒ穀田ノ畦溝等ヲ擇ヒテ其巢ヲ造成スル者ニ  
シテ其鷗鳥ハ三個若クハ五個ノ卵ヲ生ミ後十四日ニシテ此  
卵ヲ孵スモノナリ而シテ此穀ヲ其巢中ヨリ取得ント欲セバ  
之ヲシテ生産ノ日ヨリ十日ヲ經ルノ後尙巢中ニ在ラシムベ  
カラズ宜シク之ヲ新淨ナル乾草ノ中ニ移シ温暖ニ養育シ且  
ツ二時間毎ニ節度ヲ定メテ白麵包ト温熱ナル乳汁ヲ以テ潤  
シ臼碎シタル菜子ノ全ク其甘味ヲ失ハザルモノトヲ給シ又  
二三日ヲ經テ少許ノ新鮮ナル肉及ヒ些少ノ蟻卵ヲ與ヘ十餘  
日ニ及ヒテ始メテ之ヲ一籠中ニ遷スベシ而シテ此籠底ニハ  
粗糲ナル糖若クハ細微ニ截碎キタル乾草ヲ敷クベシ是等ノ  
糖及ヒ乾草ハ日毎ニ新淨ナルモノヲ以テ交換セザル可ラズ

漸次養育シテ此穀ノ能ク自ラ其食ヲ求メ得ルニ及ビテハ宜ク之ニ與フルニ截碎キタル菜子及ヒ麵包ノ如キ乾キタル食料ヲ與ヘ且ツ烹熟セシ卵少許ヲ時々與フベシ而シテ此雛兒漸ク成長シテ稍壯強ナルヲ得ルトキハ自ラ能ク此種子ヲ破リ得ルモノナリ此時ニ至リテハ須ク二日毎ニ新鮮ナル青草ヲ給シ且ツ其籠底ニハ新清ナル細石ヲ撒布スベシ此細石等モ亦屢交換スルヲ要ス

又雲雀ノ生來食フ所ノ物ハ衆多ナル種類ノ羽蟲ナリ或ハ草ノ種子及ヒ柔軟ナル嫩葉ノ如キ植物ニモ好テ食フモノアリ是故ニ新鮮ナル綠草ヲ其家ニ刈取メ置カンガ爲メニ遠キ郊野ニ赴ク所ノ草刈ル奚奴ハ細籠ニ俘囚トナレル雲雀ノ爲メ

ニハ最モ善良ナル愛友ノ一個ト謂フベシ

○「ウードラーク」雲雀ノ一種

「ウードラーク」ハ甚タ雲雀ニ類似シタルモノニテ唯其形體雲雀ニ比スレバ稍短小ニシテ肥滿セルノミ又啼聲ハ高朗ニシテ愛スベキノ音調アリ然レドモ其性怯懦ニシテ未ダ曾テ識ラザル人ノ目前ニ在リテ敢テ囀唱スルコト能ハズ其自由ニ翱翔シ得ルニ及ビテハ飛揚スルゴトニ音聲ヲ發シ終ニ彼ノ蒼空中ノ一點子ト認得ルカ如キ高處ニ達シ其處ニ止マリテ羽ト尾トヲ開張シ陸續トシテ好音ヲ發シ聽者ヲシテ快樂セシムルナリ

此鳥ノ巢ニ在ルニ方リテハ上條ニ記載セシ雲雀ヲ飼フト同

一ナル方法ヲ以テ畜養スベシ而シテ「ウィードラーク」ハ毎ニ足疾ニ罹リ易キモノニシテ此疾ヲ得レバ其足ヲシテ脆弱ナラシメ終ニ其趾ノ折斷スルニ至ルガ故ニ雲雀ヲ飼フモ此鳥ヲ養フモ共ニ大ニ注意シテ其栖止スル所ヲ清潔ニスベシ是其十分ニ清潔ナラシムルニ由リテ果シテ其足疾ヲ防遏シ得レバナリ

「ウィードラーク」ノ當然ノ食物ハ早春ニハ數多ナル嫩草ノ新芽ナリ夏時ニハ蜂蓇等ノ羽蟲又蠶蛭等通常ノ諸蟲及ヒ衆草ノ種子ナリ秋ニ及ヒテハ主トシテ燕麥稗粟或ハ罌粟等ノ諸種子ニ在リ而シテ此鳥ハ柔弱ナル食者タルヲ以テ時々其飲食ヲ變換スルヲ切要ナリトス最初ニ之ヲ籠中ニ囚スルニ方リ

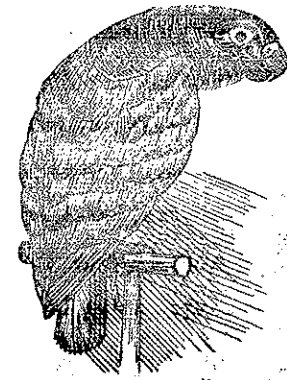
テハ則チ蟻卵及ヒ罌粟ヲ籠底ニ布散シテ之ヲ食ハシメ其己ニ囚居ニ慣ルヽニ及ヒテハ始メテ食槽ヲ用井テ麻燕麥小麥ノ如キ種子ノ綠色ナルモノヲ給與シ且ツ時々一二ノ「ミールウオルム」蟲ノ名或ハ少許ノ微細ニ割ミタル牛肉等ヲ給スベシ

○言語ヲ擬スル鳥

夫レ禽鳥ト雖モ善ク之ヲ教フルトキハ其啼色ヲシテ他ノ音響ニ擬似セシメ得ベキモノ其種類衆多ナリ而シテ或ハ多少明亮ニ言語若クハ文辭ヲ發言スルモノアリ或ハ家畜ノ音色ニ倣フモノアリ或ハ又教導セラレテ能ク正シク某ノ音曲ニ擬シテ囀唱スルニ至ルモノアリ而シテ是等ノ衆鳥ノ中鸚鵡ノ属ハ一般ニ人ノ爲メニ殊愛セラレシ者ニシテ其中ニ亦一

百七十有餘ノ種屬アリ皆温暖ナル地  
方ニ住ミ慣レ亞細亞西印度南亞墨利  
加及ヒ豪斯多利亞中ニ最も多シト  
ス

圖七十三百第



灰色即チ秦皮色ノ鸚鵡ハ蓋シ世人ノ  
殊ニ能ク知レル所ナリ而シテ此鸚鵡ハ稟性卓越ナル記憶ノ  
能力ヲ有セル者ニシテ其尙少弱ナルニ方リテ之ヲ教導スル  
トキハ能ク長キ文辭ヲ反覆誦言シ且ツ時々其言フ所ノ文辭  
ノ意味ヲモ全ク了解シタルガ如キ巧慧ノ容貌ヲ表スルコト  
ヲ得ルニ至ル故ニ此書ノ記者ノ貴重スル朋友ノ畜養スル此  
鳥ノ種類中ノ最も美麗ナル一個ノ者ハ其主人ノ歸リ來テ門

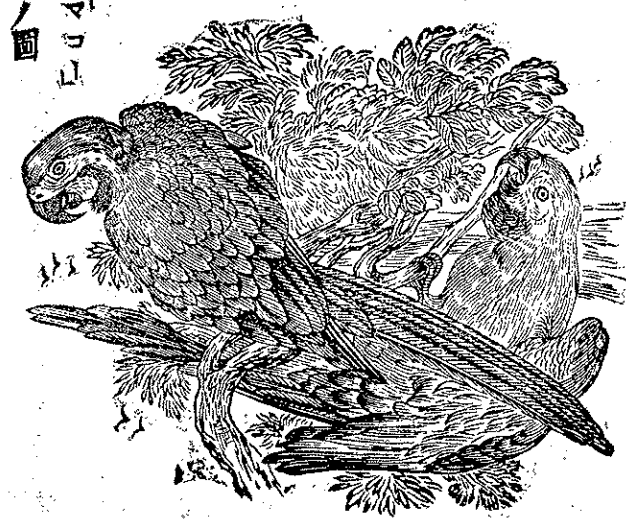
戸ヲ敲クヲ能ク辨知シテ其主ヲ迎接セシメンカ爲メニ之ヲ  
放チ出スニ至ルマデハ籠中ニ於テ頻ニ鼓翼ヲ做セリ且ツ其  
主ノ坐右ノ机案上ニ棲息シ屢反復シテ「善シ父君吾今家ニ歸  
レリ」トノ言ヲ吐キ種々ノ愛スベキ動作ヲ以テ其主ノ愛顧寵  
遇ヲ悦ビ樂ムノ情態ヲ表セリ

「ローリ」名ハ鸚鵡ノ種屬中ニ在テ最も美麗ナルモノナリ而  
シテ其中ニ就キ又羽毛ノ色多クハ赤ヲ帶ヒ光澤ニ於テハ次  
第二ニ差違アリ且ツ青、黄、綠及ヒ青蓮色等ノ殊異ナルヲ以テ數  
種ニ區別スベシ然ルニ是等ハ皆快活ニシテ伶俐ナル鳥ニテ  
鸚鵡ノ屬中最モ神速ナルモノト謂フベキナリ然レトモ他ノ  
禽類ヨリモ殊ニ苦慮シテ空氣流通ノ過度ナルト寒氣ノ烈シ

キトヲ嚴シク防遏セザルベカラズ此鳥ハ容易ニ教フベキ順  
 良ナル鳥ニシテ善ク記憶力ヲ固有シ反復シテ之ニ口授スレ  
 バ亦能ク啼聲ヲシテ屢反復スベキ所ノ曲調ヲ做サシムルコ  
 トヲ學ヒ得サスベシ又「シエル、ローリー」ハ淺藍色ノ斑點アル  
 金色ノ羽毛ヲ所有シ甚タ愛憐スベキ性質ノ小形ナル鳥ニシ  
 テ其種属甚タ少ナシ又斑色ノ「ローリー」ハ其價最モ高貴ニシ  
 テ其大サハ殆ト鳩ニ等シク其羽毛ハ甚タ柔軟ナリ又青頭ノ  
 「ローリー」即チ「山ローリー」ト名クルモノハ濃紫色ノ毛ヲ以テ  
 其頂點ヲ覆フニ由テ其名ヲ得タリ而シテ此鳥ノ通常ノ色ハ  
 濃キ葡萄酒色ニシテ咽喉ノ周帶ハ黃色ナリ且ツ此鳥ノ性大  
 ニ人ヲ愛戀スルモノニシテ其注目セラル、ヲ以テ樂ミトセ

リ是モ猶少弱ナルニ當リテ教導ヲ受ケシムルトキハ善良ナ  
 ル談話者トナルニ至ルモノナリ  
 「マユ」モ亦鸚鵡ノ一種ナリ此  
 鳥ハ鸚鵡属中ノ最モ大ナルモ  
 ノニシテ其羽毛ノ光澤アルコ  
 ト及ヒ其發音ノ區別アルコト  
 ニ由リテ高價ニ貴ハレ又其臉  
 ノ赤裸ナルコト頭部ノ甚タ堅  
 強ニシテ且ツ彎曲セルコト下  
 腮ノ意外ニ短キコト及ヒ尾ノ  
 身体ヨリ長クシテ其端ノ尖レ

第三百十八圖



ル所ノ形容ニ由リテ鸚鵡屬中ノ他ノ種類ト相差異セリ而シ  
 テ紅色ト藍色トヲ帶フル所ノ「マユ」ハ甚タ華麗ニシテ「アラ  
 シル」名地及ヒ西印度ノ地ニ生産ス又其紅色ト黃色トヲ帶フル  
 種類ハ其色ノ光澤アルコト紅藍色ノモノニ同シト雖モ其大  
 サハ之ニ劣レリ又深藍色ノモノ及ヒ藍色ト黃色トヲ帶フル  
 モノハ「ブラシル」ノ地ニ住ミテ甚タ美麗ナルモノタリ  
 「コツカトウ」モ亦鸚鵡ノ一種ニシテ唯頭ニ美麗ナル毛冠ア  
 ルヲ以テ他ノ鸚鵡ニ異ナルノミ其「コツカトウ」ト云フ字音  
 ナ反復誦言スルコトノ頻數ナルニ由テ此名ヲ得タル者ニシ  
 テ其中亦分レテ數種ヲ做シタリ而シテ貴毛冠アル「コツカト  
 ウ」ハ其已テ懇切ニ攝待スル人ヲ愛着スルニ至ルコト他ノ

第三百十九圖



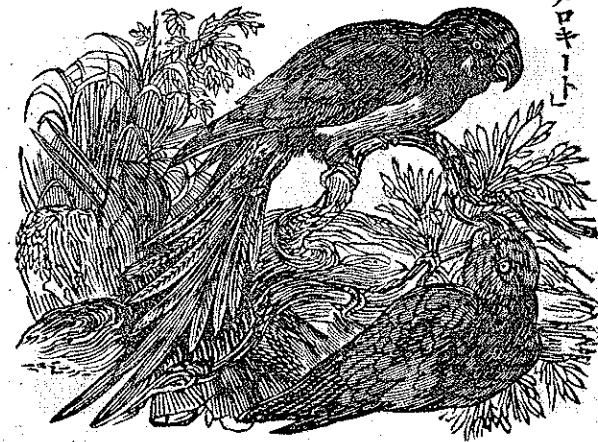
「コツカトウ」

諸般ノ鸚鵡ニ超絶セルモノニシ  
 テ其羽毛ハ毛冠翼端ノ羽及ヒ尾  
 ノ一部ノ稿色ナル所ヲ除クノ外  
 全身悉ク純白色ナリ而シテ大ナ  
 ル白色ノ「コツカトウ」モ亦其黃  
 毛冠ヲ有セルモノト同一ナル記  
 章ヲ保テリ然レトモ其大サハ之  
 ニ勝レタル者ニシテ元來「インデ  
 ヤシ、アーナペラゴ」即チ印度群  
 島海中ノ島嶼ニ産セリ且ツ其薔薇色ノ毛冠アル一種ハ其身  
 體ノ大ナルコト又更ニ一層ヲ加フル者ニシテ甚タ尊嚴ナル



容貌ヲ表見セリ

「パーロクウィット」即チ「パーロキート」ハ鸚鵡属中ノ最も小ナル  
 モノニシテ其尾ノ却テ大ニシテ長  
 ク及ヒ其羽色ノ雅美ニシテ優柔ナ  
 ルニ由リテ此属中ノ他ノ種類ト區  
 別セラルヽコトヲ得タリ而シテ米  
 國ニ於テモ亦數多ノ種類アリテ常  
 ニ匹偶相離レズシテ畜養セラル其十  
 雌雄ノ互ニ戀慕愛着スルノ深キコト  
 ト實ニ尋常一樣ノ看ヲ做スベカラ  
 ズ故ニ若シ其配偶ノ死亡スルニ當



「パーロキート」

リテ速ニ他ノ配偶ヲ與フルニアラザレバ必ズ遺レル所ノモ  
 ノハ羸瘦骨立遂ニ衰弱シテ起キザルニ至ルベシ  
 鸚鵡ヲ畜養スルニハ必ス廣大ナル籠ヲ用井ザルベカラズ然  
 ルニ世人ノ或ハ鸚鵡ヲ飼フニ狭小ナル籠ヲ以テスルトキハ  
 能ク速カニ之ヲシテ談話スルコトヲ知ラシメ得ベキノ説ヲ  
 主張スル者アリ是錯謬ノ甚キ者ト云フベシ夫此鳥ヲ納ルベ  
 キ籠ノ便利ナルモノハ鐘形ニ過キタルハナシ且ツ通常此籠  
 ノ頂上ヨリ懸クル鑲ヲ以テ其棲架ニ并用スルヲ佳ナリトス  
 而シテ此棲架ハ其兩端ヨリ中心ニ至ルニ隨ヒ逐次ニ太サヲ  
 増サベルベカラズ是斯鳥ヲシテ居常ニ同一ナル太サノ棒ヲ  
 把握セルガ爲メニ其足ノ拘攣スル害ヲ免レシメンコトヲ欲

スレバナリ而シテ又「コツカトウ」ハ一般ニ鏈條ヲ以テ上ニ  
説ク所ノ如キ形容ノ棲架ニ擊グベキモノナリ然レドモ此時  
ニ方リテハ棲架ノ兩端ニ食料及ヒ水ヲ入ルベキ箱ヲ着ケザ  
ルベカラズ

鸚鵡ハ種々ノ穀物ヲ食フニ於テ最モ善ク其生ヲ養フベキ者  
ニシテ又時々沸騰セル乳汁ニ浸シタル麵包ヲ與フベキナリ  
乾麵包及ヒ堅硬ナル砂糖ハ共ニ其嗜ミテ食フ所ノモノタリ  
然レトモ硬砂糖ノ如キハ最モ善ク注心節制シテ之ヲ給與セ  
ザルベカラズ且ツ諸肉類「パストリー」麥糕若クハ他ノ油質ナ  
ル食料ハ何等ノモノタリトモ決シテ給ス可ラズ然ルヲ輕率  
ナル慈惠ヲ以テ妄リニ是等ノ食ヲ與フルヨリシテ遂ニ斯ノ

如キ絶美秀麗ノ鳥ヲ失フニ至ルモノ甚タ多シトス又汝ハ常  
ニ汝ノ鸚鵡ニ清潔ナル細石ヲ給與スベキコトヲ注意セヨ是  
細石ハ食物ノ消化ヲ助成スル爲メニ必要タルヲ以テナリ且  
ツ其食料ヲ盛ルベキ器具ハ必ず玻璃器若クハ陶器ヲ用ヰル  
ヲ佳トス是等ノ器ハ其汚穢ヲ受クルニ當リ之ヲ洗淨スルニ  
錫製ノモノニ比スレバ甚タ容易ナルヲ以テナリ銅亞鉛若ク  
ハ黃銅ヲ以テ製シタル器具ハ決シテ使用スベカラズ是其毒  
氣アルガ故ナリ

斯ノ如クニシテ其宜シキニ適當シ季候清淨及ヒ温度ノ三事  
ニ注心スルトキハ鸚鵡ハ常ニ善長ナル健康ヲ保全シ得ルモ  
ノナリ若シ寒冷ニシテ濕氣深キ時候ニ際會セバ宜ク二十日

若クハ三十日ノ間細碎シタル胡椒少許ヲ與フベシ  
 鸚鵡ハ動モスレバ煥衝ノ病ヲ發スルコトアリ此病ニ罹ルノ  
 徵候ハ其狀遲緩怠情ニシテ晨朝ニ方リテモ尙睡ルガ如ク唯  
 精神恍惚トシテ其棲架ノ上ニ昏冒スル者はナリ凡ソ此病ヲ  
 致シ來スノ原因ハ必ズ其寒冷ナル風路ニ露出セシ歟若クハ  
 時氣ノ突然ト變易セシ歟或ハ夜間其籠ヲ被覆セザリシ歟ニ  
 在ルナリ而シテ此病ヲ認メバ急ニ次ノ食物ヲ用井テ或ハ治  
 療シ得ベシ即チ其方法ヲ舉ゲシ宜ク先ツ烹熟セシ燕麥ノ粗  
 粉ト烹熟シタル蛋黃トヲ混和シ之ニ沸騰セル乳汁ト麵包ト  
 ヲ加ヘテ製造シタルモノヲ與フベシ次ニ水ヲ以テ菓子ヲ煎  
 シ飲料ト做セルモノヲ給シ且ツ三日毎ニ玉蜀黍ヲ以テ是等

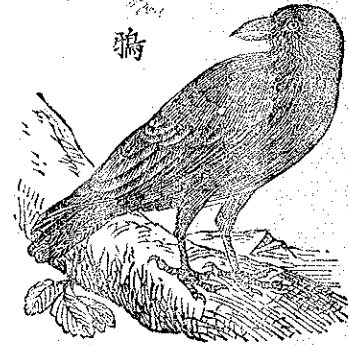
ノ食物ニ代用スベシ而シテ數日ヲ經ルニ及ヒテ尙其病ノ回  
 復セザルトキニハ須ク夜ニ當リテ是等ノ食物ヲ更ニ其籠中  
 ニ置クニ水一椀ヒヲ加ヘ麻屈尾矢亞一茶ヒヲ溶解シタルモ  
 ノヲ以テシ又詰朝ニ至リテ此藥料ヲ去リ更ニ新鮮ナル食物  
 ヲ與フベシ  
 凡ソ諸鳥ノ中ニ於テ「ローリ」鸚鵡ノ一種ハ殊ニ瘰癧病ニ罹リ易  
 キモノトス是其運動ヲ欠キ若クハ其食ノ分量度ニ過キテ或  
 ハ過多ニ美味ヲ喫セシヨリ發起スル所ナリ而シテ此病ノ發  
 作スルニ當リテ宜ク速カニ此病鳥ヲ籠中ヨリ出シ其嘴ヲ開  
 キ之ニ數滴ノ水ヲ注入シ次ニ其全身ヲ清冷ナル水中ニ浴セ  
 シムヘシ斯ノ如クニ救療シテモ尙其疾ノ回復セザルニ及ヒ

テハ急ニ其尾羽一條ヲ拔クベシ最モ精巧ニ其術ヲ行ヒ得バ  
足部ノ脉絡ヲ破開スベキナリ而シテ後善ク温暖ニ音養シ更  
ニ養生ニ適應スベキ食料ヲ與ヘ且ツ水ニ硝酸ヲ混和セシモ  
ノ數滴ト橄欖油數滴トヲ給與スベシ  
我國中ニ於テモ亦善ク教導スルトキハ多少明亮ニ言語ニ模  
擬シテ發音スルニ至ル所ノ數鳥アリテ其奇異ナル行爲及ヒ  
馴養セラルヽニ隨ヒテ知り得ル所ノ戲技ニ由リテ殊ニ人心  
ヲシテ快樂セシムルニ足レルモノナリ而シテ此書ノ記者ハ  
今尙其少年ノ時ニ方リ嘗テ「シアツクドール」一種ノ鳥ノ舌ヲ截裂セ  
シコトヲ目撃シテ之ガ爲メニ悲歎シ且ツ忿怒シタルコトヲ  
記憶セリ是蓋シ鳥類ニ談話スルコトヲ教フルニハ其始メ先

ツ舌端ヲ截裂スルコトノ最モ緊要タルベキヲ領會シテ做セ  
シ者ナリ然レドモ余ハ余ガ讀者ニ對シテ斯ノ如キ粗暴ノ事  
ヲ行フハ固ヨリ無用ニシテ且ツ兇惡ナル行爲ト呼爲ス可キ  
コトヲ忠告セザル可カラザルナリ何トナレバ汝ノ此鳥ノ雛  
兒ヲ有スルニ當リテハ汝屢之ニ對シ快心ニ談話ヲ行フトキ  
之ヲシテ能ク速カニ其性ノ能クスル所ニ隨テ汝ノ聲ヲ擬似  
スルコトヲ知ラシメ得ベキヲ以テナリ而シテ其天稟ノ性ニ  
於テ能クセザル所ノ者ハ決シテ之ヲ做サシムルコトヲ得ベ  
カラス  
鴉ハ不列顛島中ニ産スル所ノ談話鳥中ノ最モ大ナルモノニ  
シテ最初ニ注目スルニ足レルモノナリ而シテ此鳥ハ性質勇

## 第四百一十一圖

鴉



猛ニシテ且ツ健康ナルモノナリ其舌ノ幅ノ大ニ廣潤ナルヨ  
 リ善ク言フノ能ヲ有ス其少弱ノ時ニ之ヲ捕ヘ親切ニ教導ス  
 ルトキハ甚タ明亮ニ人語ヲ發出スルニ至ルヘシ且ツ此鳥ハ  
 全ク成長スルニ及ヒテハ其長ケ高キコ  
 トニ「フイート」有餘ニ至ルベキモノニシ  
 テ其羽毛ハ全身悉ク鮮明ナル黒色ヲ帶  
 ヒ又濃キ藍色ノ裝飾アリ其不羈ナル時  
 ノ食物ハ生來嗜ム所ノ暴ニ死セル動物  
 ト其自ラ斃レシ所ノ生活セル動物即チ  
 力弱キ家兎、甘口鼠、鳥類及ヒ蝸牛ノ如キモノト衆多ナル種類  
 ノ菓實トニシテ其捉獲シ得ベキ所ノモノハ何等ノ物タルヲ

論セズ之ヲ食ハザルコト無シ又幽閉シ置クニ當リテハ截碎  
 シタル肉若クハ麵包及ヒ乳汁等ヲ以テ養ヒ得ベシ然レドモ  
 此鳥ハ甚タ多量ノ食ヲ要求スルモノナリ茲ニ一人ノ博物學  
 ノ記者タルモノ曾テ此鳥ノ品格ヲ舉ケ示セルコトアリ曰ク  
 夫レ鴉ハ活潑銳敏且ツ細心ニシテ厚顔ナルモノナリトス而  
 シテ其品種ニ於テハ健啖者ノ如ク其習慣ニ於テハ盜賊ノ如  
 ク其性質ニ於テハ守錢奴ノ如ク其行爲ニ於テハ兇惡漢ノ如  
 キモノナリト

「ジャツクダウ」一種ノハ鴉ト同一色ナル羽毛ヲ有セリ然レトモ  
 其長サ僅ニ十三「インチ」日本ノ曲尺八ニ過キズシテ鴉ノ極メ  
 テ小形ナルモノト云フベシ而シテ「ジャツクダウ」モ亦能ク明

了ニ數般ノ音聲ヲ發ス然レトモ亦他ノ饒舌解語スル諸鳥ノ如ク其穀籬ノ時ヨリ之ヲ捕ヘテ教育セザル可ラズ又此鳥ノ性甚タ狡黠ニシテ凡百ノ光輝アルカ若クハ鮮明ナル性質ノ品物ヲ攫取シテ之ヲ隱匿藏蔽スルノ異癖アリ故ニ時々其盜竊ノ奸ニ由リテ許多ノ妨害意外ノ災難ヲ生スルコトアリ是實ノ盜賊タルモノハ即チ此鴉ナルヲ計ラズモ他ノ無罪ナル人ノ疑ハルヽコトアルヲ以テナリ此鳥ノ曠原平野ニ在ルニ方リテハ蝸牛蟻蟻昆蟲羽蟲及ヒ種々ノ木實ヲ食フテ活存シ又其常ニ馴レ近ク所ハ花園ニシテ其食フベキモノヲ窺密シ之ヲ竊奪シテ其生ヲ養フコトヲ得時々麵包或ハ截斷セシ肉ヲ給センコトヲ要スルノミ

鴉モ亦美麗ナル鳥ニシテ其羽毛ハ通常黑色ナリト雖モ之ヲ對觀スルトキハ忽地ニ綠色及ヒ紫色ノ變換セル彩色ヲ表ハシ且ツ華美ニシテ光澤アリ而シテ胸膈ノ下部ト兩翼ノ部分トハ白色ニシテ淨潔ナリ此鳥モ亦甚タ教ヘ易キモノニシテ鸚鵡ト殆ト同一様ニ音曲及ヒ人聲ヲ模倣スルコトヲ倣シ得ルナリ又其食物ハ皆其健康ヲ保ツベキ群蟲羽蟲種子等ニシテ或ハ小鳥ノ目下ニ來ルトキ忽チ之ヲ攫取スルコトアリ其籠中ニ在ルニ方リテハ唯麵包牛乳乾酪肉等ヲ以テ養フベキノミ此鳥モ亦性惡ナルコト鴉及ヒ小鴉ノ如ク好テ物ヲ攫竊シ其得ル所ノ僅小ナル光輝アル物體ヲ深ク隱匿セリ其巢ハ小條ヲ集メテ編製シ纖細ナル木根ヲ以テ裡面ヲ覆ヘルモノニ

シテ其組織結構ノ精巧ナルコト即チ此鳥ノ狡猾伶俐ナルヲ表スルニ足レリ今若シ此鳥ヲ馴養セント欲シ其雛兒ヲ取ラシニハ生産後十四五日ヲ經タルトキニ其巢中ヨリ捉り出スベシ爾セシ後十分ニ羽毛ヲ生スルニ至ラバ之ヲシテ後來棲止スベキ所ノ木ノ近傍ニ飛跳セシムルヲ善シトス斯ノ如クシテ其全ク親狎スルニ及ブマデ再三誘引シテ唯數時間ノ自由ヲ得セシメ後又屢籠中ニ還ラシムベシ而シテ全ク羽翼具備スルニ至テハ其兩翼ヲ短ク截斷セザルコトヲ得ズ若シ然セザルトキハ此鳥モ亦遙空ニ向テ飛去ルコトヲ得ルノ質アルヲ以テナリ

製ノ形質タル英國諸禽中ニ於テ最モ美麗ナルモノハ一ナリ

ト云フベシ其背及ヒ胸ハ淡ナル肉桂色ニシテ其翼ハ黑白相雜リ極メテ秀美ナリ且ツ其頭上ニハ黑色ヲ以テ條文ヲ着飾シタル白羽ノ一把アリテ隨意ニ起立スルコトヲ得ルナリ而シテ此鳥ノ巢ハ常ニ高牆若クハ穉樹ノ林中ニ在リテ枯條ヲ以テ作りタル檯上ニ小條ト纖細ナル根株トヲ雜收シテ造成セシモノナリ又其雌鳥ハ雄鳥ト稍同等ナル羽毛ヲ固有スト雖モ其色ニ光澤アルニ至リテハ遙ニ及ハザル所アリ其生ム所ノ卵ハ貝數五個乃至七個ニシテ淡ナル鳶色ノ上ニ黒キ斑點アルモノナリ今若シ此鳥ノ雛兒ヲ捕ヘ得ルトキハ亦談話スルコトヲ口授スベキモノニシテ其音響ヲ模擬スルコトノ精細ナルハ實ニ不用意ニ聽ク者ヲ欺キ得ベシ且ツ此鳥ハ大

ニ菓實ヲ好ミ食ヒ園圃ニ於テ深害ヲ做スヲ以テ彼ノ園丁ハ此鳥ノ爲メニハ眞ノ仇敵ナリ又甚ダ卵ヲ嗜ムモノニシテ諸鳥ノ巢ヲ發見スルコトニ練熟シ或ハ時ニ其雛兒ニ及ボシ之ヲ食料ト爲スコトアリ又此鳥ハ殊ニ鷓鴣及ヒ野雞ノ卵ヲ嗜好スルヲ以テ獵者ハ之ヲ惡蟲ノ總稱ト風聞等ヲ云フ類ト看做セリ而シテ此鳥ノ性質モ亦是等ノ蟲ニ類似スル所アリ然レトモ幽因セラルヽニ方リテハ能ク直ニ消化シテ何等ノ食物ヲモ啄ハミ得ルニ至ルモノナレバ宜ク常ニ多量ノ小麥ヲ與ヘ之ヲ以テ其常食ト爲シ且ツ時々胡桃及ヒ櫟實少許ヲ與フベシ而シテ此鳥ノ穀類ヲ飼養センニハ麵包乾麴包凝乳及ヒ截碎シタル肉類ヲ與フルヲ以テ最良ト做ス又常ニ

其籠中ニ新清ナル水ヲ置クコトヲ忘ルベカラズ是鸛ハ屢沐浴シ又屢飲啄スルコトヲ嗜好セルヲ以テナリ「スターリング」則チ「ステイヤ」ハ其長サ九「インチ」ニ足ラザル鳥ナリ而シテ羽毛ハ悉ク暗黒色ニシテ綠色藍色及ヒ紫色ヲ以テ裝飾セラレ羽端毎ニ淡黃色ノ斑點ヲ有シ其兩翼ノ頂端ニ在ル羽ニハ目ヲ淡黃色ノ周縁アリ且ツ其尾ノ羽ハ暗黒色ノ縁アリテ淡黒色ヲ表ハセリ其生來ノ音聲ハ壯強且ツ粗暴ニシテ多口ナリト雖モ其幽因セラルヽニ當リテハ忽チ變化シテ極メテ柔順ナルニ至ルベク之ニ談話ヲ教フルコトハ彼ノ習ニ口授スルニ比スレバ甚タ容易ナルモノナリ且ツ此鳥ハ深ク朋友ヲ愛戀スルモノニシテ「レッドスタート」及ヒ「ワイ



ルドフエーヤ」共ニ鳥ノ名ト共ニ居ルヲ樂ミ又「ジャツクドー」若クハ鳩等ト俱ニ畜養セラレンコトヲ欲望セリ所シテ其不羈自恣ノ時ニハ常ニ羽蟲螟蛉菓實及ヒ穀物ヲ以テ食料ト做ス故ニ之ヲ幽囚スルニ當リテモ亦宜ク是等ノ物ヲ給スベシ然レトモ此鳥ハ獨是等ノ物ノミヲ食フニ非ス麵包乾酪肉類及ヒ他ノ何等ノ食料ヲ問ハズ凡ソ酸物ニアラザルモノハ皆能ク之ヲ食フコトヲ得ルナリ又之ヲ養フニハ他ノ衆鳥ノ如ク必ズ常ニ新汲水ヲ與ヘ之ヲシテ屢沐浴シ且ツ飲ムコトヲ得シムベシ是乃チ其健康ヲ保全センガ爲メノ必要法ナルヲ以テナリ

大凡鳥類ノ幽囚セラル、者ハ自由ニ翱翔スル時ニ於テ決シ

テ受ケザル所ノ疾病ニ罹ルコト多キモノナリ是ヲ以テ余ハ今余カ讀者ニ對シテ若シ人徒ニ自己ノ快樂ヲ極メンガ爲メニ飛躍ノ禽類及ヒ他ノ動物ノ仔ヲ幽閉スルコトヲ做スハ眞ノ殘忍慘酷ト云フベキコトナルニ由テ其之ヲ籠囚スルニ於テ厚ク好意ヲ加ヘ適宜ナル十分ノ食料ト新清ナル多量ノ水トヲ給シ且ツ常ニ其籠ノ快活ニシテ清潔ナルヤ否ヲ監看スルノ甚タ緊要ナルコトヲ箴言セザルベカラズ若シ能ク豫メ是等ノ事ニ配慮周旋スルトキハ愛禽ノ疾病モ是ニ由テ防遏セラル、者多シトス是ニ於テ余輩ハ預防ハ治療ニ勝レリトノ古諺ノ確然タルコトヲ深ク信シタリ然ルニ注意スルコト實ニ至ラザル所無キモ尙時トシテ豫防スルコト能ハザル疾

ヲ發スルコトアリ故ニ余當ニ是等ノ疾病中普通治療ノ方法  
ニ關シテ二三ノ教告ヲ記載スベシ  
下利ハ鳥ノ幽閉セラル、ニ方リテ必ス罹リ易キ病ニシテ其  
原因多クハ食物ノ適當セザルカ若クハ突然ニ之ヲ變換スル  
ヨリシテ發スルモノナリ而シテ鳥ノ此病ニ罹レルモノ必ス  
白聖ノ如キ糞ノ其尾羽ニ附着スルコトヲ苦ムモノナリ此時  
ニ方リテハ宜ク烹熟セシ蛋黃ヲ與フベシ乃チ能ク其病ヲ治  
療シ得ルコトアリ又水ニ浸セル麵包ト玉蜀黍ト此ヨリ取レ  
ル水トヲ與ヘ且ツ藺苳種子ノ液汁ヲ與フルモ亦可ナリ而シ  
テ之ニ溫暖ヲ施スハ素ヨリ緊要ナルコトニシテ就中鸚鵡ノ  
爲メニハ甚タ必要ナルモノナリ

又鳥籠ノ形容ハ今尙完全ナラザル者多ケレバ更ニ大ニ之ヲ  
改正センコトハ實ニ期望スベキ所トス是甚タ鳥ノ安慰ニ關  
涉スルヲ以テナリ  
凡ソ動物ノ自由自在ニ飛翔スル種類ヲ以テ極メテ狹隘ナル  
地所ニ幽居セシムルハ其趣向ヲ轉倒セリト云フベシ然レド  
モ狹隘ナル地所ニ鳥ヲ幽囚スルトキハ有限ノ小區域ニ棲ミ  
馴レ一モ他技ノ倣シ得ベキコトアラザルヲ以テ專念ニ能ク  
吟囀スベキモノナリト現今ニ確定セラレタリ吾輩ハ常ニ此  
確定セル論ノ當否ヲ疑惑シ若シ好機會及ヒ閑時節ヲ得バ將  
ニ大ニ此事ヲ詰辯セントス苟モ此論ヲシテ果シテ當然ナラ  
シメ且ツ論者ヲシテ吾室内ニ在テ幽囚セシ啼鳥ヲ聞キ以テ

歡喜スルノ情態アラシメバ則チ知ル鳥ヲ畜養スルコトハ獨  
リ私慾無情ノ人ノ所爲ニテ假令他物ヲシテ苦惱セシムルト  
モ肯テ省ミズ唯自己ノ情欲ヲ満足セシメンコトヲ務ルモノ  
ニ委任シテ可ナリ吾輩嘗テ一貴人ノ常ニ寢起スル所ノ室内  
ニ巧ニ一個ノ鳥檻ヲ造リ此檻中ニ五六十個ノ美麗ナル鳥ヲ  
放ケ之ヲシテ自由ニ飛遊モシメ且ツ此檻中ニ栽ルニ一樹ノ  
長サ檻ノ高サ六「フィート」ニ均シキモノヲ以テシ衆鳥ヲシテ  
此樹枝ニ彼此宛轉踴躍スルヲ得セシムル者ヲ見タリ而シテ  
今此事ヲ茲ニ記載スルハ吾輩ハ鳥ヲ畜養スルノ法ニ就テ能  
ク其囀唱ノ力ヲ養成シ得ベキコトヲ言フニ非ズ果シテ斯ノ  
如キノ畜養ヲ施ストキハ其鳥ノ習慣ハ野外ニ在ルトキト異

ニシテ大ニ興趣アルニ至リ且ツ漸次ニ己ヲ養育スル主人ヲ  
敬愛スルニ至ルベシ故ニ之ヲ畜養スルモノハ其習慣ノ興趣  
アルヲ見且ツ其己ヲ愛スルヲ知テ大ニ快樂ノ想ヲ起スベシ  
凡ソ鳥籠ハ其大小ニ關セズ一ニ皆其鳥ヲシテ沐浴シ且ツ飲  
啄自在ヲ得セシメンガ爲メニ多量ノ水ヲ給シ且ツ常ニ清潔  
ナラシメンガ爲メニ其底ヲ抽斗ノ如ク平滑ニシテ引き抽ク  
ベク作ルヲ要スルナリ而シテ孵卵籠ノ如キハ其大サ必ス單  
一ナル鳥ヲ納ルヘ大サニ比スレバ更ニ一層ヲ加フベシ且ツ  
其中ニ鳥巢ヲ懸クベキ木ノ枝ト之ヲ造ルニ用ヰル所ノ髮毛  
若クハ苔ヲ盛ル一張ノ網トヲ具フベシ又其抽斗ノ如キ底ニ  
ハ常ニ乾キタル砂若クハ甚ダ細微ナル小石ヲ撒布スルヲ要

ス

○「アバードヴァイン」即チ「シスキン」鳥名金器ノ種類

此鳥ノ形体、福島鳥ト甚タ相類似スト雖モ其大サハ之ニ比スレバ一層ヲ減シ其羽毛モ稍差異スル所アリ而シテ雄鳥ハ身ニ淡黒綠色ノ彩文ヲ帶ヒ其胸ハ淡黃色ニシテ兩翼ヲ横過スル黃色ノ一條アリ且ツ其背ノ上部ハ濃橙色ニシテ其頭ハ美麗ナル黒玉色ナリ然レドモ雌鳥ハ頭ニ黒色無ク其羽亦雄ニ比スレバ淡色ナリ夫レ此「シスキン」ハ甚タ快活ナル小鳥ニシテ假令囀聲ノ良巧ナル福島鳥ニ及バスト雖モ其籠中ニ在テ愉快ニ動作スルノ活機ハ大ニ人心ヲ樂マシムルニ足レリ或ハ頭ヲ低レテ籠ノ線金ヲ奔走シ或ハ種々奇異ナル位置ニ周

旋活動シ常ニ其能クセザル技藝ヲ能ク爲サントシテ勉強勞カスルノ狀ヲ表ハス此「シスキン」ノ雄ハ福島鳥ト配偶スベク其飼フベキ物品モ大概之ニ同シト雖モ稍多量ヲ要スルモノニシテ又常ニ沐浴スルコトヲ好メリ故ニ之ヲ浴セシメ且ツ飲マシメンガ爲メニ十分ノ水ヲ其籠中ニ備ヘ置クベシ此「シスキン」ハ未ダ嘗テ英國中ニ生産セサル鳥ニシテ冬時ニ當リテ偶然我國ニ來ルト雖モ其數尙稀少ナリ又日耳曼ニ於テハ此鳥ヲ以テ籠禽第一ト看做シテ大ニ貴重セリ

### ○天竺鼠

童女輩ノ深ク愛好スル所ノ此小動物ハ元來「ブラジル」國ヨリ到ル所ノモノト雖モ方今全ク英國ノ風土ニ慣ルヽニ至レリ

第四百二十四圖



而シテ其色澤甚々美麗清潔ニシテ同儕互ニ其柔毛ヲシテ清潔平滑ナラシメンコトヲ勉メ以テ數多ノ時間ヲ枉費シ若シ稚鼠ノ不潔汚穢ナルニ至ルコトアルトキハ其母深ク之ヲ嫌惡シ復々其身ニ接近スルヲ許サズルハ人ノ知ル所ナリ又此鼠ハ甚々多ク子ヲ生育スルモノニシテ生レテ殆ト十週間ニ及フ時ハ亦能ク子ヲ産スルコトヲ得且ツ一腹ニシテ六頭乃至十二頭ヲ生ム然ルニ其牡鼠時トシテ稚兒ヲ傷害スルコトアリ實ニ親子愛戀ノ情無キ者ノ如シ凡ソ此鼠ハ小筐中ニ畜養スルヲ至良トス其食物ノ如キハ都テ家兎ト同一ニシテ殊ニ好テ茶葉ヲ食フナリ然レトモ常ニ宜ク其食ヲ變

換スベクシテ決シテ同一ニス可ラザルナリ

### ○蜜蜂

此繁務ニ從事セル小羽蟲ハ世ノ最モ趣味アル動物ナリ故ニ若シ此動物ノ吾輩ノ説ニ於テ少シク注意シテ聽得ルコトアラバ古昔ヨリ此蜜蜂ノ事ニ關シ論述著作スルコト數多ニシテ稱譽スルノ説多キヲ以テ大ニ得意快樂スベキハ必定ナリ然リ而シテ此蜂モ亦他ノ伶俐ナル人民ノ如ク專ラ其自己ノ事務ヲ成就センコトヲ勉勵シテ其隣人ノ言説ヲ考究スベキノ時ヲ有セザルナリ

譯者曰ク隣人トハ即チ普通ノ人ヲ云フ蜂モ亦同ク地上ノ動物タレバ斯ク云ヘルナ

シル可

今夫レ花園ノ隱蔽セル一隅ニ於テ此繁忙ニシテ趣味アル羽

蟲ノ房ヲ見ルコトハ極メテ快樂ナルモノト云フ可シ蓋シ此  
 羽蟲ハ常ニ勉強ト清潔トノ教告ヲ  
 人ニ與フルモノニシテ人一度其動  
 作ヲ目撃スル時ハ實ニ大聖賢ナル  
 眞神ノ斯ク驚愕ス可キノ性靈ヲ此  
 羽蟲ニ付與シタルノ意ヲ想像セザ  
 ラント欲スルモ得ベカラズ  
 今此蜂ノ一群其房ニ住居スルニ方  
 リテハ人必ス蜂ノ急ニ自ラ群隊ヲ  
 分チテ四個ノ部分ニ排列スルコトヲ認メ得可シ即チ其第一  
 部ハ作業ヲ始メ要用ナル物品ヲ求メンガ爲メニ其房ヲ出去

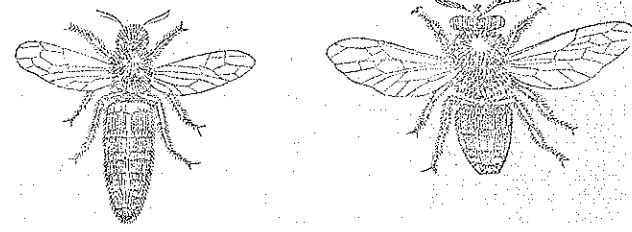


第四百三圖

リテ遠ク原野ニ遊行シ又第二部ハ苦慮シテ其房ヲ検査シ以  
 テ其住所ニ出入スベキ孔ノ外ハ各所ノ孔竅ヲ閉塞シ又第三  
 部ハ其胃腸ニ藏畜スル所ノ蜜蠟ヲ出シ且ツ之ヲ集メ合セテ  
 其自己ノ舍ノ基礎ヲ堅固ニス第四部ハ他ノ同黨ノ經始セシ  
 所ノ諸事業ヲ監視シテ全ク精巧ニ做シ了ルナリ  
 凡ソ斯ク勞作スル蜂ノ常ニ職業ト做ス所ノ事ハ諸花ノ藥粉  
 ヲ採リ集ムルニ在リ又蜜蜂ノ舍ヲ作ルニ在リ而シテ其後脛  
 ニ小籃ノ具備スルアルヲ以テ藥粉ノ畜積ヲ其房ニ搬運シ得  
 ベシ又蜜蠟ハ此羽蟲ノ背上ノ鱗下ニ分泌スルモノナリ然ル  
 ニ斯ノ如ク分泌セシ物質ヲ製造センコトヲ欲スルトキハ大  
 ニ熱度ヲ要スルモノナレバ時候ノ炎熱ナルニ方リテ甚ダ多



圖五十四百第



テ又此女王ハ廣潤ニシテ自由ニ區別シ得ベキ所ノ王居ヲ擇  
ヒテ自ラ此ニ住ムナリ且ツ此女王ノ身上ニ事ノ生スルトキ  
ニハ勞作スル所ノ衆蜂ハ悲哀シテ其平常ノ  
工作ヲ拋棄スベシ況ヤ其疾病アルトキニハ  
皆憂慮スル護病人ノ如ク懇切ニ注心シテ以  
テ侍養セントス  
雄蜂ハ曾テ花上ニ飛行スルコト無ク常ニ其  
家ニ停留シ唯勞作スル所ノ蜂群ノ勉力ニ依  
賴シテ生存スルナリ今爰ニ懶惰ナル雄蜂ノ  
圖ヲ示セリ  
蜜蜂ハ其舍ヲ製造スルニ精細ニ數學ノ理ニ

適當スベキコトヲ注意セリ即チ其舍ハ六角六邊形ニシテ一  
時ニ數多ノ室ヲ作り且ツ可及的小量ノ蠟ヲ費ヤスベキ道理  
ヲ以テ組成セルモノナリ故ニ深ク數理ヲ講究シタル人モ此  
工作ヲシテ更ニ一層ノ善美ヲ盡サシムベギノ工夫ヲ有スル  
モノ無シ然リ而シテ此蜂房ハ一舍ノ底ヲ同一様ニ之ニ反對  
セシ他ノ一舍ノ底ニ供用スベキ如ク排置セシ所ノ舍ノ二行  
列ヨリ發起シテ成立セリ  
又此脆弱ナル舍ハ始終其上邊ニ夥多ナル蜂ノ小趾ノ過ルコ  
ト有ルヲ以テ其摩耗スルヲ防ガン爲メニ蜜蜂自ラ舍室ノ各  
個ノ周邊ニ縁ヲ作り其厚サヲシテ壁ニ比スルニ凡四倍ナラ  
シメ以テ預備スル所アルナリ而シテ此羽蟲ハ常ニ其口ヲ以

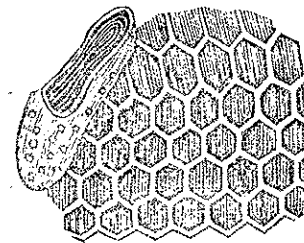


テ勞作シ重疊反復之ヲ衝キ動カスカ故ニ其經營スル所ノ舍  
ヲシテ堅硬ニシテ平滑ナルニ至ラシメ得ルナリ今此條下ニ  
彫刻スル所ノ圖ハ蜂房ノ一面ト蜂王ノ居ノ開放シタルモノ  
ヲ示セルナリ

蜜蜂ハ蠟ノ溶解シテ其形ヲ損センコトヲ  
防クガ爲メニ常ニ其房中ニ善ク冷風ヲ煽  
起センコトヲ深ク注意スルモノナリ而シ  
テ季候ノ炎熱ナルトキニハ數多ノ蜜蜂其

房底ニ在リテ頻ニ兩翼ヲ震搖シ其震搖ノ迅速ナルコトハ殆  
ト人ヲシテ其翼ヲ認メ得ルコト能ハザラシムルガ如キノ妙  
儀アリ斯ノ如ク迅疾ニ震搖煽動スルニ方リテハ其房ノ頂上

圖六十四百第



ノ孔邊ニ蠟蠟ノ點火セシモノヲ出タスコトアラバ則チ其燭  
火ハ必ス忽チ消滅スルニ至ルベシ此事理ヲ推シテ蜂翼ノ震  
搖ニ由リテ空氣ノ烈シキ流動ヲ起スベキコトヲ證明スルニ  
足ルナリ然レドモ時々非常ノ熱度ヲ受クルニ及ヒテハ假令  
此蜂ノ死力ヲ盡シテ煽動スルトモ其房ヲシテ清涼ナラシム  
ルコト能ハズ而シテ蠟ノ一部ハ必然溶解スベキナリ斯ノ如  
クニシテ此蜂ノ大ニ怒氣ヲ發スルノ時ニハ之ニ接邇スルコ  
トハ甚タ危難ナルモノナリ故ニ蜜蜂ヲ飼フ者ハ蜂房ヲシテ  
炎熱ナル日光ニ觸レシメザランコトヲ注意スベシ然レトモ  
亦善ク寒氣ヲ遮蔽センコトヲモ勉力セザルベカラズ且ツ之  
ヲ安置スベキ地位ハ必ズ開闢ナル處ニ遠サカルベシ若シ能

ク做シ得ベクハ流水ノ近傍ニ於テス可キナリ蓋シ此蜜蜂  
ハ深ク閑靜ヲ愛シ且ツ清冷ナル水ヲ好ムヲ以テナリ而シテ  
又此蜂ハ諸般ノ花中ニ於テ大ニ番紅花ト苜蓿花トヲ嗜メリ  
然レドモ又殊ニ好愛スル所ノモノハ佳香馥郁タル「ミグーチ  
ツト」草ナリ

此蜂ノ刺針ハ顯微鏡ヲ用ヰテ觀察スルニ恰モ兩鋒ノ矢ノ如  
シ然レドモ人ノ之ヲシテ憤怒セシムベキ事ヲ做サズレバ決  
シテ人ヲ螫刺スルコト無シ但シ其群集シ飛ヒ降りテ止マル  
所ノ地ヨリ之ヲ驅逐セント欲スル時ニ往々憤怒ヲ激發スル  
コトアリ故ニ蜜蜂ヲ房中ニ集ムルハ善ク之ヲ經驗シタル人  
ニ於テハ決シテ危難ナル事業ニ非ルナリ然レトモ童女輩ハ

必ス此事ヲ做サンコトヲ企ツベキニアラズ蓋シ此蜂ノ爲ニ  
ニ多ク螫刺セラルトキハ其痛惱熾衝非常ニ劇シキ者ニシ  
テ或ハ時ニ死ニ至ル者アルヲ以テナリ若シ螫刺セラルト  
キハ「ハーツホルン」藥品ノ名ノ湯ト白堊トヲ以テ其患處ニ供用ス  
レハ必ズ平愈スベシ又通常ノ食鹽ヲ取り之ヲ濕シテ其痛處  
ニ塗抹スルモ亦其效驗同一ニ著シキコトアラントス夫レ此  
螫刺ノ疼痛ハ蜂ノ微細ナル毒囊ヲ所有シ其中ヨリ液汁ヲ滴  
下スルニ由テ生スルモノニシテ此毒囊ハ即チ蜂ノ其身ヲ防  
護スベキガ爲メニ具備セルモノタリ故ニ人若シ螫刺セラル  
ルニ方リテ蜜蜂ノ其刺針ヲ拔キ去ルニ至ルマデ耐忍シテ待  
ツトキハ其疼痛却テ此羽蟲ヲ直チニ驅逐セシ時ノ甚劇シキ

ガ如キニ至ラズ是急疾ニ之ヲ驅逐スルトキハ其毒囊及ヒ刺針ノ其傷處ニ遺リ留マルコト有ルヲ以テナリ  
又蜜蜂ハ此事ニ由リテ其刺針ヲ失フトキハ決シテ生長復故スルコト無ク數月日ヲ出スシテ必ス其傷夷ヲ病テ死スルナリ  
凡ソ一房中勞作スル蜂ノ夥多ナル往々一萬五千ヨリ二萬以上ニ至ルコトアリ而シテ年ノ九月ニ至ルトキハ悉ク其雄蜂ヲ殺ス蓋シ此雄蜂ハ一モ刺針ヲ有セザルガ故ニ容易ニ殺シ得ベキナリ若シ又一房中ノ蜂數非常ニ過多ナルニ至ルトキハ則チ其群ヲ分割シ其新隊ハ吾輩ノ己ニ説タルガ如ク老女王之ヲ引率シテ更ニ他ノ家居ヲ探求センガ爲メニ飛去ルナ

リ夫レ此蜂ノ生活タル冬月ニ至リテハ唯暖和ナル時ニ儲蓄セシ蜂蜜ヲ食フニ在ルノミ故ニ烈寒ノ日ニハ其身体殆ト麻痺スルニ至ルベシ然レドモ斯ノ如キノ時日ハ決シテ久シキニ非ルナリ

「シェークスピア」氏ノ言ニ曰ク蜜蜂ノ勞作ハ正ニ動物ノ其性ノ規則ニ從フガ故ニ人口繁殖セル王國ニ上下ノ秩序ヲ教フベキコトヲ表ハセリト

夫レ蜂群中女王貴族及ヒ平民ハ各自其當ニ領有スベキ所ノ地位ニ在リテ其當ニ務ムベキ所ノ職分ヲ成シ以テ上帝ノ意ニ服從シ動物ノ高尚ナル部類即チ人ニ教訓ヲ授與セルナリ」又彼ノ土蜂ハ正ニ房中ノ蜜蜂ト細腰蜂トノ中間ニ在リテ其

蜜ノ味ハ房中ノ蜂ヨリモ一段好美ナルヲ云フモノアリ然ルニ若シ人此蜜囊ヲ探ルトキハ憐ムベシ土蜂ハ忽地ニ死スルニ至ルナリ故ニ「シェークスビーヤ」ノ著述シタル「ミッドサンメル、ナイツス、ドリイン」ト題セル演戲中ニ「ボットム」ノ俳優一巫女ニ談話セシコトアリ其言ニ曰ク

余ガ爲メニ薊ノ枝上ニ在ル赤色ノ土蜂ヲ殺スベシ願クハ良善ナル人余ニ蜜囊ヲ呈シ來レ又良善ナル人蜜囊ヲ破ラザランコトヲ注意セヨ且ツ余ハ汝ノ蜜囊ヲ充溢スルアレバ深ク汝ヲ嫌フナリ

今若シ食物ニ於テ缺乏スルコトアルトキハ房中ノ蜜蜂ハ時々土蜂ノ巢ニ行テ之ヲ侵掠スルコトアリ而シテ此愛スベキ

圖七十四百第



圖ヲ掲ケ示ス

小動物ノ蓄積ヲ得テ歸ルニ及ヒテハ其蜜囊ニ滿載セシ所ヲ悉ク同輩ニ分與スベキコトヲ勸諭セラレ更ニ多量ノ蓄積ヲ得ンガ爲メニ復タ飛去ルコトアルハ蓋シ人ノ能ク知ル所ナリ又此蜂ハ或ハ古牆ノ一隅若クハ朽木ノ幹上ニ於テ其巢ヲ作爲ス又其冬日ノ住居ハ苔ヲ以テ其内部ヲ覆ヒ一モ顧慮掛念スル所ナシ因テ今此幸福ナル羽蟲ノ社會ノ而シテ此蜜蜂中ニモ亦許多ノ種類アル者ニシテ或ハ其團聚即チ隊ヲ做シテ共ニ生活セザルヲ以テ單身蜜蜂ト稱スル者アリ或ハ砂礫若クハ細石ヲ拾收固着シテ其巢窟ヲ造ルヲ以テ石工蜜蜂ト號ス

ルモノアリ或ハ地ヲ掘テ其房室ヲ造ルガ爲メニ掘礦蜜蜂ト  
 名クルモノアリ或ハ木工蜜蜂ト稱シテ柔軟ナル木ヲ穿テ其  
 巢ヲ作ルモノアリ或ハ室具匠蜜蜂ト稱シテ紅色ナル罌粟ノ  
 花片ヲ摘截シ之ヲ以テ其房窟ヲ覆フベキ美麗ナル帳帷ヲ製  
 スルモノアリ或ハ梳毛蜜蜂ト稱スルモノアリテ其住所ヲ造  
 ルニ苔ヲ用井單身ヲ以テ生活スルコト無ク其工事ヲ完成セ  
 シガ爲メニ互ニ集合シテ群隊ヲ做シ其巢ヲ作ルニ臨ミテ先  
 ツ其願ヲ以テ苔蘚ヲ拾摘シ其前足ヲ以テ之ヲ梳リテ一個ノ  
 小束ト做シ更ニ此小束ヲ已レニ次ク所ノ蜂ニ推送ス此蜂ハ  
 即チ之ヲ受ケ取りテ更ニ次ナルモノニ傳與シ斯ノ如クニシ  
 テ尙更ニ逐次ニ傳送シテ遂ニ此束ヲシテ巢窟ノ近傍ニ至ラ

シムルナリ

今夫レ是等ノ非常ニ微細ナル羽蟲ニシテ人類ヨリ觀ルニ此  
 ノ如ク驚歎感服スベキ事業ノ多キハ豈奇異ナル者ニアラ  
 ズヤ此羽蟲ノ才智アルハ歷代諸人ノ歎美スル所ナリ又其勉  
 強刻苦スルコトハ太古以來常ニ勸善者ノ爲メニ引證シテ諺  
 語ノ趣意トセラレ説法師ノ爲メニ題目トセラルゝ所ニシテ  
 數多ノ理學者ハ此蟲ヲ觀察センガ爲メニ殆ト其一生涯ヲ費  
 了セリ而シテ或ハ此蟲ヲ稱シテ羽翼ヲ有セル數學者ト爲セ  
 ルモノ有リ或ハ之ヲ細小ナル自然ノ糖菓商甘美ノ蜜ヲ所有スル故ニ斯ク云  
 リフナト呼ビシ者アリ且ツ經典ニ於テモ亦屢此蟲ヲ稱揚セシ  
 コト汝ノ能ク知ル如ク「パレステン」地名ハ蜂蜜ヲ注ゲル地ナリ

ト稱シタリ而シテ「サイリヤ」國ハ殆ト其全州ヨリ此甘美ノ蜂  
 蜜ノ夥多ナル分量ヲ產出スル所ニシテ此地ノ蜜蜂ハ樹木ノ  
 洞穴及ヒ岩巖ノ罅隙中ニ其房室ヲ作り此國ハ多種ノ野花ヲ  
 生ズルガ爲メニ其房室中ニ食料ヲ貯藏スルニ於テ大ニ自由  
 ナ得タリ而シテ「ハンガリ」<sup>地名</sup>ノ樹林モ亦大ニ此蟲ヲ生産ス  
 ルヲ以テ其蜜ハ全國ノ主產タルガ如キニ至レリ又歐羅巴土  
 耳其ノ諸山ニモ此蟲ノ蠢動スルモノ甚タ多シ其中ニ就キテ  
 汝ハ「ハイメツタス」<sup>地名</sup>ノ盛大ナルハ獨此蜜蜂ニ由レルコトヲ  
 記憶スベシ且ツ「カツフアリヤ」<sup>地名</sup>ニ於テモ亦野生蜂蜜ノ夥多  
 ナル分量ヲ生産セリ而シテ此地ニ在テ其住民ノ蜂巢ヲ發見  
 センガ爲メニ用井ル所ノ方法ハ甚タ奇異ナルモノトス故ニ

今余此方法ヲ汝ニ説話スベシ夫レ此「カツフアリヤ」ノ樹林中  
 ニハ「ビー」カック」<sup>モロツク</sup>或ハ「ビー」グワイド」ト稱スル一種  
 ノ小禽アリ而シテ此鳥ノ大サ殆ト雀ニ均シク少許ノ黃色及  
 ヒ白色ノ斑文ヲ帶ルノ外全身泰皮色ナルモノニシテ極メテ  
 蜂蜜及ヒ幼穉ノ蜂兒ヲ嗜好セリ然レトモ自然大蜂ノ爲メニ  
 抗拒セラル、コトヲ恐怖スルノ念アリ敢テ自ラ蜂巢ヲ襲撃  
 スルコト能ハズ然ルニ此國ニハ又「ラテル」即チ「ボチイ、サイ  
 セル」ト稱スル所ノ鼠狼屬ノ一種ノ小動物アリ此小動物ノ皮  
 ハ非常ニ堅硬ニシテ蜂ノ刺撃ヲ防拒シ得ルガ故ニ能ク蜂巢  
 ヲ破却シテ此無數羽蟲ノ群集シ更ニ増加シテ險害ヲ生スル  
 ニ至ルコトヲモ畏怖セザルモノナリ「ラテル」ハ日ノ將ニ暮シ

トスル頃ニ其巢窟ヲ去リ此時方ニ其巢ニ歸リ集ル所ノ蜂ノ  
 方向及ヒ飛路ヲ看守シ大概常ニ此蜂ノ至ル所ニ追尾スルコ  
 トヲ得テ既ニ能ク其巢ニ達スルニ及ヒテハ毫モ忌憚スル所  
 無ク此巢中ノ美味アル貯藏物ヲ飽食シテ大ニ歡樂ヲ極ムル  
 モノナリ然レトモ「ラテル」ノ性タル甚タ伶俐ナルモノニシテ  
 其身ト同時ニ強銳ニシテ清亮ナル音聲ヲ發シテ蜂巢ニ至ル  
 所ノ「モロツク」ヲ見テ之ニ隨行シテ其巢ニ達スルコトヲ曉知  
 セリ此時ニ當リテハ「ラテル」ハ蜂蜜ヲ貪食シ「モロツク」モ亦能  
 ク其掠メ得ベキ所ノモノヲ掠メ且ツ其同伴「ラテル」ノ嫌テ食  
 ハザル者ヲモ飽マテ食ヒ盡サントス而シテ「ホツテントツク」  
 南亞非利加ニ住スル人種ノハ常ニ是等ノ二動物ニ隨フベキ  
 蓋シ「カツラリヤ」ノ民

コトヲ識リ其至ル處ヲ察認スルニ由リテ遂ニ蜂巢ニ達シ許  
 多ノ勞力ヲ費ヤサズシテ能ク蜂蜜ノ夥多ナル分量ヲ收メ取  
 ルコトヲ得是ニ於テ其身ヲ此蜂巢ニ誘導シタル小鳥ニ與ヘ  
 ンガ爲メニ常ニ許多ノ蜂蜜ヲ遺棄スルナリ  
 且ツ亞米利加ノ廣大ナル林樹中ニ夥多ナル蜂蜜ノ生スルア  
 リ此地ニ於テモ亦數群ノ蜜蜂ノ許多ナル花ヲ摘取シ之ヲ負  
 擔シテ其巢窟ニ飛行スルモノヲ看守シテ以テ職業ノ一部分  
 ト倣セル人アリ而シテ是等ノ職ヲ務ムルモノハ其久シク此  
 事ヲ實際ニ行ヒ深ク之ニ練熟シタルヲ以テ此細小ナル羽蟲  
 ノ飛行スル所遼遠ニシテ不熟練ノ人ノ眼ニハ髣髴トモ認識  
 スルコト能ハザル所ニ至ルト雖モ能ク其飛路ヲ追尾スルコ

トヲ得ルモノナリ

○蠶

夫レ蠶子ノ人類ニ大益アルコトハ自餘何等ノ蟲類ヲ舉ルト雖モ能ク之ニ比較スベキ者アラザル要用物ニシテ全世界ノ人民殆ト過半ハ蠶身ヨリ紡出スル所ノ織物ヲ以テ自己ノ衣服ト爲ササルモノ無シ而シテ支那ノ此蟲ニ富メルコトハ他ノ各國ノ遠ク及バザル所ニシテ此蠶子ノ始メテ歐羅巴ニ入來リシモ實ニ此國ヨリセシモノタルハ今ニ至テ一般ニ想像セラルゝ所ナリ且ツ支那ノ古代ニ於テノ名稱絹絲國ト呼ハレシ意ヲモ含蓄セリ

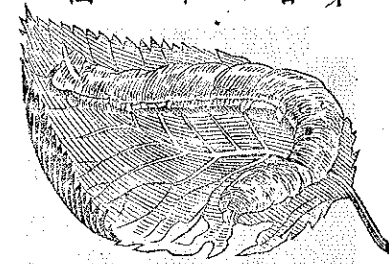
而シテ羅馬ニ於テ「アウレリヤン」王ノ時代ニハ絹ハ其秤量ト

重サヲ均クスルノ金ヲ以テ之ヲ購得ベキモノタリシガ即今ニ至リテハ苟モ婦女子タルモノニシテ絹衣ノ一箇ヲ所有セザル者無キニ至レリ又此蠶ヲ生スル所ノ卵ハ第五月若クハ第六月ニ於テ孵ルベキモノトス人造ノ火熱ヲ以テ其温度ヲ増進シ其期限ヲ早クスルニ非ザレバ決シテ此定時ヲ錯ルコト無シ其卵ハ大サ芥子ニ過ギズシテ蠶モ亦初メ孵リシ時ニハ極メテ微小ナルモノナリ然レドモ能ク新柔ナル桑ノ嫩葉ヲ喫食スルモノニシテ纔ニ六週若クハ七週日ヲ經ルノ間ニ俄ニ生長シテ上條ノ圖ニ著ハセシ如キノ大サヲ做スニ至ルナリ

凡蠶ハ其成長スルニ隨テ數回其表皮ヲ脱シ其度毎ニ二層精

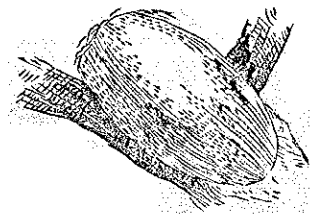


第四百十八圖



細ニシテ且ツ美麗ナル色澤ノ表皮ヲ生ズル  
モノナリ亦其體ノ兩傍ニ九個ノ孔竅アリ此  
孔口ニ由リテ呼吸ヲ通シ又其兩傍ニ二個ノ  
小囊アリテ其中ニ護謨性ノ物質ニシテ乾ク  
ニ隨ヒ絹絲ノ狀ヲ表スベキモノヲ保有シ此  
小囊ヨリ絹絲ヲ紡出シ之ヲ紡クノ際決シテ  
固有ノ絲ヲ斷絶セザル者ニシテ此絲ヲ以テ製造スル所ノ球  
ハ一個毎ニ皆能ク絹絲ノ長サ六「マイル」ニ至ルベキモノヲ保  
有セリ而シテ此球ヲ稱スルニ「ユツクン」即チ繭ノ名ヲ以テス  
因テ今爰ニ掲ケ示ス所ノ圖ハ即チ此繭ノ一個ヲ表スルノミ  
「ユツクン」ハ胡蝶ノ繭ト大ニ其實ヲ均クスルモノニシテ若シ

第四百十九圖



之ヲ放置スルトキハ其中ニ在ル所ノ「モツス」  
即チ「ミルラ」「蛾」ヲト稱スルモノ中ヨリ之ヲ  
嚙破シ孔ヲ穿テ表面ニ達スルモノナリ斯  
ノ如ク孔ヲ「ユツクン」ニ生スルトキハ其絹絲  
ハ寸斷分截スルニ至ルベシ是故ニ此蠶蛾ヲ  
斃サンガ爲メニ「ユツクン」ヲ焙リ焦シ若クハ烹サルベカラズ  
然レドモ卵ヲ生ゼシメンガ爲メニ殘シ置クベキモノハ宜ク  
暗黒ニシテ閑淨ナル所ヲ擇ビ紙片ヲ攤ダテ此紙上ニ之ヲ安  
排スベシ乃チ蠶蛾ハ「ユツクン」ヨリ出テ其卵ヲ産ミ了リ一瞬  
間ニシテ直チニ死ニ至ル者ナリ  
且ツ蠶ハ一個ノ珍奇ナル性質ヲ保有スルモノニシテ此性質

タル造物主ノ驚歎スベキ先見ヲ有スルコトヲ證明シ且ツ世上ヲ管理スル秩序ヲ顯ハサシガ爲メニ吾輩ノ注目スルニ足レルモノナリ凡ソ蛾ノ一種属中ニ於テ螟蛉及ヒ胡蝶等ハ極メテ能ク運動スル蟲ニシテ其「コツクン」ヲ紡タガ爲メニ種々ノ異ナル場所ニ周遊シテ處々ニ隱匿スルモノナリ然ルニ最も惘然ナル蠶ハ其人ノ爲メニ姑ク置カル、所ノ開放セル木盤若クハ箱ノ上ニ留着シテ去ラザルヲ以テ自ラ其所ヲ得タリト爲シ其給與セラル、所ノ桑葉ヲ喫シ竭スニ及ヒテハ更ニ他ノ食料ノ給與ヲ待テ螟蛉等ノ自ラ其食ヲ求メザルコトヲ得ザルモノ、如ク政テ其食ヲ搜索センガ爲メニ外出スルコト無ク又其「コツクン」ヲ造ルニ方リテ毫モ隱匿スルコト無

ク唯其主人ノ注意スル所ニ信任シ之ガ便利ヲ謀リ之ヲ保護センガ爲メニ之ニ授ケ與フル所ノ地ニ止リテ自ラ此ニ安息セリ又其飛行スベキ形狀即チ蠶蛾ト化成スルニ及ビテモ其雌蟲ハ少シモ飛ブコト能ハズ其雄蟲ハ雌ニ比スレバ身體輕快ニシテ活潑ナリト雖モ其飛ブコト十分ニ達シ難シ而シテ此事情ハ是即チ吾輩ノ蠶種ヲ得テ次年ノ用ニ供シ且ツ人類ノ衣服ヲ作ランガ爲メニ能ク此惘然ナル蟲ヲ適用シ得ル所以ナリ

又是等ノ有益ノ蟲ヲ養育スルニ當リテニ六週若クハ七週日ノ間毎日數分時ノ注意ヲ爲サンコトヲ要ス而シテ一人ヲ以テ大ニ其身体ヲ勞動セズト雖モ能ク五萬頭ノ蠶ヲ養ヒ得ベ

ク又絹一「ポンド」ヲ製セン爲メニハ蠶二千三百頭ヲ要スルモノナリ而シテ其蠶ノ近傍ナル諸物ヲシテ皆清潔ニシテ且ツ香芬ナラシムルコト專一ノ要務ト云フベク又其食ニハ一日間ニ兩回或ハ三回新鮮ナル桑葉ヲ與フベシ而シテ此桑葉ハ必ズ露ヲ以テ濕スベカラズ又温暖ナル日光ニ乾カスベカラズ又不良ナル臭氣ヲシテ染着セシムベカラズ又妙齡ナル婦人ニハ桑葉ヲシテ常ニ新清ニアラシメンガ爲メニ屢水ヲ洒クモノアリ然レドモ水ヲ洒クコトハ其蠶ヲシテ疾ニ罹リ卒ニ死亡ニ至ラシメンコト疑ヲ容レザル所ナリ

支那國ニ於テハ一婦人ノ絹絲製造ノ業ヲ管理スルモノアリテ之ヲ蠶母ト稱ス此婦人ハ先ツ其手ヲ浣淨シ清潔ナル衣服

ヲ着クルニ非サレバ蠶室ニ入ルコトヲ許サズ且ツ毎年皇后タルモノ此蠶ノ光榮ヲ祝センガ爲メニ一大饗宴ヲ設クルナリ此時ニ於テハ皇后及ヒ朝廷ノ内衆多ノ貴婦人等各自桑樹ノ枝ヲ持シ秩然整列シテ進行スルコトヲ當日ノ職務トセリ

又支那國ニハ野生ノ蠶ノ種類數多アリテ此蠶ヨリ生スル所ノ絹ハ其養育シタル蠶ヨリ得ル所ノ者ニ比スレバ皆一層硬強ニシテ且ツ粗糙ナリ而シテ野生ノ「ユツクン」ハ灰色ナレドモ此國ニ養成シタル蠶ノ「ユツクン」ハ美麗ナル縞色ナリ

加之ナラズ支那國ノ童女輩ハ皆大ニ絹ノ製造ニ於テ使用セラル、モノニシテ又常ニ他ノ諸事業ヲ務ムルニ於テ甚タ劇忙ニ成長シタリ一貴人ノ廣東ヨリ歸來セシ者嘗テ余ニ語ル

ニ其地ニ在リシ時未タ曾テ童女輩ノ徒ニ遊戲スルモノヲ見  
ザルコト及ヒ其童女輩ノ情態恰モ深ク心ヲ職業ニ留ムルコ  
ト大人並ニ婦人ノ如クニシテ唯其身体ノ大小異ナルノミト  
云フコトヲ以テセリ故ニ余ハ諸般遊戲嬉技ノ事ヲ書記シタ  
ル書籍ヲ以テ是等ノ童女ニ贈リ之ヲシテ少ク遊嬉ヲ習ハシ  
メンコトヲ欲スルナリ蓋シ童女ノ時ニ於テ斯ノ如ク繁務奔  
忙ナルハ大ニ其發達スヘキ才能ヲ妨ケ束縛シテ遲鈍ニ至ラ  
シムレバナリ讀者以テ如何ト做ス

○「アツクワリヤム」巨大ナル硝子瓶ニシテ所  
謂寶瓶宮ト稱スベキ者

凡ソ人ノ動物ノ生活スル狀態ト植物ノ美觀トヲ併セ賞玩セ  
ンコトヲ欲スルモノハ此寶瓶宮ノアルガ爲メニ大ニ其心性

ヲ樂マシムルコトヲ得ルモノナリ而シテ所謂寶瓶宮トハ水  
ヲ以テ之ニ充テ其中ニ水草魚類及ヒ蟲類ヲ保有セル玻璃製  
ノ箱匣ニシテ其形狀數種ニシテ一ナラズ或ハ小ナル水晶宮  
ノ如クニ作成セルモノアリ而シテ此ノ如キ珍品ハ其價固ヨ  
リ高貴ナラザルコト能ハズ然レトモ其稍粗質ナルモノニ至  
リテハ價モ亦適宜ニシテ廉ナリ汝此匣ヲ買得テ後其中ニ納  
ルヽニ其用ニ充テンガ爲メニ豫備セシ所ノ擬造岩貝殻植物  
及ヒ動物ヲ以テスベシ且ツ此動物ハ箱匣中ニ在テ衆多ノ物  
ト同シク生活スルニ當リテ動モスレバ互ニ相傷害スルニ至  
ルモノナレバ之ヲ選ヒ採テ箱匣ニ入ルヽノ際精細ニ注意セ  
ザルベカラズ譬ヘバ鱗魚ノ類ハ其可憐ニシテ忍耐ナル金魚

ノ背鰭ヲ嚙截スル兇惡ノ質ヲ有スルカ故ニ用心シテ此箱匣ノ外ニ拒絶セザルヲ得ズ  
凡ソ淡水ノ寶瓶宮ニ入ルヽニ最モ適當シタル動物ハ美麗ナル蜥蜴トス而シテ此動物ハ能ク箱底ニ沈ミ或ハ箱中ニ堆積シタル岩石上ニ登ルモノナリ且ツ金銀魚鱸魚鯽魚「バルヘツト」名小鰻鰻及ヒ細小ナル比目魚ノ如キモ亦此箱中ニ生活スルニ適當シタル動物ニシテ其全身ノ形容及ヒ性質ニ於テ互ニ差異スル所アリ善ク之ヲ觀察スルコト大ニ趣意アルモノナリ且ツ吾輩ハ植物ヲ以テ多ク箱内ニ充塞スルコトヲ好マズ唯相應スベキ一種ノ植物二株許ヲ栽エンコトヲ欲スルナリ「ストラトイデスアロイデス」ハ其成長スルニ隨テ甚タ能ク

小ナル「ユツカ」ニ類似スルモノナレバ此草一對ヲ細圓石ヲ堆積シテ凸高ニ造築シタル小丘ノ上ニ栽ユベシ是等ノ植物ハ觀ルニ益アルモノナリ又「バリスチーラ」スピラリス「ハ一種ノ趣味アル草ニシテ其皮膚透明ナルカ故ニ顯微鏡ヲ以テ觀ルトキハ其液汁ノ循環スル所歷々彰明ナリ又「ホットモパルス」トレツス「ト」稱スルモノモ均シク趣味アル植物ニシテ美麗ナル肉色ノ花ヲ所有セリ  
又鹹水ノ寶瓶宮ニ入ルベキ物品ハ海濱ニ於テ搜索シ得ベシ何トナレバ吾輩ハ一海岸ニ於テ秀美絶異ナル白頭翁草及ヒ他ノ海草ト動物トヲ看出シ得タルヲ以テナリ  
凡ソ海草ヲ採ルニハ須ラク其小石ニ根着セシモノヲ石ト共

ニ採摘スベシ是海草ヲ石ヨリ抜クモ害アラズト雖モ其根ヲ  
斷タズシテ之ヲ取り尙確乎トシテ枯死スルノ狀無キハ一層  
愛好スベキ所アレバナリ又此箱中ニ充タスベキ酸水ハ倫敦  
ニ於テ購求スベシ此水タル化學者ノ必ス製造シ得ベキコト  
ヲ吾輩ニ保證スルモノアリト雖モ人造ノ鹹水ハ海中ノ動物  
及ヒ植物ヲ養フニ甚タ善ク適應スベキモノニアラズ是人作  
ニテハ自然ノ鹹水ノ含畜シタル所ノ溶解セル植物性ノ物體  
ヲ有スルコト無ク且ツ此物体ハ決シテ製造スルコト能ハザ  
ルヲ以テナリ然レドモ我が少年ナル讀者ノ試ニ此水ヲ造ラ  
ント欲スルノ意アルヲ以テ吾輩茲ニ之ヲ製スル藥方ヲ附記  
セントス

白頭翁ニ供用スベキ水

通常食糧上ニ用井ル所ノ鹽 三「オンス」二分ノ一 一「オンス」ハ  
五分強 ナリ

瀉利鹽 一「オンス」四分ノ一

「クロライド、オフ、マグネシヤ」 二百「デレーン」 一「デレーン」ハ日  
本ノ一厘七毛強  
ナリ

「クロライド、オフ、ポツタシヤム」 四十「デレーン」

此四品ヲ取り之ニ混和スルニ蒸餾セザル泉水四「クワート」  
「クワート」ハ即チ一「ガロン」ヲ以テスベシ凡ソ此溶液ハ一「ガロン」  
大約日本ノ二「ガロン」ニ三邊尼半ノ費用ヲ要スルモノニシ  
テ此水ヲ用井ルニハ先ツ濾巾ヲ以テ其滓ヲ去ラザルベカラ

ス而シテ之ヲ施用スルノ方法ハ海水ヲ以テスルト異ナルベカラズ然レドモ此水ヲ用井テ之ニ動物ヲ放ツキハ先ツ數日間其中ニ細珊瑚ト共ニ海草二三株ヲ植エザル可ラザルナリ」而シテ是等ノ海草ニハ汝ノ看出ス所ノ許多ノ種類アル白頭翁ヲ以テスベシ是ニ於テ汝ハ又一箇ノ掃除者ヲ求メ宜ク茶褐色ノ小ナル蟹ヲ得テ此用ニ供スベシ此蟹ハ實ニ能ク汝ノ爲メニ「アツクワリヤム」即チ巨大ナル玻璃瓶所謂寶瓶宮ヲ清潔ニシテ其汚穢ヲ掃除スルモノナリ而シテ此蟹ニ加フルニ淡黃色ナル蟹若クハ綠色ノ海蝸牛「チリタ」二三個ヲ以テスベシ或ハ圓錐形ノ殻ニシテ美麗ナル石竹色ニ黑赤色ノ斑點ヲ帶ブル所ノ「シーザイファイチスト」二三個ヲ以テスルモ亦佳ナ

リ而シテ是等ノ物ニ小海老一二個及ビ細小ナル海燕二三個ヲ加フルトキハ汝ノ「アツクワリヤム」ハ完全セリト云フベシ又海草ノ屬ノ汝ノ動物ヲ入ル、ニ先ツコト數日水中ニ植エ置クベキモノハ必ズ石竹色ノ細珊瑚深紫色ノ「ラツグド、ドルス」<sup>名草</sup>及ヒ海苔又ハ各地ニ於テ看出シ得ベキ綠色ノ「ウルヴァー」<sup>名草</sup>即チ海苔ノ類タルベシ而シテ斯ノ如ク此「アツクワリヤム」ニ關涉シテ演說スルトキニ吾輩ハ常ニ「ミストル、キングスレイ」氏ノ精妙ナル「グラウクス」<sup>名書</sup>ヲ推薦セリ因テ讀者ハ同氏ノ勸奨スル所ニ隨テ「ゴツセソス、アツクワリヤム」<sup>名書</sup>ヲ採用スルヲ甚タ好シトス

園圃ノ藝

凡ソ世間ニ人意ヲ爽快ナラシムル事物中ニ於テ園藝ノ如ク健康ヲ保全スルノ教誨ヲ寓シ且ツ欣慰ヲ起サシムルモノ有ルコトナシ夫レ園藝ヲ倣スニ方リテ新鮮ナル空氣ト地ノ香氣トハ幼少ナル園丁ヲシテ其肢体ヲ強壯ナラシメ其皮膚ノ色ヲシテ薔薇ノ如ク紅ナラシム又數般ノ形狀ヲ具シ數般ノ色澤ヲ有セル花卉ノ成長スルコトハ常ニ慰樂ヲ生スルノ根源ト倣ル又草木ノ種子ヲ生成スルノ驚クベキト蜜ヲ得ンガ爲メニ花中ニ没スル所ノ蜜蜂ト小巢ノ裡面ヲ蔽ヒ且ツ其連牆ヲ作ルガ爲メニ巧ミニ葉ヲ截斷スル所ノ截葉蟲ト「リーフ、  
ロール」  
即チ葉ヲ捲クト云フ義ニシテ葉ノ草木ノ葉ヲ自己ノ

適宜ニ至ルマデ捲回スルトナ歴覽スルコト其他百般ノ事物彼ノ有志ノ小童女ヲシテ注目セシムベキコトハ大ニ教誨ヲ授與スト謂フベシ故ニ是等ノ事ハ吾輩ヲシテ大智能大慈悲ノ上帝ニ對シ驚歎シテ禮謝セシムル所ナリ

今此職業ヲ歡喜シ或ハ其事務ニ因テ利益ヲ起サンコトヲ欲セバ當ニ汝ノ注目スル所ノ事物ニ就キ各其理ヲ發見センコトヲ務ムベシ是蓋シ天然ノ萬物ハ皆其生成スベキ所ノ道理ヲ保有スルモノニシテ吾輩モ既ニ其理ヲ發見セルモノアリ或ハ否ラザルモノアレバナリ夫レ汝ハ蒲公英ノ何故ニ羽翼アル種子ヲ有スルヤヲ知ラント願ハズヤ又「パール」  
草ノ種子ハ何故ニ鉤ノ如キモノヲ有スルヤ「パールサミン」  
草即チ「ユウソク」



トリ、アーチレリ」ハ何故ニ其抵觸スルトキニ破裂スルヤ  
ノ理ヲ了悟センコトヲ欲セズヤ余將ニ汝ニ語ラントス大凡  
草木ノ花ハ或ハ此國ニ於テモ或ハ他國ニ於テモ皆自然ニ林  
中ニ生長スルモノニシテ吾輩ノ園中ニ有スル所ノ花ハ一般  
ニ外國ヨリ移シ來ルモノナリ吾輩ハ留意シテ我が園花ノ種  
子ヲ集取スレドモ世ニ一人モ之ヲ林中ニ集ムルモノ無カル  
ベシ但シ上帝ノ曾テ造成セシ物品ノ失亡センコトヲ防クガ  
爲メニ野外ノ花ヲシテ自ラ生長スルヲ得セシメテ之ニ具備  
セルモノナリ故ニ蒲公英ハ小ナル絨毛ノ羽翼ノ如キモノ有  
ルヲ以テ空中ニ飛揚シ其分散スル所ノ諸方ニ於テ生長スル  
ヲ得ベシ又「パール」ハ都テ其抵觸スル所ノ諸物ニ粘着シテ一

處ヨリ他ノ一處ニ轉送スルヲ得ベキナリ而シテ「パールサミン」  
ニ於テ其花上ニ羽蟲ノ止マルコトアルトキハ其種子ノ房忽  
チ收縮シ破裂シテ種子ハ恰モ小兒ノ玩弄スル突銃ヨリ發出  
スルカ如ク諸方ニ散布スルモノナリ  
球根即チ百合花等ノ如キ球形ノ根アルモノハ其植物ノ寒氣  
ニ堪フルコト能ハザルガ爲メニ具ヘタル驚クベキ物質ニシ  
テ其物ハ則チ草根ニアラズ其草ノ潛藏シテ温暖ナル日光ノ  
照臨ヲ待ツ所ノ小ナル地中ノ巢ナリ而シテ此球根ノ底ヨリ  
發生スル所ノ纖維ハ即チ其植物ノ眞ノ根ト云フベシ故ニ温  
暖ナル國ニ生長スル所ノ植物ニハ其球根ヲ具備スルモノ甚  
タ些少ナリ是其之ヲ要セザルニ由テナリ

凡ソ童女輩ハ細心ニ其自己ノ花園ノ事ヲ注目シ且ツ汚塵ニ染着スルカ若クハ度外ニ疲勞スル職業ノ外ハ花園ノ事ニ就キテ寧モ他ノ助力ヲ要セズシテ自ラ能ク成シ得ルニ非ズンバ則チ園丁ノ名ヲ辱ムルモノト云フベシ余某ノ少年ナル貴女ノ一花園ヲ有シ之ヲ自己ノ私有ト稱シ却テ一個ノ花卉ヲモ自ラ栽植スルコト無ク又一個人ノ惡草ヲモ自ラ除去ルコト無ク之ニ水ヲ澆クコトモ無ク其種子ヲモ集收スルコト無キモノヲ目撃セリ憫ムベシ是等ノ人ハ其園中ノ植物ノ名目ヲモ知ラザル所アルベク又何ノ月ニ開花落英スベキヤヲモ識ラザルベシ

斯ノ如キモノハ園藝ト稱スベキ謂レ無シ夫レ少年ノ園丁ハ

其自己ノ花ヲ栽植スル方法ト自己ノ種子ヲ蒔ク方法トハ必ス熟知セザルベカラザルナリ今汝ノ特別ニ注意シテ從事スベキガ爲メニ配與セシタル一田地ヲ有シタラバ種藝ノ好時節ハ正ニ三月ナルベキコトヲ假定スベシ是其植物ヲ培養スベキ最初ノ時ナレバナリ是時ニ汝ハ先ツ人ヲシテ汝ノ土地ヲ掘ラシメ或ハ汝自ラ着手シテ之ヲ掘リ且ツ善ク此土ヲ搗碎シテ準備セザルコトヲ得ズ然ル後ニ養樹園ヨリ「デルフイニユーム」「フロツクス」「オムニフロツラス」「ルー」「パインス」名豆「ウオール」「フラー」「ウエルス」黄花ノ「ポリアンザス」空輪草「ダウブルセル」「ラークスパー」及モ「スウィート」「ウイリヤム」石竹等ノ如キ數個ノ「ペレニアルス」植物ノ數年ヲ經テ枯テ買得シ汝ノ工夫

ナ凝ラシテ之ヲ植エ又一薔薇ヲ栽エ且ツ蔓草ヲシテ覆ハシムベキ牆若クハ他ノ地所ヲ有スル時ハ「ラチーサツクル」忍冬種「クレマナス」及ヒ有蔓薔薇ノ如キモ之ヲ栽ウルヲ可ナリトス而シテ石竹、「カルチーシヨン」石竹及ヒ丁子樹モ亦栽ウベク「ダフチ、インデカー」等モ之ヲ栽ウルヲ妙トス此「ダフチ、インデカー」ハ檸檬ノ如キ形狀ニシテ甚タ佳香アル植物ナリ三月ノ末ヨリ五月ノ始メニ至ルマデ汝ハ當ニ汝ノ年々蒔クベキ所ノ種子ヲ下スベシ必ス之ヲ勉力勞作シ其蒔キ法ハ六「インナ」或ハ八「インナ」ノ畦中ニ十二個若クハ六個ノ種子ヲ置キ土ヲ以テ薄ク其上ニ覆フベシ然レドモ之ヲ埋ムルコト過度ニ深キハ弊害アリ但シ能ク之ヲ覆ヒ日光ニ照映シテ其生

長ヲ妨グルヲ防禦セザルベカラズ又其蒔クベキ所ノ至良ナル「アンニユアルス」植物ノ一年間ニハ即チ「ミニヲツト」紅點細花近ツキテ之ヲ視「チモファイラ」大木ノ側ニ生スル「ゴルデン、レバ特ニ艶美ナリ」美麗ナルモノナリ「ゼニヤ」「ラークスパー」香氣ハ無ケレドモ最良ナル藍色ノ花「コレオプレス」北亞米利加ノ產ニシテ秋「カンデータフト」光澤花「クラルキヤス」白色及ヒ淡「スワイート、ビース」香氣「エスコルデヤ」及ヒ大小ノ「コンホルブルス」薔花類等ナリ而シテ衆花ノ色ヲ計リテ巧ミニ之ヲ排置スルハ大ニ花園ヲシテ美麗ナラシムルモノナリ故ニ深紅色ト白色ト比シ或ハ濃色ト薔薇色ト並ブル等ノ如ク其色全ク反對スル所ノ花ヲ相接シテ栽植スルトキハ則チ園丁ノ工夫甚タ爽快ニシテ興趣アルコト

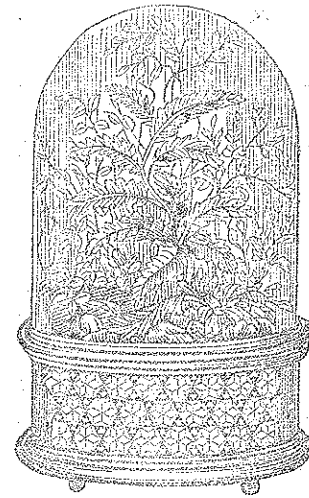
ヲ表スベシ斯ノ如クシテ夏日ニ至ルトキハ各種ノ愛スベキ  
 花爛熳トシテ開發シ以テ三四五月ノ勞力勉強シタル所ニ報  
 謝セントス第六月ニ於テハ石竹ト「カルチーシモン」ニ能ク養  
 土ヲ培シ之ヲ駢列シテ植エ又薔薇ノ枯枝ヲ截リ取ルベシ七  
 月ニ至リテ薔薇始テ其芽ヲ發ス九月ニ及ヒテハ乾燥セシ日  
 ナ擇ヒテ「アンニユアルス」ノ種子ノ既ニ熟セルモノヲ採取ス  
 ベシ蓋シ乾燥セル時ヲ擇フ所以ハ若シ溫氣アルトキニ之ヲ  
 採取スレバ必ズ微シ生ズルニ至レバナリ而シテ此種子ヲ採  
 收シタル後之ヲ堅厚ナル紙ニ包ミ且ツ丁寧ニ此紙ヲ疊ミ其  
 表部ニ端麗ニ其植物ノ名ト其何ノ月ニ花ヲ開クベキト其開  
 花ニ方リテ幾尺ノ高サニ至ルベキトヲ詳ニ書記スベシ斯ノ

如キ方法ニ從フトキハ汝ハ當ニ汝ノ畦端ニ於テ低小ナル花  
 木ヲ栽ツベシ爾スルトキハ高林喬木ノ中ニ全ク隠屏セラル  
 ヲコト無ク容易ニ人ノ注目スルコトヲ得ルモノナリ且ツ汝  
 ハ是等ノ諸花ニ於テ各其開發スベキ時ヲ知ルニ由テ汝ノ花  
 園ノ式樣ニ毎月陸續トシテ植物ヲ栽エ繼ギ四時爛斑滿園ノ  
 錦綉段ヲシテ斷絶セシムルコト勿レ  
 十月ニ至リテハ堅硬ナル「アンニユアルス」ノ種子ヲ蒔カザル  
 ベカラズ就中「リツクツト」藥草ニシテ其香「ラークスパ」「コレ  
 オプシス」「エスマルダヤ」及ヒ各種ノ「カリホルニヤ」地名「アンニ  
 ユアルス」ハ必ズ蒔カザル可ラザルナリ又風信子、鬱金香、香紅  
 花及ヒ他ノ春季ニ方リテ開花スル所ノ球根ト「ア子モン、ホル

デンシス<sup>庭ノ白頭翁ノ義美ニ</sup>等トナ植エザル可カラズ<sup>而シテ枯葉ハ同一所ニ集收シテ漸次ニ積累スベシ遂ニ腐敗シテ</sup>汝ノ植物ヲ養長スベキ善長ナル糞土ヲ攷スニ至ルナリ  
 植物ノ水ヲ要スルトキハ汝ハ常ニ宜シク之ニ灑クコトヲ注意スベシ然レドモ過度ニ之ヲ洒キ土地ヲシテ甚ダ濕ハシムル勿レ夫レ植物ノ爲メニ水ノ最モ有益トスル所ハ空氣ト混合セシムルタメニ各別ニ小球狀ヲ爲シタル細孔ヨリ靜ニ之ニ注キテ雨水ノ降下スル如クナラシムルニアリ又必ズ植物ノ幹ニ接近シテ水ヲ注クベカラズ是果シテ大害アルモノニシテ或ハ其枝幹ヲ枯槁シ或ハ大ニ之ヲ凋衰セシムベシ且ツ其注クベキ所ノ水ノ分量ハ植物ノ性質ト其成長ノ形狀トニ

隨テ異ナル所アリ蓋シ大葉ヲ有スル植物ハ其水ヲ要スルコト小葉ノモノニ二倍セリ其水ヲ濺クノ時モ亦季候ニ由テ異ナルベシ凡ソ春秋ニ在テハ早朝ニ於テシ夏時ニ在テハ薄暮ニ於テシ冬日ニ在テハ白晝ニ洒クヲ以テ適セリトス又其水ハ若シ容易ニ得ベクンバ池水或ハ雨水ヲ以テスベシ然ラズンバ泉流ヲ汲ンデ暫時ノ間之ヲ大氣ニ露白シテ後供用スベキナリ  
 凡ソ童女輩殊ニ都府ニ生活スルモノハ花園ヲ有スルノ利益アルコト無シ然レドモ尙風信子ヲ養フコトヲ得ルニ由リ諸花ヲ培養スルノ工夫ヲ隨意ニ增長スルコトヲ得ベシ蓋シ此風信子ヲ養フコトハ固ヨリ煩勞ナルニアラズ其生長スル所

第五百一十圖



ナ日撃シテ其心ニ快樂ヲ生スルニ至テハ過大ニ其勞作ニ報  
スト云フベシ夫レ風信子ヲ養フハ九月ノ一日ニ於テ濾シテ  
其滓ヲ去リタル水ニ鹽一ヒヲ加ヘシモノヲ保有セル「ハイア  
シンス」グラス即チ風信子ノ玻璃ニ其根ヲ入ル所謂風信子ノ  
玻璃ハ土ヲ入レズシテ唯水ヲ容ルモノナリ其狀ハ第一百  
五十圖ノ如シ而シテ後常ニ其水ヲ換ヘント欲スルモ此玻璃  
壺ヲシテ空虚ナラシムルコト  
ナク唯一週間毎ニ其蒸發ニ由  
リテ減却セシ所ヲ補フガ爲メ  
ニ更ニ濾シタル水ヲ注グベシ  
其水ヲ注クニ方リテハ風信子

チ玻璃壺ヨリ出スコト勿レ是其長根ヲ傷害スルヲ以テナリ  
然レドモ其水ニ浸潤スルコトヲ要スルガ故ニ少ク之ヲ舉ゲ  
ザルベカラズ

汝ハ風信子ノ一年水中ニ在テ其花ヲ發シ既ニ萎ムノ後之ヲ  
無用ノ物ト做シテ投棄スルコトヲ爲ス勿レ人ノ此根ヲ賣ン  
ト欲スルモノハ常ニ其無用物タルコトヲ汝ニ語りシガ如シ  
而シテ次年ニ至リ之ヲ發土ノ壺ニ植ウベシ因テ風信子ハ再  
モ開花スルニ至ラントス故ニ斯ノ如ク間斷アルノ後汝ハ再  
モ取テ之ヲ水中ニ置キ以テ培養スルコトヲ得ベキナリ  
耶穌ノ生日ノ祭ニ至ルマデ薔薇花ヲ貯藏スルコト  
夫レ薔薇ノ苞ヲ生シ其花ノ將ニ開カントスル頃ハ耶穌生日

ノ祭ニ於テ饗用ニ備ヘンガ爲メニ此花ヲ貯藏スベキ時ナリ  
而シテ之ヲ做スニハ先ツ汝ノ薔薇樹ヨリ長サ二三「インチ」ノ  
莖ニシテ苞ノ將ニ開カントスルモノヲ有セル者ヲ截斷シ此  
莖ノ周圍ニ細キ絲一條ヲ結着シテ此苞即チ莖ヲ握ラザル様  
ニ注意シテ封蠟ノ溶解シタルモノヲ急ニ其端ニ貼スベシ此  
蠟ノ温度ハ柔軟ナル際ヲ可ナリトス然ル後ニ紙片ヲ取テ之  
ヲ截リ尖圓形ノ一片ト做シ此紙片上ニ前條ノ薔薇ヲ置キ空  
氣ヲ拒絶センガ爲メニ紙片ノ端ヲ擦リ之ヲ一匣中ニ納レ又  
此匣ヲ一個ノ抽斗ニ藏スベシ果シテ斯ノ如クニスルトキハ  
能ク空氣ヲ拒絶スルヲ得ルコト疑ヲ容レザル所ナリ冬季ニ  
至リテ之ヲ取出シ其莖端ヲ切除シ莖ヲ微温湯中ニ浸スベシ

幣ノ如クシテ二三時間ヲ經ルトキハ此薔薇ハ恰モ夏時ニ於  
ケルガ如ク美麗ナル盛色ヲ表シ香氣ヲ發スルニ至ルベシ若  
シ其室甚タ温暖ニ過ルトキハ冷水ヲ以テ温湯ニ代用スルモ  
亦可ナリ

一莖ヨリ異様ノ花ヲ生セシムルコト

此方法ヲ做サン爲メニハ先ツ接骨木ノ一小條ヲ取テ其心ヲ  
去リ且ツ縱ニ之ヲ割キ其部分毎ニ盛ルニ數種ノ色ノ花ヲ生  
ズベキ種子ヲ以テシ泥土ヲ以テ此種子ヲ包圍シ而シテ後ニ  
木ノ二片即チ小條ノ部分ヲ合セテ共ニ之ヲ結束シ其造成セ  
ル物ノ全体ヲ一個ノ壺ノ泥土ヲ以テ充實シタルモノニ栽植  
スベシ是ニ於テ汝ノ蒔ケル所ノ種子ヨリ衆多ノ植物ノ此小

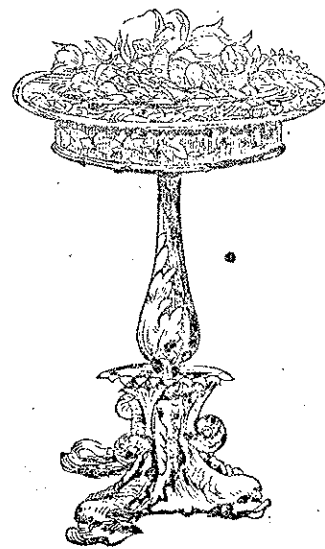
條ニ發生スルモノ有リテ各色ノ花ヲ孕メル所ノ枝ヲ生シ是等ノ枝互ニ相結合シ他ヨリ之ヲ觀ルトキハ實ニ一莖ヨリ發出シタルモノ、如キニ至ルナリ

客室ニ供スベキ花

凡ソ家室中ノ植物ニ於テ其善美ヲ盡サンコトヲ期望スル所却テ甚タ過度ナルモノアリ今夫レ花園ニ在リテハ衆花ノ成熟シテ凋衰スルニ至ルトキハ之ヲ除キ去リ更ニ他ノ之ニ繼グベキ新妍ナルモノヲ愛用スベキナリ所シテ吾輩モ亦何等ノ花ニテモ其盛時ヲ過キタルモノハ皆之ヲ廢棄シ更ニ他ノ之ニ續クベキモノヲ採用スベク且ツ是ニ由テ能ク畦及ヒ園ノ境界ヲシテ整齊ナラシムルコトヲ得ルモノナリ是故ニ吾

輩ハ客室中ノ植物モ常ニ最良ナル美麗ノ狀ヲ保有スルコト其園中ニ在ルモノニ勝ルベキコトヲ思考スルナリ故ニ客室ニ供スベキ花ヲ選

第百五十一圖



フニ吾輩大ニ盡力スト雖モ主的トシテ其盛時ノ最モ久シキニ堪フベキ物ヲ採用スベシ若シ其香氣及ヒ色澤ヲ有スルモノヲ取り得ルノミ而シテ「ゼラレニユーム」春初ニ時テ直ニ花ヲ發シ紫色ニシテ後青色ニ變ス「メルトル」佳香アル小花ニシテ齒及ヒ「カメルリヤ」即チ痛ノ藥ト爲スベキモノ並ニ他ノ不凋ノ灌木ハ其花ノ有無ニ關セズ常ニ鮮麗ノ看ヲ做スモノナリ吾輩ノ多ク「ウオール、フラーウエル」黃花ノ「ミグ紫羅蘭」



ニオチツト」「スワイートビー」其ニ草「チヤイナ、アスター」 菊及ヒ  
 他ノ同種属ノ植物ヲ選擇スルニ方リテ吾輩常ニ斯ノ如キ花  
 卉ハ其盛時ノ甚タ短キモノタルコト及ヒ其花ノ傷殘スルニ  
 及ヒテ更ニ他ノ新妍ナルモノヲ以テ之ニ代用スベキコトヲ  
 胸裏ニ默記シテ忘却スベカラズ吾輩ハ又植物ノ終年家室ニ  
 在ルモ尙其艷美ヲ失ハザルモノヲ拔擢センガ爲メニ「カメル  
 リヤ」「メルトル」「アカシヤ」花葉共ニ美ニシテ橙子ノ如キ香  
 氣アリ又以テ器具ヲ造ルベシ 及ヒ  
 「ゼラニユーム」ヲ薦舉スベシ然レドモ居住ノ家内ノ客室ハ諸  
 般ノ玻璃製造所ニ於テ煖室ト同一タラシムベキ者ニシテ其  
 中ニ具備スベキ物品ハ他室ノ物ニ比スレバ一層善良ナラシ  
 ムベキ所ナリ故ニ其中ニ置キタル花モ凋傷スルニ及ヒテハ

汝ハ更ニ他ノ植物ノ其盛時ノ將ニ來ラントスルモノヲ代用  
 シ同時ニ前次ノモノヲ除キ去ルベシ而シテ吾輩唯一時ノ佳  
 觀ヲ呈スベキ植物ト稱スルモノ、絶美ナル花ヲ選取スルニ  
 於テハ必ス妙趣向ノ人ヲシテ此舉ノ好キヲ想像セシムベキ  
 モノ無キニアラズ夫レ是等ノ暫時佳觀ヲ呈スル花ハ其價甚  
 タ廉且ツ人心ヲ樂マシムルコト特別ナルモノニシテ譬ヘバ  
 一ノ「カメリヤ」ノ價金ヲ以テ「ストツク」草花十二對若クハ「ミニ  
 オチツト」數壺ヲ購ヒ得ベシト雖モ此「ストツク」及ヒ「ミニオチ  
 ツト」ハ其美麗ニシテ佳香ヲ有スルコト「カメリヤ」ニ同一ナル  
 モノナリ故ニ此「ストツク」及ヒ「ミニオチツト」モ亦能ク吾輩ノ  
 爲メニ一月間其花ヲ開キ其香氣ヲ發スルコトヲ得ルトキハ

吾輩ニ於テ「カメリヤ」ヲ得スト雖モ遺憾多カラズト云フベシ然レドモ吾輩ガ客室ノ「ゼラニウム」ト稱スルモノニシテ興趣アル數種ノ葉ヲ生シ其葉ハ皆美麗ナル色ヲ表スル所ノ植物ハ人唯此一種ノミヲ得ルト雖モ以テ其花園ヲ裝飾スルニ足ルモノナリ凡ソ此植物ノ属其花ニ於テハ一點ノ誇ルベキコトアル無シ何トナレバ此花ハ概シテ風味ノ愛スベキ所ナケレバナリ然レドモ百花中ニ其葉ノ形狀斯ノ如ク數般ニシテ香氣アルモノナシ是ヲ以テ花園ヲ裝飾スルニ足ルモノト做スナリ且ツ此花草ハ決シテ其價ヲ減ズメカラザル他ノ特別ナル所アリ蓋シ此花ハ一切抛却シテ注意スルコト無シト雖モ其凋傷セザルコト他ノ衆多ノ花類ノ及ブベキ所ニア

ラズ乃チ多ク水ヲ缺乏シ或ハ非常ニ温氣ヲ受クルコトアルモ之ガ爲メニ少モ凋瘵衰敗スルコト無キハ大ニ他花ニ優レルモノアリ加之ナラズ此花ハ房室内ニ幽閉スルニ最も久シキニ堪ヘテ枯レザルコト大ニ他ノ華美ナル植物ニ超過シ又能ク精密ニ注意スルトキハ其極メテ美麗ニ至ルコト吾儕ノ之ヲ培養センガ爲メニ非常ニ勞作センコトヲ備フニ足ルト云フベシ而シテ當今ノ「ペラルゴニウム」ハ花ノ開クニ方リテハ美麗ナル所アリト雖モ其葉ノ性質ニ於テハ殆ト「ゼラニウム」ト同一物ナリ故ニ採リテ之ヲ室内ニ置クト雖モ其花ノ有ラザルニ當リテハ更ニ觀ルベキモノナシ然ルニ深紅色ノ「ゼラニウム」ハ殊ニ愛スベキモノニシテ其花又久シ

キニ堪ヘテ零散セザルナリ故ニ今爰ニ客室ノ架ニ於テ或ハ  
「ウルジャンケース」花瓶類及ヒ「アクワリウム」ヲ以テ兩個ノ隠ラ  
充スコト無キトキハ則チ其隠ニ於テ凡ソ十二個ノ植物ヲ供  
フベキヲ假定センコトヲ要ス即チ一月二月三月四月ニ於テ  
玉簪花鬱金香番紅花「シヨングイル」即チ水仙ノ一種及ヒ尋  
常ノ水仙其他一般ノ春日發生スベキ球根トチ以テ飾ルベシ  
蓋シ是等ノ花草ハ唯九月十月十一月十二月ニ於テ各月ニ其  
植物ノ一部ヲ壺中ニ浸シ以テ生長セシムルコトヲ要スルナ  
リ又五月ニ於テハ球根中或ハ尙花ヲ發スルアリ且ツ吾輩ハ  
「ダブル、ストツクス」ト「ミニヲツト」ト金色ニシテ「ダブル  
ウオール、フラウエルス」以上「ダブル」トハ二重ト稱スル意味ナリハ八重ト稱スル  
意

之ヲ飾ルベシ六月ニ於テハ「ストツクス」支那ノ薔薇深紅色ノ  
「ゼラニウムス」ロベリアス」及ヒ「カルセオラリヤス」等アリ七  
月ニ於テハ薔薇ヲ主トシテ其他「チモフィラ」「ローダンゼ」「エリ  
シミユーム」「バルサム」ノ如キ鮮明ナル花ノ「アンニユアルス」ト  
數多ナル「ペレニアルス」以上ノ譯皆ノ「フロクセス」トアリ八月ニ  
於テハ「チヤイナ、アステルス」「クリントニヤ、ブルケエルター」「カ  
ンパニユラーロイリー」「フロクストロンモンデー」ヲ加附スベ  
シ九月ニ在テハ薔薇花未ダ凋落セズ且ツ「ダリヤス」及ヒ他ノ  
種類ノモノモ尙花ヲ失ハズ十月ニ於テハ秋ノ薔薇ノ存スル  
アリ又「ダリヤス」モ續キテ其花ヲ開キ更ニ善美ヲ増シ秋ノ洎  
夫藍ト「アマリソース、ルーターヤ」ト稱スル植物モ亦花ヲ發ス

ベキナリ而シテ此時始終深紅色ノ「ゼラニウム」「カルセオラ  
リヤス」「バルサムス」及ヒ他ノ數種ノ植物モ繼テ開クベキモノ  
アリ是ニ於テ吾輩ハ是等ノ花ニ繼グベキモノヲ探求セザル  
可ラズ即チ種々ナル「ゼラニウムス」ノ多數ト「セストルム」、  
アウランテヤクム」ノ一二株ト「ジャスマミニウム、フジフロル  
ム」ノ早ク熟スル植物ト數般ニ區別セシ種類アリテ三冬ノ際  
常ニ開ク所ノ「コルリース」トヲ採用セザルベカラズ今吾輩ノ  
掲ゲシ所ハ終歲花ノ續々發シテ絶ヘザルモノ、中僅ニ二三  
ヲ記載セルノミ然ルニ吾輩ハ此類ノ花何ノ處ヨリ來レルカ  
ヲ問ハル、コトアラントス時ニ余ノ居ル所ハ炊烟多キ都府  
ノ中心ニ在リテ池ニ附屬セル曠地無ク嘗テ植物ノ生長セザ

ル所ト假定セバ則チ吾輩ハ是等ノ植物皆其生長スル所ノ土  
地ヨリ採摘シ來ル所ト答ヘザルコトヲ得ズ而シテ汝ハ唯「ワ  
ルジャンケース」及ヒ「アツクワリーム」ヲ以テ其心ニ満足セザ  
ルコトヲ得ザルヲ以テセントス若シ又汝ハ必ズ花アルモノ  
ヲ得ント欲セバ吾輩ハ己ニ其最モ得易クシテ其價モ亦最モ  
廉ナルモノヲ記載シタリ然レドモ吾輩亦汝ニ郭外ニ住居ス  
ル一個ノ養樹者ト熟談スベキヲ以テ勸勵スベシ蓋シ此養樹  
者ハ深ク思慮ヲ費スコト無ク汝ノ爲メニ終歲相續キ植物ヲ  
得テ其花ノ盛時ヲ過ストキハ則チ之ヲ去リ更ニ新ニ開クモ  
ノヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルナリ然リト雖モ吾輩ハ當今  
此目途ヲ遂セント欲スルトキハ余ノ住スル所ノ土地ハ實ニ

健康ヲ保全スルニ適シ且清潔ナル場所ニシテ十分ニ廣ガリ  
 テ植物ヲ生長セシムルモ必ズ妨害ナキコトヲ想像セリ即チ  
 其家ノ各個ノ牕ハ暖室ト做スベク又客室ハ蓄藏所ト做スベ  
 ク一家内ノ他ノ名處ハ吾輩ノ其中ニ置クトモ必ズ害無キコ  
 トヲ保證スル所ノ植物ヲ置クト得ベク又彼ノ常盤木ノ  
 不凋ナルモノ、如キハ冬ニ在リテハ必ズ其中ニ置クベキナ  
 リ然ルニ今空氣ノ眞個ニ清潔ナルコトアラバ郊村ニアルト  
 キ何等ノ植物モ汝能ク之ヲ養成スルコトヲ得ベシ但シ空氣  
 ノ稠密塞スル地ニ在リテハ又一個ノ便利アリ其故ハ極メテ  
 成育シ難キ植物ハ最モ廉價ヲ以テ買得ベキコトアレバナリ  
 譬ヘバ「ストツクス」「ミニオチツト」深紅色ノ「ゼラニユームス」及

ヒ「カレセオラリヤス」ハ全ク空氣ノ閉塞スル地位ニ於テハ勿  
 論ノ難物ニシテ其儘ニ閉塞スル所アルモ尙之ヲ生シ之ヲ長  
 スルコトハ甚タ難キモノナリ然ルニ是等ハ常ニ十二株毎ニ  
 六「シルリング」ヲ以テ養樹家ニ於テ買得ベシ凡ソ家内ニ養成  
 スベキ植物ハ能ク注意スルトキハ何處ニ在リテモ生長スベ  
 キ美麗ナル葉ノ「ゼラニユームス」ト各處ニ生長スル玉簪花「ジ  
 ヨンクウィル」水仙、洎夫藍、及ヒ早ク開ク鬱金香等ノ如キ球根  
 ノ属トナリ而シテ他ノ植物ノ生長シ難キモノモ若シ之ヲ培  
 養セント欲セバ亦能ハザルニハアラザルナリ然レドモ吾輩  
 ハ人ノ多ク培養シ易キ植物ヲ生長セシメント欲スルガ  
 故ニ茲ニ唯其生長シ易キ植物ヲ家室中ニ養育スル一般ノ方

法ニ關シテ二三ノ義ヲ舉ケ示サントス

大凡植物ノ生質タル假令煖室ノ中ニ置クト雖モ必ス其根ヲ容ル、ニ充分ナル瓶ト其依頼シテ以テ成長シ得ベキ良好ナル糞土ト相當ナル濕氣ト其宜シキニ適スル所ノ空氣ト肅霜ヲ拒絶スルニ適應スル準備トヲ得ンコトヲ切ニ要スルモノニシテ是等ノ必需ノ中若シ唯一物ヲ缺クトキハ其植物ハ保護シテ之ヲ大氣ノ最モ善良ナルモノ、中ニ置キ又煖室ノ最モ巧妙ニ造築シタル者ノ内ニ納ルト雖モ後終ニ枯死スルコトヲ免レザルナリ然ハ則チ吾輩ハ何ノ理ニ由リテカ植物ノ客室中ニ在ルモノハ此ノ如キ許多ノ注意ヲ要セザルベキヲ期望スルコトヲ得ベケンヤ且ツ諸般ノ客室中ニ養成セラル

、數百千ノ植物ハ其情態果シテ如何ゾヤ夫レ是等ノ植物ハ皆常ニ主人ノ意ニ適スベキ所ニ置キテ其日ニ澆ク所ノ水ハ頗ル過量ニシテ栽植ノ壺ヲ載ル所ノ大盤ニ流溢スルニ至ルベシ然ルニ此憫然ナル無情ノ植物ハ其根株ノ汚敗スルニ至ルマデ頑乎トシテ此壺中ニ止ラザルコトヲ得ズ是ニ於テ斯ノ如キ花卉ハ漸々ニ衰弱シテ遂ニ此壺中ニ獨立スル能ハザルニ及ヒ其葉ハ低垂シ或ハ其莖ノ上ニ枯萎セザルコトヲ得ズ故ニ善良ナル人民ハ皆其植物ノ其土地ニ置カレザルノ甚ダ憐ムベキコトヲ思想セザルハ無シ然ルニ是等ノ植物ノ中斯ノ如ク過分ニ苦慮セラレザルモノハ更ニ之ニ反對シテ毫モ水ヲ給與セラル、コト無ク時雨ノ降ルニ非ルヨリハ一滴

ノ水ヲモ得ルコト能ハズ是ニ由テ是等ノ植物ノ如キハ前次  
ノ過量ノ水ヲ與ヘラルヽモノニ比スレバ更ニ一層速ニ枯死  
セントスルナリ然バ則チ此水ヲ與フルノ過度ナルト之ヲ與  
ヘザルトノ二途ヲ以テ植物ヲ待遇スルトキハ公侯ノ煖室ニ  
在ルモノト雖モ遂ニ枯死ノ患無キコト能ハズ故ニ客室ノ植  
物ヲ待遇スルニハ決シテ此二途ノ過ヲ倣スコト勿レ然リ而  
シテ今吾輩ハ更ニ他ノ許多ノ幸福ナル植物ノ状態ヲ記載ス  
ベシ夫レ此等ノ幸福ナル花卉ハ時々水ヲ給與セラレ或ハ又  
給與セラレズ若シ其水ノ缺乏ヨリシテ將ニ凋萎セントスル  
頃ニ至テ水ヲ受ケ又其根ノ濕氣ニ由テ將ニ腐敗セントスル  
ニ及ヒテ之ヲ乾カシ斯ク善良ナル運命ヲ得テ適宜ナル時間

ニ生活シ終ニ其衰老ニ由テ枯死スルニ至ルモノナリ此時ニ  
方リテハ其根株ハ壺中ニ充實シ相混雜シテ緻密ナル一塊ヲ  
倣シ一滴ノ水モ此根中ニ入ルコト能ハズ些少ノ培養モ之ニ  
達スルコト能ハザルニ至ルナリ故ニ是等ノ植物ハ其根ヲ敷  
展スベキ泥土無キガ爲メニ枯死スルモノナレバ其植物ノ覽  
觀場中ニ在リテ枯ルヽト同一事ニシテ決シテ其客室ニアル  
ガ爲メニ枯死スルニ非ズ而シテ又他ノ植物ノ終年看樓即チ  
臨前ニ突出シタル檯上ニ置クコトヲ得ベキモノ無キニ非ス  
此時ニ當リテハ降雨ノ爲メニ幸ニ植物ノ生ヲ保持スルコト  
アリト雖モ第九月ノ降霜ノ嚴肅ナルニ遇フテ之ガ爲メニ其  
命根ヲ斷絶セラルヽコト多シ是ヲ以テ觀ルトキハ植物ヲ枯

ス所以ノモノハ其要スル所ノ滋養物ヲ給セザルニ在リ而シ  
 テ此道理ハ植物ヲ何等ノ地所ニ安置スルニ當リテモ常ニ同  
 一ナルモノナリ又之ヲ購求スルハ必ス養樹者ヨリ之ヲ得ル  
 ナ可トス且之ヲ買フニ方リテハ必ス其鉢盤ヨリ取出シテ其  
 根ヲ撿シ若シ屈曲スル所アレバ其盤ノ狹小ナルニ由テ然ル  
 コトヲ知ルガ故ニ更ニ之ヲ大鉢盤ニ移シ栽エザル可ラズ之  
 ナ汝ノ家室ニ入ルニ先テ宜ク養樹者ヲシテ更ニ一層巨大  
 ナル壺ニ植エシムベシ而シテ吾輩ハ此將ニ家室内ニ入レン  
 トスル所ノ植物ハ「ストツク」ニ非ズ「アスター」ニ非ズ又他ノ一  
 時ノ植物ニ非ズシテ「ゼラニウム」或ハ「カメリヤ」若クハ他ノ  
 終歲存在スベキ良好ナル花卉タルベキコトヲ思想セリ斯ノ

如クニシテ此植物ノ家室内ニ在ルニ當リテハ第一ニ之ニ水  
 ナ與フルコトヲ注意スベシ然レドモ其泥土ノ表面ノ未ダ乾  
 カザルニ際リテハ決シテ水ヲ與フルコトヲ做サズ且ツ之ヲ  
 枯死ニ至ラシメザルガ爲メニ久シク水中ニ立タシメザルヲ  
 以テ定則トスベシ是乃テ植物ノ水ヲ缺乏スルヨリシテ少シ  
 ク凋衰スルニ至ルコトハ其要セザルトキニ之ヲ得ルニ勝レ  
 ル所アレバナリ又此植物ヲ客室中ニ置クニ方リテ其壺ヲ盤  
 中ニ立テザルヲ得ザルトキハ宜ク其花卉ニ多量ノ水ヲ與ヘ  
 此水ノ溢ルニ至ルベシ然レドモ此時ニ當リテハ其壺ノ各  
 處ニ水竇ヲ開放セザル可ラス又此盤ハ其壺ヲ支フルニ於テ  
 其面ト壺ノ底トノ間ニ空隙ヲ做スベキモノヲ設用スベシ是



此壺ノ乳ノ清潔ナラズ若クハ乾燥セザルトキハ必害アルヲ以テナリ凡ソ水ヲ與フルコトヲ能ク注意シ了ルニ及テハ其植物ニ可及的許多ノ微風ヲ與フルコト次ノ緊要ノ一事件ト云フベシ何トナレバ植物ハ天氣ノ穩靜ナル時ニ在テ許多ノ惠風ヲ受ケ得ルコト能ハザルヲ以テナリ是ニ至テハ汝又前次ニ此花卉ヲ一層巨大ナル壺ニ植エタリト雖モ時日ヲ經ルニ隨テ其根ハ再ヒ此壺中ニ充實スルガ故ニ之ニ一段廣大ナル地所ヲ此根ニ給與セザル可ラザルコトヲ注意スベシ是故ニ汝ハ若シ別ニ一層ノ大壺ト其根ノ周圍ヲ充實スベキ糞土ノ適良ナル種類トヲ得ル能ハザルトキハ汝ノ植物ハ必定凋衰セザルコトヲ得ザルナリ是ヲ以テ汝ハ必ス壺及ヒ糞土ヲ

給與スルヲ要務ト做スベシ若シ然ラザルトキハ汝ノ植物ハ次第ニ枯死スルニ至ルベシ斯ノ如キ培養ハ前次此植物ヲ未ダ購求セザリシ時ニ當リテ彼ノ養樹園ニ於テ之ヲ行フベク又時宜ニ隨テ自ラ糞土ヲ造ランガ爲メニハ宜ク腐敗セル糞草土ト眞土ト泥炭ト尿ノ腐敗シテ糞土ト化セシモノトヲ取テ平均ニ混和シテ之ヲ製スベシ而シテ冬季ニ至ルニ及テハ必ズ此植物ノ爲メニ嚴霜ヲ防禦セザルコトヲ得ズ然レドモ此植物ヲ臚上ニ安置スルトキハ此事ヲ做ス甚々難シトス故ニ其櫃ヲ家室ノ中心ニ移シ若シ此室中ニ火氣アラザルトキハ他ノ火氣ヲ保有セル臚ノ戸ト此室ノ戸トヲ啓開スベシ是蓋シ地水ノ凍結スルコトハ甚々酷烈ノ寒氣ニシテ永續スル

時ニアラザレバ家室ノ内部ニ至ラザルヲ以テナリ且ツ冬季  
ニ在テハ其泥土ノ未タ乾カザル間ハ水ヲ與ヘザルベキコト  
ヲ專ラ注意セザルベカラズ然レドモ之ヲ與フルトキニ於テ  
ハ其壺中ノ泥土ヲシテ悉ク濕潤セシムベシ唯少許ノ水ヲ與  
ヘテ其水ヲ泥中ニ入ルコト僅ニ「インナ」ニ至リテ止ミ其下  
ニ在ル所ノ纖根ハ尺ク乾枯スルガ如キハ植物ノ爲メニ最モ  
殘惡ナルコトニシテ其結末ハ此植物ノ葉悉ク黃色ト變シテ  
乾枯萎凋シ或ハ零落スルニ至ルナリ又夏時ニ方リテハ若シ  
機會ヲ得ルコトアラバ宜ク是等ノ植物ヲシテ溫暖ナル驟雨  
ヲ受クルコトヲ得セシムベシ普通ノ植物ハ之カ爲メニ大ニ  
裨益養育スル所アルモノナリ然レドモ植物ヲ養フガ爲メニ

斯ノ如ク諸般ノ事ヲ行フニ於テハ是等ヲ適用シテ錯誤無カ  
ランコトヲ盡力スベシ是ニ於テ可及的日光ニ近接シテ此植  
物ヲ置キ庶幾ハ許多ノ微風ヲ之ニ給與シ其水ヲ要望スルノ  
時ニハ即チ水ヲ施シ其要望セザル時ニハ之ヲ施スコト無ク  
其根ノ壺中ニ充實スルニ及ヒテハ更ニ一層巨大ナルモノニ  
之ヲ栽エ時々其葉ヲ洗滌シテ之ヲ清潔ナラシメ又其泥土ノ  
表面ノ粘着固結シ或ハ青綠色若クハ蘚苔ヲ生スルヲ見ルト  
キハ則チ其表面ヲ攪起スベシ果シテ能ク斯ノ如クニスルト  
キハ汝ノ植物ハ常ニ健康ナラザルコト無シ夫レ是等ノ事欸  
ハ客室中ニ盆栽花卉一般ノ草樹ヲ養成スルニ於テ實ニ秘術  
ト稱スベキモノニシテ此方法ニ由リテ適宜ニ凡百ノ植物ヲ

攝待スルトキハ假令炊烟ヲ以テ充塞シタル龍動府中ニ養ハ  
ル、ト雖モ必ス能ク他ノ植物ノ徒ニ注意撫愛スル人ノ爲メ  
ニ育養セラル、者ヨリハ三倍セル時間生榮シ得ベキコト必  
定ナリ是蓋シ植物ノ其人ノ過度ニ注意スルニ由リテ遂ニ枯  
死スルニ至ルモノハ其員數放棄セラル、ニ因テ然ルモノニ  
減ゼザルヲ以テナリ然レドモ植物ニ對シテ行フ所ノ慘酷ノ  
政ハ固ヨリ世ノ定法ノ禁示セザル所ニシテ人ノ毎年盆樹及  
ヒ數百萬ノ花卉ヲ水ニ飢渴セシメ若クハ之ヲ溺沒セシムル  
コトヲ曉ルモノハ皆能ク此植物ヲ養フ人ノ慘酷ト過度ナル  
親切トノ傷害アルヲ觀ルコトヲ極メテ悲歎セリ

切要ナル園藝ノ教告

凡ソ種子ヲ蒔カント欲スルトキハ必ズ其新鮮ナルモノヲ選  
バサルベカラズ蓋シ花園ニ植ウベキ物ノ種子ハ多クハ其生  
ゼシ年ヲ過クルノ後ニ至リテ其生長力ヲ失ハントス然ルニ  
又最モ貴重ナル種子ニテモ頗ル永久ニ生活シタルガ如キ質  
ヲ有セルモノアリ即チ木乃伊<sup>ミイ</sup>ノ棺中ニ貯藏セシ所ノ「エジプ  
ト」國ノ小麥ニ由リテ證明スベシ此小麥ハ數千年ノ間埋沒ス  
ト雖モ尙之ヲ地中ニ播植スルトキハ生長シテ且ツ蕃茂スル  
ニ至リシナリ又甜瓜胡瓜及ヒ各種ノ匏ノ種子モ能ク久シク  
保存スベキモノニシテ數年ヲ經ルノ後ニ之ヲ蒔クヲ可ナリ  
トス

雜草ノ種子ノ多年ノ間其生長力ヲ失ハザルコトハ實ニ驚愕

スベキモノニシテ譬へバ惡人ハ永ク其惡癖ヲ除キ去ルコト  
能ハザルガ如ク植物ノ惡種子ニ至リテハ決シテ長ク之ヲ斷  
テ盡スコト能ハズ乃チ此植物ハ全ク其根ヲ抜キ了ルト雖モ  
尙見ル可ラズ又知ル可ラザル所ノ芽ハ依然トシテ地中ニ遺  
留スルモノ自ラアルベキナリ

是故ニ汝ハ注意シテ悉ク汝ノ雜草ヲ燒却スベシ而シテ再ビ  
其花園ニ送致セラレザランガ爲メニ徒ニ堆積シテ之ヲ捨置  
クコト勿レ

凡ソ地上ニ現ハルノ所ノ最初ノ葉ハ善ク着眼留意シテ之ヲ  
剷除セザルコトヲ得ズ蓋シ是等ハ種子ヨリ發生スル所ノ葉  
ニシテ乃チ此嫩草ハ全ク此葉ニ依頼シテ其食ヲ得テ終ニ其

根ヲ得ルニ至ルモノナリ故ニ苟モ此葉ヲ除キ去ルカ若クハ  
之ヲ傷害スルトキハ此植物ハ必ス直ニ枯死スルニ至ルベシ  
又汝ハ過度ニ深ク種子ヲ蒔クコト勿レ若シ之ヲ蒔クコト極  
メテ深キトキハ終ニ發生スルコト無カルベシ何トナレバ此  
種子ハ必ズ濕氣及ヒ温氣ヲ受ケンコトヲ要スルガ如ク空中  
ノ大氣ヲ受ケンコトヲ要スレバナリ

子生ノ植物ヲ移植スルニ至善ナル時節ハ其生シテ唯僅ニ四  
葉乃至六葉ヲ有セル時ニ在ルナリ何トナレバ此時タル正ニ  
其根ノ本來ノ功用ヲ達スルニ適當スレバナリ

子生ノ植物及ヒ其枝ヲ截リテ之ヲ插シ再ヒ生セシムル所ノ  
植物ハ能ク注意シテ日光ヲ遮蔽スベシ何トナレバ若シ之ヲ

日光ニ照サシムルトキハ則チ其葉ハ大ニ濕氣ヲ蒸散スルヲ以テナリ而シテ日光ハ其根ノ勢力未ダ斯ノ如ク速ニ亡失スル濕氣ノ分量ヲ補フ能ハザル所ノ嫩キ植物ヨリ其液汁ヲ去リテ之ヲ乾燥セシムルナリ

花草ノ根ハ其周圍ノ土ヲシテ密着凝固ナラシムルコト無ク能ク空氣ヲシテ流動疏通セシムベシ且ツ粘土ヲ用井ル時ニハ殊ニ其疏ニシテ密ナラザランコトヲ要スルナリ

草木ノ葉ハ即チ其物ノ肺ニシテ生息ノ關スル所甚ダ緊要ナルモノナレバ宜ク深ク注意スベキ所ナリ所シテ若シ此葉ノ汚穢シ或ハ戸内ニ在ルニ當リテ偶不慮ノ事ニ因テ蒸散スルコトアルトキハ則チ宜ク石礮及ヒ水ヲ以テ洗浣シテ清潔ニ

スベシ

又汝ノ植物ヲ畦ニ植ウルニハ極メテ稠密雜選ニ排列シテ互ニ相遮蔽スルコト勿ラシムベシ凡ソ植物ノ爲メニ日光ト空氣トノ必要ナルハ尙養土ノ必要ナルト同一ナリ而シテ花ノ色ニ光澤アルハ實ニ日光ノ照映ヲ受クルニ由ルモノナレバ之ヲ室中ニ置クニハ臆邊ヲ以テ最モ適宜ノ所トス

又枝條ヲ剪截スルニハ其蕾ノ後面ノ少ク低キ所ヨリ始メテ其高上ノ所ニ終ルベシ之ヲ剪ルニ又ヲシテ汝ノ面前ニ向ハシムルヲ可トス

夫草花ハ其方ニ開ク時ニ於テ妄ニ移シ植ウルコト勿レ必ズ其悉ク開キ了ルヲ待チテ之ヲ移栽スルヲ可トス然レドモ其

枝ヲ剪ルコトハ全ク之ニ反對スルモノニシテ其開花スル時  
ニ方リテ着手シテ可ナリ斯ノ如クスルトキハ却テ能ク根ヲ  
整成シ得レバナリ蓋シ一般ノ植物ハ開花ノ期ニ方リテ其勢  
力最モ強健ナルモノタリ  
凡ソ球根ト「タベルス」馬鈴薯ノ如ク根中ニ塊アルモノトハ必ス其發生スルニ  
先テ之ヲ地中ニ埋ムベシ  
尋常ノ花草ハ皆糞汁若クハ鳥糞汁ヲ以テ之ヲ地中ニ埋ム可  
シ  
尋常ノ花草ハ皆糞汁若クハ鳥糞汁ヲ以テ之ニ注クトキハ十  
分ニ成長スルコトヲ得ルモノナリ  
彼ノ米蘭ノ如キハ斯ノ如キ肥料ヲ以テ養フトキハ甚タ長大

ナルニ至ル故ニ尋常ノ花園ニ於テ其花ニ注意シテ丁寧ニ之  
ヲ培養シ十分ニ生長スルニ至ルヲ縱觀スルコトハ實ニ人生  
ノ一大快樂ノ根本ト云フベキナリ  
又汝ハ「ペレニユアル」ノ種子ヲ蒔クニ方リテ其次年ノ花ヲ見  
ンコトヲ欲セバ六月ニ至リテ遅クコレヲ蒔クモ不可ナルコ  
ト無シ

薔薇ハ其葉ノ零落スルニ至ルトキハ宜ク其枯死セシ花托ヲ  
摘去スベシ蓋シ此花托ヲ摘去スルコトハ全ク之ヲ截斷スル  
ニ比スレバ植物ノ爲メニ大ニ宜キ所アリ  
○骸骨葉葉ノ背處ヲ悉ク除キ去リテ唯其條理ノ筋ノミヲ殘セシモノヲ云フ  
骸骨葉ハ空氣ト日光トニ露白スル所ノ蓋ナキ桶ニ雨水ヲ容

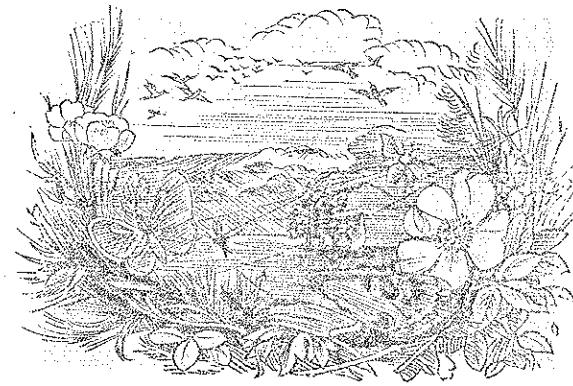
レ其中ニ浸セル所ノ葉ヨリシテ製造スルコトヲ得ルナリ而シテ此桶裡ノ水ハ漸次ニ蒸發シテ失亡スルニ由リ之ヲ補フガ爲メニ時々加入スベシ斯ノ如クスルトキハ其葉腐爛シテ終ニ其膜理ノ露出スルニ至ルモノナリ而シテ後ニ之ヲ清潔ナル水ノ充滿セシ清白ノ盆盤中ニ安置シ徐々ニ其表面ノ膜理ヲ徐キ去ルベシ然ルニ之ヲ除キテ其中心ノ髓骨ニ近ヅクトキハ殊ニ戒慎セザル可ラズ中心ノ髓骨ノ近傍ニ孔アルトキハ容易ニ其全膜理ヲ分離スルコトヲ得ルモノナリ然レドモ植物性ノ膜理ヲシテ全ク腐敗シテ分離セシムルニ至ルコトハ長久ノ時間ヲ費ヤサバ爾可ラザルヲ以テ此骸骨葉ヲ造ルノ方法ハ實ニ忍耐ノ力ヲ肝要ナリトス

然ルニ又別ニ速ニ骸骨葉ヲ製造スベキ一法アリ先ツ液汁トナリタル石灰ノ「コロル」化「コロル」ト石灰ト混和セシモノ「コロ」ヲ取り其儘ニ一ヒニ滿載スベキノ分量ヲ清淨ナル泉水六合ニ夕許ト混和スベシ而シテ植物ノ葉及ヒ子房ヲ殆ト四時間許此混和物ノ中ニ浸シ既ニシテ之ヲ取り更ニ水ヲ充滿シタル大桶中ニ於テ洗濯スベシ而シテ後ニ之ヲ空氣ト日光トニ曝シテ以テ乾カスヲ要ス又林樹ノ葉ノ大ナルモノ若クハ其強硬ナル肋骨ヲ有スル者ノ如キハ其液汁ニ浸漬スルコト必ス四時間ニ過クルヲ要スルモノアリ

### ○路傍ノ奇事

凡ソ我が膏腴ニシテ百花茂生スベキ土地ニ於テハ僻街及ヒ

綠草稠多ノ小徑ニ在テ却テ大ニ美觀ノ景色ヲ做スモノナリ  
 故ニ清朗ニシテ爽快ナル春曉ノ如キハ其晴色ヲ觀テ快樂ヲ  
 極メ開花遊蝶ト共ニ歡情ヲ同クセンガ爲メニ健康ナル少壯  
 人ノ此處ニ來遊スルモノ多シ又此胡  
 蝶ノ未ダ生成セザル時ト雖モ其路傍  
 ヲ眺望スルトキハ許多ノ快心ナキニ  
 アラズ蓋シ此處ニハ秀美ナル植物ノ五  
 枝葉鬱蒼タルモノアリ其葉ノ模様ハ十  
 實ニ造物者ノ其秘訣ヲ著ハセシガ如  
 キモノアルヲ以テ詳細ニ認識考察ス  
 ルニ足レバナリ然ハ則チ此ノ如キ景



色ハ吾輩ノ爲メニ未タ繙カザルノ書籍トハ云フコトヲ得ズ  
 何トナレバ現在之ヲ見ルニ方リテ樹籬中ノ老榆ノ根ニ傍フ  
 テ生セシ所ノ淡色ナル蓮馨花ノ一群ヲ目撃スベシ而シテ吾  
 輩ハ深溝ノ妨害アルヲ以テ之ヲ採取スルコト能ハズ若シ然  
 ラザレバ必ス當ニ採收スベキナリ然レトモ吾輩ハ又之ニ關  
 セズ少ク遠處ニ到ルトキハ多ク此花ヲ見ルコトアリ是春ト  
 云フモノ、百花ヲ保有シテ之ヲ道路ニ撒布スルヲ以テナリ  
 夫レ英國ニ産スル蓮馨花ハ凡ソ五個ノ種類アリ或ハ吾輩ノ  
 此處ニ於テ目撃スルカ如ク淡色ナルモノアリ或ハ鳥目ノ蓮  
 馨花ト稱シ連翹色ニシテ香氣アルモノアリ又蘇格蘭ノ蓮馨  
 花ハ皆深紫色ナリ又農夫ノ採リテ以テ爽快ナル酒ヲ造ル所



ノ「ユウスリツプ」ハ深紅ト黃色トヲ混ゼシモノナリ又「ウター  
 ダーヴアイスレット」有リ又冬ニ方リテモ尙綠色ナル「チツク  
 ヲ非ード」アリ是即チ本草家ノ吾輩ニ語ル所ノ蓮馨花ノ種類  
 チ悉ク記載シタルモノナリ因テ此處ニ於テ一個ノ花ノ種屬  
 中ニ貧人モ得ベキ所ノ健康ヲ保全シ快樂ヲ發生スベキ飲料  
 チ採リ獲ルモノアリト云フベシ而シテ此蓮馨花ニ接近シテ  
 萱菜ノ在ルアリテ馥郁タル佳香ヲ放テリ且ツ其佳香ヲ發ス  
 ルハ適ニ三月ノ頃和風飈飈タル時節ニ在リ  
 且ツ又汝ハ此萱菜花ノ人ノ疾病ヲ瘳スベキ功用アルコト其  
 葉ハ跌傷ニ貼シテ甚タ益アルコト及ヒ此花ハ一時「ヴァイオ  
 レット、シユグワール」ト稱スル所ノ砂糖漬ニ製セラレ肺臟ノ虛

弱ナル人々ニ與ヘラレシコトヲ知ラザルヤ第二世「チヤール  
 ス」王ノ時代即チ一千六百六十年間ニ於テ此砂糖漬ハ世人ノ  
 好愛スル所ノ藥料タルベキコトヲ思想セリ然レドモ此潤大  
 ニシテ光澤ヲ帶ヒ黑色ノ斑點アル葉ノ美麗ナル莖衣ノ内部  
 ニハ何物アリヤ此内部ニハ各童女ノ知ル如ク「クオツク」、バ  
 イント」即チ公子及ヒ夫人ト稱スルモノアリ今善ク注意シテ  
 此潤大ニシテ摺疊セル葉ヲ放開スベシ即チ汝ハ其中ニ壯麗  
 ナル青蓮色ノ衣服ヲ着ケタル嚴肅ナル公子若クハ淡黃色或  
 ハ石竹色ニシテ嬌艶ナル夫人ノ在ルコトヲ檢出スベシ是等  
 ノ公子及ヒ夫人ハ共ニ冕冠ヲ戴ケリ本草學者ハ此冕ヲ見テ  
 花ト呼做セリ而シテ冬季ニ至リテハ其上ニ淡橙色ノ種子ヲ

簇生シ此種子ハ鳥類ノ深ク嗜好スル所ト雖モ人ノ爲メニハ  
毒アルモノナリ且此植物ノ根ハ其大サ畧肉豆蔻ニ均クシテ  
麴粉ニ類似シタル物品ヲ保有セリ而シテ此粉末ヲ取り善ク  
注意シ乾燥シテ麵包ヲ製スルトキハ亦其美好ナルモノヲ製  
出スベシ然バ則テ此公子及ビ夫人ハ即今汝カ見ル如ク甚タ  
要用ナルモノニシテ其晁ハ將ニ餓死セントスル鳥ニ食物ヲ  
給與シ其根ハ他ノ飢餓スル二足ノ動物即チ人ヲ悦バシメタ  
リ何トナレバ凶年ニ方リテ貧民ノ小麥ヲ得ル能ハズシテ飢  
餓ニ苦ムモノハ大ニ歡喜シテ此花ノ根ヨリ生スル食料ヲ喫  
スレバナリ  
所シテ又「ボートランド」島ニ於テハ其農民皆此根ヲ以テ終年

ノ食物ト做ス又「ウェームース」ノ地ニ於テハ常ニ此粉末ヲ賣  
買シ其人民ハ此粉末ヲ以テ造レル麵包ノ良好ナルコトハ穀  
物ノ粉ヲ以テ製シタルモノニ同シキ思想ヲ做セリ加之ナラ  
ズ龍動中ニ於テモ亦此粉ヲ賣リ之ヲ稱シテ「ボートランド」米  
ト云ヘリ且ツ此根ハ其新鮮ニシテ未タ乾カサルニ當リテ之  
ヲ用井ルトキハ良好ナル藥料タルベキモノニシテ顔色ヲ粧  
飾センガ爲メニ施ス所ノ「サイプレツス」バーデルト稱セル藥  
ノ細末モ亦此根ヨリ製造シタルモノナリ而シテ吾輩ハ此粧  
飾ニ供用スベキ藥粉ハ特ニ此纖少ナル黃色ノ夫人ノ贈物ナ  
レバ是實ニ適當シタル義ニテ即チ夫人ト名ヅクル所ノ花ヨ  
リシテ顔料ヲ採り用井ルコトヲ思想セリ是ニ於テ更ニ始終

顛末ヲ回顧スレバ吾輩ハ斯ノ如キ林中ノ「クオツクーパイン」ト「ヲ以テ甚タ仁惠アル人ト看做シタリ是吾輩ハ此王ヨリ食料藥劑面貌ノ美ヲ助成スベキモノ及ヒ空中ニ在ル我が歌フモノ即チ禽獸ノ食フベキ種子ヲ得レバナリ然レドモ吾輩ハ此夫人ノ贈物ヲ以テ粧飾スベキヲ薦メス常ニ最善ナル粧飾物ト云フベキモノハ此夫人ノ地中ヨリ吸引スル所ノ水及ビ其由リヲ以テ斯ノ如ク新鮮ニシテ美麗ナルコトヲ得ル所ノ空氣タルベキコトヲ思想セリ又更ニ此老榆ノ周圍及ヒ近傍ニ於テ若クハ此樹籬ノ沿邊ニ於テモ「イルリーズロー」即チ人ノ「ブラツクヅルン」ト稱スル木ノ雪ノ如キ白色ノ花ニ由リテ銀色ニ變スル所ノ風致ヲ目撃スベシ此木ハ

巴且杏ト同一物ニシテ花ヲ無葉ノ枝ニ開ケリ此木ノ葉實ハ未熟ナル小梅子ニ類似シタルモノニシテ其味ハ少ク澁澁ナル所アリ然レドモ之ヲ採收シテ玻璃壺若クハ瓶甕ニ入レテ冬季ニ至ルマデ地中ニ埋メ置クトキハ「タアト」及ヒ「アツテン」麥粉或ハ黍粉ニ和スルニ牛乳雞卵ヲ以テ之ヲ製造スル所ノ食料ノ名ナリ等ノ爲メニハ甚タ善良ナル貯藏物トナルベキモノタリ又此堤上ニハ常春藤ノ蔓延シタルモノアリ夫レ女王「イリツベス」ノ時代ニハ此常春藤ヲ以テ咳嗽ヲ治スル功能アリト爲シテ之ヲ龍動府中ニ賣買セリ而シテ余輩ハ此尋常ノ植物ニ由リテ確乎タル治療ノ功能ヲ奏セシコト有リシヲ傳聞セリ抑モ上條ニ記シタル諸等ノ諸物ハ皆歎美スベキモノニ非ズ

ヤ  
今吾輩ノ小路ニ密接シテ吾輩ノ視覺ノ中ニ極小ナル地所ニ  
於テ美麗榮耀薰香及ヒ他ノ諸般ノ要用ナル天授物ノ中一モ  
備ラザルモノ無シ又酒ハ古昔ノ羅馬人始メテ董菜ヲ以テ之  
ヲ製造セシコトアリ土耳其人モ亦方今之ヲ以テ「シャーベツ  
ト」即チ飲料ヲ製作ス麴包藥劑粧飾物及ヒ薰物モ亦一ニ此處  
ニ具備シ加之ナラズ許多ノ雅美ナル詩ノ情意寧靜ナル快樂  
耕作ノ教授ヨリ國政ノ體裁ニ至ルマテ亦自然此處ニ備ハラ  
ザルコト無シ因テ之ヲ概言スレバ心意並ニ身体ノ食物ヲ具  
備セリト謂フベシ  
蓮馨花ハ「カリコー」人ノ時以降常ニ美妙ナル詩ニ詠セラル

所ニシテ董菜ハ柔和ニシテ人心ヲ欣慰スベキ音曲ノ趣意ヲ  
與フル者ナリ而シテ「シヤクスビーヤ」人ハ嘗テ此董菜ノ興味  
ヲ詩ニ賦シテ以テ音樂ト董菜トヲ結合シタリ其詞ニ曰ク  
復タ劉亮ナル音樂ヲ聽ケリ而シテ其音ハ次第ニ微細ニ  
シテ消滅セリ然レドモ此樂ノ清音ヲ聽クコトハ恰モ南  
風ノ董菜花ノ佳香ヲ掠メテ之ヲ鼻ニ送致スルモノト同  
一樣ニシテ愉快ナリト  
回々教ノ人民モ亦大ニ董菜ヲ尊崇セリ而シテ「ミストル、ラン」  
人嘗テ告クルニ其傳聞セル所ノ「マホメツト」ノ鼻祖ノ董菜ニ  
關シテ言ヘル所ノ語ヲ以テセリ其語ニ曰ク  
董菜ノ卓越ナルハ「イルスラム」即チ回ノ他ノ諸教門ニ卓

越セルガ如シト

且ツ此堇菜ハ始メノ拿波崙黨ノ表號トシテ用井タル物ニシ  
テ爾時法蘭西人ノ其身體ニ堇菜ノ小ナル總ヲ負ヒ若クハ之  
ヲ其家屋ニ懸ケ以テ其政治上ノ黨與ヲ表明セルコト恰モ英  
國ニ於テ嘗テ其二黨ノ白色及ヒ紅色ノ薔薇ヲ着ケテ互ニ區  
別セシカ如シ而シテ上天モ亦特ニ大ニ堇菜ヲ注意セリ故ニ  
今一層之ヲ着目セザルベカラズ其低垂シタル紫色ノ花片ノ  
上ニ大ナル綠色ノ花冠アリテ其種子ノ熟スルニ及フマデハ  
之ヲ蔽ヒテ雨露ヲ受クルコトヲ免カレシメタリ而シテ此種  
子ノ已ニ全ク熟スルニ至リテハ此細小ナル傘狀ノモノハ固  
ヨリ要セザルガ爲メニ漸々消滅シ其花ハ則チ興起シテ其莖

ノ上ニ直立セントス

「アラム」即チ紫花地丁舊稱堇菜ハ人ニ由リテ長ルベキ執迷ノ  
説ヲ吐カルモノナリ

衆多ノ國縣ノ農民輩ハ皆此堇菜ノ葉ニ附着セル濃キ黑赤色  
ノ斑點ハ救世主ノ清潔ナル血ニ由リテ致セルモノタルヲ信  
シ其十字架ニ懸レルニ方リテ其下ニ偶然此植物ノ生ゼシモ  
ノ有シコトヲ想像セザルハナシ然レトモ吾輩ハ此堇菜ノ葉  
ハ悉ク是等ノ斑點ヲ有スルニアラザルコトヲ得ズ

「ミソシス、ヘマン」ト云ヘル婦人曾テ此執迷ノ事ニ關シ詩ニ寓  
シテ言ヘルコトアリ曰ク

我人民ノ爲メニ大幸福ヲ贏得シタル極大ナル犠牲ノ許

多ノ證跡ハ（續）樵夫及ヒ山人ノ岩ニ於テ草ニ於  
テ且ツ花ニ於テモ求メ得ル所ナリト

此婦人ハ又董菜ニ關係シテ此詩ヲ「ゼ、ウード、ウオーク、エンド、  
ヘンム」即チ林中ノ逍遙及ヒ神詠ニ續ケテ曰ク

郷人ハ汝ニ告クルニ深ク尊敬スル真心ニ於テ堅信ナル  
聲ヲ以テ是等ノ自然ニ董菜ノ葉ニ生スル所ノ記號ハ「カ  
ルヴァリー」（地名ナリ耶蘇刑死ノ處）ニ於テ流レタル驢罪ノ血ノ此花  
ニ注ケルモノ、一部タルコトヲ以テシ且ツ其十字架ノ  
下ニ此董菜ノ成長セシモノ有リテ其花片ノ皿形ナル凹  
所ニ於テ恐畏スベキ苦痛ノ不可思議ナル驟雨數滴ヲ承  
ケ暴雨及ヒ春風ノ爲メニ毫モ之ヲ吹キ散サル、コト無

クシテ能ク林中及ヒ丘上ニ其押印スル斑點ヲ負ヒシコ  
トヲ以テセントスト

且ツ彼ノ「ミッス、エツジウオス」ノ常ニ言ヘルガ如ク次條ノ古  
諺ヲシテ實ニ人民ノ智慧ノ部分タラシメバ則チ農夫ハ鳥  
子ニ由リテ其穀物ヲ播クベキ時ヲ知り得ベシ其諺ニ曰ク荆  
鳥荆子樹ノ白紙ノ如キ白色ヲ爲スヲ見レバ汝ノ天色ノ  
乾キタルト濕氣アルトニ關係セス大麥ヲ蒔クヲ可ナリ  
トスト

「ミストル、デンプレトン」曾テ其著述セル「ナチユラリスト、レボ  
ー」（書名窮理）中ニ植物ノ生長スルト花ノ開クトヲ見テ農夫  
ハ他ノ植物ヲ裁エ又蒔クベキ時節ヲ善ク察知スルモノニシ

テ是尙其植物ノ生長スルハ氣團氣ニ由テ感化スルカ故ニ寒  
暖ヲ計算シテ植蒔スルノ期ヲ推識シ又花ハ變ゼザル一定ノ  
順序ヲ以テ開クコトヲ得ルモノタルニ由テ時候ヲ按ジ植蒔  
スベキ節ヲ察知スルコトヲ得ルガ如シト言ハレシコトアリ  
即チ其詞ニ曰ク若シ吾輩「グー」スベルリー」即チ菓樹ノ開クニ  
方リテ豌豆若クハ他ノ種子ヲ蒔クコトアラバ則チ此豌豆等  
ハ「ユルン、マリゴルド」即チ麥ト共ニ發生スル草ノ開クトキニ  
收穫シ得ルモノタルコトヲ認識スル時ハ吾輩ハ毎年同一ナ  
ル規則ニ從ヒ是等ノ植物ハ是等ノ時節ニ栽植シ又收穫スベ  
キコトヲ深く確信セリト又「ミストル、ロードン」氏ハ「アメリカ  
ンインデアンス」亞米利加ノ土人ノ常ニ「ワイルドフルム」ノ開クトキ

即チ樗ノ葉ノ大サ栗鼠ノ耳ニ等シキニ至ル頃其食フ所ノ穀  
物ヲ裁ルコトヲ吾輩ニ語りシコトアリ  
今實ニ路傍ニ於テ教誨ト爲スベキコトハ驚クニ足ルモノア  
リ然ルニ又見ル可シ汝ノ幼弟ハ下條ニ述ル如ク牧地ノ草一  
二葉ヲ摘取シテ之ヲ其纖小ナル掌中ニ把握セルアリ是ニ於  
テ吾輩ハ又此「グー」即チ草ナリ此草トハ雜草ヲ云フニ非ス  
麥ノ類ヲ云フ莠草ハ此中ニ入レザルナ  
リヲ查究セントス夫レ此植物ノ柔軟ニシテ空洞ナル莖ハ其  
質甚タ脆弱ニシテ且ツ處々ニ節アリ若シ之ヲシテ堅牢ナラ  
シメ又強硬ナル表皮アリテ之ヲシテ固實ナラシムルニ非ル  
ヨリハ吹送ル所ノ風モ容易ニ之ヲ倒スベシ又此植物ハ奇異  
ナル性質ヲ有シ猶小説ノ「ハイドラー」ノ頭ノ如ク「ハイドラ」ハ古昔ノ談

話中ニアル龍ノコトナリ其頭ヲ斷ルトキハ又直チニ九頭ヲ生シ又之ヲ斷レハ復タ九頭ヲ生シ終ニ死スルコト無シト云フ其植物ノ莖ヲ折り或ハ切ルコト頻數ナルニ隨ヒ益速カニ其葉ハ生長スルナリ此理ニ由テ家畜ノ常ニ之ヲ食フコトハ其植物ノ爲メニ決シテ枯死スベキ傷害ト做ルコト無ク却テ其稠密ナルヲ除キ去ルガ故ニ欣然快活タルノ想アリ然ルニ又其子房即チ種子ノ充實セル室ノ如キハ輕小ナル套中ニ丁寧ニ擁護シタルモノニシテ其套ニ適合スルノ形狀ハ唯顯微鏡ヲ用非テ能ク辨別シ得ルガ如ク細密精麗ヲ極ムルモノナリ

此草ハ唯尋常ノモノニシテ世人ノ能ク知ル所ナリト雖モ若シ汝本草學ニ由リテ之ヲ檢査講究スルトキハ殆ト無量ノ快

樂ヲ生スルモノアルベシ蓋シ草類ハ甚タ數多ニ生シ且ツ美麗ナルモノナレバ其各種類ヲ集メ或ハ之ヲ乾シ置キ汝ノ間暇ナル時ニ方リテ其美麗ナル組成ト其奇異ナル造法トヲ照究スベシ且ツ茲ニ草ノ美麗ナル一種アリ即チ通常樹籬ニ傍フチ生スル所ノ流蘇ノ如キモノヲ有セシ「ドツグステール」ト稱スルモノニシテ此草ハ其花ノ滿開スルニ方リテハ恰モ輕羽アルガ如キ外貌ヲ爲シ夏日軟風ノ吹クトキニハ其纖微ナル羽毛ヲ動搖スルニ由リ其風聲颯々トシテ恰モ牧地上ニ謠歌スルモノ有ルガ如シ

凡百ノ草花ハ第一ニ莖即チ花托アルニ由リテ成立セルナリ今汝ハ花托ノ何物タルヲ知り得ルヤ若シ之ヲ知ランコトヲ



欲セバ宜ク汝ノ手ニ有スル所ノ蘆薈花ヲ熟視スベシ其花ノ  
 黄色ナル英即チ汝ガ其花ノ葉ト云フモノ、底ヲ保持スル所  
 ノ萼ハ所謂花托ナリ而シテ此草衣ハ一ハ他ノ一ヨリモ稍長  
 キ二個ノ綠色ナル殼ヨリシテ組成セシ所ノ花托ヨリ成リ來  
 レリ其花托ハ薄ク組織セシ二個ノ瓣ヲ保有シ又其中ニハ二  
 種ノ雄蕊ノ生ズルアリ然ルニ又一種ノ草ハ之ニ加フルニ鬚  
 ト名クル堅硬ナル粗毛ノ如キ附屬物ヲ其英ニ附着スルモノ  
 アリ汝ハ必ス彼ノ鬚アル大麥ヲ記臚スベシ是モ亦一種ノ草  
 ダレバナリ凡ソ草トハ甚タ肝要ナルモノニシテ彼ノ接合セ  
 ル枝ト圓クシテ空洞ナル莖トナ有セル植物ヲ合シテ之ヲ草  
 ト稱スルナリ因テ吾輩ハ草ヨリシテ麴粉燕麥粉麥酒「エール」

即チ一種ノ麥酒ヲ造ルベキ所ノ麥芽所謂「モヤシ」ナリ即チ奇  
 所ノ大及ヒ大麥ヨリ蒸溜スル所ノ大麥酒ヲ得又馬ハ燕麥ヲ  
 以テ食料トナシ其稿上ニ睡臥シ冬時ニ在テハ乾燥シタル草  
 ニ賴テ其生命ヲ維持スルモノナリ故ニ之ヲ約言スレバ人獸  
 皆草葉ノ貴重ナルヲ知ラザルモノ無シ故ニ汝ハ草ノ幾多ノ  
 殊異ナル種類ヲ集ムベキヤ又果シテ其名ト其成長スル所ト  
 其形狀ト其性質トヲ知ランコトヲ勉ムルヤヲ體察セザルコ  
 トヲ得ザルナリ  
 而シテ老木ノ根及ヒ其周圍ニ生セル苔ノ如キモ亦吾輩ノ細  
 密ニ觀察セザル可ラザルモノナリ夫レ此苔ハ意外ニ美麗ナ  
 ルモノニシテ彼ノ妙絶幽微ナル本草學ノ旨趣ヲ研究スル能

ハズ是ニ由テ此苔ヲ精細ニ觀察スルコト能ハザル人ノ眼目  
 ナ以テスルモ尙其美麗ナルヲ歎賞セントス而シテ自餘何等  
 ノ物ト雖モ能ク此苔ノ鮮明ニシテ快活ナル綠色ニ比類ス  
 キ美麗且ツ光澤アル青綠色ヲ表スルコトヲ得ズ此苔ハ大ニ  
 其近傍ノ黒赤色ナル苔ノ属ニハ卓越セルナリ  
 然ハ則チ此苔ハ極小ナル「タタニヤ」天人ノ名ナリノ安臥スルニ當リ  
 テ床ト爲シ用非ルベキ秀美ノ毛氈即チ坐褥ナリト云フモ可  
 ナリ今吾輩此苔蘚上ニ躊躇シテ精密ニ之ヲ檢點查究セント  
 欲ス而シテ汝モ亦一個ノ顯微鏡ヲ借ルコトヲ得テ之ヲ微細  
 ニ觀察スルトキハ此苔モ亦路傍ノ一珍物タルコトヲ了悟ス  
 ベシ夫レ苔ノ物タル葉莖花皆根ニ由リテ完成シタルモノニ

シテ其種子ヲ包藏スルノ房室ハ其葉ノ間ニ在リテ其莖ノ頂  
 端ニ附着シ此莖ハ肉眼ヲ以テ認視シ得ベシ又其花ハ此莖ノ  
 下部ニ開キ此花毎ニ支柱セル一物ハ子殻ニシテ即チ之ヲ詳  
 説スレバ其種子ヲ保有セル凹形ニシテ乾燥シタル櫃様ノ一  
 物ナリ凡ソ苔ノ子殻ハ皆常ニ細管形ノ櫃様ヨリ成リテ其種  
 子即チ「スボルユールス」ノ細粒ヲ保有シ「オパークラム」ト稱ス  
 ル蓋ニ由リテ密閉セラレタリ而シテ此蓋モ亦其極メテ嫩キ  
 時ニ於テハ「ヴェール」即チ被覆ト名ケタル圓錐形ノ被物ヲ戴  
 クモノナリ  
 此極小ナル「ヴェール」ハ多毛ニシテ柔軟ナル物体ヨリ成ルモ  
 ノナリ今吾輩ハ試ニ此「ヴェール」ヲ引脱キテ其下ニ何物ノ在

ルヤヲ知ラント欲シ之ヲ細究スレバ則チ此「ヴェール」ノ下ニ  
アルモノハ「アン」即チ瓶ト名ケタル堅牢ナル凹形ノ子殻ニシ  
テ其周縁ハ赤裸ナルモノアリ或ハ「フリンズ」ト名ケタル細微  
ナル毛様ノ齒ノ一列若クハ二列ヲ以テ裝飾セラレタルモノ  
アリ且ツ此「アン」ハ一個ノ蓋ヲ被フレルモノニシテ此蓋ハ其  
種子即チ「スポルユールス」ノ熟スルニ及ヒテ脫去スベシ是ニ  
於テ更ニ此「アン」ヲ觀ルトキハ其中心ニ「コルメルラー」ト名ケ  
タル一條ノ圓柱ノ起立シタル者アリテ極細極微ナル種子即  
チ絶妙ナル顯微鏡ヲ以テ窺フト雖モ尙塵埃ノ微小ナルカ如  
キモノ此圓柱ノ上端ニ附着シ皆此子殻ノ中ニ保有セラル而  
シテ其種子ノ熟スルニ及ヒテハ此蓋ハ「ヴェール」ト與ニ脫落

シ「アン」ハ獨リ露出シテ其毛様ノ齒ヲ以テ蔽ハレタル口縁ヲ  
顯スニ至ルベシ又此齒ハ由リテ以テ苔ノ種類ヲ區別シ得  
キモノニシテ其各種ノ齒ノ數ハ常ニ漸次ニ二倍セリ即チ其  
第一ハ四個ノ齒ヲ有シ第二ハ八個ノ齒ヲ有シ第三ハ十六個  
第四ハ三十二個等ノ如シ而シテ此苔中ニ全ク此等ノ細微ナ  
ル齒ヲ有セザルモノモ亦往々之アリ然レドモ皆一般ニ「ヴェ  
ール」ヲ有セザルコトナシトス  
此苔ノ莖ハ極細極微殆ト認識シ得ベカラザルモノニシテ其  
根ヨリ發起セリ又此莖ノ下部ノ莖衣ト名ケタル許多ノ小細  
鱗ニ由リテ圍繞セラルモノ往々之アリ又其葉ハ草ノ質アリ  
テ其形容美麗ナルモノナレドモ莖ナク羽毛ノ如キ葉モ無

ク且ツ枝ヲ有スルコトモ無シ然レドモ此葉ハ此苔ノ葉タル  
 コト疑ヲ容レザルモノニシテ能ク顯微鏡ヲ以テ查照シ得ベ  
 シ而シテ英國ハ獨リ苔ノ土地ト稱セラレタレドモ苔ノ性タ  
 ル全地球上ノ各國ニ於テ生ゼサル所無キモノニシテ假令兩  
 極ノ雪多キ地方ニ於テモ亦此苔ヲ生ゼザルコト無シ  
 凡ソ苔ハ許多ノ濕氣ヲ要スルガ爲メニ冬季ニ方リテハ殊ニ  
 繁茂スルモノニシテ他ノ諸植物ノ皆枯槁凋衰シ且ツ落葉ス  
 ルノ時ニ於テ獨リ雅美秀絶ナル青綠色或ハ黑赤色ヲ發生ス  
 ルヲ見ルコトハ實ニ大愉快ナルモノタリ又苔ハ蕭然枯死セ  
 ルガ如キ狀態ヲ現ズニ至リテ忽地ニ生活ニ復スルノ奇性質  
 ヲ有セルモノナリ

故ニ汝若シ此「エメラルド」即チ綠色ノ寶石ノ色ノ秀美ナル  
 剪絨即チ苔ヲ取り得テ一年間若クハ二三年ノ間貯藏スルノ  
 後更ニ之ヲ出シテ水中ニ潤浸スルトキハ此苔ハ必ス蘇生シ  
 テ擴張滋殖シ再ヒ生活セル植物ニ復シテ前時ノ如ク其許多  
 ノ要用ナル義務ヲ勉強スルニ至ルベシ是苔モ亦其義務ヲ有  
 スレバナリ今余ハ高大ナル造物主ハ此美麗ナル剪絨様ノ植  
 物ニ委任スルニ何等ノ職業ヲ以テセシカタ汝ニ說話セント  
 ス夫レ冬季ニ方リテ此苔ハ重大ナル樹木ノ新葉樹ト稱セラ  
 ル榮譽ヲ負ヘルモノヲ覆蔽シ之ヲシテ烈寒嚴霜ヲ受ルコト  
 ヲ免カレシムルモノナレバ務メテ其根幹及ヒ枝條ノ周圍ニ  
 叢生シ且ツ特別ニ厚ク其樹身ノ北方ノ面ヲ掩蔽セリ是蓋シ

寒風ハ殊ニ劇烈ニ此面ヲ衝冒スレバナリ其斯ノ如ク北面ニ  
茂生スルコトハ常ニ變易セザルモノニシテ亞米利加ノ野蠻  
人ハ平生道路ナキノ山林中ニ入ルニ及ヒテ此仁惠深キ地上  
ノ星即チ苔ヲ注目シテ歩行スベキ方向ヲ知ルコトヲ得タリ  
又夏季ニ當リテハ重大ナル樹木ヲ養育スル所ノ此親切ナル  
乳母即チ苔ハ其保有スル潤澤ナル濕氣ヲ以テ其嚴肅ナル君  
主即チ樹木ヲ養ヒ他ノ諸植物ハ皆旱魃ノ時ニ當リ又夏ノ熱  
氣ニ由リテ乾燥スルニ臨ミテモ深重ニ擁護シ之ヲシテ獨リ  
乾燥スルコトヲ免レシメタリ  
吾輩今又此苔ノ人ノ爲メニ何等ノ利益アルモノナリヤヲ觀  
了セント欲ス夫レ石炭ノ缺乏シテ高價ナル時ニ當リテハ貧

乏ノ人ハ泥炭即チ半ハ腐敗ヲ用井テ其焚物ト做スモノアリ  
且ツ「ラプランド」ノ地方ニ於テハ其人民凶年ニ由リテ困苦ス  
ル時此苔ヲ以テ麴包ヲ製造シ又沼地ニ生スル灰色ノ苔ハ柔  
軟ニシテ絹様ノ質アルガ故ニ之ヲ以テ其嬰兒ヲ載スベキ搖  
籃ヲ覆ヒ且ツ之ヲ以テ其小兒ノ衣服ト爲セリ然ハ則チ苔ハ  
是等ノ北方ノ質朴人ノ爲メニハ毛若クハ毛皮ニ代用セラル  
ヽ者ト云フベシ又金色ナル「メーデンヘーヤ」ノ苔ハ臥褥及ヒ  
枕ヲ造ルニ甚タ適當セル彈力ノアルモノナレバ之ヲ緊縮ス  
ルトキハ甚タ小ナル一塊ト爲シ得ベク且ツ甚タ輕キモノニ  
シテ久遠ナル旅行ニ於テ荷擔スト雖モ毫モ阻碍スル所無キ  
モノナリ而シテ此苔ヲ用井ルノ久シキニ由テ或ハ枯死シテ

乾燥シ其彈力ヲ失フニ及ヒテハ宜ク之ヲ水中ニ浸スベシ即  
 々此苔ハ其始メノ新鮮ナル形狀ヲ回復スルニ至ルベシ  
 今吾輩ハ已ニ路傍ニ於テ二三ノ奇事ヲ目撃シタリ然レトモ  
 更ニ少シク此蒼々タル狹路ニ進行スルカ若クハ季侯ノ變換  
 セル時ニ來ルトキハ吾輩ハ尙一層他ノ無數ノ珍事ヲ觀ルコ  
 トヲ得ベシ然ハ則チ此路傍ニ逍遙散步スルコトハ快樂ノ一  
 源泉ト云ハザルコトヲ得ズ又此快樂ハ新ニ發明セシ縫綴ノ  
 方法ヲ知り若クハ新奇談ヲ聽キ若クハ新珍ナル玩具ヲ弄ス  
 ルノ樂ミニ比スレバ一層大ニシテ且ツ永續スベキモノニ非  
 ルコトヲ得ンヤ  
 且ツ吾人ヲ圍繞スル所ノ此智慧ト此信切ナル注意ト此微妙

ナル理ト萬事ノ先見ト萬事ニ就テ仁愛ヲ用井ル所トヲ觀ル  
 トキハ則チ心ヲ極大ナル上帝ニ注カザルコトヲ得ザルナリ  
 又諸ノ人類植物及ヒ動物ハ皆上帝ニ依賴シテ生活シ運動シ  
 且ツ其形体ヲ保全スルコトヲ得ルモノナリ「シヨセフ」ハ太古  
 ノ賢人ナリ曰ク善ク注目セヨ是等ノ萬物ノ生立スルコトハ  
 悉ク上帝ノ行爲ノ部分ナリ然レドモ何故ニ上帝ノ靈威ヲ認  
 メ識ルモノハ少キヤ又「アサラム」古昔「ダウイ」ノ「百四章」ニ  
 記ス所ノ經典曰ク凡ソ萬物皆上帝ニ敬服セザルモノ無シ中汝、汝ノ手ヲ開  
 クトキハ萬物皆大ニ利益ヲ受ケントス汝ノ事業ハ廣大ナリ  
 嗚呼上帝中汝ハ汝ノ智慧ヲ以テ能ク是等ノ事業ヲ行ヘリ而  
 シテ地球ハ汝ノ仁惠ヲ受ケテ充實セリト

凡ソ人ハ其身ヲ圍繞セル上帝ノ事業ヲ學知スルコト最モ多  
キモノヲ以テ大賢ナリト稱スベシ「ソロモン」ハ其智慧萬人ニ  
勝レシモノナリ然ルニ又樹木ノ事ニ注意シテ「レバノン」山中  
ニ生スル所ノ「セダル、トリ」即チ木ノ貴重ナルヨリ壁土ニ寄  
モノ杉松ノ類ナリ生スル所ノ雜草ニ至ルマデ悉ク其性質ヲ陳說セザルモノ無  
カリキ

### ○本草學

凡ソ人皆此地球上ニ無數ノ植物アルコトヲ知ラザル者ナシ  
而シテ植物トハ通常ノ林木灌木荆棘若クハ通常ノ園草蔓草  
山野水陸ノ雜草及ヒ蘚苔等ノ各種即チ花菓ヲ生スル所ノ諸  
物ヲ合稱スルモノナリ然レドモ唯僅少ノ小女兒ト衆多ナラ

ザル老大輩トノミ夏月各地ノ牧場ニ蔓延シタル美麗ナル花  
卉ニ心ヲ留メ細思講究シテ何故ニ是等ノ花ハ地球上ニ造成  
セラレシ物ナルヤヲ知道シ了ルナリ  
而シテ汝ハ當ニ滿世界ニ幾許種ノ植物アリヤヲ思索スベシ  
蓋シ方今發見スル所ノモノ三萬餘種ニ及ベリ然ルニ此三萬  
餘種ノ植物ハ最小ノ莓苔ヨリ最大ノ林木ニ至ルマテ其形狀  
巨細差異無キコト能ハズ彼ノ巖石間及ヒ牆壁上ニ生スル一  
點ノ苔ト雖モ皆巨大ナル植物ト同一理ニシテ各自其花ヲ有  
セザルハ無シ然レドモ其花ハ極メテ纖小ナルモノニシテ汝  
ノ肉眼ヲ以テ之ヲ看ルトキハ決シテ認メ得ルコト能ハザル  
メシ故ニ精細ニ之ヲ視察セント欲セバ顯微鏡即チ微物ヲシ

テ大形ナラシムル所ノ大ナル眼鏡ヲ用井ルヲ以テ必用ナリ  
トス果シテ此顯微鏡ニ照映スル時ハ汝ハ甚タ分明ニ此花ヲ  
認視シ得ベキナリ今夫レ三萬ハ甚タ大數ナリト云フベシ然  
レドモ恐クハ尙未タ發見シ得ザル所ノ許多ノ種類アルベシ  
乃チ是等ニ至リテハ極細極微ニシテ認識スルコト能ハザル  
所ノモノトス  
今汝ハ一般ノ植物ハ何如ナル情形ニ於テ生活シ且ツ成長ス  
ルヤチ少ク思量スルコトアリヤ否吾儕ハ是皆上帝ノ之ヲシ  
テ生長成熟セシムルコトタルヲ領會セリ然レドモ其成長ス  
ル所以ノ情形ハ甚タ奇異ナリト云ハザルベカラズ夫レ植物  
ノ生活ト生長トハ殆ト動物ノ生活生長ニ同一様ナルガ如キ

所アリ蓋シ動物ハ脈路中ニ血ノ周流スルニ因リテ其生活ヲ  
支持スルモノナリ又血ハ其食物ヨリシテ造成シ常ニ心臟  
リ身體ノ各部ニ傳送セラルヽモノト做ス故ニ若シ血ヲ心臟  
ニ留滯シテ流動セザルコト有ルトキハ則チ其動物ハ直ニ壓  
迫シテ死スルニ至ルベシ樹液モ亦動物ノ血液ト同一ニシテ  
地ヨリ其根ニ吸引セラレテ恰モ汝ノ腕ノ脈路ノ如ク狹隘ナ  
ル路ニ由テ木幹ニ上行シ終ニ枝葉花菓ノ諸部ニ傳送セラル  
ヽナリ故ニ汝若シ樹ノ由テ以テ液汁ヲ吸引スル所ノ根本  
小纖維ヲ悉ク截斷スルトキハ則チ其樹ハ直チニ枯死スベシ  
夫レ樹木ハ生活シ又生長スト雖モ動物ノ如クニ感覺シ又運  
動スルノ神機ヲ有セザルモノノ如シ



又人ノ常ニ林中ニ於テ勞作シ若クハ休息シテ善ク植物ヲ點  
 檢精究セシモノハ此植物中ニ若干種ノ採用スベキ功能アル  
 ムトヲ了知スベシ而シテ是等ノ人即チ世ノ病者ノ爲メニ是  
 等ノ植物ヲ集收セシモノニシテ之ヲ藥草ト號シ以テ外感欬  
 嗽諸病及ヒ勞症ヲ患フルモノノ用ニ供スルナリ  
 夫レ植物ハ管ニ吾輩ノ資給ヲ做スヲ以テ有益ニシテ且ツ必  
 要ナルモノト爲ル而已ナラズ實ニ其種類數千萬ニシテ全地  
 球上ニ散在繁殖シ吾人ヲシテ之ヲ縱覽シ大ニ快活歡喜ノ情  
 ヲ發生スルコトヲ得セシムルモノナリ夫レ吾輩ハ都テ不快  
 ヲ生ズベキ物品ヲ見ルコトヲ欲セズ故ニ彼ノ青草モ無ク林  
 樹モ無ク又美麗ナル花卉モ無キ大沙漠ノ曠原ヲ行步望觀ス

ルトキハ必ズ須臾ニシテ困倦疲勞スルニ至ルベシ蓋シ植物  
 ハ畢竟快樂ニシテ且ツ必要ナルモノタルガ故ニ上帝ノ特ニ  
 吾輩ニ投與シ玉フ所ナリ  
 凡ソ植物ニ關涉セル學問ト此植物ヲ使用スル方法トヲ稱シ  
 テ本草學ト云ヒ此本草學ヲ講究スル人ヲ名ケテ本草家ト號  
 スルナリ故ニ余ハ讀者ノ皆本草家ト爲ランコトヲ希望セリ  
 然レドモ余固ヨリ汝等ノ茲ニ記載シタル趣意ヲ熟讀シ了レ  
 バ必ズ能ク本草家ト爲ルベキコトヲ望ムニ非ズ何トナレバ  
 余ハ今唯ニ些少ナル植物ニ關シテ汝ニ說話シ得ルノミニシ  
 テ各地ニ於テ點檢シ出ス所ノ草木ノ員數ハ無量夥多ナルヲ  
 以テナリ

而シテ此等ノ夥多ナル植物ヲ鮮明シタル書籍ハ固ヨリ具備セルモノナレバ今汝遽ニ是等ノ書籍ヲ理會スルコト能ハズト雖モ更ニ數年ノ齡ヲ重ヌルニ及ヒテハ全ク能ク之ヲ讀了スルコトヲ得テ汝ノ摘取セシ諸般ノ花ノ名及ヒ其功用ヲ知ルベシ凡ソ本草家ハ其前時未ダ曾テ目撃セザリシ一種ノ奇花ヲ看出スニ方リテハ先ツ之ヲ查照シ後更ニ之ヲ解明シタル冊子ヲ熟讀シテ其名稱ト其功用トヲ了知スルコトヲ得ルモノナリ今余此事業ヲ做スヘキ方法ヲ逐次ニ汝ニ説話セントス

本草家ハ其看出セル植物ノ名ヲ悉ク知ルニ及ビテハ其草木ヲ採リテ之ヲ壓圖シ更ニ之ヲ曝乾セル後復タ之ヲ「ハーパリ

ユーム」鮮ハ後ノ本ノ中ニ置キ其側ニ其名ヲ記載スルモノナリ故ニ余今此「ハーパリユーム」ハ何物タルベキヤ且ツ何等ノ方法ヲ以テ之ヲ作爲シ得ベキヤヲ汝ニ説カントス

「ハーパリユーム」トハ大ナル紙片ヲ以テ造製シタル冊子ニシテ衆多ノ種類ノ花ヲ保有シ其花ノ側ニ各其名號ヲ書記セルモノナリ

「ハーパリユーム」ハ汝若シ之ヲ製造セント欲スルトキハ容易ニ做シ得ベキモノナリ之ヲ造ランガ爲メニ先ツ新聞紙ノ片葉ニ均シキ大サニシテ平坦ナル板二葉及ヒ舊キ新聞紙數枚ヲ得ザルベカラズ而シテ一個ノ花ヲ看出スニ方リテハ其最も小ナル枝及ヒ此枝ニ附着シタル葉數枚ヲ取取メ若シ其植

物極メテ小ナルトキハ其全体ヲ取り丁寧ニ此葉ト花トヲ開  
キテ平坦ニシ之ヲ此新聞紙ノ摺帖ノ中ニ置キ又此摺帖ヲ汝  
ノ二枚ノ板ノ間ニ置キ更ニ其上ニ平均ナル一個ノ重量物ヲ  
安シテ之ヲ抑壓スヘシ而シテ又他ノ花ヲ得ルニ及ヒテハ之  
ヲ壓着センガ爲メニ更ニ他ノ二枚ノ板ヲ得ルコト能ハザル  
トキハ再ヒ前次ノ板ヲ用井既ニ其間ニ置ケル花ノ側ニ之ヲ  
置クヲ可ナリトス然レドモ是等ノ植物ハ固ヨリ新鮮ナルモ  
ノナレドモ其紙ハ直テニ濕沾スルニ至ルヘシ是故ニ汝ハ二  
日若クハ三日ノ間ニ一回其紙ヲ變換シ日光或ハ火ヲ以テ乾  
カセシ他ノ紙中ニ其花ヲ置カザル可ラズ若シ爾セザルトキ  
ハ其花ハ甚タ速カニ乾クコトヲ得テ其美麗ナル狀花ノ圖畫

ニ此スレバ大ニ勝レル所アラントス且ツ能ク勉力スルトキ  
ハ汝ハ一夏中ニテ二三百個ノ花ヲ壓シ得ベシ是各地ノ郊野  
ニ於テ多種ノ花ヲ看出スルコトヲ得レバナリ而シテ是等ノ  
花ヲ盡ク乾シ了ルニ及ヒテハ汝ハ汝ノ母若クハ姊ニ請フテ  
之ヲシテ汝ノ爲メニ一個ノ冊子ヲ造ラシメ此冊子ノ中ニ悉  
ク汝ノ花ヲ置カザルベカラズ且ツ某先生ニ請問テ是等ノ花  
ノ各ヲ知り目ヲ白紙ノ小牌子ニ是等ノ名ヲ書記シ若クハ汝  
ノ父母ヲシテ汝ノ爲メニ記寫セシメテ此小牌子ヲ各其植物  
ノ側ニ附着スベシ是ニ由テ汝ハ常ニ一切ノ植物ヲ記憶スル  
コトヲ得ベキナリ然レドモ汝若シ本草學者ニ知己ノ人ヲ有  
スルトキハ之ニ贈ルニ汝ノ此冊子ヲ以テシ深ク請テ汝ノ爲

メニ悉ク其植物ノ名號ヲ書記セシムルコトヲ得バ最モ的實ナル良法ト謂フベシ

今夫レ世間ニ此花及ヒ植物ノ名ヲ知ラザルモノ甚々多シ是蓋シ其人毫モ是等ノ物ニ注意セザルニ由ル所ニシテ苟モ其浪費スル時日ヲ以テ是等ノ物ニ關涉シテ勤勉シ又ハ山野ニ成長セル植物ヲ心ニ留メテ觀察スルトキハ其人ハ速カニ草木ニ就テ知識ヲ開クコトヲ得之ガ爲メニ意思ヲ慰ムル所漸ク廣大ナルニ至ルベシ故ニ余ハ汝ノ數種ノ花ヲ集收シ其名及ヒ其用ヲ學知センコトヲ欲シ且ツ今余ガ汝ニ言ヘルガ如ク「ハーパリユーム」ヲ造クルニ於テ汝ノ勉強尽力センコトヲ希望スルナリ而シテ汝ノ父母等ノ允許シテ此事ヲ做サシメ

且ツ汝ノ勉カスル所ヲ助成センコトハ余カ保證シ得ル所ナリ蓋シ父母等苟モ汝ヲ改善シ汝ヲシテ謹厚ニシテ博物ナラシメンコトヲ庶幾スルトキハ固ヨリ此允許及ヒ助成ヲ做サバ爾コトヲ得ザルベシ又此事ヲ務ムルヲ以テ間居遊戲ニ耽リ若クハ汝自己ノ身ヲ利スル無ク又他人ヲモ利スル無キノ事ヲ執リ行フニ比較スレバ大裨益アルノ日課ト云ハザルベケンヤ是徒ニ遊戲ヲ爲ストキハ毫モ心意ヲ改善スルコト能ハザルヲ以テナリ然レドモ時トシテ遊嬉戲技ヲ爲スハ兒女輩ノ爲メニ固ヨリ適當ナル事ナレバ余モ亦今汝ヲ決シテ遊戲スベカラズト制止スルニ非スト雖モ常ニ遊嬉ヲ以テ時日ヲ閑過シ他ノ一緊要事ヲモ務ムルコトヲ思欲セザル兒女輩

ハ漸ク成長スルニ及ヒテ眞ノ無用ノ長物ニシテ又文盲ノ頑  
固人タラシコト果シテ疑ヲ容レザル所ナリ  
凡ソ本草學ヲ研習スルコトハ大ニ汝ノ記憶智力ヲ改善シ且  
ツ之ヲシテ漸次増進セシムルモノニシテ實ニ汝ハ諸般ノ花  
ノ名ヲ知ラザルコトヲ得ズ且ツ余ハ汝ノ此書中ニ於テ查出  
スベキ數多ノ難字即チ「ハーパリーユーム」等ノ字ヲ暗記スベキ  
コトヲ汝ニ要セザルコトヲ得ザレバナリ所シテ今余ハ大人  
輩ニシテ「ハーパリーユーム」ナル語ハ何等ノ意義ヲ含蓄スルヤ  
ヲ知ルコト無ク且ツ余ガ逐次ニ此書中ニ使用セザルコトヲ  
得ザル他ノ許多ノ本草學上ノ留意ヲ知ラザルモノ甚ダ多キ  
コトヲ云フニ於テ忌憚スル所無シ故ニ汝若シ能ク是等ノ語

意ヲ解シ得ルトキハ汝ハ彼ノ大人輩ニ比スレバ大ニ博學ナ  
リト云フベシ而シテ汝ノ遊嬉センコトヲ欲スルニ當リテハ  
花ヲ探索センガ爲メニ汝ノ田野及ヒ林中ニ逍遙スルヲ以テ  
甚ダ愉快ナル遊樂ヲ爲サンコトヲ期望セリ夫レ此等ノ郊野  
林樾ノ邊ハ極メテ快活且ツ靜寂ナル地ナレバ汝ハ此處ニ於  
テ諸鳥ノ好音ヲ以テ吟嘯スルヲ聽キ得ベシ  
本草學者ノ中或ハ多種ノ植物ヲ養植センガ爲メニ廣大ナル  
花園ヲ造リ其園中ニ多種ノ野生ノ草花及ヒ外國ヨリ來レル  
草木等ヲ栽植スルモノアリ是等ノ結構ハ「ボタニカル、ガーデ  
ン」即チ本草學ノ花園ト稱號シ其中ニ玻璃造ノ家屋ヲ經營シ  
且ツ暖國ヨリ入輸シタル植物ヲ養育センガ爲メニ暖床ヲ具

ヘタリ而シテ此大不列顛島ニ於テモ亦斯ノ如キ花園數多アリ然レドモ此花園ヲ支持センガ爲メニハ多量ノ費用ヲ要スルモノナリ

汝ハ亦嘗テ暖室ヲ見シコトアルベシ此暖室ト云ヘルモノハ玻璃ヲ以テ其屋背及ヒ側面ヲ製造シ太陽ノ光線ヲシテ自由ニ其中ニ射入セシメ嚴冬ノ頃霜雪ニ刺戟セラル、植物ハ大抵枯死スルノ時ニ方リテ此暖室中ニ許多ノ美麗ナル植物ヲ排置シ之ヲシテ早ク花ヲ開發セシムルモノナリ

汝ハ假令一個ノ「ボクニカル、ガーデン」ヲ有スル無ク又一個ノ暖室ヲ有スルコト能ハズト雖モ若シ汝ノ父母等狹小ナル一地所ヲ與フルコトヲ許サバ汝ハ自ラ汝ノ花園ヲ造ルコトヲ

得ベシ而シテ汝ハ人々ニ請求メテ植物ノ種子ヲ得且ツ田舎ニ往テ種々野生ノ花草ヲ携ヘ來リ之ヲ汝ノ園中ニ植ウルコトヲ得ベシ夫レ野生ノ植物ト雖モ又甚々美麗ニシテ且ツ珍奇ナルモノモ往々之アリ故ニ果シテ斯ノ如クニスルトキハ汝ハ終ニ一個ノ美麗ナル花園ヲ有スルニ至ルベシ然レドモ汝ハ平生此花園ニ於テ專ラ注意清掃シ雜草無穢ヲシテ此ニ滋蔓セシメザランコトヲ勉力セザルベカラズ

夫レ古來世界中ニ於テ本草學者ノ明慧ナルモノ往々輩出セリ而シテ「リニユース」ハ其中ニ就テ最モ卓絶セルモノニシテ瑞典國ノ「チツプサル」ノ地ニ生レ「チツプサル」ニ生ルトハ恐ラユース」氏ハ一千七百七年ニ「スメーランド」州ノ「レ」其人ト爲リ

深ク植物ヲ愛スルノ質アリテ之ニ開涉シ許多ノ發明ヲ爲シ  
タル人ナルガ其平常ノ日ニ在リテハ新奇ナル花ヲ探討セン  
ガ爲メニ務メテ山林中ニ旅行スルコトヲ嗜ミ其間烈寒及ヒ  
暴風雨ニ際會スルト雖モ毫モ之ヲ意トスル無ク遂ニ許多ノ  
美麗ナル植物ノ種類ヲ區別シ以テ之ヲ解明スルノ方法ヲ創  
製セリ而シテ此方法ハ即今尙本草學者ノ大ニ遵用スルモノ  
ニシテ「リニコース」ノ規法ト稱號セリ故ニ余ハ今將ニ此方法  
ニ據テ汝ニ說話セントス  
凡ソ一般ノ植物ハ皆其「ハビタツト」即チ本生ノ土地ニ隨テ六  
個ノ部類ニ區別シ得ベシ而シテ此「ハビタツト」トハ其植物ノ  
最も多量ニ生スル所ヲ云フモノニシテ謂ハコル六個ノ部類

トハ即チ高山生、丘陵生、翳陰生、平地生、水中生及ヒ寄生ヲ云フ  
ナリ  
高山ノ植物トハ甚タ高燥ノ山上ニ生スルモノヲ云ヘリ  
丘陵ノ植物トハ丘陵ニ生長スルモノニシテ此等ノ草木ハ常  
ニ乾燥セシ土地ニ生シ日光ノ熱氣ニ曝露セラルモノナリ  
翳陰ノ植物トハ林樾及ヒ他ノ翳陰アル所ニ茂生スルモノヲ  
稱スルナリ是等ノ植物ハ太陽ノ炎熱ナル光線ヲ受クルトキ  
ハ能ク之ニ堪フルコトヲ得ズ而シテ若シ其林木ヲ伐除スル  
コト有ル時ハ忽チ凋衰シテ終ニ枯死スルニ至ルベシ彼「ラ  
ヂー」ス、スリツ「バー」草ノ如キモノ「ラヂー」ス、スリツ「バー」トハ婦人  
タルヲ以テ亦一ノ翳陰ノ植物ト稱スベシ英國中最美ナル花  
草名トス

ノ一種ナリ

平地ノ植物トハ卑低ニシテ乾燥シタル平原ニ生長スルモノナリ

水中ノ植物トハ淤泥ニ於テモ卑濕ニ於テモ海濱ニ於テモ又全ク水中ニ在テモ生活スルコトヲ得ルモノヲ云フ譬ヘバ「フ

ラツグス」菖蒲ノ種類蓮海草及ヒ水胡椒等ノ類ナリ

寄生ノ植物トハ地中ニ其根ヲ保持スルコト無ク林木ノ身体及ヒ枝條ヨリ或ハ他ノ植物ノ幹ヨリ生長スルコトヲ得ルモノナリ汝ハ屢苔ノ林木上ニ生長スルヲ見シユトアルベシ是即チ寄生ノ植物ト云フモノニシテ自餘ノ寄生樹及ヒ菟絲子等ノ如キモ亦同類ナリトス而シテ菟絲子即チ金絲蔓ハ「ニユ

「イングラント」ノ地ニ多ク産スル所ノ一種ノ珍奇ナル植物ニシテ一モ葉ヲ生スルコト無ク太キ絲ノ如クナル形狀ニシテ鮮明ナル黃色ノ蔓ヲ保有シ他ノ植物ノ枝葉ニ纏着シテ生長シ其纖維ノ如キ根ヲ以テ此植物ノ表皮ヲ穿テ其液汁ニ頼リテ養育セラルヽコトヲ得ルモノナリ此植物ハ常ニ濕地ニ生長シ一處ニ結聚セル把ノ如キ小ナル白花ヲ發スベシ

今余ガ汝ノ爲メニ説話セル六種ノ植物ハ即今當ニ發生スベキノ地ニ在ズシテ他ノ地ニ在ルトキハ決シテ生長セザルベシ而シテ他處ト雖モ其今生スル所ノ地ニ異ナラザルトキハ又生長セザルニアラズ故ニ若シ汝平地ノ植物ヲ濕地若クハ翳陰ナル地ニ移植スルトキハ此草木ハ決シテ茂生スルコト



無カルベシ若シ汝蓮花或ハ青々タル「フラツグ」ヲ汝ノ乾燥シタル花園ニ置クトキハ忽地ニ皆凋衰シテ枯死スルニ至ルベキナリ  
日光ノ植物ニ感覺スルハ實ニ奇ナル所アリ凡ソ樹木ノ葉ハ皆常ニ其樹ヨリシテ日光ノ方ニ向ハザルハナシ汝ハ彼ノ窓邊ニ安置セル瓶盆中ノ一把ノ薔薇若クハ他ノ植物ヲ注目セシコトフリヤ若シ果シテ之ヲ注目シタランニハ必ス其薔薇ノ各葉悉ク窓邊ニ向ヘルコトヲ看取スベキナリ且ツ又暖室中ノ植物ハ皆玻璃ニ近クシテ日光ヲ受クベキ方ニ其葉ヲ生シ又小麥及ヒ裸麥ノ如キモ亦其葉皆太陽ニ向テ生スルナリ故ニ汝ハ爾來郊野ヲ遊覽スル時必ス當ニ之ヲ注目スベシ而

シテ若シ汝太陽ノ昇ルニ方リテ花園ヲ逍遙審視スルトキハ所在植物ノ花葉皆東向スルヲ見又日中ニ方リテ此ニ着眼スルトキハ其表面皆上方ニ向フコトヲ見又日暮ニ於テハ悉ク西方ニ向ヘルコトヲ見ルベシ故ニ草木ノ花葉ハ終日唯太陽ニ隨從セルモノト云フベキナリ斯ノ如キノ植物ハ即チ「ルービン」豆及ヒ向日葵ノ類ニシテ是等ハ所在皆多ク開ク所ノ園花ナリ故ニ汝ハ雨後等是ノ花ヲ見ル毎ニ其果シテ太陽ニ向フヤ否ヲ善ク注目セズンバアルベカラズ然リ而シテ都テ暗陰ナル地ニ生長スル植物ハ必ス其青綠色ヲ失フモノナリ故ニ馬鈴薯及ヒ蕪菁ノ頂上ト暗陰ナル窖中ニ生長スル甘藍ノ幼綠菜ノ如キハ其名稱ノ如ク綠色ナラズシテ却テ白色ナル

モノトス

今爰ニ又木質ノ植物ト草質ノ植物トノ區分ヲ舉グベシ  
木質ノ植物トハ其幹枝皆木ヨリシテ成ルモノニテ譬ヘバ林  
木、灌木、荆棘等ノ如ク冬ニ至リテモ枯レサルモノヲ合稱スル  
ナリ

草質ノ植物トハ其幹一モ木ヨリ成ラズシテ一般ニ毎年枯死  
消滅シテ唯根ノミ存スルニ至ル植物ヲ稱スルナリ、譬ヘバ馬  
鈴薯、鬱金香、蒲公英及ヒ各種ノ莠草等ノ如シ、

又植物ハ其壽命ノ長短ニ就テ三種ノ區別アリ、即チ之ヲ稱シ  
テ「アンニユアル」「ビイニアル」及ヒ「ペレニアル」ト做ス蓋シ汝ハ  
其ノ植物ノ他ノ植物ヨリモ長久ニ生活シ得ル者アルヲ知ル

ベキナリ

「アンニユアル」ノ植物トハ、唯一年ノ間生活スル所ノ園草、豌豆  
ノ類ニシテ是等ハ皆春時其種子ヨリ生シ秋期ニ至リテ根葉  
共ニ枯死スルモノナリ故ニ毎年種子ヨリ生スルヲ以テ必要  
ト爲ス所ノ植物ハ皆之ヲ「アンニユアル」ト稱スベシ譬ヘバ胡  
瓜、甜瓜、豌豆、「バチエロルス、バットン」草ノ屬ナリ

「ビイニアル」ノ植物トハ二年ノ間生活スルモノナリ、即チ夏ニ  
方リテ發生シ其花及ヒ菓、若クハ種子ヲ生シ次年ニ至リテ枯  
死スルモノナリ、譬ヘバ小麥、甜菜、亞米利加防風、甘藷、實叟多里  
斯等ノ如シ

「ペレニアル」ノ植物トハ多年ノ間生活シ、毎年必ス開花シ、且ツ

種子若クハ菓實ヲ産スルコトヲ得ルモノナリ然レドモ此植物中或ハ毎年一度其休ノ上部ヲ失ヒ唯其根ノミ常ニ活存スルヲ得ルモノアリ、譬ヘハ鬱金香、及ヒ蒲公英ノ類ナリ、又或ハ唯葉ノミ枯落スト雖モ、其他ノ枝幹ニ至リテハ、多年枯死スルコト無キモノアリ、譬ヘハ林木、灌木、及ヒ荆棘等ノ如シ、夫レ樹木ハ之ヲ截斷スルノ後、其幹ノ有スル所ノ圈數ヲ算スルニ因リテ其幾年ヲ經シヤヲ驗言スルコトヲ得ベ、シ蓋シ木ノ新タナル表皮ハ、毎年一重ヲ加フルモノナレバ、其齡ハ正ニ圈ノ數ト、同一ナルモノトスベシ、

而シテ又此「アンニユアル」「ビイニアル」及ヒ「ペレニアル」ト稱スル植物ノ外ニ、更ニ他ノ一種ノ僅ニ一日ヲ經過セザル間ニ、發

生シテ花ト種子トヲ生ジ、終ニ又枯死スル植物アリ、斯ノ如キ植物ヲ名ケテ「エペメラル」即チ一ト稱ス、是其命數ノ短クシテ、生死暫時ノ間ニアルニ因テナリ、

又植物ハ本國生ト外來生トノ二種ヲ區分セザルベカラズ生本國生ノ植物トハ、何レノ國ニ於テモ皆自然ニ其國ニ野生シ、若クハ其國內ノ一地方ニ發生シタルモノニシテ他國ヨリ輸入セルニアラザルモノヲ云フ、譬ヘハ「パツターカップ」花草、及ヒ紫花地丁酸模ノ如シ、是等ノ植物ハ、英國ニ於テモ、亦各地ニ生ジテ其種子、固ヨリ外國ヨリ携ヘ來ル者ニアラズ、古來天然ニ此土地ニ生ゼシモノナリ、

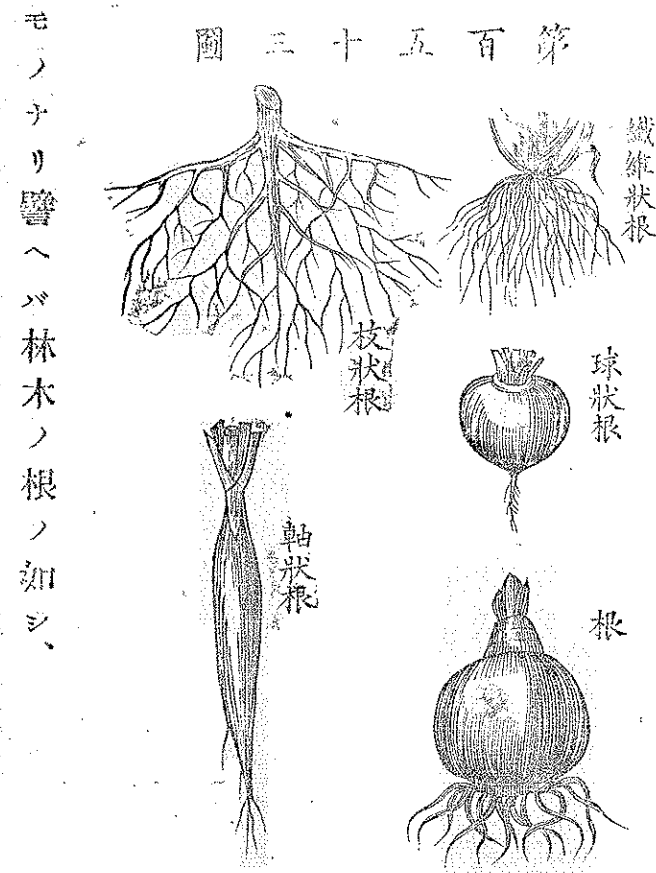
外來ノ植物トハ、最初外國ヨリ輸入シテ即今自國ニ生ズル所

ノ者、或ハ方ニ輸入シ來リタル者ヲ云フ、譬ヘバ打里亞花、鬱金香等ノ如ク、我林藪ニ自然ニ生ズルコト無ク、唯汝ノ花國中ニ於テ目撃シ得ル植物ナリ、

凡ソ我園林、及モ大林野中ニ在ル諸般ノ樹木ハ、多クハ本國生ノ植物ナリ然レドモ我ガ菓樹ハ、大概皆外來ノ植物ニシテ、譬ヘバ杏樹、桃樹、櫻樹等ノ如シ是等ハ自然ニ我カ林樹中ニ成長セル者無シ且ツ我ガ菓實ヲ結バザル樹木ト雖モ亦外國ヨリ來レルモノ無キニアラズ即チ「ボールスナユスナツト」等ノ如キ是ナリ

又植物ハ皆其全体ノ種々ノ部分ニ於テ各其名稱ヲ有スル者ナリ、即チ其名ノ如キハ次條ニ記載スル所ノ如シ

圖三十五百第



モノナリ譬ヘバ林木ノ根ノ如シ、

根ハ汝ノ知レルガ如ク、植物ノ地中ニ埋沒セル部分或ハ寄生ノ植物ニ於テハ其他ノ物体ニ入ル所ノ部分ナリ、而シテ其根中ニモ亦形体ニ隨テ各種ノ名稱アリ

枝狀ノ根トハ、其植物ノ上部ト、同一ナル形狀ヲ以テ種々ノ枝狀ニ分ツ

纖維狀ノ根トハ甚々細小ニシテ絲ノ如キ部分ナリ、譬ヘバ、草根ノ如シ、

軸狀ノ根トハ、萊菔、牛蒡等ノ如ク、其上部稍太クシテ末ニ至リテ漸次ニ尖レルモノヲ稱スルナリ、譬ヘバ、甜菜及ヒ亞米利加防風等ノ根ノ如シ、

球狀ノ根トハ殆ト圓形ニシテ且ツ多角ナルコト、蕪菁及ヒ葱ノ如キモノヲ云フナリ、

茲ニ又某ノ根ノ其形狀是等ノ根ト全ク異ニシテ別ニ他ノ名ヲ有セル者アリ、然レドモ今余ガ記載スル所ノ四種ヲ以テ、通常ノ物ナリトス、

幹トハ植物ノ根ヨリ地上ニ起立スル所ノ部分ニシテ大樹木

ニ在テハ其依ヲ云ヒ、細小ナル植物ニ於テハ、其莖ヲ云フナリ、而シテ此幹ヨリ枝ヲ生ジ、此幹ト枝トニ由リテ其葉花及ヒ葉實ヲ支柱スルナリ、

夫レ冬日ニ方リテハ通常ノ樹木大抵一葉ヲモ有スルコト無ク、唯其枝ニ夥多ノ苞ヲ生スルモノナリ、然レドモ其葉ト花トハ、假令甚々小ナリト雖モ、既ニ完全ナル状態ニ於テ是等ノ苞中ニ含有セラル、者ナリ、故ニ此苞ハ、葉ヲ生ズベキモノアリ或ハ花ヲ生ズベキ者アリテ、一般ニ葉ヲ生ズベキモノハ形細長ニシテ其端尖リ、又花ヲ生ズベキモノハ、稍大ニシテ其端亦圓キ所アリ、而シテ汝若シ此花ヲ生ズベキ苞ヲ取り、丁寧ニ之ヲ剖キ、顯微鏡ヲ以テ之ヲ窺ストキハ汝ハ悉ク其花ノ諸部ヲ

觀察スルコトヲ得ベキナリ、夫レ此ノ如キ細微ナル花及ヒ葉ノ此苞中ニ包含セラレテ冬時嚴冬ノ日霜雪ノ害ヲ免クルハ所ノ精巧ナル處置ハ實ニ歎美スルニ堪ヘタルモノナリ、又春日ニ至リテ氣候漸ク溫暖ニシテ是等ノ樹木ノ液汁其根ヨリ全休ニ下升スルニ及ビ此苞甲ノ自ラ開析シテ漸ク成長スルコトハ眞個ニ不思議ノ妙機ト言ハザルヲ得ズ、且ツ是等ノ樹木及ヒ是等ノ開發セル花ノ美麗ナル容態ハ亦名狀シ難キモノナリ、是ヲ以テ見ルトキハ汝ハ始メニ赤裸ニシテ一物ヲ有セザル枝ヲ目撃スト雖モ僅ニ數日ヲ經ルニ及ビテ是等ノ枝ハ皆蒼々タル葉ヲ以テ掩蔽セラレ其花モ亦速ニ凋零シテ更ニ葉實ヲ結ビ此葉實ハ漸次ニ成長シ夏日及ビ秋日ヲ經ルノ際

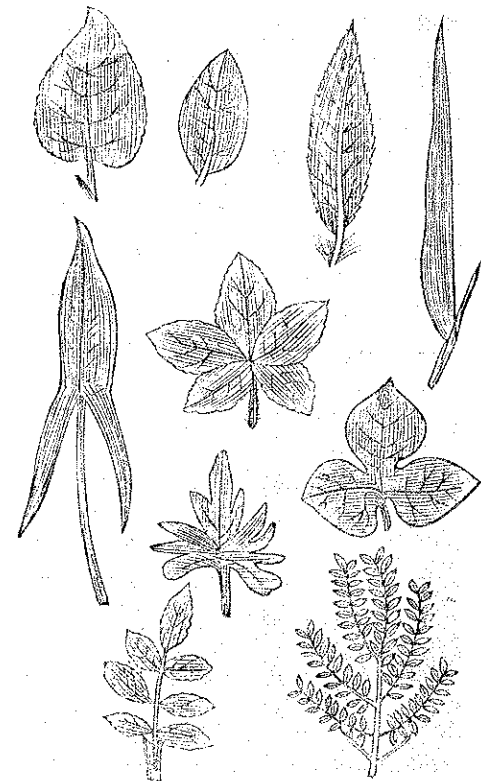
ニ全ク熟シ了リテ、竟ニ地上ニ墜ルニ至ルモノナリ、而シテ樹木ノ葉ハ大概皆冬日ニ及ビテハ凋衰シテ零落シ其液汁モ亦其根ニ下降スルモノナリ、然レトモ其中ニ就キテ嚴冬ト雖モ尙其葉ヲ落ササル者アリ、是等ノ樹ヲ常盤木ト稱號セリ則チ長春藤若クハ桂樹ノ如キ不凋不落ニシテ冬日ニ當リ常ニ蒼々タル狀態ヲ失フコト無キ者はナリ、又植物ノ葉ハ其形狀ニ於テ甚タ相差異スル所アルモノニシテ各其形狀ニ隨テ其名ヲ有セリ、凡ソ本草學者タルモノ、百花ノ名ヲ知ラント欲スルトキハ始メニ先ツ其葉ノ形狀ヲ認視セザル可ラズ故ニ余又將ニ是等ノ數種ノ形狀ヲ解明セントス而シテ葉ノ體「ハベチオル」即チ葉莖ト稱シ又葉ノ中央ヲ縱

ニ通りタル山所ヲ「ミツドリフ」即チ中骨ト稱セリ  
 卵形ノ葉トハ鳥卵ノ如キ形ノ葉ヲ云フ譬ヘバ林檎ノ葉ノ如  
 シ  
 逆卵形ノ葉トハ其形大ニ卵形ノモノニ同クシテ唯其莖ニ接  
 近セル端ノ幅、最モ狭キ者ヲ云フ、譬ヘバ雛菊ノ葉ノ如シ、  
 長圓形ノ葉トハ是モ亦粗卵形ノモノニ均クシテ、唯其兩端ノ  
 幅相均キモノヲ云フ、譬ヘバ山櫻ノ葉ノ如シ、  
 心臟形ノ葉トハ其形、心臟ニ類似シタルモノナリ、譬ヘバ連翹  
 ノ葉ノ如シ、  
 細尖形ノ葉トハ、長クシテ且ツ狭ク、其端ノ尖レル葉ヲ云フ、其  
 形、稍昔時ノ槍ニ類似セリ、譬ヘバ柳葉ノ如シ、

線形ノ葉トハ纖長ニシテ其端ヨリ端ニ至ルマテ、全体ノ幅殆  
 ト均ク、唯其端ニ於テ、尖レル所アリ、而シテ衆草類中ニ此形狀  
 ノ葉ヲ有スルモノ多シ、  
 大針形ノ葉トハ、其幅狭クシテ、尖端ニ於テ彎曲シ、其形狀恰モ  
 靴鞋匠ノ使用スル大針ノ如キモノヲ云ヘルナリ、  
 鋸形ノ葉トハ、弓箭ノ鋸ノ如キ形狀アルヲ以テ名クルナリ、  
 耳珠形ノ葉トハ、其周縁若クハ端ニ於テ深キ鋸齒形ヲ爲シ、即  
 チ分裂シタル所アルモノヲ云ヘリ、譬ヘバ橡櫪及ヒ楓樹等ノ  
 葉ノ如シ、  
 手形ノ葉トハ其形狀恰モ手指ヲ展ベタルモノニ似タルヲ以  
 テ云フナリ、譬ヘバ「ホー」ルスナエスナツト」ノ葉ノ如シ、

鳥足形ノ葉トハ其狀鳥ノ足ノ如キモノニシテ譬ヘバ「ヘデイト、ヴァイオレット」ノ植物葉ノ類ヲ云フ、

第四百四十四



鋸齒形ノ葉トハ其周縁ニ於テ細小ナル鋸齒ノ形ヲ有スルモノナリ、譬ヘバ山櫻樹若クハ薔薇等ノ葉ノ如シ、

羽形ノ葉トハ一條ノ葉莖有リテ其兩旁ニ各別ナル許多ノ細葉ヲ有スルモノヲ云フ、譬ヘバ水蠟樹ノ葉ノ如シ、

是等ノ葉ノ外種々ノ形狀ヲ異ニシテ各其名ヲ負ヘルモノ尙多シトス然レドモ今余ハ悉ク之ヲ汝ニ説示スコト能ハズ、又葉ノ表面ハ各異ナル所アルモノニシテ或ハ平滑ナルモノアリ、或ハ甚タ粗ナルモノアリ、或ハ毛ヲ以テ覆ヘルモノアリ、或ハ綿花様ノ絨毛ヲ以テ被ヘルモノアリ、或ハ絹ノ如キ稠密ニシテ柔軟ナル毛ヲ以テ覆ヘルモノアリ、葉ノ大サモ亦甚タ一樣ナラザルモノニシテ汝ノ知レルガ如ク、極メテ小ナルモノアリ、或ハ甚タ大ナルモノアリ、然レドモ我カ國ニ於テハ他ノ各國ニ在ル所ノ如キ極大ナル葉ヲ生ズルコトナシ、夫レ東印度ニ生スル棕櫚ノ葉ハ其周圍數十尺ニ至ルモノアリ、又「セイロン」島ニ生スル一種ノ樹「タリ



ツボットト稱スルモノ、葉ハ一葉ニシテ能ク十五員或ハ二十員ノ人ヲ覆蔽スルニ足ルト云ヘリ其廣大ナルコト實ニ想像スベキナリ、而シテ是等ノ葉モ亦緊要用ノ物ナリト言ハザルコトヲ得ズ、何トナレバ「セイロン」ニ於テハ、季候極メテ暖熱ナルガ爲メニ其人民ハ大ニ繁茂シタル樹木ヲ求メ、其涼陰ニ於テ炎熱燬クガ如キ、太陽ノ光線ヲ避ケザルヲ得ザレバナリ、然ハ則チ上帝ハ甚々仁惠ナルモノニシテ人民ノ要スル所ニ隨ヒテ地球上ノ諸部ニ相應シタル植物ヲ供用セシモノト言フベシ、

今余ハ植物ノ最モ美麗ナル一部ニ關係シテ汝ニ談話セザルコトヲ得ズ、而シテ此美麗ナル一部トハ、即チ花ヲ指シタルモ

ノニシテ此花モ亦各七個ノ部分ニ區別セラレ其部分ハ皆忽諸ス可ラザル者ナリ、故ニ汝ハ特ニ是等ノ部分ヲ學知シ、之ヲ記憶セザル可ラズ、

- 一 花托
- 二 英
- 三 雄藥
- 四 雌藥
- 五 子殼
- 六 種子
- 七 「レセプティクル」解下條ニアリ

第一 花托ハ即チ花心ニシテ花ノ下ニ密接セル、綠色ノ部分ヲ云フ、一般ニ其花ヲ支柱セルモノナリ、然レドモ花托ハ花ニ密接セズシテ遙ニ下ニテ其莖ニ附着セルモノアリ、此ノ如キ花托ハ皆一個ノ葉或ハ數個ノ葉ヨリ成ルモノタリ、或ハ諸花

ノ中、全ク花托ヲ有セザルモノアリ又石竹ノ花ヲ支柱セル管  
様ノ一物ハ則チ亦其花托ト云フベシ而シテ花托ハ皆其花ノ  
開カザルニ方リテハ、常ニ之ヲ覆蔽セリ、故ニ薔薇ノ苞ヲ被ヘ  
ル所ノ綠色ノ葉ノ如キモ亦是其花托ナリト謂ハザルコトヲ  
得ズ

第二 英トハ花托中ノ着色セシ部分ニシテ、其片ヲ稱シテ花  
片ト云ヘリ、鬱金香ハ六個ノ花片ヲ有シ、薔薇ノ如キハ、其數殊  
ニ多シ、而シテ大概ノ花ハ皆「チクタリ」即チ花蜜ヲ生スルノ  
部分ヲ有セザルナシ、是乃チ蜜ノ依テ生スル所ニシテ、時ニ又  
之ヲ蜜杯ト稱スルコトアリ故ニ此「チクタリ」ヨリ其蜜ヲ採  
收スルコトヲ得ルモノナリ、

第三 雄藥トハ大抵皆雌藥ヲ圍繞シテ生スル所ノ英中ノ纖  
絲ノ如キ物ナリ、鬱金香ハ六個ノ雄藥ヲ有シ、林檎ノ花ハ十二  
個ヲ有セリ、而シテ雄藥中又「アンゼル」藥粉及ヒ「フィウメント」  
ノ三個ノ區分アリ、

「アンゼル」トハ雄藥ノ端ニ在ル所ノ細小ナル芽ヲ云ヘリ、  
藥粉トハ「アンゼル」ノ内部ト其表面トニ在ル所ノ、纖細ナル粉  
ヲ云フナリ、汝ハ必ズ蜜蜂ノ夏日其房ニ歸ルニ方リテ、其腿ニ  
黃色ナル粉ヲ着クルコトアルヲ見ルベシ是即チ蜂ノ採取ス  
ル所ノ諸花ノ藥粉ニシテ蜂ハ之ヲ其小舎ノ中ニ貯藏セリ、是  
ニ由テ汝ハ蜂蜜中ニ此藥粉ヲ發見スベシ、而シテ其蜂蜜中ニ  
在ルニ方リテハ、之ヲ稱シテ「バイブレット」即チ蜂蜜ノ麵包ト

名クルナリ、

「フィラメント」トハ「アンゼル」及ビ藥粉ヲ支柱スル部分ヲ云フナリ

第四 雌藥トハ雄藥ノ爲メニ圍繞セラレテ、花ノ中心ニ立テル所ノ部分ヲ云フナリ、譬ヘバ鬱金香ノ中心ニ在ル所ノ、大ナル綠色ノ物ノ如シ、而シテ衆花ノ中或ハ唯一ノ雌藥ヲ有セルアリ、又或ハ數個ヲ有セルアリ、又此雌藥モ亦三個ノ部分ニ區別シタルモノニシテ、即チ「スチグマー」「ジエルクム」及ヒ「スタイル」ト稱スルナリ、

「スチグマー」トハ下部ニ在ル所ノ節、即チ把ニシテ雌藥ノ端ニ置カル、モノナリ、

「ジエルクム」トハ雌藥ノ下部ヲ云フモノニシテ、花ノ熟スルニ方リテ種子ヲ含有スルモノナリ、

「スタイル」トハ「スチグマー」ト「ジエルクム」ノ中間ニ在リテ、此二個ノ部分ヲ相連合セシムル所ノ部分ナリ、百合花ハ其「スタイル」甚タ長シ然レドモ鬱金香ノ如キハ、一ノ「スタイル」ヲモ有スルコト無シ、且ツ其他ノ花モ「スタイル」ヲ有セザルモノ亦少カラズ、

第五 子殻トハ種子ヲ有スル所ノ囊ヲ云フ而シテ時ニ又種子囊ト稱スルコトアリ、且ツ假令植物ノ何等ノ種子ヲ保有スルモ概シテ之ヲ子殻ト云ヘリ、譬ヘバ豌豆及ビ蠶豆ノ莢、罌粟ノ穗、胡桃ノ殼、林檎、葡萄、及ヒ胡瓜等ノ如シ、

第六種子トハ植物ノ種子ヲ時キ、或ハ之ヲ植エ、其成長スルニ及テ、結フ所ノ部分ヲ云フ、而シテ斯ク結ベル種子ハ各既ニ甚タ細微ナル植物ヲ保有セザル無シ、而シテ此種子ニ由リテ斯ノ如ク植物ノ發生スル所以ノ理ハ豈感歎スルニ堪ヘタルモノト謂ハザルコトヲ得ンヤ、是ヲ以テ若シ種子ノ盡ルコトアルトキハ植物ハ亦隨テ消滅セントス、然ルニ種子ハ、次年ニ撒布シテ始終地球上ニ、植物ノ被覆ヲ斷絶スルコト有ルナク而シテ「アンニユアル」ノ植物ハ年毎ニ其種子ヨリ成長スルモノトス、

各種ノ植物ノ固有スル所ノ種子ハ、其數同一ナルコト能ハズ、或ハ唯一個ノ種子ヲ有スルモノアリ、或ハ二個有餘ヲ懷クモ

ノアリ、又夥多ノ種子ヲ胚胎スルモノアリ、而シテ玉蜀黍ハ、一株ニシテ、一夏中ニ能ク二千個ノ子ヲ生ジ、罌粟ハ一株ニシテ三萬二千個ノ子ヲ生ゼリ、且ツ一個ノ本草學者曾テ烟草ノ一種ノ一夏中ニ生スル所ノ子數ヲ計算セシニ、其員三十六萬個ニ滿ルモノヲ看出セリ、

然リ而シテ種子ノ地球上ニ撒布セラル、所以ノ方法ハ、種々奇異ナルモノアリ、或ハ飄風ニ由リテ大ニ懸隔シタル土地ニ運送セラル、モノアリ、是即チ「エグレット」ヲ有スル種子ヲ云フ、此「エグレット」ト云フモノハ種子ニ附着セル羽ノ如ク、又毛ノ如キ絨毛ナリ、譬ヘバ、薊蒲公英及ヒ他ノ許多ノ植物ニ附屬シタル絨毛ノ如シ、是等ノ種子ハ、其全ク熟スルニ及テ汝ノ屢

目撃スルカ如ク、郊野及ヒ牧地ノ中ニ、絶ヘズ飛揚シ、且ツ旋轉  
シテ、數十里ノ遠キニ至ルコト有ルモノナリ、而シテ汝ノ各地  
ニ於テ斯ノ如ク夥多ナル蒲公英ノ生スルモヲ見ルコトハ、  
又此方法アルニ由テナリ、  
又翼様ノ物ヲ有セル種子、即チ翼アル子殻ヲ申シ保育シタル  
種子ニシテ、風ノ吹クニ方リテ此翼ニ由リテ飛舞スルモノア  
リ、譬ヘバ楓樹及ヒ榆樹ノ子殻即チ種子囊ノ如シ、故ニ汝モ亦  
是等ノ種子ノ、其樹ヨリ落ツルニ當リテ、空中ニ飄揚セルモノ  
ヲ目撃セシコトアルベシ、  
凡ソ種子ハ汝ノ能ク知レルガ如ク、土ヲ以テ覆フニ非レバ、皆  
發生シ得ザルモノアリ、而シテ栗鼠及ヒ他ノ某ノ動物ハ、孔穴

ヲ地ニ穿テテ其中ニ許多ノ樗實及ヒ胡桃ヲ埋メ、後來是等ノ  
種實ヲ埋メシ處ヲ忘却スルコト往々之アリ、是ニ由テ是等ノ  
種實ハ終ニ其埋沒セラレシ處ニ生長スルニ至ルモノナリ、故  
ニ印度人即チ米利幹ノ土人ハ常ニ其國中ノ林ニ在ル諸樹ハ  
其原因、皆栗鼠ノ植エシ所ニ係ルコトヲ云フモノナリ、  
而シテ鳥モ亦許多ノ樗籠ヲ埋藏シ其樗實樹後ニ及ヒテ生長  
スルコトハ又人々ノ目撃說話スル所ナリ、  
且ツ種子ノ旋轉シテ、細流及ヒ大河ニ由リテ遙ニ懸隔シタル  
地ニ傳送セラレ、加之ナラズ大洋ヲ過キテ、遠ク外國ニ至ルモ  
ノ亦多シ、故ニ米利幹國ニ生スル種子ノ大洋波濤ノ爲メニ漂  
ハサレテ、蘇格蘭ノ海岸ニ接スル島ニ到着セシモノヲ見タリ

シ人アリ此事ハ決シテ誣偽ニ非ザルヲ證スルニ足レリ、何トナレバ其種子ヨリ生ゼシ植物ハ是ヨリ先ニ曾テ此島嶼ニアラザリシモノニシテ、始メテ亞米利加國ニ對シタル海岸ニ於テ看出シ得、且ツ此植物ト同一種ナルモノ、從前米國ニ生スル甚タ多キヲ以テ徵スベキナリ、

第七 「レセフテイクル」トハ花莖ノ頂端ヲ云フ是花ノ他ノ六部分ヲ支フルモノナリ、

余ハ今既ニ汝ニ對シテ花ノ六個ノ部分ヲ解明シ了レリ、故ニ汝ハ勉力探索シテ殊大ナル花ヲ得ルニ方リテハ之ヲ余ガ汝ニ說話セシ所ニ比較シテ參考セザルベカラズ、而シテ尙理會シ得ルコト能バザルモノアラバ之ヲ汝ノ父母ニ問フベシ、父

母乃チ汝ニ解明スルコトヲ得ベキナリ、若シ果シテ斯ノ如クスルトキハ汝ハ速ニ各個ノ花ヲ看テ種々ノ部分ノ名稱及ヒ種々ノ形狀ノ葉名等ヲ領知記憶スルニ至ルベシ、且ツ汝若シ如何ナル植物ハ毎年枯死スベキヤ、又如何ナル植物ハ更ニ久シク生榮スベキヤヲ、看目スルトキハ、必ズ能ク何レノ植物ヲ「アンニユアル」ト做シ、何レノ植物ヲ「ビイニヤル」ト做シ、又何レノ植物ヲ「ペレニアル」ト做スコトヲ話シ得ルニ至ルベシ、而シテ又汝ハ常ニ此植物ハ本國生ナルヤ、將タ彼ノ植物ハ、外來生ナルヤヲ觀察シ、且ツ汝ノ花園及ヒ原野ニ於テ看取スル所ノ花ニ關シテ、予ガ演說シ了レル諸事ニ照準シテ會得セザル可ラズ、

又數十ノ女兒輩、相會集スルニ方リテ衆花ヲ探討シ其何レノ部分ヲ雄藥ト爲スヤ、將タ雌藥ト爲スヤ、花托ト爲スヤ、花瓣ト爲スヤ等ノ疑問ヲ發シテ、互ニ之ニ答ヘ、且ツ其何レカ最も多ク是等ノ疑問ニ答ヘ得ルヤヲ、看取スルコトハ、汝ノ爲メニ甚タ好ミスベキ遊嬉ナリト云フベシ、

凡ソ植物ノ解明ヲ冊子ニ記載スルニ於テ、一定ノ規則ヲ用井ザルトキハ、其解明ハ無用ニ屬スルモノト言ハザルコトヲ得ズ、何トナレバ若シ人ブリテ新奇ナル花卉ヲ看出シ、其名ヲ知ラント欲スルトキ、其書冊ノ何レノ部分ヲ閱セバ此植物ノ解明ヲ得ベキヤヲ知ルコトナク、一個ノ解明ヲ求メンガ爲メニハ其卷首ヨリ卷末ニ至ルマデ、全ク通覽セザルコトヲ得ズ、此

通覽ヲ爲スニ、許多ノ勞力ヲ費ヤスガ故ニ、其煩厭ヲ省カンガ爲メニ、本草學者ハ、植物ヲ各種ノ部類ニ區別セリ此部類ヲ區別スルニ種々ノ方法ヲ用井タリ或ハ同一様ノ花ヲ有スル諸植物ヲ以テ一個ノ部類ト做シ以テ夥多ナル部類ニ區別スルモノアリ、或ハ植物ノ適居セラル、所ニ隨ヒ、其味其香若クハ其藥料ニ供スルノ功能ニ關係シテ、其部類ヲ區分スルモノ有リ、是等ノ分類ヲ「ナクニラル、サルダル」即チ自然ノ秩序ト稱號セリ、何トナレバ是等ノ分類ニ於テハ自然ニ匹似セル諸植物ヲ以テ一個ノ部類ト爲セバナリ、而シテ往時ハ是等ノ分類ノ外、植物ノ部類ヲ定ムベキ他ノ方法アルコトナシ、然ルニ余カ前次既ニ汝ニ謂ヘルガ如ク、彼ノ瑞典國ノ卓絶セル本草學者

「リニユース」ト云ヘルモノ「リニユース」ノ規則ト名ケタル一種ノ特別ナル方法ヲ創製セリ、而シテ此方法ハ蓋シ模範トシテ遵用スルニ最良ノモノタリ、故ニ余ハ今此方法ヲ以テ汝ニ説カントス、

「リニユース」ノ規則ハ諸般ノ植物ヲ區分シテ、二十四個ノ部類ト爲シタリ、其始メニ各個ノ植物ハ皆悉ク雄藥ヲ有スルコトヲ發明セシヲ以テ、此雄藥ニ由リテ此ノ如ク部類ヲ定メシモノナリ、先ツ一個ノ雄藥ヲ有スル諸植物ヲ以テ第一ノ部類ト做シ、二個ノ雄藥ヲ有スル植物ヲ第二ノ部類ト做シ、種々ナル長サノ雄藥ヲ有スル植物ヲ以テ亦一個ノ部類ト做セリ又他ノ花ノ雄藥ハ異ナル形狀ヲ以テ生スルモノアリ、因テ「リニユース」ハ是等ヲ別部類ト看做セリ且ツ此人ハ許多ナル植物ノ雄藥甚々微小ニシテ、認視スルコト能ハザルモノアルヲ知道セリ、而シテ是等ハ皆之ヲ合集シテ、又一個ノ部類ト做シタリ是ヲ以テ雄藥中、都テ二十有四ノ部類アリ、今汝ハ余ガ解說セル所ノ雄藥ノ何物タルヤヲ能ク記臚セザルベカラズ、若シ汝之ヲ忘却スルトキハ、是等ノ部類ニ關シテ一モ理會スルコトヲ得ザルナリ、今又茲ニ此諸部類ノ名稱種々アリ、余悉ク汝ノ爲メニ解明セントス、汝宜ク勉メテ學知スベシ、是余ガ期望スル所ナリ、

「リニユース」ノ區別セシ所ノ部類

一「モナンドリヤ」即チ一雄藥

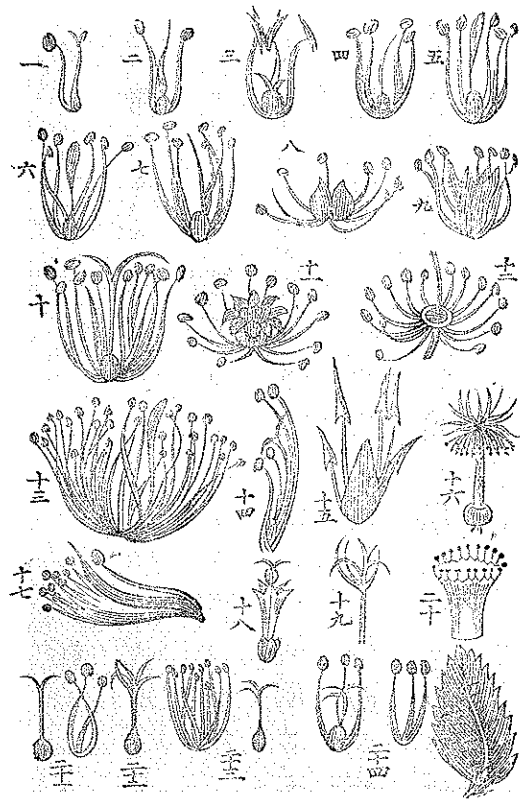


- 二 「ダイアンドリヤ」即チ二雄藥
- 三 「トリ―アンドリヤ」即チ三雄藥
- 四 「テトランドリヤ」即チ四雄藥
- 五 「ペンタンドリヤ」即チ五雄藥
- 六 「ヘキサンドリヤ」即チ六雄藥
- 七 「ヘプタンドリヤ」即チ七雄藥
- 八 「シクダンドリヤ」即チ八雄藥
- 九 「エンニヤンドリヤ」即チ九雄藥
- 十 「デカンドリヤ」即チ十雄藥
- 十一 「ドガ―デンドリヤ」即チ十二乃至十九ノ雄藥
- 十二 「アイコサンドリヤ」即チ花托ニ生スル所ノ二十以上

- ノ雄藥
- 十三 「ポリアンドリヤ」即チ「レセプタークル」ニ生スル所ノ、  
二十以上ノ雄藥
  - 十四 「ダイザーチミヤ」即チ二個ハ長ク、三個ハ短キ所ノ四  
個ノ雄藥
  - 十五 「テトラジチミヤ」即チ四個ハ長ク、三個ハ短キ所ノ六  
個ノ雄藥
  - 十六 「モナデルフィヤ」即チ「フィラメント」ニ於テ一部ニ集  
合セシ雄藥
  - 十七 「ダイアデルフィヤ」即チ「フィラメント」ニ於テ二部ニ  
集合セシ雄藥

十八「ボリアデルフイヤ」即チ二部以上ニ集合シタル雄蕊  
 十九「スインシニージャ」即チ「アンセル」ニ於テ、一部ニ集合  
 シタル五個ノ雄蕊ナリ、是花ノ混集セシモノニシテ、之  
 シ詳説スレバ、即チ衆多ノ小花ノ一花ニ集合スルモノ  
 ナリ、譬ヘバ蒲公英、薊等ニ於ケルガ如シ、  
 二十「シナンドリヤ」即チ雌蕊上ニ生スルモノ、  
 二十一「モヌシヤ」即チ雄蕊ト雌蕊ト、其花ヲ異ニスルモノ、  
 二十二「ダイユシヤ」即チ雄蕊ト雌蕊ト、其樹ヲ異ニスルモノ  
 ノニシテ之ヲ詳説スレバ、一樹ノ花ハ、唯雄蕊ヲ有シテ、  
 一ノ雌蕊ヲモ有セズ、又他ノ樹ノ花ハ、唯雌蕊ノミヲ有  
 シテ一ノ雄蕊ヲモ有セザルモノヲ云フ、

第五百五十五圖  
雄蕊ノ圖



二十四「クリプトガミヤ」即チ雄蕊及ヒ雌蕊ノ極メテ細微  
 云フナリ、

二十三「ボリゲシヤ」即チ其花ノ中、或ハ雄蕊及ヒ雌蕊ヲ有  
 シ或ハ唯雄蕊ノミヲ有シ、或ハ唯雌蕊ノミヲ有セルモノ  
 ノ有リテ、是等  
 ノ數種ノ花都  
 テ一樹ニ開ク  
 コトアリ、或ハ  
 又各其樹ヲ異  
 ニシテ開クコ  
 トアルモノヲ  
 云フナリ、

ニシテ肉眼ニテハ認識スルコト能ハザル如キモノヲ  
云フナリ、

是等ハ即チ「リニユース」ノ區別セシ部類ニシテ其中容易ニ之  
ヲ辨知シ難ク汝ノ始メニハ、之ヲ理會スルコト能ハザルモノ  
アリ、然レドモ余ハ種々ノ植物ノ各個ノ雄蕊ヲ有セルモノヲ  
記載シテ漸次ニ是等ノ雄蕊ニ關シテ解明スル所アラントス、  
然ルニ又甚タ單一ニシテ汝ノ領會シ得易キモノアリ、是故ニ  
若シ汝鬱金香ハ、何レノ部類ニ屬スベキヤヲ知ラント欲セバ  
必ス其花ノ在ル所ニ至リテ、其雄蕊ヲ精算セザル可ラズ、而シ  
テ後始メテ其六個ノ雄蕊ヲ有スルコトヲ發見スベシ、因テ此  
鬱金香ハ「ヘキザンドリヤ」ト名クル第六ノ部類ニ屬スルコト

ヲ知ルベキナリ、又彼ノ薔薇花ハ、第十二ノ部類、即チ「イコサン  
ドリヤ」ニ屬セリ、是其二十以上ノ雄蕊ノ花托ニ生スルヲ以テ  
ナリ故ニ汝ハ何等ノ花ヲ見ルコトアルモ、必ス其雄蕊ノ數ヲ  
計算シ、又是等ノ雄蕊ハ、花ノ何ノ部分ニ生スルヤヲ觀察シ、又  
是等ハ一所ニ集合セシモノナルヤヲ、能ク認識セザルベカラ  
ズ、而シテ後、之ヲ部類ノ目錄ト參考シテ、此花ハ何レノ部類ニ  
屬セルヤヲ發見スベシ、

又一部類中ニ多數ノ植物ヲ保有スルモノ有ルヲ以テ更ニ精  
細ニ此部類ヲ區別スルヲ必要ナリトス、是ニ於テ其部類毎ニ  
更ニ皆部屬ト稱スル所ノ多種ノ小部分ニ區別シタリ、而シテ  
斯ノ如ク區別スルコトハ、主トシテ雌蕊ノ負數若シクハ其位

置ニ因ルト雖モ、然レトモ亦諸部類中、或ハ其雌藥ノ數ニ因ラズシテ、他ノ事故ニ由リテ斯ク小部分ニ區別スルモノアリ、

部類中ノ部属

- 「モノジニヤ」 即チ一雌藥
- 「ダイジニヤ」 即チ二雌藥
- 「トリ―ジニヤ」 即チ三雌藥
- 「テトナジニヤ」 即チ四雌藥
- 「ペンタジニヤ」 即チ五雌藥
- 「ヘクサジニヤ」 即チ六雌藥
- 「ヘプタジニヤ」 即チ七雌藥
- 「デカジニヤ」 即チ十雌藥

「ポリジニヤ」 即チ十個以上ノ雌藥

八九ノ部属原本之ヲ畧セリ、脱誤ニ非ズ、

今尙種々ナル他ノ部属アリ、然レドモ之ヲ悉ク了解スルコト汝ノ容易ニ做シ得ベキ所ニアラズ、且ツ又汝ノ爲メニ今日必用ナルニアラズ、故ニ是等ハ都テ刪去ニ属スベシ、而シテ水仙ト鬱金香トハ、第六ノ部類ニ属シ、且ツ此部類中ノ第一部属ト做セリ、是其六個ノ雄藥ト、一個ノ雌藥トヲ有スルヲ以テナリ此ノ如クニシテ凡百ノ植物、其雄藥及ヒ雌藥ニ由リテ部類及ヒ部属ニ區別セラレタリ、然ルニ又「ジエニユス」即チ種類ト稱シ、或ハ其兩個以上ヲ指示スルトキニ「ジユチラ」即チ「ジユニ」ト呼フ所ノ部属中ノ小區分アリ、凡ソ同部属中ノ花ニシテ他ニ

少ク異ナル所アルモノ有リ、斯ノ如キハ皆之ヲ種類ニ區別セリ、譬ヘバ、茲ニ二個ノ花アリ、共ニ第六部類ノ第一部属ニ之ヲ有スル無シ、是ニ由リテ、一花ノ形狀ハ、他花ト全ク異ナリ、故ニ是等ハ其種類ヲ異ニセルモノト謂フベキノミ、

而シテ又稱類中、更ニ之ヲ區別シテ種属ヲ倣セリ、即チ十二個ノ植物ノ其花殆ト同一様ニシテ、唯葉幹及ヒ枝條ニ於テ甚タ均シカラザルモノアリ、斯ノ如キモノハ、又其種属ヲ異ニスルモノト稱スルナリ、

是ヲ以テ植物ノ衆多ナル其大小異同アルニ據テ部類、部属、種類、種属等ニ至ルマデ、漸次詳細ニ區別セザルコトヲ得ズ、故ニ本草家若シ一花ヲ發見スルコトアルトキハ、宜ク先ツ其雄藥

ヲ檢點シテ此花ノ何レノ部類ニ属セルヤヲ認識スベシ、而シテ、又更ニ其雌藥ヲ照査シテ、此部属中何レノ部属ニ係ルヤヲ審視スベシ、而シテ後ニ又部属ニ注意シ、此花ヲ部属中衆多ノ種類ノ記録ト參考シテ其種類ヲ了知スベシ、此ノ如クニシテ其結末ニ及ヒ種類中ノ種々ナル種属ヲ併看シテ、之ヲ精究シ、終ニ其符合スル所ノ種属ヲ發見スルニ至ルヲ得ベシ、是ニ於テカ、始メテ其花ノ名ヲ知ルベキナリ、

若シ今在ル所ノ花ヲ水仙ト爲ストキハ、本草家ハ先ツ其雄藥ヲ算計スベシ、而シテ其六個ヲ有スルヲ以テ、此花ノ第六部類即チ「ヘクサンドリヤ」ニ属スルコトヲ知ルヲ得ルナリ、然ル後更ニ其書籍中ノ部類ヲ回顧シテ、復タ雌藥ヲ算計スベシ、是ニ

於テ此花ノ唯一個ノ雌藥ヲ有スルコトヲ發見スルガ故ニ、此部類ノ第一部屬、即チ「モノジニヤ」ニ屬スルヲ知道スベシ、因テ又其部屬ヲ回顧シテ第六部類ノ部屬中ノ植物ハ、或ハ一ノ花托ヲ有スルモノアリ、或ハ一ノ花托ヲモ有セザルモノアルコトヲ認識セントス是ニ於テ此人ハ其手中ノ水仙ヲ洞察スベシ、此水仙ハ果シテ一ノ花托ヲモ有セズ、故ニ此部屬中ニ於テ一ノ花托ヲモ有セザル植物ノ部分ニ屬スルコトヲ知ルベキナリ、因テ之ヲ部屬中ノ數多ノ種類ト相比照センニ、唯水仙トノミ符合シ、決シテ他ノ諸花ト符合セザルベシ、然レドモ水仙トハ其種類ノ名ニシテ、尙其種類中ニ又種々ノ種屬アリ、即チ之ヲ詳説スレバ、其中又許多ノ殊異ナル屬類アリ、故ニ此人ハ

宜ク第一種屬ノ記錄ヲ讀ムベシ、若シ其條ニ記スル所、此花ニ符合セズンバ則チ又第二種屬ヲ以テ之ト照會スベシ、然ルニ是モ亦符合スルコト無シ、是ニ於テカ更ニ第三種屬ノ條ヲ讀ミ、以テ其精細ニ符合スルコトアルヲ覺悟スベシ、而シテ其條ニ記シタル所ノ此花ノ名ハ、即チ通常ノ水仙ナルコトヲ知り得ルナリ、  
今余將ニ各部類中、最モ興趣アリテ、且ツ奇珍ナル植物ヲ記載セントス、而シテ斯ノ如キ植物中、或ハ汝ノ田野ニ於テ看出シ得ベキモノアリ、然レドモ余今唯其外國ニ於テ生長スルモノヲ舉ケテ汝ニ説話スベシ、夫レ此短小ナル論說中ニ於テハ僅ニ尋常ノ植物ヲ記載スルノ外、多ク揭示スルコト能ハズト雖

モ余ハ我が英國中ニ夥多ニ產出スル所ノ尋常植物ニ關涉シ其目錄ヲ書記シ此助力ニ因リ汝ヲシテ諸花ノ名號ヲ學知スルコトヲ得セシムベシ故ニ汝若シ一花ノ名此目錄中ニ存セルモノヲ發見スルトキハ汝ハ石筆ヲ以テ其上ニ目標ヲ作り此ノ如クニシテ一夏中ニ幾許ノ花ヲ看出シ得ルヤ將タ幾許ノ時日ヲ費ヤシテ之ヲ能ク發見セシヤヲ知ルコトヲ得ベシ且ツ汝ノ父母朋友ノ汝ニ示スベキ所ノ花ノ名ハ多ク余ガ書記シタルモノナリ、

第一ノ部類「モナンドリヤ」

「モノジニヤ」

「マーレスエノイル」溫草此草ハ沈靜ナル池水ノ中ニ生ジ又其

塘堤ニ生スル所ノ尋常ノ植物ナリ而シテ衆多ノ節ヨリ組成セシ所ノ數多ノ眞直ナル幹ヲ有シ其幹ハ汝ノ容易ニ之ヲ其節ヨリ分離シ又再ヒ之ヲ一同ニ結合スルコトヲ得ルモノナリ且ツ其花ハ上部ノ葉ノ底ニ發ス若シ其根ニ近キテ開クモノハ一ノ雄蕊ヲモ有セザルモノアリ、

第二ノ部類「ダイアンドリヤ」

「モノジニヤ」

即チ連翹ナリ是ハ多ク生スル所ノ美麗ナル灌木ニシテ其葉心臟形ヲ做セリ而シテ其花ハ五月ニ至リテ開クモノニシテ皆大ニ群聚シテ生長シ其色ハ大概紫ナリト雖モ亦或ハ白色ナルモノアリ夫レ汝ハ英國中ニ在リテ家ノ門前ニ連翹ヲ植

シルモノ多キヲ見ルベシ、是庭ト園トナ大ニ裝飾スルモノナ  
リ、水蠟樹ノ如キ多枝ナル植物ハ、郊野及ヒ花園ニ於テ美麗ナ  
ル樹籬ヲ作ル爲ニ栽ウルコトアリ、而シテ其葉ハ常ニ緑ニ、其  
花ハ小形ニシテ且ツ白色ニ、其種子ハ圓クシテ黒色ナリ、

「ダイジニヤ」

「ベルノル、グラス」原譯此草ハ草場及ヒ牧地ニ多ク生ズルモ  
ノニシテ其長殆ト一尺ニ及フモノナリ、汝ハ彼ノ新ニ製造セ  
シ乾草ノ佳香ノ甚タ愛スベキコトヲ知ルベシ、此愛スベキ佳  
香ハ即チ此春草ノ在ルニ由リテ發スルモノナリ、誠ニ然リ、然  
ハ即チ乾草ヲ作ルノ時ニ方リテ郊野ヲ逍遙散步スルハ、心意  
ノ快樂果シテ如何ゾヤ

「トライジニヤ」

即チ黒胡椒ナリ此物ハ本東印度ノ產ナリ、漸次ニ攀上スル植  
物ニシテ灌木及ヒ林樹ニ蔓延シ、細小白色ナル花ヲ生ゼリ、其  
子實ハ覆盆子ニ類似シ、小ナル流蘇狀ヲ倣シテ生長シ、熟スル  
ニ及テハ紅色ヲ發スルモノナリ、而シテ此子實ヲ採集シテ之  
ヲ席上ニ攤ケ日光ヲ以テ乾カストキハ、速ニ乾燥シテ汝ノ見  
ルガ如ク黒色ヲ發シ、其表面ニ皺ヲ生スルニ至ルモノナリ、夫  
レ胡椒ハ汝カ試ミ知ル如ク食物ヲ割烹スルニ於テ、常ニ大ニ  
使用スルモノニシテ、吾輩ハ吾輩ノ食フベキ許多ノ植物ト共  
ニ之ヲ喫了セリ、汝ハ常ニ食フ所ノ胡椒ハ、本東印度ノ產タル  
コトヲ忘ルベカラズ、



## 第三ノ部類「トリー・アンドリヤ」

「モノジニヤ」

「フラウエルデール」ス<sup>植物名</sup>此植物ハ我カ濕氣アル樹林及ヒ牧地ニ自然ニ生スル所ノモノタリ、其形大ニシテ美麗ナル黃花ヲ發ス、其葉ハ劍狀ニシテ之ヲ詳説スレバ、劍ノ又ノ如ク長クシテ且ツ圓平ナルモノナリ、其種子ヲ取りテ善ク之ヲ焙ルトキハ咖啡ヲ代用スルニ甚タ適當セリ、又其根ノ小片ヲ齒間ニ插ムトキハ齒痛ヲ療スルノ一妙法ト看做サレタリ、番紅花即チ洎夫藍、此小ナル植物ハ時々我ガ牧地中ニ查出スルコト有リト雖モ、大概皆花園中ニ生長スルモノニシテ、美麗ナル淡黃色ノ花ヲ生ジ其雌藥ハ即チ洎夫藍ト稱シテ最モ貴

「ダイジニヤ」

重セラレタリ、然ルニ昔日ハ此洎夫藍ヲ以テ糊ニ混合シ、或ハ之ニ代用シ、徒ニ浣衣婦ノ使フベキモノト看做サレタリ、方今ニ至テハ人之ヲ「バストリー」即チ麵食ヲ製スルニ用井、且ツ長藥トシテ採用セリ、而シテ「エセツキス」<sup>英國ノ地名</sup>ニ又「サツフロン、ワオルデン」ト稱スル地方アリ、此地方ニ於テハ洎夫藍ヲ得ンガ爲メニ、許多ノ番紅花ヲ養植スルヲ以テナリ、

甘蔗、此植物ハ西印度ニ於テ盛ニ養植スルモノニシテ、全ク成長スルトキハ其長ケ八九「フイート」ニ至リ、其莖ニ節ヲ有シ、其葉ハ長クシテ綠色ヲ帶フルモノナリ、而シテ此植物ヨリ砂糖ヲ製造セリ故ニ此液汁ハ大ニ甘味アルモノニシテ此甘蔗ヲ

刈集メ了ルニ及ヒテハ、先ツ其葉ヲ去リ次ニ其莖ヲ去ルコト、  
 大約一「ヤルド」即チ日本ノ三尺餘ノ長キニ截斷シ、之ヲ磨舎ニ運送シ、鋏  
 ヲ以テ被ヘル巨大ナル木造ノ壓塊機ニテ之ヲ壓碎シ、大ナル  
 「カールドコン」即チ鑊ヲ以テ其液汁ヲ煎熬シテ其浮渣ヲ去リ、  
 再ヒ之ヲ煎熬シ稍稠濃ナルニ及ンデ之ヲ澆クシテ、大ナル木  
 造ノ盤皿ニ移スナリ、然スルトキハ、其液汁ハ冷ルニ隨ヒ化シ  
 テ砂糖ト成ルニ至ル、然レドモ悉皆砂糖ニ化成スルモノニア  
 ラズ其殘レル所ノ液汁ハ是糖蜜ナリ、而シテ唯此ノ如ク一回  
 次ニシテ造レルモノヲ「ブラウン、シユガー」即チ黑赤色ノ砂糖  
 ト呼做セリ、然レドモ多クハ更ニ再三此「ブラウン、シユガー」ヲ  
 純粹ニ製シ、之ヲシテ全ク白色ヲ發スルニ至ラシメ、且ツ之ヲ

固メテ塊トナスナリ、此砂糖ヲ「ローフ、シユガー」即チ棒砂糖ト  
 名ケタリ、  
 今夫レ砂糖ヲ製造シ、且ツ之ヲ賣買スルヲ以テ、職業ト爲セル  
 人民、其數億兆無算ニシテ又毎年之ヲ購フガ爲メニ費ス所ノ  
 金モ亦數十千「ポンド」ノ多キニ至ルベシ、然レドモ是等ノ砂糖  
 ハ皆唯一種ノ植物ヨリ製造セシモノナリ、然バ則チ甘蔗ノ必  
 要物ニシテ且ツ貴重ナルコト、豈ニ大ナリト謂ハザル可ケン  
 ヤ、  
 小麥及ヒ裸麥ノ二種ハ共ニ汝ノ熟知セル植物ニシテ人類ノ  
 爲メニ最モ貴重スベキ保命ノ穀物ナリ、故ニ開化シタル邦國  
 ニ於テハ皆必ス之ヲ養植セザルコトナシ、而シテ此穀物ハ、共

ニ今年ノ夏日ニ方リテ其種子ヲ蒔キ、明年ノ夏日ニ至リテ始メテ熟スルヲ以テ「ビーニヤル」ノ植物ト稱シ、且ツ其外國ヨリ輸入シ來ルヲ以テ外來ノ植物ト做スナリ、

燕麥ノ一種ハ「アンニユアル」ノ植物ニシテ各地ニ於テ播植シ、之ヲ馬ニ與ヘンガ爲メニ養成スルモノナリ、

第四ノ部類「テトランドリヤ」

「ナ―セル」此草ハ外國產ノモノニシテ其花ハ人首ノ如ク、又流蘇ノ如ク集合シテ開發シ、其形恰モ鳥卵ノ如シ、且ツ鈎ノ如キ針刺ノ之ニ附着セルアリ、而シテ人ノ此草ヲ養成スルハ專ラ其花ヲ得ンガ爲メニシテ其花ノ有用タルハ、獨リ羅紗ノ地ヲ起立セシムルニ在ルノミ

「ドグウッド、トリ―」此樹ハ又「ボツクスウッド」ト稱シ、白堊質ノ土ノ樹林中ニ生スル稍小ナル樹木ニシテ、其幹ハ粗ニシテ赤色ノ皮ヲ以テ被ハレタリ、春日ニ至リ大ナル白色ノ花ヲ以テ蔽ハル、ニ當リテハ甚タ美麗ノ觀ヲ做スモノナリ、而シテ其四枚ノ大ナル白色ノ葉ハ大抵其莢ト見做スモノナレドモ是即チ其花托ノ葉ニシテ莢ハ別ニ此花托ノ中心ニ在リテ、甚タ小ナルモノナリ、今若シ汝詳細ニ此花ヲ檢查スルトキハ、必ズ其小ナル流蘇ヲ做シタルモノヲ看出シ、且ツ是等ノ大ナル白色ノ花托ノ葉ハ悉ク其端ニ於テ彎曲シ、或ハ弓形ノ刻口ヲ有スルコトヲ目撃セントス、而シテ又此樹皮ハ時々藥物トシテ使用セラル、

## 第五ノ部類「ペンタンドリヤ」

「モノジニヤ」

蓮馨花ノ物タル、雜草ノ繁茂セル堤ノ側面及ヒ濕氣アル牧地ニ生ズル所ノ植物ニシテ倫敦ノ近傍ニ於テハ其野生スルユト甚タ稀ナリ、而シテ其花ハ黃色ニシテ其根ハ吐劑トシテ使用スルモノタリ、

「ペンボルチル」ノ物タル穀田ニ於テ普通ニ生スル植物ニシテ、大抵華麗ナル深紅色ノ花ヲ有セリ、然レドモ時有りテ藍色ノ花ヲ生スルコトアリ、而シテ是等ノ花ハ皆午前第八時ニ開キ、殆ト正午ニ及ヒテ凋衰スルモノニシテ假令雨ノ潤下スルニ遇ヒ若クハ雲ノ其上ヲ陰蔽スルアリトモ、亦凋マザルコトヲ

得サルモノナリ、

紫花地丁、舊稱董菜、此美麗ナル花ニハ許多ノ種類アルモノニシテ花園ニ栽植シタル董菜ノ外、我カ田野ニ生スル自然ノ種類許多アリ、吾輩ハ常ニ早春ニ於テ之ヲ目撃セリ、而シテ此野生ノ董菜ハ黃色ナルモノト、五種ノ藍色ナルモノトヲ以テ普通ノ品トセリ、今汝之ヲ一覽スルトキハ則チ其董菜ナルコトヲ了悟スベシ、是其花ノ形狀、花園ニ栽ウル所ノ董菜ト毫モ異ナラザルヲ以テナリ、然レドモ此花園中ノ董菜ト其野生ノモノトノ際ニハ、色及ヒ葉ニ於テ全ク異ナル所アルナリ、

咖啡樹ハ常ニ繁榮セル不凋ノ灌木ニシテ、特ニ亞刺比亞及ヒ東西印度ニ栽植セラレテ其長ケ十五「フイート」乃至二十「フイ

トニ至ルモノナリ、而シテ美菓ヲ結ヒ其菓ハ各二個ノ子實

ヲ保有シ其子實

ハ咖啡豆ト稱ス

ルモノニシテ此

國ニ輸入シ來ル

ニ當リテ吾輩ノ

目撃シ得ル所ト

ス、昔時ハ人此脚

啡豆ヲ用ヰルコ

ト無リシガ、方今ハ汝ノ能ク知ルカ如ク大ニ世ニ供用セラレ  
テ其價モ亦甚タ高貴ナリ、

第百五十六圖



煙艸ノ物タル特ニ多ク西印度ノ地ニ産スルモノナレドモ、英  
吉利愛爾蘭及ヒ歐羅巴ノ諸國ニ於テモ亦少許ノ煙草ヲ生ゼ  
ザルニ非ズ、而シテ其花ハ一般ニ美麗ナルモノトス、余曾テ「ウ  
オルウオーツ」地方ノ花園ニ成長シタル煙草ノ一株ニ結ベル  
種子ヲ計算セシコトアリシニ、其數百ヲ以テ計フルノ多キニ  
至レリ、又其葉ハ極メテ巨大ナルモノニシテ、此葉ヲ採取シ終  
ルニ及ビテ先ツ之ヲ乾カシ、次ニ之ヲ捲キ、或ハ之ヲ織リテ種  
々ノ形象ニ作り、以テ嚼煙草ト做シ、或ハ之ヲ卷煙草ニ造リ、以  
テ吸煙草ト做シ、或ハ之ヲ磨碎シテ鼻煙草ト做スナリ、而シテ  
今ハ此等ノ煙艸ヲ用ヰル人甚多シ、然レドモ亞米利加洲ノ未  
タ發見セラレザリシ前ニ於テハ、歐羅巴人此草ヲ知ルコトナ

シ、彼ノ亞米利加ノ印度人バ久シク烟草ヲ用井ルニ慣習シテ  
深ク之ヲ吸フコトヲ嗜好セリ、  
吸烟ノ風俗ハ其始メ「サヤ、ワルター、ラレイ」ト云フ人ニ起原シ  
テ、亞米利加洲ヨリ英國ニ入來シタルモノナリ當時ニ在リテ  
ハ、斯ノ如キ風俗ハ甚タ珍奇ナリシヲ以テ、人偶「サヤ、ワルター」、  
ノ吸烟ヲ看テ其將ニ火ノ爲メニ傷害セラレントスルヲ苦思  
シテ、瓦樽ノ木ヲ其面部ニ洒灑セシコトアリ、故ニ汝ニ許多ノ  
烟草舗ノ窓下ニ於テ一個ノ人アリテ、椅子ニ坐シテ烟管ヲ吸  
ヘル主人ニ向テ水ヲ投スルノ形狀ヲ圖畫シタルモノヲ看シ  
コトアルベシ、

「ダイジニヤ」

「カラウエー」此草ハ草萊場及ヒ牧地ニ自然ニ生スルモノニシ  
テ、其長サ殆ト二「フィート」ニ及ブモノ有リ、而シテ其種子ハ乾  
糲及ヒ糖菓等ニ用井、又藥品ニモ使用スルモノナリ、

第六ノ部類「ヘリサンドリヤ」

「モノジニヤ」

伏牛花、此灌木ハ林中及ヒ樹籬等ニ生長スルモノニシテ、其枝  
ハ甚タ銳利ナル針刺ヲ有セリ、而シテ其流蘇ノ如キ黃色ナル  
花ハ、六月ニ至リテ發生セリ又其種子ハ赤色ニシテ甚タ酸氣  
アリ、因テ多ク之ヲ糖菓ニ用井タリ、  
伏牛花ノ雄藥ハ其滿開ニ方リテハ唯英中ニ充テルノミ、然レ  
ドモ若シ汝針若クハ馬毛ヲ以テ之ニ觸ル、コトアルトキハ

忽地ニ反起シテ雌藥ニ對スルニ至ルベシ、  
 「スノウ、ドロシプ」水仙ノ一種此美麗ナル植物ハ林中、草場及ヒ多ク  
 ノ花園ニ生長スルモノニシテ雪中ヨリ其花ノ頭ヲ出シ、而シ  
 テ後ニ垂レテ雪上ニ向ヒ其形從容タル所アリ、  
 「フアンバルム」ハ東印度ニ産スル奇樹ナリ、其幹端直且ツ平滑  
 ニシテ其長サ殆ト船橋ノ如ク、唯八葉若クハ十葉ヲ保有シ其  
 葉ノ大ナルコト、大抵長サ六「ヤルド」幅四「ヤルド」ニ及ブ、而シテ  
 其乾燥スルニ至リテハ、扇ノ如クニ疊ムコトヲ得ベシ、夫レ此  
 ノ如ク廣大ナルヲ以テ又屋宇ヲ被覆スルニ最も有用ニシテ  
 且ツ兵士ノ如キハ之ヲ以テ帳幕ヲ造ルコトアリ、  
 又鬱金香及ヒ百合花ノ種々ノ草類ハ皆此部類及ヒ部属ニ係

ルナリ、

# 第七ノ部類「ヘアタンドリヤ」

「モンジニヤ」

「ホルスナエスナツト」此樹木モ亦甚タ美麗ナルモノニシテ、元  
 來外國産ノモノダリト雖モ其影陰ヲ倣シテ甚タ便利ナルガ  
 爲メニ此國ニ於テモ亦栽植セリ、而シテ此樹ニハ美麗ナル白  
 花ノ群族シテ發スルモノニシテ、終ニ栗子ニ類似スル大ナル  
 實ヲ結ブナリ、然レドモ其實ハ甚苦クシテ喫スベカラズ

# 第八ノ部類「チクダンドリヤ」

「モジニヤ」

「ウサルトルベリ」是人ノ能ク知ル所ヲ低小ナル藪卉ニシ

テ長圓形ノ葉ヲ有シ且ツ甚タ甘美ナル細小ニシテ黑色ノ子  
實ヲ生スルモノナリ、  
覆盆子形タル亦「ウナルトルベルリ」ニ類似シタル物ニシテ  
唯其異ナル所ハ皮ノ綠色ナルニ在リ且ツ其子實モ亦青色ニ  
シテ其味稍酸ナルモノナリ、

第九ノ部類「エンニヤンドリヤ」

「モノジニヤ」

「サツサフラス」此植物ハ漸次大ニ成長シテ林木ト稱スルニ至  
ルモノ有リト雖モ通常灌木ト云フベシ質ニシテ常ニ林中ニ  
生茂シ其條ノ皮ハ甚タ平滑ニシテ且ツ綠色ナリ而シテ其樹  
ノ全體ハ根皮ニ於テ辣キ香料ト做スベキ滋味ヲ有シ且ツ香

氣ヲ含メリ故ニ兒童輩ハ甚タ之ヲ好愛シ屢其根ヲ掘リテ其  
皮喫セリ、

桂樹即チ今汝ノ肆店ニ於テ購ヒ得ル所ノ肉桂ハ東印度ニ産  
スル桂樹ノ表皮ナリ而シテ此樹ノ長ケハ殆ト三十「フィート」  
ニ及フモノニシテ印度ノ土民ハ一年ニ二回其林中ニ入り此  
桂樹ノ小枝ト條トヲ悉ク截斷シ刀ヲ以テ其表皮ヲ剝キテ之  
ヲ脫去セシメ而シテ後之ヲ截碎シテ屑ト做シ日光ニ曝シ乾  
カスナリ此ノ如クニシテ全ク乾キ了ルニ至リ乃チ歐洲ノ商  
人ニ賣付シ船舶ニ裝載シテ遠ク運輸スルニ至レリ、

第十ノ部類「デカンドリヤ」

「モノジニヤ」



「インジヤン、パイプ」是甚々珍奇ナル植物ニシテ常ニ林中ニ生長シ其高サ殆ト一「フイート」ニ至ルナリ、而シテ其全体純白ニシテ烟管ノ火皿ニ類似セシ曲レル花ヲ有セリ、  
蘇方木ハ西印度ニ生長セルモノニシテ其高サ大概二十「フイート」ニ達シ甚々彎曲スルモノナリ、而シテ又多ク花ヲ發生スト雖モ甚々小形ニシテ觀ルニ足ラズ其材質ハ稍赤色ニシテ其重キコトハ水中ニ沈ムベギナリ、方今此木多ク英國ニ輸送シ來リ、布商及ヒ帽匠ノ之ヲ以テ彩色ヲナスユトアリ、

「ダイジニヤ」

倫敦「ブライド」草ノ名「ブライド」ト此植物ハ倫敦中ノ一花園ニ於テ炊烟ノ多キガ爲メニ許多ノ植物ハ枯死スルノ間ニ在テ獨

能ク成長スルガ故ニ「ロンドン、ブライド」ト稱セラル、者ニシテ其花ハ甚々美麗ナル斑點アルモノナリ、

第十一ノ部類「ドデカンドリヤ」

「モノジニヤ」

「バープル、ルース、ストライフ」此植物ハ水郷及ヒ池沼ニ多ク生長スルモノニシテ、其高サ二三「フイート」ニ及フモノアリ、而シテ美麗ナル紫色ノ花ヲ開ケリ、  
藤黄ハ東印度ニ産スル一種ノ異樹ニシテ彼ノ黄色ノ顔料ニ用井ル藤黄トハ即チ此樹ヨリ得ル所ノ護謨ヲ云フナリ、而シテ此護謨ヲ得ント欲スルトギハ先ツ其樹皮ニ數個ノ小孔ヲ穿ツユトヲ要ス、爾スレバ則チ樹液此孔ヨリ發泄シ、太陽ノ

温熱ニ由リ變シテ護謨トナルナリ、

第十二ノ部類「アイコサンドリヤ」

「ペンタジニヤ」

林檎樹ハ汝ノ日毎ニ目撃スルモノタルガ故ニ、之ヲ説明スルコト必要ナラズト雖モ其花ヲ開クニ方リテ、之ヲ採摘シ、吾ガ前ニ於テ此部類ニ關シテ書記シタル所ノ稗説ト參考スルハ汝ノ爲メニ大ニ裨益スル所アルベシ、  
林檎ヲ養植スルニハ、大ニ人力ヲ勞スルモノナリ、何トナレバ林檎ハ良能アル菓物ニシテ林檎酒ヲ造ルニ甚タ有用ナレバナリ、而シテ林檎ヲ以テ製シタル酒ハ英國ニ於テ最も多量ニ造出スル所ニシテ、甚タ爽快ナル飲料ト云フベシ、其中ニ就キ、

「ビールホルド」「ウナストル」「サーメルセツト」及ビ「デーブン」等ノ地方ニ於テ造レルモノ最も著名ナリ、  
又茲ニ林檎種類數多アリ、其中ニ或ハ酸ク或ハ甘ク或ハ美好ナルアリ、或ハ醜惡ナルアリ、然ルニ此樹ノ惡味ナル菓ヲ生ズル者ヲシテ更ニ美味ナル者ヲ生ゼシムルニ一奇法アリ、即チ一樹ノ新芽ヲ他ノ一樹ニ插入接續スルモノニシテ世ノ謂ユル接枝ノ法、是ナリ、  
薔薇ノ衆多ナル今英國ニ於テ野生ノ薔薇ニ十四個ノ種類アリ然レドモ吾輩ハ此外ニ尙「ダコスク」即チ綴子赤色ノ薔薇等許多ノ外國産ヲ有セリ、是等ハ皆艷美ナルモノニシテ、我が花園中ニ多ク栽植スルナリ、且ツ異種ノ薔薇モ同一ナル薔卉ト

倣シ得ベシ曾テ其三種ノ一林藪ニ生長スルモノアリ、  
又梨桃櫻梅及ヒ覆盆子等ノ各個ノ種類ハ皆此部類ニ属セリ、  
然レドモ是等ノ植物ハ尋常一様ノモノニシテ汝ノ己ニ熟知  
スル所ナリ、

第十三ノ部類「ボリヤンドリヤ」

「モノジニヤ」

女躑躅花ハ甚タ奇異ナルモノニシテ常ニ沼澤中ニ生長シ其葉  
ハ皆根ヨリ生ジ空洞ナル管狀ニシテ高脚杯ノ如ク頂上ニ開  
張シ其周圍ニ縁ヲ有セリ而シテ此管ハ又一個ノ蓋ヲ有シ天  
氣ノ乾燥スル時ニハ水ノ蒸氣ト倣リテ上騰スルヲ防グガ爲  
メニ自ラ此蓋ヲ開閉スルナリ且ツ此高脚杯狀ノ葉ハ各酒杯

ニ満ルニ足ル分量ノ水ヲ含有スベクシテ大概平常ニ十分之  
ヲ含有セザルコトナシ故ニ此植物ハ葉中ニ保有セル水ノ爲  
メニ養育セラルモノタルコト皆人ノ推知スル所ナリ而シ  
テ衆鳥ハ屢此高脚杯ノ邊ニ至リテ其水ヲ飲ムコトアリ羽蟲  
ノ如キハ若シ之ニ投入ズルトキハ復タ出ルコト能ハズ又此  
花ハ深紅色ニシテ長莖上ニ生ジ六月ニ方リテ開クモノナリ  
黃色ノ蓮花ハ大概各所ノ沼池中ニテ汝ノ目撃シ得ルモノニ  
シテ其大ナル圓形ノ葉ハ平均ニ水上ニ撒布セリ而シテ第六  
月ニ及テ圓形ニシテ黃色ナル花ノ其根ヨリ生ジテ水面ニ趣  
立スルモノアリ此花香ハ果シテ燒酎ノ香氣ニ髣髴タルモノ  
ナリ

茶樹ハ支那ニ於テ植養スル所ノ常榮ノ灌木ニシテ吾輩ノ日  
ニ用井ル所ノ茶ハ皆此灌木ノ葉ヲ製シタルモノニ非ザルハ  
ナシ、凡ソ茶ノ木タル其高サ五六「フィート」ニ至リ、又其葉ノ長  
サハ大約一「インチ」半ニ至ルモノナリ、而シテ支那人ハ茶ヲ製  
スルニ當リテ先ツ手指ヲ以テ一々此嫩葉ヲ撚リ、然ル後ニ之  
ヲ乾カシ置キ、之ヲ歐羅巴人若クハ亞米利加人ニ賣ランガ爲  
メニ櫃中ニ填入スルナリ、夫レ支那人ノ茶ヲ製センガ爲メニ  
斯ノ如キ無量ナル新芽嫩葉ヲ一々手指ニテ撚ルハ其勞力ノ  
大ナルコト實ニ想像スルニ堪ヘタリ、

「ペンタジニヤ」

「ライクスバー」此草ハ我が田野及ビ花園中ニ生ズルモノニ

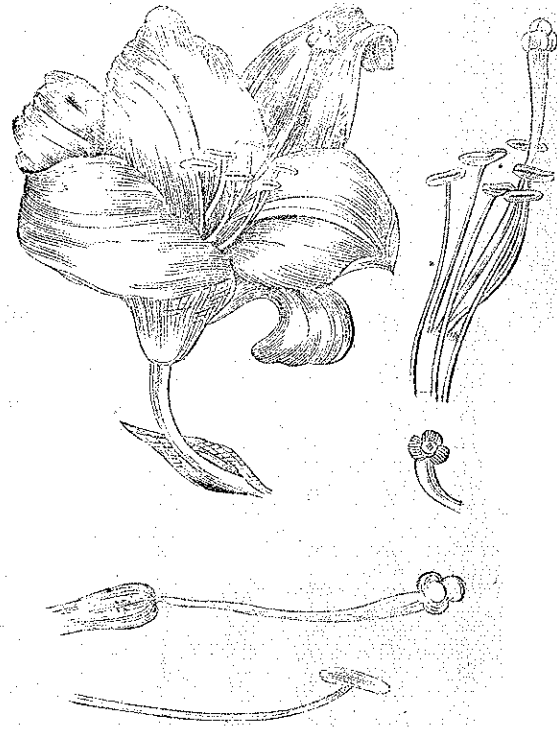
シテ其花ハ雲雀ノ脛後ノ距ノ如キ長キ一物ヲ有シ、又其種子  
ハ大ニ毒ヲ含メルモノナリ、

「ポリジニヤ」

「クレマチス」此草ハ常ニ白麗質ノ土ニ茂生シ樹籬ニ蔓延ス  
ルモノニシテ其花ハ白色ナレドモ、少ク藍色ヲ帶ヒ且ツ甚タ  
愛好スベキ佳香ヲ發セリ、而シテ此植物ノ葉ハ善ク乾萎スル  
トキニハ家畜ノ爲メニ最良ノ食物ナレドモ未ダ乾カザル時  
ニ在テハ此動物ノ爲メニ却テ大ニ毒アルモノナリ、  
白頭翁ハ甚タ低小ノ植物ナレドモ其中ニ就テ三個ノ格別ナ  
ル種類アルモノニシテ皆樹林中ニ茂生シタル雜草ニ混ジテ  
生シ、或ハ塙邊ニ成長シ、第四月ニ及ビテ、甚タ雅美ナル白色花

ナ開クモノナリ、故ニ四月ノ下旬ニ方リテハ汝ハ大ニ此花ヲ  
目撃スベシ、

第五百十七圖



學スルコト有ラントス、又此植物ハ時ニ「バツター、カツプ」ト稱

毛茛ニハ衆多ノ種  
類アルモノナリ、一  
般ニ枝ノアル雜草  
ニシテ淡黃色ノ花  
ヲ發生セリ而シテ  
夏日ニ在テハ汝ハ  
常ニ牧場及ヒ路傍  
ニ於テ此植物ヲ目

スルコトアリ、

「ケユリツブ、トリ」樹ハ時有リテ「ホワイト、ウッド」トモ稱ス、美  
麗ナル木ニシテ其葉ハ裏面ニ曲ルヲ以テ各其端ニ於テ截斷  
セシ如キノ形狀アリ、而シテ此植物ハ黃色ヲ帶ヒタル綠色ノ  
大花ヲ有シ、甚タ美麗ナルガ故ニ、此國中ニモ培養繁殖セラレ  
タレドモ、元來外國ヨリ傳ヘシ植物ナリ、

「第十四ノ部類「ダイジー」チミヤ」

「スペールミント」ハ薄荷ノ一種ニシテ各地ニ在ル所ノ濕氣深  
キ土上ニ繁茂生長シ細小ナル紫色花ヲ生ジ、其葉ニハ幸味ヲ  
有シ、且ツ香氣ヲ有スルモノニシテ兒女輩ハ深ク之ヲ喫スル  
コトヲ好メリ、

「フオックス、グラツプ」ハ灌木ニシテ紫色ノ長キ鐘形ノ花ヲ有セリ此花ハ木ノ莖ノ頂端ニ生ジテ此莖ノ一旁ニ垂ル、モノナリ、而シテ此灌木ハ「ゼイニアル」ノ植物ナルガ、人ノ爲メニハ毒アリトス、然レドモ又藥品トシテ使用スルコト往々アリ、「スナツブドラゴン」此草ハ我が白堊質ノ土ヨリ生育シテ丘陵及ヒ舊キ堡壁等ニ自然ニ生ズルモノナレドモ我が「花園」ニ於テモ亦大ニ植養スルモノニシテ其花ハ大概紫色ナリト雖モ往々又白色ナルモノ有リテ皆甚タ大ナリトス、而シテ此植物ハ悉ク苦味ヲ有セリ、然レトモ波斯人ハ此草ノ種子ヲ以テ橄欖油ノ如キ極メテ善良ナル油ヲ製造セリ、

第十五ノ部類「テトラジチミヤ」

「クツク、フラウル」ハ即チ「レデイス、スモツク」草ニシテ濕氣深キ草場ニ最モ夥多ニ生長スルモノナリ、其高サハ殆ト二「フィート」ニ至リ、又其花ハ甚キ淡キ紫色ナレドモ稍白色ノ如ク見ユルモノアリ、昔時ニ在リテハ此花ヲ癩癩病ヲ療スルノ藥劑ト看做シタリ、  
蕪菁及ヒ甘藍モ亦此部類ニ属セリ、然レドモ是等ハ汝ノ常ニ熟知セル所ナリ

第十六ノ部類「モナデルフィヤ」

棉ハ合衆國中ノ南部ノ諸州ニ於テ特ニ多ク養植スル「アンニユアル」ノ植物ニシテ之ヲ蒔クニハ其種子ヲ併列シテ埋ムルヲ可ナリトス、又棉花ハ其室中ニ包含セラレテ此植物ニ生ズ

ルモノナリ、其熟スルニ及ヒテハ、之ヲ摘收シ、大ナル袋ニ填入シテ市場ニ運送スルモノトス、而シテ我が國內ニ於テモ亦數多ノ棉布製造所アリ、此所ニテ各許多ノ工人ヲ使用シテ夥多ノ棉布ヲ製造ス、是故ニ棉布ハ甚タ低價ニ購ヒ得ベシ

「シエラニユーム」此植物ハ數多ノ種類有リテ皆鉢盤及ヒ煖室ニ植養セラレタリ其葉ハ多ク香氣甚タシキモノニシテ、或ハ爽快ナル香氣ヲ發スルモノアリ、或ハ嫌惡スベキ臭氣ヲ發スルモノアリ、而シテ英國ニ於テ普通ニ野生スル「克蘭スビル」ト名ケタル植物モ亦此「シエラニユーム」ノ一種ニシテ一般ニ墻ノ前後及ヒ樹林ノ近傍ニ生長セリ、其美麗ナルコトハ、煖室等ニ養育セラレシ「シエラニユーム」ニ比較スレバ大ニ勝レル

所アリ、然レドモ其普通ニ生長シテ珍奇ナラザルガ故ニ人皆之ヲ棄テ顧ミザルナリ、而シテ此「克蘭スビル」ハ雅美ナル紫色ノ花ヲ有セリ、余曾テ此植物ノ花園中ニ栽植セラレタルモノヲ見ズ、

第十七ノ部類「ダイアデルワイヤ」

ロカスト、トリ」此植物ハ特ニ多ク北亞米利加ニ於テ養植セラル、樹木ニシテ羽形ノ葉ヲ有シタリ、且ツ其花ハ長キ流蘇ノ形ヲ倣シテ發生シ甚タ愛スベキ佳香ヲ放テリ、

リコー、パイン」此植物ニ種類ノ異ナルモノ二個アリ、其一ハ外來生、其一ハ本國生ナリ、而シテ其本國生ノモノハ普通ニ多ク砂地ニ於テ自然ニ生スルナリ、其花ハ藍色ニシテ長キ流蘇狀

ヲ做シ、時ニ「インヂヤン、ビン」即チ印度ノ蠶豆ト名クルコトアリ、又其外來生ノモノハ普ク花園ニ於テ養植シ本國生ノモノト甚タ相類似シテ辨別シ難シ、唯其外來生ノモノ、葉ハ終日其表面ヲ太陽ニ向ケザルコト無キヲ異ナリトナスノミ  
藍靛ハ西印度ニ於テ盛ニ養植シ、第三月ニ其種子ヲ蒔キ、第八月ニ至テ始メテ刈收スルモノナリ、所シテ此藍葉ヲ刈取シ了ルニ及ビテ先ツ大ナル水桶中ニ浸入シ、其水ノ全ク變ジテ藍色ト做ルニ至ルマデ、之ヲシテ水桶中ニ沸騰セシメ、而シテ後ニ此水ヲ傾ケ去ルナリ、斯ノ如クスルトキハ、此桶中ニ藍色ノ物体殘レルアリ、是ニ於テ此物体ヲ包裝シテ賣品ト做スナリ、此藍靛ハ即チ藍青色ヲ着クル爲メニ必要ノ物ナリ、

第十八ノ部類「ポリヤデルフイヤ」

橙樹ハ西印度及ヒ亞米利加ノ南部諸州ニ於テ養樹スルモノニシテ其華麗ナル黃色ノ菓實ハ汝ノ熟知セシ所ナリ、凡ソ此植物ハ温暖ナル國ニ於テ大ニ生長スルモノナリ、其菓實ハ世界ノ諸國ニ於テ賣買セザル所ナシ、而シテ汝ハ時ニ英國ニ於テ花盆中ニ小橙樹ヲ植エタルモノヲ看シコトアルベシ、是等ノ橙樹モ亦善ク注意シテ培養スルトキハ、能ク實ヲ結ブニ至ルベシ、然レドモ是等ノ樹ニ結ベル實ハ食フニ堪ヘザルモノトス何トナレバ寒冷ナル土地ニ産シタル橙子ハ甚タ苦味アルヲ以テナリ、  
檸檬樹ハ橙樹ト其外貌甚タ相類似スルモノナレドモ、菓實ニ



至リテハ、橙子ノ如ク圓々タルコト無クシテ鳥卵形ヲ做セリ、  
且ツ橙子ハ甘味ヲ帶ヒタルドモ、此檸檬子ハ大ニ酸氣ヲ保有  
シタルモノナリ、

「シント、ジオシス、ウオルト」此植物ハ我が國ニ於テモ九個ノ種  
類アルモノニシテ汝ハ其中ノ最も普通ニ生ズルモノヲ林園  
及ヒ郊野ニ於テ看出スベシ、是等ノ野生ノモノハ、皆黃色秀美  
ナル流蘇狀ノ花ヲ有セリ、

#### 第十九ノ部類「スインジニ―ジャ」

蒲公英、此植物ノ通常ノモノハ多ク雅美ナル黃色ノ花ヲ有ス  
ルモノタリ從來人ノ歎賞セザルモノト雖モ其世間ニ有用物  
タルコトハ、花園中ニ在ル他ノ許多ノ植物ニ大ニ超絶セルモ

ノニシテ其葉ハ牝牛ノ爲メニ最良ノ食料ト做リ又某ノ國ニ  
於テハ之ヲ以テ、和物即チ生菜ニ鹽酢油香料等ヲ和シ、製造シ  
テ人ノ食フベキ物ト做シ、又某ノ他ノ國ニテハ此植物ノ根ヲ  
採リ、之ヲ焙リテ咖啡ニ代用スルアリ、加之ナラズ此植物ハ水  
腫病及ヒ他ノ疾病ヲ治療センガ爲メニ採用シテ必要ノ藥劑  
ト爲セリ

雛菊ノ物タル、所在ノ草場及ヒ牧地ニ生長シ、中夏ノ頃ニ方リ  
テ許多ノ白色花ヲ開クモノナリ、然レドモ或ハ又雅美ナル深  
紅色ノ花ヲ生スルモノ一種アリ、

薊ハ所在普通ニ路傍ニ於テ生長スル植物ニシテ其全体ヲ覆  
フヘル銳利ナル針刺ニ由リテ人ノ注目スル所ト做レリ、而シ

テ此植物ハ圓形ニシテ甚タ多刺ナル深紫色ノ花ヲ發生ス、又其種子ハ美麗ナル絨毛様ノ物体、即チ「エグレット」ヲ以テ覆ハル、モノニシテ其熟スルニ及ヒテハ、斷ヘズ風ノ爲メニ吹揚ケラレテ、空中ニ飛舞スルモノナリ、而シテ衆鳥ノ好テ此種子ヲ食フモノナリ、

向日葵ハ金盞草及ヒ他ノ許多ノ植物モ亦此部類ニ属スルモノアリ、

### 第二十ノ部類「ジイナンドリヤ」

「レデイス、スリツペル」此植物ハ甚ダ美麗ニシテ且ツ珍奇ナルモノニシテ英國ノ北部ニ於テ多ク樹林中ニ生長セリ、而シテ或ハ之ヲ「ヴエニユース、スリツペル」ト稱スルモノアリ、

「スチイキ、マウス」即チ「アレサザ」此美麗ナル植物ハ其花ノ形狀稍蛇ノ口及ヒ頭ニ類似スルモノニシテ北亞米利加ノ濕氣深キ地ニ發生ス、而シテ其花ハ莖ノ頂端ニ開キ、其莖曲折シテ下乗シ其花片ハ紫色ナリ、

### 第二十一ノ部類「モヌシャ」

「カツチヨジャラシ」此植物ハ水中ニ生長スルモノニシテ其葉ハ長クシテ劍狀ヲ做シ、其莖ハ五六「フイート」ノ長サニ至リ、其頂上ニ圓形ナル堅塊ノ綻ビテ花トナルベキモノヲ保有セリ、且ツ此花ヲ有セル莖ノ形狀恰モ毛ヲ栽エタル小條ニ似タリ、

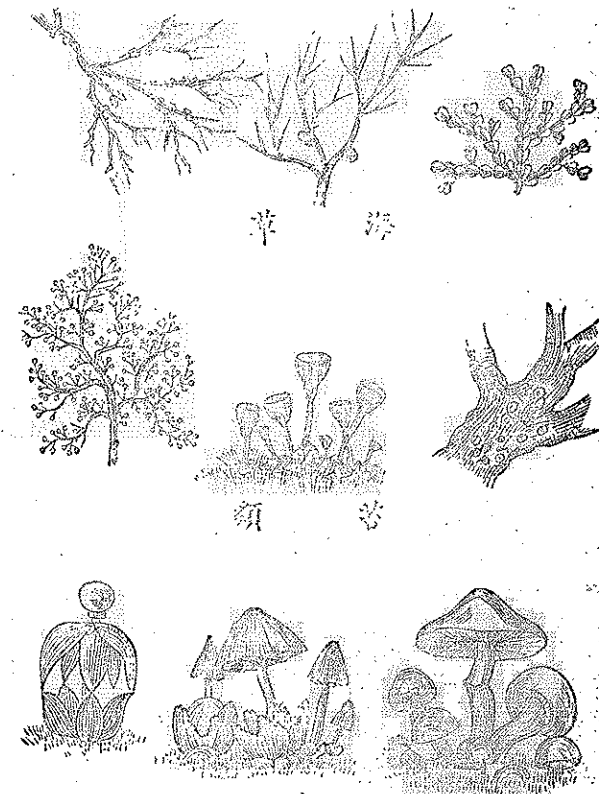
「カツテイル」トハ猫ノ尾ト云ヘル義、蓋シ此莖ノ狀猫尾ノ如キヲ以テナリ、而シテ「ユサツク」魯國南部ノ人種ノ名人ノ此花莖ノ表皮ヲ

制ギ其食料トシテ喫スルモノアリ、  
 樫樹ノ不列顛國ニ生スルモノハ、其種類唯二個ニシテ通常ノ  
 モノト其子實ノ枝ニ密接スルモノトノミ、而シテ通常ノ樫ハ、  
 長キ子實ノ端ニ於テ其實ヲ結ビ、又之ト種類ヲ異ニスル樫ハ  
 甚タ短キ子實ヲ有シ其子實殆ト直ニ其枝ニ坐スルカ如ク之  
 ニ密接スルモノナリ、又此子實ノ密接シタル樫ハ其葉甚タ長  
 シト雖モ通常ノ樫ハ皆短葉ナリ、然ルニ此兩種共ニ我カ國ノ  
 林中ニ多ク産スルモノニシテ通常ナル樫ハ家屋ヲ造リ、船舶  
 ヲ製スルニ使用スル時ハ最良ノ材木ト做スコトヲ得ベシ、然  
 レドモ子實ノ密接セシ樫ハ甚タ腐朽シ易クシテ久シキニ堪  
 ヘザルガ故ニ何等ノ用ニ供スルモ利益スル所ナシ此樫實ハ

往古不列顛人ノ爲メニ必要ナル食料ナリシコトハ傳記ニ存  
 スル所ニシテ當今ニ至リテモ、歐洲中某地方ノ人民等ハ亦之  
 ヲ喫スルモノアリ、且ツ又豚ノ爲メニ甚タ良善ナル食物トス  
 胡桃ハ巨大且ツ美麗ナル樹木ニシテ甚タ速ニ成長シ、吾輩ノ  
 爲メニ銃床、椅子、及び其他ノ器具ヲ作ルベキ甚ダ貴重ナ  
 ル材トナルベキモノナリ、而シテ此樹ハ夥多ノ子實ヲ結ビ、此  
 子實ハ生熟シタルモ又之ヲ鹽漬ニスルモ其味甚ダ甘美ナリ、  
 又此種子ヨリシテ圖畫ニ押印シ、或ハ器具ヲ琢磨スルガ爲メ  
 ニ要用ニシテ且ツ肉ヲ煎リ、火燈ニ燒クニモ亦便宜ナル油ヲ  
 絞リ取得ベシ、

栗、山毛櫨「フーヤ」種名「ホルンビーム」小樹名及ヒ其他ノ林

圖八十五百第



楊柳ノ樹タル不  
列顛國ニ於テ其  
種類都テ四十八  
個アリ、而シテ黃  
柳即チ金色ナル  
「ナシル」ハ、其枝  
條皆黃色ナルモ  
ノナリ、又垂柳ハ  
柔軟ニシテ屈曲

木等モ亦此部類ニ屬スルモノアリ、  
第二十二ノ部類「ダイユシヤ」

スベキ長キ枝ヲ垂ル、又籃柳ハ赤色ニシテ曲ゲ易キ小條ノ以  
テ籃ヲ製造スベキ者ヲ有スルナリ  
白楊ハ即今汝カ街上及ヒ家ノ門前ニ於テ目撃スルモノニテ  
「ロシバ―ザ」地方ノ白楊ト稱セラレ、元來外國ノ産ニシテ意  
太利ヨリ運輸シ來レルモノナリ、而シテ極シテ高ク成長スル  
ト雖モ其枝ハ却テ廣ク擴ガルコトナク、唯其樹身ニ密接シテ  
生長スルモノトス、  
又他ノ林中ニ自然ニ生シ「アスペン」ト稱セラル、一種ノ白楊  
アリ、此樹ノ質ハ白色ニシテ其葉ハ甚ダ震搖スルモノナリ、  
「レッドセグル」此樹ハ北亞米利加ノ路傍及ヒ山上ニ甚ダ多ク  
生長セリ、而シテ其枝ノ繁多ナル頂上ヨリ下底ニ至ルマデ幹

ノ各部ニ生ゼサルハ無ク、且ツ八方ニ蔓延シ其下條ノ如キハ、  
常ニ地上ニ着クモノアリ、又其材質ハ赤色ニシテ甚タ堅牢ナ  
ルガ故ニ此木ノ材ハ他ノ諸木ニ比スルニ數年間長ク朽ズト  
云フ、

第二十三ノ部類「ボリゲミヤ」

楓樹ハ亞米利加ニ多ク産スルモノニシテ主トシテ其液汁ヲ  
ルヲ以テ貴重セラレタリ、而シテ此液汁ハ春ニ方リテ此樹ニ  
數個ノ孔ヲ穿テ之ニ小ナル接管木ノ槽ヲ附着スルニ由リテ  
採收スルコトヲ得ルナリ、斯ノ如クシテ之ヲ採收スルトキハ  
更ニ大ナル罐子ニ納レ其砂糖ト成ルニ至ルマデ之ヲ善ク熟  
煎ス、シ、因テ毎年多量ノ砂糖ヲ製造スルヲ得ルナリ、

紅楓樹ハ多ク亞米利加國ノ池澤及ヒ卑濕ノ林莽中ニ生スル  
モノニシテ其花色ノ深紅ナルヲ以テ紅楓ノ名稱アリ、而シテ  
此花ハ四月ニ方リ其葉ノ未ダ生ゼサルニ先テ開發シ、細キ  
流蘇ノ如ク小條ノ端ニ懸レルナリ、

第二十四ノ部類「クリプトゲミヤ」

此部類ハ花ノ細小ニシテ認識スルコト能ハザル植物ヲ合稱  
スルモノナリ、斯ノ如キノ植物ハ其數甚タ夥多ナルモノニテ  
即チ「フェルンス」「ブレークス」其ニ「マシユールム」食用ト爲ス  
トードストユールス」蛙ノ椅子ト云フ義ニシ「パツフボールス」  
長草ニシテ白及ヒ苔蘚等ノ如キハ皆此部類ニ屬セリ、而シテ  
汝ノ穀穗上ニ目撃スル所ノ黴及ヒ黴氣ノ如キモノモ亦此部

類ナリ蓋シ是等モ亦皆植物タルヲ以テナリ、余今此ノ如キ植物ニ就テ一モ記載スル所ナシ、然レドモ汝ハ是等ノ植物ヲ見ルトキニ假令認識シ得ズト雖モ必ズ皆其花ヲ有セルモノニシテ且ツ此「クリプトゲミヤ」ノ部類ニ属スル植物タルコトヲ思想セズンバアルベカラズ、

凡ソ上ノ二十三ノ部類ニ属スル植物ハ皆其雄蕊及ヒ雌蕊ノ容易ニ認視シ得ベキカ故ニ顯花類ト稱シ、又此部類ニ属セルモノハ此兩藥ノ分明ニ認識スベカラザルガ故ニ隱花類ト稱スルナリ、

不列顛國ニ於テ普通ニ野生スル植物ノ目錄並ニ其花ヲ開ク時節ヲ附記ス

龍芽草	六月	赤楊	三月
雞冠花	八月	白頭翁	四月
林檎樹	五月	杏樹	四月
「アブンス」	六月	伏牛花	六月
山尾柳	四月	甜菜	八月
「ベルフラウエル」 鈴ノ如キ花			七月
覆盆子	五月	樺木	五月
「ピツタルスイート」 覆盆子ノ屬	六月	「ブラツクベリー」 覆盆子ノ屬	七月
「アレーク」 類ノ	八月	蕎麥	七月
燈心草	七月	牛蒡	七月
「パツタルカツプス」	五月	「カシディータフト」	七月

「カンデルベリ―ベルス」	六月	「カサウエー」	六月
胡蘿蔔	七月	白屈菜	五月
「カツテイル」	七月	櫻	五月
塘蒿	八月	鵝鳥菜	殆終歲
栗蒿	五月	莠草	六月
苜蓿	六月	「カウスリツブ」 <small>蓮馨花ノ一種</small>	四月
「ユロンバイン」	六月	「クランベリ―」	六月
「クラシスビル」	六月	「カルンドブツシュ」	五月
水仙	三月	雛菊	四月
蒲公英	五月	「シユウベリイ」	六月
「ドック」 <small>類ノ</small>	七月	菟絲子	八月

「ドックスヴァイオレット」	四月	接骨木	六月
「イルカンペイン」	七月	榆	三月
碎米草	七月	茴香	七月
苦蕒	七月	亞麻	七月
「ワロウエルブル―ス」	六月	「ボツクスグラツブ」 <small>諸般ノ類</small>	六月
「シエラニユーム」	七月	「シエラニユーム」	七月
「シエラニユーム」	八月	「シエラニユーム」	六月
「シエラニユーム」	七月	「シエラニユーム」	五月
「シエラニユーム」	五月	失鳩茶	六月
地荳	三月	落麻ノ屬	八月
榛樹	五月	忽布	七月
「ホリイ」 <small>貝多</small>	五月		

「ホニイサツクル」 <small>忍冬ノ一種</small>	七月	「ボールホント」	七月
杜若類	六月	「イスナルジャ」	七月
長春藤	十月	「ジエコブストラツトル」	六月
杜松	五月	「ケイル」 <small>甘藷ノ屬</small>	六月
蕎麥	七月	「レデイス、スリツベル」	六月
「ラークスバー」	六月	連翹	五月
百合花	五月	「ロブインチーミスト」	六月
「ロブ、ライズ、ブリージング」	七月	「リウパイン」 <small>其味苦クシテ穀物ノ肥養トス</small>	七月
石長生	十月	錦葵	六月
楓樹	五月	金盞艸	三月
薄荷	八月	「モンクスフツド」	六月

益母草	八月	「マウス、テイル」	五月
桑樹	六月	「ムライイン」	七月
苧麻	六月	龍葵	六月
「ノンロブルツナ」	六月	樅樹	四月
燕麥	六月	葱	八月
「オツクスリツプ」 <small>空輪草ノ一種</small>	四月	玉藻花	八月
亞米利加防風	七月	桃樹	五月
梨樹	五月	「メンニローヤル」 <small>薄荷ノ一種</small>	八月
芍藥	五月	「ベツパーウォルト」 <small>細葉ノ一種</small>	七月
「ビダナツト」	五月	「ピンボルチル」 <small>瘡土ニ生スル草</small>	六月
石竹	七月	「ボリボシ」	九月



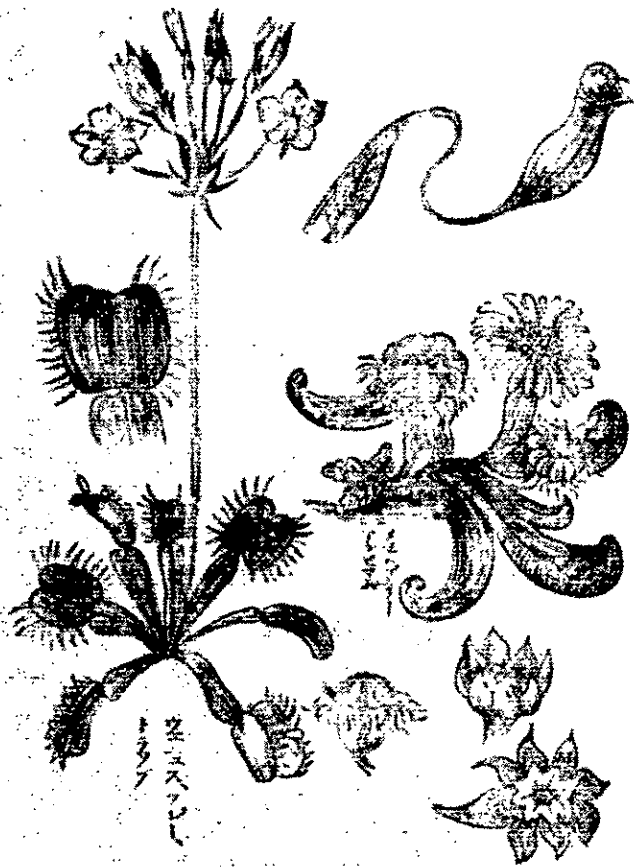
「プリンス、フイーサー」	五月	芭蕉	五月	白楊	四月
「クイン、オフ、ゼ、ミード」	七月	羅荷	六月	罌粟	六月
「ロツクエツト」	七月	菜	五月	馬齒莧	七月
「セント、ジョンズ、ワオルト」	七月	裸麥	六月	覆盆子	五月
「サツクスフレイヂ」 <small>虎耳草ノ屬</small>	六月		七月	「レスト、ハルロー」	六月
「シエフアーズパルス」	五月		五月	薔薇	六月
				來路花	七月
				「サンド、ウオルト」	六月
				「セツヂ」	六月
				「スチイキウイード」	六月

「スナツブドラゴン」	七月	「スノウドロツプ」 <small>水仙ノ一種</small>	二月
「ソロモンス、シイル」	五月	酸模	六月
「スビイヤミンド」 <small>薄荷ノ一種</small>	七月	「スパイドル、ウオルト」	六月
續隨子	七月	「スター、ジストル」	七月
「スター、オフ、ベツズリム」	四月	蠻莓	五月
向日葵	七月	「フワイード、ブライヤル」 <small>繡薇ノ一種</small>	七月
苜蓿	六月	石竹類	六月
「ダンシー」 <small>草藥</small>	八月	薊	七月
曼陀羅花	七月	麝香草	七月
鳳仙花	七月	「トクニベツト、フウエル」	六月
鬱金香	四月	「チユリツブトリ」 <small>鬱金香ノ大ナル者</small>	五月

燕薺	四月	「ヴェナーヌゴム」	六月
馬鞭草	七月	萱菜類	三四月等
「バイボルス、ビウグロツス」	六月	「ウォール、ラウエル」	四月
「ウォートル、ドロツア、ウォルト」	七月	「ウォール、ホートルホンド」	六月
「ウォートル、ソルジール」	七月	小麥	七月
越橘	五月	柳樹	四月
「ヴィルロー、ヘルブ」	七月	鹿蹄草	七月
「アルセム」	八月	地榆	七月
水松	三月		

植物ノ睡眠即チ花ノ日晷  
植物モ亦皆動物ノ如ク睡眠シ、且ツ醒覺スルモノニシテ、其夜

圖九十五百五



ルニ方リテハ數多ノ細葉ノ集合レテ成レル合衆葉ノ莖ヲ曲

間ノ睡眠ト吾人及ヒ他ノ動物ノ睡眠ト異ナル所ヲモテハ唯  
其動作ノ爲メ  
ニ疲勞スルモ  
リシテ生ズル  
睡眠ニ在ルノ  
ミ、然リ而シテ  
植物ハ其生命  
ヲ保持スルニ  
大扶助タル日  
光ノ射映セザ

折レテ其葉ヲ下垂ン之ヲ聚結摺疊シ、或ハ此葉ヲ其花ノ上ニ垂レ、若クハ之ニ由リテ其葉實ヲ覆ヒ以テ此花及ヒ葉實ノ寒氣ノ爲メニ傷害セラル、ナ防護スルモノナリ、夫レ植物ノ常ニ夜間ニ現ハス所ノ、是等ノ奇異ナル情形ト、動物ノ睡眠トハ自然大ニ相類似シタル所アルモノナリ、是ヲ以テ「リニコース」ハ植物ノ此狀ヲ呼テ睡眠ト倣セリ、然ルニ我が希世ノ蒙傑ト稱スル「シヤクスビーヤ」ハ固ヨリ前時既ニ金盞草ニ付テ此事ヲ言ヘルコトアリ、曰ク、

何物カ太陽ト與ニ寢所ニ至リ、且ツ露ヲ戴キ流涕スルガ如クシテ之ト俱ニ起キザルモノアラシヤ

「ナヤウセル」ト云ヘルモノモ亦雛菊ノ睡眠スルコトヲ發明セ

リ、此人嘗テ太陽ノ方ニ昇ラントスル時ニ臨ミ、草場ヲ逍遙セシニ雛菊ノ密閉シタル眼目ヲ忽然開張シテ、光輝ノ管理者、即チ太陽ヲ恭賀スルモノヲ目撃セシコトアリ、然ルノミナラズ暮夜ニ穀田ノ狀態ヲ認視スルトキハ特ニ明カニ植物ノ睡眠スルコトヲ知道スベキモノナリ、此時ニ方リテハ穀物ハ皆鬱々トシテ其穂ヲ垂下シ其葉モ亦婢々然タルアリ、又某ノ植物ハ過度ニ旺盛ナル日光ヲ受クルトキハ、常ニ其花ヲ密閉セリ、且ツ植物ハ鳥類ノ如ク時々目蝕ノ爲メニ欺カレテ不時ニ睡眠スルコトアルモノニシテ余嘗テ印度ニ在リシトキニ、此事ヲ確然實見セリ、又植物ヲ室中ニ密閉シ置キ日光ヲシテ其中ニ入ラシメザルトキハ晨朝植物ノ當ニ醒覺スベキ時ニ於テ

之ヲ醒起セシメザルコトヲ做シ得ベク、且ツ此植物ヲ安置シタル室中ニ蠟燭ノ火光、若クハ他ノ旺盛ナル光輝ヲ加フルトキハ、夜間ニ於テモ亦此植物ヲシテ醒起セシムルコトヲ得ベキナリ、

然レドモ花ハ唯日光ノ映ゼザル時ニ方リテノミ睡眠ヲ催スモノニアラズ、或ハ小兒ノ如ク白日ニ於テモ睡ルモノアリ、故ニ通常ノ「ゴーツヒヤード」植物ハ屬村漠ノ爲メニ「ゴーツウ、ベツド、エツト、ヌン」即チ日中ニ於テ寢所ニ至ルモノト稱セラレ、又小ナル「ビンバーチル」ハ常ニ正午ニ方リテ其花托ヲ密閉セリ、而シテ「リニユース」ハ其國中ニ在ル四十六種ノ花ノ正シク密閉シ、且ツ開ク所ヲ參考シテ之ヲ三個ノ種類ニ區分セリ、其

一ハ「メチオリツク、フラウエル」即チ空氣ニ關スル花ニシテ氣圍氣ノ爲メニ感動セラレテ睡眠ス隨テ其時ニ定規無シ、又其二ハ「トリビカル、フラウエル」即チ熱帶ヨリ來レル花トス、此花ハ深ク天理ニ從順スルモノニシテ常ニ太陽ニ隨テ開發シ、且ツ開凋スルナリ、又其三ハ「エツクイノクシヤル、プロツソム」即チ晝夜平分ノ土地ニ産スル花トス、此花ハ常ニ一定セル時ニ於テ開キ、又閉ゾルモノニシテ其時ヲ謬ラザルコト、恰モ時規ノ如ク之ヲ人ニ比スレバ、老人ノ起臥ノ時ヲ定ムルニ似タリ、而シテ此卓越セル本草學者即チ「リニユース」ハ此三種ノ花ヲ以テ日晷ヲ製造セシコトアリ、即チ其花ヲ觀テ時ヲ計算セルモノナリ、然レドモ花ヲ以テ日晷ヲ製スルコトハ獨リ「リニユ

「ス」ノ發明セレコトニ非ズ「ミルトン」ト云ヘル人ノ拉丁語ノ書史タル「マールヴェル」氏ハ前時既ニ其花園ノ詩ニ於テ此等ヲ説キタリ、即チ其詩ニ曰ク、

温和ナル太陽ノ天ニ在リテ佳香アル黃道ヲ花上ニ照映  
爾カ過ルニ方リ、熟練セル園丁ハ何等ノ方法ニ由リテカ  
善ク花ト草トヲ以テ新タニ此日晷ヲ造リ得タル、夫レ勤  
勉ナル蜂モ亦其事ヲ爲スニ方リテ吾輩ト俱ニ常ニ其時  
ヲ算計セリ、而シテ草及ヒ花ヲ用井ルニ非ザレバ、何等ノ  
物ニ由リテカ能ク斯ノ如ク善美ニシテ且ツ爽快ナル時  
ヲ計算スルコトヲ得ベケンヤ、

「ルードン」氏ノ著作シタル「エンサイクロペジヤ、オプ、ガート」ニ

「グ」書名園藝ノ中ニ、英國ノ花匠ノ花ヲ以テ日晷ヲ製スルニ  
使用スベキ諸花ノ目錄ヲ悉ク記載セリ、  
而シテ我が少年ナル讀者ハ花ヲ觀或ハ香ヲ聽クニ由リテ、時  
ヲ計算スベキモノタレバ、吾輩ハ今此讀者ノ日晷ヲ製スルニ  
使用スベキ花表ヲ附録ス

花ノ日晷表

英語ノ名	拉丁語ノ名	時刻	
		時分	時分
「ゴーツビヤード」	「ドラゴボーゴンルーテーション」	三五	九十
「レイトフワウエル」	「レヨントドン」		
「ダ、グンデリオン」 暁開ノ 満公英	「セーロナム」	四〇	十二
「ハウクウィード」	「ボリクレツス」		

八十五百五

「バイクリス」	「イカイヨイデス」	四	五十二〇
「アルバイン、ハウクス」	「クリーベス」	四	五十二〇
「ヒヤールド」	「アルピナ」	四	五十二〇
「ヴァイルド、セツコリ」 <small>草名</small>	「シコリヨシインナボツス」	四	五十八九
「ナツクド、ストークド」	「バーバブル」	五	〇七〇
「ボツピー」 <small>莖ニ毛ナキ罌粟</small>	「スーザカウリ」	五	〇七八
「コツバ、カラールド」	「ヘイメロカウレツス」	五	〇十一十二
「デイリイリ」 <small>百合花ノ一種銅色ノ者</small>	「フルバ」	五	〇七八
「スムース、ソウ」	「ソシカツス」	五	〇十一十二
「セストル」 <small>莖ノ一種</small>	「レーベス」	五	〇十一十二
「ブリウフラウエルド」	「ソシカソス」	五	〇十一十二

九十五百五

「ソウセストル」 <small>藍色ノ花アル券</small>	「アルピナス」	五	〇十二〇
「ファイルド、ハイインド」	「コンボルブルス」	五	六四五
「ウィード」	「アルベンゼス」	五	六四五
「コンモンニツブル」	「ラブサナ」	五	六四五
「ウォルト」	「コンムチツス」	五	六四五
「スポツテツド、カッソ」	「ヒツボーケーレツス」	六	七四五
「イール」	「マクラタ」	六	七四五
「ホワイト、ウオートル」	「チンフエイヤ」	七	〇五〇
「レイリー」 <small>花白蓮</small>	「アルバ」	七	〇五〇
「ガーデンレツナ」	「ラクトウカ」	七	〇五〇
「ウス」 <small>花園生</small>	「サチーバ」	七	〇五〇

「アフリカン」	「ターゲテス」	七〇三四
「メリゴールド」 <small>ノ金盞草</small>	「エーレクタ」	
「マウスウィル」	「ヒーエーラション」	
「ハウクウィード」	「ピロセラ」	八〇二〇
「プロリフェラス」	「デモンテツス」	
「ヒンク」	「プロリフェーロツス」	八〇一〇
「フィールド、マリゴ」	「カレンダラ」	
「ルド」 <small>野生ノ金盞草</small>	「アルベンゼス」	九〇三〇
「ポーブル、サンド」	「アレナリヤ」	
「ウォルト」	「ボルプレーヤ」	九十二三
「クリーピング」	「ユルパー」	

「マルロー」 <small>薔ア</small>	「カロリニヤ」	九十十二一
「チツクウィード」 <small>茶</small>	「ステラリヤメデヤ」	九十九十

時暑ヲ受用スベキコトヲ論ズ

吾輩ハ既ニ裝飾ノ手工ノ許多ナル種類ト、圖畫法ノ種類トニ  
 關係シテ解明セシコトアリ而シテ是等ハ皆其真正ノ義ヲ以  
 テ論ズルトキハ技藝ト稱ス可ラズト雖モ此事ニ就テ妙案ヲ  
 起シ精巧ヲ極メ且ツ習慣ヲ以テ練熟セント欲スルトキハ亦  
 必ズ演習セザルユトヲ得ザルナリ然ルニ今吾輩ハ是等ハ皆  
 婦人ノ優美ナル歡娛ト做シテ好メル事タリト雖モ其要用ノ  
 時間ヲ大半浪費スルノ職業ハ此ノ如キノ事ニアラザルコト  
 ナ、少年讀者ノ記憶センコトヲ欲望スルナリ、

又玩具ノ手工ハ都テ唯遊戲ト見做スベクシテ、決シテ之ヲシ  
テ其恒ノ職業ノ此手工ヨリモ更ニ切要ナル事務ヲ執ルコト  
ヲ妨害セシムル勿レ、凡ソ己ニ學校ヲ去ルノ後ハ早朝ニ在リ  
テモ尙數般ノ學習スベキコトアルヲ以テ決シテ此手工ニ從  
事スルコトヲ得ズ、是蓋シ穎敏ニシテ學術ニ熱心セル強壯ナ  
ル少年ノ如キハ其間暇ノ時ニ於テ自ラ勉勵琢磨スルコト有  
レバナリ、  
凡ソ少年ナル貴女ハ、既ニ學校ヲ去ルトキニ於テハ、自家ノ事  
務ヲ辦シ得ズンバアルベカラズ、即チ此婦人ハ其衣服ヲ着ク  
ル法方ヲ知ラザル可ラザルガ如ク、饗宴ハ如何シテ整理スベ  
キヤヲ知ラザル可ラズ、故ニ盛ニ羞慚ヲ具スルニ方リ、其杯盤

ヲ排置スベキ休裁ト其食味トヲ善ク知ラザル可ラザルナリ  
而シテ英國中、高等ナル地位ニ在ル人ハ、是等ノ事ヲ能ク了解  
スルト雖モ、其中等ノ少年ナル婦人ニ於テハ之ヲ領會セザル  
モノアリ、又特ニ偽リテ之ヲ領會セザルノ狀ヲ做スモ入アリ、  
此婦人ハ如何シテ「アルロールート」草根ノ粉末ニシテ「シユル  
リ」  
「砂糖ヲ以テ菓  
汁、及ヒ薄弱者ノ喫スベキ他ノ細小ナル美味  
ヲ作ルベキヤヲ知ラザルベカラス、而シテ毎週ノ帳簿ヲ算計  
スルニ方リテハ、其母ニ助力シ以テ其算術ニ通曉スルコトヲ  
明ニシ、且ツ其新ニ嫁シテ他人ノ家ニ至ルトキニハ、往々辛苦  
艱難鬱憂セザレバ、會得スル能ハザル所ノ經濟法ト家事管理  
ノ大趣意トヲ知道スベキナリ、



且ツ少年ナル貴女ニシテ自己ノ使用ニ供スベキ婢女無キモ  
 ノハ必ズ自ラ其衣服ニ注意シテ、其止ムコトヲ得ザルトキニ  
 修補セザルベカラズ、而シテ常ニ針工ニ心ヲ用井若シ破綻ス  
 ルトキハ、速ニ之ヲ縫補スベシ、爾セザレバ破裂スルコト彌大  
 ニシテ、補繕スルニ時間ヲ費ヤスコト彌多カルベシ、凡ソ斯ノ  
 如キ事業ハ客廳ニ於テ爲ストキハ、其体裁ヲ失フガ故ニ宜ク  
 常ニ其房中ニ於テ爲スベキナリ、  
 然ルニ縦ヒ是等ノ家事ハ悉ク做シ了ルト雖モ尙間暇ノ時間  
 ノ多ク殘ルコト有ルベシ、是ニ由リテ吾輩ハ此貴女ノ自己ノ  
 心智ヲ涵養有成センガ爲メニ、是等ノ殘餘間隙ナル時晷ヲ費  
 サンコトヲ希求スルナリ、

今吾輩ハ少年ナル貴女ヲシテ博識タラシメント欲スルニア  
 ラスト雖モ其文章及ヒ課學ニ通達シ以テ其職業ニ從事スル  
 ニ當リテ大利益ヲ生ジ、且ツ其父母兄弟若クハ後年其夫ト談  
 話スルコトヲ得テ頗ル興味アルニ至ルコトハ、今日ニ在リテ  
 最モ期望スベキコトタルヲ思想セリ、凡百ノ事ニ於テ頑然無  
 識ナルハ實ニ其人品嘉稱スベキ所無シト謂フベキノミ故ニ  
 其世人ニ交接スルニハ、必ズ普通ノ文學ニ通曉シテ說話セザ  
 ルコトヲ得ザルナリ、且ツ博物學及ヒ其他ノ學課ヲ深ク究知  
 シ、事ニ臨ミテ大失錯ヲ做サマランコトヲ務ムベシ、若シ其時  
 運ニ由テ田舎ニ住居セザルコトヲ得ザルニ至リテハ、園藝及  
 ヒ家禽ヲ養フノ方法、及ヒ土地ノ性質ニ關係スル普通ノ學問

ヲ修業スルコト等モ決シテ忽諸スモカラズ、且ツ斯ノ如ク學  
問セント欲スルトキハ觀察ト讀書法ノ習慣ハ緊要ナルモノ  
トス、又此學問ハ從來不幸ニシテ深ク了解セザリシ網細工ト  
繡飾ト小説トノ已ニ廢棄セント欲スル所ノ業ニ再ヒ勉力從  
事スルニ至ラシムベシ、故ニ我少年ナル讀者ハ毎朝一時間許  
ハ有益ノ讀書ヲ勉勵セザルベカラズ、而シテ其讀ムベキ書籍  
ハ種類數多アリト雖モ概スルニ一書ヲ全ク閱了セザルトキ  
ハ決シテ他書ヲ讀始ムベカラズ、其自ラ取捨シテ讀書スルモ  
ノハ如何ナル書籍ヲ讀ムベキヤノ疑惑アルガ故ニ吾輩ハ此  
書ノ記者ノ實ニ有用ニシテ快樂ナル導引者ト做ルベキ所ノ  
冊子ノ簡要ナル目錄ヲ附載スベシ、是等ノ書ハ皆「テツグ」氏ノ

開板セルモノナレバ、汝ハ書ヲ此人ニ贈リテ之ヲ購フトキハ、  
此人ハ喜ヒテ之ヲ汝ニ寄スベシ、  
「エブリー」メン、ヒズ、チウン、ガルデナル」各人皆其自己ノ圖ヲ  
「ボルドウイン」氏ノ羅馬史  
「ボルドウイン」氏ノ希臘史  
「ビウチー」ス、オフ、ワシントン、イルベング」ワシントン、イルベシ  
義挿圖  
「ブルント」氏ノ教門改革史 挿圖  
「ボガツキース、ゴルデン、トレジュリー」金庫ト云フ義ノ  
「バツホン」氏及ヒ「トリンメル」氏ノ博物書 挿圖  
「パニヤンス、ビルグリムス、ログレツス」ハニヤン」氏ノ巡禮插  
者ノ行旅ト云フ義ノ

圖

「ユウペル」氏ノ詩書

童女筌 插圖

「シングス、ウォルス、ノ」ウイング」知ルベキ事物ト云フ義  
普通ノ教誨ヲ説ケル書

「サヤフランシス、パルグレッツ」氏ノ「アングロサキソン」人種ノ  
歴史

「ゼ、ホーウィット、セリース、オフ、シヤベナイル、ウォルクス」「ホー  
ット」氏ノ壯年ナル人ノ爲  
メニ作レル書ト云フ義

「ヘルベルト」氏ノ「ジョール」詩 插圖

「リシントン、イルピング」氏ノ「コロンブス」一代記

「リシントン、イルピング」氏ノ「コロンブス」ノ夥伴

「メデヤード」氏ノ「ギープ、ブレット、ゲイン、ロープ」麵包ヲ與ヘテ歡愛  
ヲ得ルト云フ義

「コル子ル」氏ノ日曜必讀

「ガル子イ」及ヒ「レンナ」二氏合著ノ聖經ノ掌中辭書

「ナ」ジ、ロツクハルト」氏ノ拿破崙一世ノ史 插圖

「ペートル、バーレー」氏ノ嬉戲書

「ロビンソン、クルズー」氏ノ 插圖

「ベル」英國ノ最初ニ基  
テ教ヲ奉ヒシ女王及ヒ其時代ノ史

「ソーセイ」氏ノ「チルソン」一代記 插圖

老水夫ノ「チルソン」一代記 插圖

「アングル、フイリツアス、トールス、アバサト、ゼ、トレーツ、オフ、ア  
ニマルス、エンド、ゼ、チコトルズ、ゼ、ラーク、ツイツ」動物ノ行爲ニ  
關シテ叙ス

「リッブ」ノ説話及ヒ其用并  
テ勞作セシ器具ト云フ義

「ワーケル」氏「ウェブストル」氏合著ノ掌中辭書、定價「一シルリン  
グ」

「ゼシヤツジス、ソン」ト云フ義

「モス、アンドラスト」ト云フ義

「ボツス、サイゾ、オフ、ゼ、ストリー」ト云フ義

以上三十部方今正ニ開板セシモノ

凡ソ汝ノ少年ナルニ方リテハ數多ノ職業アリト雖モ、各日毎  
朝必ズ特別ニ時ヲ創造スルモノ、即チ眞神ニ謝スルコトヲ忘  
ルベカラズ、禮拜及ヒ聖經ヲ學習スルコトハ、汝ノ眞神ニ事フ  
ル所以ニシテ、毎朝第一ニ先ヅ務ムベキノ職業ナリ故ニ汝ハ

早起シテ天明ノ氣色爽快ナル時ニ是等ノ神事ヲ務ムベシ、爾  
スルトキハ、神必ズ汝ヲ眷顧シ幸福隨テ格リ其日ヲ終ルマテ  
難險ノ事ヲモ容易ニ之ヲ做スコトヲ得ベシ、且ツ災難アリト  
雖モ之ヲ深ク苦痛スルコト勿ルベシ、

又貧人ノ如キハ皆汝ノ時ヲ費シテ少シク之ニ留意センコト  
ヲ欲望セリ而シテ汝ハ種々容易ナル方法ヲ以テ斯ノ如キ人  
ヲシテ安慰ナラシムルコトヲ得ベシ乃チ汝ハ其幼稚ナルモ  
ノ、爲メニハ勞力動作シテ汝ノ古衣服ヲ修補更改シテ其用  
ニ供シ又其老衰セシモノ及ヒ風濕足痛ノモノ、爲メニハ膝  
蓋ヲ編製シテ之ヲ施シ斯ノ如クニシテ汝ハ自ラ節儉ヲ行ヒ  
自己ノ私慾ニ克テ時間ヲ惜マズシテ細事ニ注意盡力シ務メ

是等ノ人ヲ救助スベシ  
 今汝ハ斯ノ如キノ善事ヲ做スカ故ニ消遣セル時間ヲ以テ等  
 閑ニ浪過スルモノト思ヒ做ス勿レ是即チ汝ノ幼妹ヲ教誨シ  
 汝ノ母ヲ助成シ汝ノ父ヲ欣慰セシメテ其愉快ヲ増スヲ以テ  
 實ニ汝ノ爲メニハ千金ノ時間ト云フベシ而テシ汝ノ自ラ其  
 身ヲ改良スルト汝ノ自ラ緊要ナリト看做シテ常ニ好愛スル  
 職業ニ從事スルトノ如キハ却テ汝ノ婉柔ナル性質ト汝ノ快  
 樂ニ忍耐スルトニ由リテ汝ノ家ニ光榮ヲ來スニ於テ是等ノ  
 善事ニ及バサルコト遠シ  
 又夕暮ニ至リテ始メテ雅致アル手工ヲ做シ音樂ヲ奏シ歡娛  
 ヲ盡スベキ幸福ナル間暇ノ時節到來スベシ而シテ婦人ノ三

徳ト稱スル所ノ善良ナル性質ト善良ナル知覺ト善良ナル技  
 巧トヲ併有スルヲ得ベシ是乃チ汝ノ善ク時ヲ用井シ褒賞ナ  
 リ  
 以上ノ條ニ解明セシ事ノ如キハ決シテ小童女輩ハ固ヨリ隨  
 意ニ其時ヲ消遣シ得ザレバナリ故ニ吾輩ハ唯是等ノ童女ノ  
 爲メニ其俱ニ嬉遊スベキ一個ノ朋友ヲ有セザル時ト或ハ其  
 朋友ノ遲鈍ナルニ倦厭シタル時ト或ハ其纖手ヲ以テ爲ス所  
 ノ玩具ノ手工ニ欠伸スル時トニ書籍ヲ展觀スルコトハ實ニ  
 閑ヲ排シ鬱ヲ散スベキ至善ノ方法タルヲ忠告セントス吾輩  
 ノ意ニハ幼年者ノ常ニ教課ノ書ニ從事スルコトヲ企望セズ  
 何トナレバ腦ノ小少ナル兒女ハ常ニ勉學シテ休息スルコト

無キトキハ改善スルニ至ラズシテ却テ愚痴ニ陷ルベキヲ以テナリ故ニ女説ノ冊子ハ少年ノ意思ノ爲メニ喜ブベキ救援ト爲ルモノニシテ若シ善ク之ヲ選擇シテ讀ムトキハ猶教課書ノ智力ヲ養成スルガ如ク其心ヲ養成スルコトヲ裨助スベシ夫レ何人カ「ミス、エツジウナルス」ト云ヘルモノ、興趣アル小説ヲ讀テ快樂ノ念ヲ生シ以テ其身ヲ改善セザルモノアラシヤ而シテ又現今必要ノ著書ニシテ其旨趣ノ世人ヲ利益スルカ故ニ吾輩ナシテ注目セシムルモノハ「メリー、ホーウィツト」氏ノ著ハセル小説全部ト他ノ「ストライブ、エンド、スライブ」書名爭競及「ノー、センス、ライク、コンモン、センス」亦書名一ノ知覺ノ如クナラ等ノ書籍ナリ然ルニ又「ミニステ、リング、ケルド」

レン」及ビ「レントンバルソチー」ノ如キ童女ヲ管理スルコト等ヲ説キタル數多ノ同種類ノ書ト其他ノ徒ニ興味アル小説タル而已ナラズ別ニ良善ナル修身學ノ理ヲ含ミ思想ノ力ヲ興起セシメ且ツ知識ノ由テ以テ尊大ナルニ至ルノ熱信ノ心意ヲ増加スベキノ書トハ宜ク之ヲ採用スベシ

「ユウベル」氏ノ詩ニ曰ク夫教法ハ無量ノ快樂モ罪ヲ犯スコト無クシテ行フトキハ敢テ之ヲ譴責セズ又之ヲ非斥セズ故ニ唯耕穡ヲ勉力シ技工ニ由リテ瘠土ヲシテ沃壤ニ變シ且ツ之ヲ豐饒ニナラシムルコト、豐饒ニシテ殊別ナル田畝ニ各適宜ノ植物ヲ培養スルコト、謙遜ニシテ己レニ克ナテ德ヲ好ムコト、仁惠ヲ施シテ他人ヲ喜

パシムルコト、植物ノ種子ヲ蒔テ其後ニ生スル花ノ種  
 子ヨリモ形美ニシテ色艶ニ且ツ佳香アルニ至ルノ驚ク  
 ベキ精力ヲ勉強觀察スルコト、ノ爲メノミニ造物主ノ  
 此婦女ヲ世間ニ創造スルニ非ス是故ニ蹈歌シテ遊戯ス  
 ルト世人ノ眼目ヲ悦ハシムルト紙片若クハ布帛上ニ無  
 罪ナル欺騙ヲ做シテ 故ニ假ニ眞實ノモノニ非サル 光景ヲ  
 模寫スルコトトハ天帝ノ允許シタマフ所ニシテ固ヨリ  
 無辜ナルモノト云フベク又毫モ人心ヲ汚サズト云フベ  
 キナリ

小童女輩脩身ノ訓言

凡ソ人生萬事ニ就キテ最モ緊要ト做スベキコトハ心ノ潔白

ナルト行ノ端正ナルトニ在リ而シテ智力ト富有ト容貌ノ美  
 麗ナルトノ如キハ仁善ヲ以テ之ニ比較スルトキハ其價眞ニ  
 微小ナルモノニシテ假令是等ノ德アリトモ一個ノ仁善心ヲ  
 有セザルモノハ却テ其人ヲシテ其身上ニ不幸ナル所有ラシ  
 メ且ツ其朋友ニモ嫉忌セラル、ニ至ラシムルナリ夫レ幼少  
 ナル兒童ト雖モ大人ト同一ニシテ必ス仁善ノ德ヲ固有セザ  
 ルモノ無シ而シテ此德ヲ涵養完成スル方法ハ僅々ニシテ且  
 ツ容易ナルモノナリ

第一 上帝ノ汝ノ行爲ト汝ノ意思ヲ悉ク洞觀スルコトヲ記  
 臆スヘシ夫レ日々上帝ニ祈禱スルコトハ必ス常例ト做セテ  
 忽諸スルコト勿レ然ルトキハ上帝必ス汝ヲ助ケテ福善ヲ降

タシ禍惡ヲ去ルベシ余曾テ一小童女ノ跪坐シテ懇祈スルヲ  
見シコトアリ時ニ此女ハ人ノ其詞ヲ聞クモノアルヲモ知ラ  
ズシテ獨リ唱ヘテ曰ク在天ノ我が大父願クハ余ガ今日我が  
小弟ヲ打シコトヲ赦サンコトヲ且ツ後來余ヲ助ケテ再ヒ之  
ヲ打ツコト無カラシメンコトヲ嗚呼小弟若シ死スルコトア  
ルトキハ余我カ之ヲ打ナシコトヲ如何ニ痛悔スベキヤヲ知  
ラズト是眞個ニ單一ナル祈禱ナリシガ上帝忽デ感應シ此女  
ヲ助ケテ其躁急ナル性質ヲ修治セリ故ニ其十二歳ニ至ルニ  
及ヒテハ實ニ仔羊ノ如クニ温和婉柔ナル人ト倣レリ  
第二 汝ノ他人ヨリ受クルコトヲ欲スル所ノ事ヲ以テ他人  
ニ施スベシト云ヘル金言ヲ忘ル、勿レ今夫レ汝ノ學校ニ在

ルニ當リ汝ノ同儕中ニ一幼女アリテ其學校ニ在ルコト未  
汝ノ如ク久シカラズ是ニ由テ其書籍ヲ容易ニ讀了スルコト  
能ハザルトキハ汝ハ必ズ此女ヲ目シテ冷笑シ且ツ之ヲ魯鈍  
ナリト言ハントス若シ今假リニ汝ヲシテ此女ノ地位ニ在ラ  
シメバ則テ汝ハ豈ニ斯ノ如ク他人ノ爲メニ笑嘲セラル、コ  
トヲ欲センヤ故ニ一事ヲ行フニ方リテハ常ニ汝ノ心ニ容ヒ  
謀リ其非ナリト答フルコトハ是皆汝ノ行フベカラザル惡事  
トス且ツ汝ハ汝ノ同儕ノ昇進シテ汝ノ上級ニ坐スルモノ有  
ルニ方リテ之ニ對シテ惡ムベキ語ヲ發セシコトアラザルヤ  
斯ノ如キノ語ニ汝若シ之ヲ受クベキ地位ニ在ルコトアラバ  
豈之ヲ受クルコトヲ欲センヤ又欲セザルベキヤ是汝ノ心ニ



於テ容易ニ辨別シ得ル所ナリ

汝ハ汝ノ輕忽ナルコト不順從ナルコト若クハ頑固ナルコト  
ヲ以テ汝ノ長姊ヲシテ困却セシメシコトアラザルヤ且ツ汝  
ハ汝ノ妹ヲ教導シ其行狀ヲシテ他人ノ爲メニ憂ヘラルヽコ  
トヲ做サシメザラント務ムルヤ

今余更ニ此金法ヲ適用スベキ他ノ事情ヲ掲載セズ然レドモ  
此緊要ノ法ハ常ニ錯謬無キ引導者タルベキモノニシテ人世  
ノ事務ニ於テ其大小ニ關セス一モ此法ヲ適用シ得可ラザル  
モノ無シ

第三 汝ノ父母若クハ後見人ニ對シテハ特ニ萬事ニ就キテ  
誠實ナラザルベカラズ決シテ汝ノ動作或ハ汝ノ心意ヲ隱蔽

セシコトヲ務ムル勿レ若シ汝一物ヲ破碎シ或ハ之ヲ損害ス  
ルコトアラバ宜ク速ニ汝ノ父母等ノ許ニ往テ之ヲ白狀スベ  
シ若シ又汝ノ同儕トノ交際ニ關シテ過失ヲ做スコトアラバ  
愚癡ナル傲慢或ハ不直ナル詐欺等ヲ作スコト無ク速ニ汝ノ  
罪ニ伏スベシ夫レ汝ハ上帝ニ對シテ固ヨリ一事ヲモ隱蔽ス  
ルコト能ハザルモノナリ故ニ汝ノ朋友ヲ欺カントスルトキ  
ハ其詐欺ノ汝ノ心ヲ感動セシムル所甚タ大ニシテ其害モ亦  
甚タ大ナリ

第四 汝ハ若シ善良ナル意思ヲ胸中ニ發起スルコトアラバ  
此意ヲ實際ニ行フニ於テ須臾モ時ヲ移スベカラズ何トナレ  
ハ人ハ時々刻々不良ナル習慣ニ浸潤スルモノニシテ其習慣

ハ漸々ニ其根株ヲ固クシテ遂ニ其本然ノ真心ニ克ツニ至レ  
バナリ

第五 汝ハ家中ニ在ルニ方リテモ亦未ダ識ラザル人ノ側ニ  
在ルガ如ク常ニ鄭重慇懃ニシテ且ツ温和ナラルベカラズ  
今夫レ汝モ亦真正ナル基督宗ノ人民ニシテ他人ヲ愛スルノ  
精神ヲ有スルトキハ假令些少ノ事ヲ行フニモ常ニ他人ノ幸  
福ヲ妨害セザランコトヲ注意シ之ヲ以テ自己ノ快樂ト做サ  
ンコトヲ庶幾スベシ殊ニ其中ニ就キテ汝ハ汝ノ父母ニ對シ  
謹慎ニシテ孝順懇切ニ且ツ溫柔ナラザルベカラズ夫レ善良  
ナル父母ハ上帝ノ汝ニ給與セシ幸福ノ最モ大ナルモノト云  
フベクシテ汝ハ何等ノ勉力ヲ用井ルトモ能ク父母ノ恩ニ報

ユベキノ業ヲ做スコトヲ得ザルベシ

第六 汝ハ汝ノ兄弟及ヒ姊妹ニ對シテ慈愛ノ心ヲ失フベカ  
ラズ而シテ汝ノ是等ノ人ニ加フル所ノ言語及ヒ動作ヲシテ  
常ニ間然スル所無ク假令死ニ由リテ相別離スルコトアルト  
モ後悔スル所無カラシムベシ

第七 品行ノ善良ナルコトヲ務ムルニ次キテ知識ヲ開キ得  
ンコトヲ勉勵スベシ而シテ汝ハ常ニ勉勵ト忍耐トニ由リテ  
何等ノ事ヲモ學了シ得ベキヲ忘ベカラズ

第八 常ニ勉力シテ身体ヲ清潔ニスルコトニ注意スベシ夫  
レ幼女ノ帶紐子等ノ解放シタルト頭髮ノ散亂シタルトハ其  
人ノ惰弱ニシテ勉強セザルコト或ハ定規ヲ守ラサル弊習ヲ

有スルコト等ヲ證スルニ足ルモノナリ

童女タルモノ、施濟

今既ニ諸遊戯ノコト謎語ノコト技藝ノコト動作ノコト園庭ノコト博物學ノコト等ニ關涉シテ解明シ了レリ然ラハ則テ童女ノ爲メニ著述セシ此書ヲ結局セシニハ更ニ何事サカ記スベキヤ其緊要ナル一趣意ニシテ結尾ニ記載スルニ甚タ適當シタル一事ノ殘レルアリ而シテ此緊要ナル一趣意トハ少年者ノ所爲及ヒ心意ヲ以テ他人ニ施シ得ベキ補助ヲ言ヘルモノニシテ即チ基督教ノ德ヲ愛慕セル人ノ功用及ヒ行爲ヲ潤色スヘキ所ノ施濟ナリ然レドモ少年ナル者ノ行事ハ何ニ由リテカ能ク人ノ補助タルニ適スベキヤ且ツ少年ニシテ幸

ニ人ニ依頼シテ生活スルノ身ヲ以テ奈何セバ能ク貧人ヲ救助スルコトヲ得ベキヤ

夫レ此一事ハ許多ノ方法ヲ以テ做シ得ベキモノニシテ即チ己ノ私ニ克ツニ由リ小ナル儉約ニ由リ針工ニ由リ且ツ許多ノ小ニシテ巧慧ナル計策及ヒ技藝ニ由リテ做シ得ベキナリ而シテ此計策及ヒ技藝ノ如キハ大人人心ヲ感動セシメ之ヲシテ讚嘆セシムルニ足ルモノナリ今汝若シ朋友ヨリ些少ノ銀ヲ得ンニ某ノ玩具ヲ購フコトヲ做サズシテ其購ハント欲スルノ意ヲ驅逐シ之ヲ仁慈ノ事ニ費ヤストキハ汝ハ人ヲ補助スルノ義務ヲ盡スノ道ニ於テ一大進歩ヲ做セルモノト謂フベシ然レトモ能ク有益ニ金ヲ授與スル方法ヲ知ランガ爲メ

ニ往々困迷スルモトアルモ、之ヲ若シ徒ラニ金錢ヲ與フ  
 事トキハ必ズ益ヲクシテ却テ害ヲ爲スコトアリ何トナレバ人  
 ナ救助スルニ其道ヲ得ザルトキハ其人ヲシテ却テ怠惰ナラ  
 シムルヲ以テナリ故ニ汝若シ節儉ニ由リテ人ニ與フベキ少  
 許ノ金ヲ得ルコトアラハ宜ク某ノ一貧家ノ其主人ハ職業ニ  
 由リ若クハ病疾ニ由リテ家ニ在ラザル者ニ與フルニ一週間  
 毎ニ麵包二塊若クハ一塊ヲ以テスベシ或ハ汝ノ近鄰ニ在ル  
 女兒ニ與フルニ一週間毎ニ一邊尼ノ錢ヲ以テシテ其學校ニ  
 納ムベキ費用ヲ助成スベシ或ハ少許ノ綿布若クハ印花布一  
 片ヲ購ヒテ此兒女ノ爲メニ下衣若クハ上蓋衣ヲ製スベシ夫  
 レ小絨ハ其價高貴ナレバ些少ノ金ヲ以テ購ヒ得ベキモノニ

アラス然レトモ若シ汝ノ年長ナル親族中ニ舊キ小絨ノ下衣  
 ナ有セルモノアラバ汝宜ク請フテ此下衣ヲ領シ其小絨ノ善  
 良ナル部分ヲ取り之ヲ裁縫シ更ニ新タニ小ナル下衣ヲ製シ  
 テ之ニ與フベシ  
 編製ハ少女等仁惠アル心ニ由リ熟練セル手ヲ以テ之ヲ爲ス  
 トキハ大ナル贈物ヲ作り得ベキモノニシテ灰色ノ毛線製ノ  
 襪甚タ小ナル鞋及ヒ肩巾ノ如キモ亦閑暇ノ時ニ臨ミ譬ヘハ  
 薄明ノ際若クハ燈火ノ下或ハ晚暮机案ノ上ニ於テモ製造ス  
 ルコトヲ得ベキナリ

又常ニ補修ノ手工ヲ務ムルトキハ後竟ニ好ミスベキ絮衣ヲ  
 モ完成スルニ至ルベシ而シテ少女若クハ稍年長ケタル婦人

等ハ皆容易ニ此事ヲ行フニ使用スベキ布片ヲ集收シ且ツ美麗ニ之ヲ縫綴スルヲ得ルモノナリ斯ノ如キ手工ハ婦女子タランモノ幼弱ト雖モ亦能ク行フベキ所ナリ  
凡ソ小童女輩ノ貧窶寒酸ニシテ許多ノ快樂ヲ做スコト能ハサルモノニ遊戲ノ玩具ヲ與フルトモ亦施濟ノ一部分トナルベキコト疑ヲ容レザル所ナリ故ニ我少年ナル讀者等ハ美ニシテ小ナル名刺紙針工箱若クハ紐子ヲ結著シタル箱匣若クハ軟柔ナル鞠球等ヲ製造シテ學校ニ在ル所ノ幼少ナル兒女等ニ與フベシ且ツ或ハ損蔽シタル玩具ヲ以テ疾病ニ罹レル女兒ノ幾多ノ玩具ヲモ得ルコト能ハザルモノニ與フルトキハ之ヲシテ大ニ歡喜セシムルニ足ルモノナリ

又學ニ志ス所ノ兒女輩ニ有用ノ書籍ヲ貸ストキハ唯ニ之ヲシテ欣善セシムルノミナラズ大ニ之ヲ裨益スルノ功德アリトス而シテ快樂ナル小説簡易ナル教訓ノ書類及ヒ他ノ遠地ヨリ來リタル所ノ報告新聞紙等ヲ與フルトキハ實ニ其兒女等ヲ樂マシムルノミナラス其一家族ヲモ悅ハシムルニ足ルナリ何トナレバ兒女子ノ常ニ其父母ニ接對シテ高聲ニ其書ヲ讀誦シ或ハ其貸付セラレシ所ノ書籍ヲ其父母ニ貸スコトハ吾儕ノ現ニ目撃セシ所ナルヲ以テナリ

小林病翁 校